

広島県地域防災計画 (基本編)

平成24年10月修正
(昭和38年6月策定)

広島県防災会議

目次

第1章 総 則

第 1 節	防災計画作成の目的	1
第 2 節	基本方針	2
第 3 節	防災業務実施上の基本原則	3
第 4 節	防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱	4
	1 県	
	2 県警察	
	3 市町	
	4 指定地方行政機関	
	5 自衛隊	
	6 指定公共機関	
	7 指定地方公共機関	
	8 防災上重要な施設の管理者	
第 5 節	広島県の自然的条件	10
	1 地勢	
	2 地形特性	
	3 広島県の自然史	
	4 気候	

第2章 災害予防計画

第 1 節	基本方針	12
第 2 節	県土の保全に関する計画	13
	1 目的	
	2 現況及び対策	
第2節の2	防災施設・設備の新設又は改良計画	15
	1 目的	
	2 実施責任者	
	3 実施事項	
	4 実施方法	
第 3 節	県民の防災活動の促進に関する計画	16
	1 方針	
	2 防災教育	
	3 防災訓練	
	4 消防団への入団促進	
	5 自主防災組織の育成、指導	
	6 ボランティア活動の環境整備	
	7 企業防災の促進	
第 4 節	調査、研究に関する計画	21
	1 目的	
	2 実施責任者	
	3 実施事項	
	4 実施方法	
第 5 節	迅速かつ円滑な災害応急対策への備えに関する計画	22
	1 方針	
	2 災害発生直前の応急対策への備え	

3	災害発生直後の応急対策への備え	
4	災害派遣，広域的な応援体制への備え	
5	救助・救急，医療，消火活動への備え	
6	緊急輸送活動への備え	
7	避難収容・情報提供活動への備え	
8	救援物資の調達・供給活動への備え	
9	文教関係	
第5節の2	円滑な避難体制の確保等に関する計画	28
1	方針	
2	浸水想定区域等の指定	
3	ハザードマップの作成	
4	避難計画の作成等	
5	住民への周知等	
6	避難場所の整備	
7	動物愛護管理に関する計画	
第5節の3	災害対策資機材等の備蓄等に関する計画	32
1	目的	
2	実施責任者	
3	災害対策資機材等の対象	
4	実施方法	
5	備蓄及び調達体制の確立	
第6節	災害時要援護者対策に関する計画	36
1	方針	
2	災害時要援護者に配慮した環境整備	
3	社会福祉施設，病院等の安全・避難対策	
4	在宅の災害時要援護者対策	
5	災害時要援護者への啓発・防災訓練	
第7節	災害救助基金に関する計画	38
1	方針	
2	実施責任者	
3	実施事項	
4	実施方法	

第3章 災害応急対策計画

第1節	基本方針	39
第2節	災害発生直前の応急対策	40
第1項	組織，動員計画	
1	目的	
2	災害応急組織の基本原則	
3	災害対策本部	
4	配備及び動員	
第1項の2	労働力確保計画	
1	目的	
2	実施責任者	
3	実施方法	
第2項	気象警報等の伝達に関する計画	
1	目的	
2	気象等予報及び警報並びに土砂災害警戒情報の伝達	
3	水防警報の伝達	
4	水位，潮位等の通報	
5	火災予防上の気象通報	

6	広島県防災情報システムによる気象情報等の提供	
第3項	住民等の避難誘導に関する計画	
1	避難の指示	
2	報告	
3	避難場所・避難路の選定	
4	避難の誘導	
5	再避難の措置	
第3節	災害発生後の応急対策	80
第1項	災害情報計画	
1	目的	
2	情報の収集伝達手段	
3	災害情報の収集伝達	
4	災害発生及び被害状況報告・通報	
第2項	通信運用計画	
1	災害時の通信連絡の確保	
2	通信施設の応急復旧	
第4節	ヘリコプターによる災害応急対策	94
1	目的	
2	活動体制	
3	活動内容	
4	活動拠点の確保	
5	安全運航体制の確保	
6	県及び広島市の消防・防災ヘリコプターの運航	
7	各機関への出動要請	
8	臨時ヘリポートの設定	
第5節	災害派遣・広域的な応援体制	98
第1項	自衛隊災害派遣要請計画	
1	目的	
2	災害派遣要請の基準	
3	災害派遣要請の対象となる応急対策の範囲	
4	災害派遣を命ぜられた部隊等の自衛官の権限	
5	災害派遣要請の手続	
6	災害情報の連絡	
7	災害地における調整	
8	災害派遣部隊の受入れ	
9	派遣に要する経費の負担	
10	災害派遣部隊の撤収要請	
第2項	相互応援協力計画	
1	方針	
2	実施内容	
第3項	防災拠点に関する計画	
1	方針	
2	広島県防災拠点施設	
3	救援拠点	
第6節	救助・救急、医療及び消火活動	107
第1項	救難計画	
1	目的	
2	陸上災害救難	
3	海上救難	
4	惨事ストレス対策	
第2項	医療救護・助産計画	
1	趣旨	

	2	実施責任者及び実施内容	
	3	医療救護	
	4	惨事ストレス対策	
	5	助産	
第3項		消防計画	
	1	目的	
	2	実施責任者	
	3	実施方法	
	4	惨事ストレス対策	
第4項		水防計画	
	1	目的	
	2	実施責任者	
	3	実施方法	
	4	災害対策本部との関係	
第5項		危険物等災害応急対策計画	
	1	目的	
	2	実施方法	
第7節		緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送活動	1 2 3
第1項		災害警備計画	
	1	目的	
	2	県警察の災害警備対策	
	3	第六管区海上保安本部の治安維持対策	
第2項		交通、輸送応急対策計画	
	1	目的	
	2	交通秩序応急対策	
	3	交通施設災害応急対策	
	4	応急輸送対策	
第3項		貯木及び在港船舶対策計画	
	1	目的	
	2	貯木対策	
	3	在港船舶対策	
第8節		避難生活及び情報提供活動	1 3 6
第1項		避難計画	
	1	趣旨	
	2	避難所の開設	
	3	災害時要援護者の避難等	
	4	避難所の管理運営	
	5	広域的避難	
	6	帰宅困難者対策	
第2項		災害広報・被災者相談計画	
	1	目的	
	2	実施方法	
第3項		住宅応急対策計画	
	1	趣旨	
	2	実施する応急対策の内容	
	3	実施責任者	
	4	応急仮設住宅の建設及び供与の方法	
	5	住宅の応急修理	
	6	公営住宅の提供	
	7	企業等宿泊施設及び職員用住宅等の供与	
	8	民間賃貸住宅の情報提供	
	9	被災宅地危険度判定	

第 9 節	救援物資の調達・供給活動	145
第1項	食料供給計画	
1	趣旨	
2	実施責任者及び実施内容	
3	実施方法	
4	食料供給の適用範囲及び期間	
5	使途及び経費	
第2項	給水計画	
1	趣旨	
2	事前対策	
3	実施責任者	
4	給水の基準	
5	飲料水等供給方法	
第3項	生活必需品等供給計画	
1	趣旨	
2	実施責任者	
3	実施基準	
4	生活必需品等の範囲	
5	実施方法	
第4項	救援物資の調達及び配送計画	
1	方針	
2	物資の調達及び受入体制	
3	物資の輸送	
第 10 節	保健衛生・防疫，遺体の処理に関する活動	152
第1項	防疫計画	
1	目的	
2	防疫	
第2項	遺体の搜索，取り扱い，埋葬等計画	
1	方針	
2	遺体の搜索	
3	遺体の取扱い	
4	遺体の埋葬等	
第 11 節	応急復旧，二次災害防止活動	156
第1項	電力・ガス・水道・下水道施設災害応急対策計画	
1	目的	
2	電力施設災害応急対策	
3	ガス施設災害応急対策	
4	水道施設災害応急対策	
5	下水道施設災害応急対策	
第2項	廃棄物処理計画	
1	実施責任者	
2	適用基準	
3	処理方法	
第 12 節	ボランティアの受入等に関する計画	160
1	方針	
2	ボランティアの受入れ	
3	専門ボランティアの派遣等	
4	ボランティアの活動拠点及び資機材の提供	
5	災害情報等の提供	
6	市町被災者生活サポートボランティアセンターの機能喪失時の補完体制	
7	ボランティア保険制度	

第 13 節	文教計画	163
1	目的	
2	避難対策	
3	生徒等への相談活動	
4	応急教育対策	
5	学校が地域の避難所となる場合の対策	
6	公民館等社会教育施設が地域の避難所となる場合の対策	
7	文化財に対する対策	
第 14 節	災害救助法適用計画	167
1	目的	
2	災害救助法適用	
第 15 節	航空機事故による災害応急対策計画	170
1	目的	
2	情報の伝達	
3	実施責任者及び実施内容	
4	応援協力	
第 16 節	海上における大量流出油等応急対策計画	173
1	目的	
2	実施責任者	
3	情報の伝達	
4	実施事項	
第 17 節	主な災害の特質及び対策の計画	175
1	雪害対策	
2	長雨対策	
3	豪雨, 台風による洪水, 高潮等の対策	
4	長雨, 豪雨による土石流・がけ崩れ等対策	
5	風害対策	
6	林野火災対策	
7	突発的災害対策	

第4章 災害復旧計画

第 1 節	目的	179
第 2 節	被災者等の生活再建の支援及び生業回復等の資金確保計画	180
1	方針	
2	り災証明書の交付	
3	各種支援措置等	
4	市町内諸団体の資金の充実	
第 3 節	被災者の生活確保に関する計画	182
1	方針	
2	生活関連物資の安定供給及び物価の安定対策	
3	被災者等に対する生活相談	
4	雇用の安定支援	
第 4 節	施設災害復旧計画	183
1	基本方針	
2	復旧計画	
第 5 節	激甚災害の指定に関する計画	184
1	基本方針	
2	激甚災害に関する調査	
第 6 節	救援物資, 義援金の受入及び配分に関する計画	185
1	方針	

- 2 義援金の受入れ及び配分
- 3 救援物資の受入れ及び配分

巻末資料

- 1 広島県防災会議条例
- 2 防災会議の委員等の任命等に関する訓令
- 3 広島県防災会議運営規程
- 4 広島県防災会議委員
- 5 広島県防災会議幹事
- 6 広島県指定地方公共機関一覧
- 7 防災関係機関の防災事務担当部署
 - (1) 広島県防災会議構成機関，指定地方公共機関及び公共金融機関
 - (2) 市町・消防本部（局）
- 8 広島県災害対策本部条例
- 9 広島県防災対策基本条例
- 10 過去の主な災害の概況

第1章 総則

第1節 防災計画作成の目的

この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号。以下「基本法」という。）第40条の規定に基づいて、県土並びに県民の生命、身体及び財産を災害から保護するために、本県の地域に係る防災に関し、県、市町、指定地方行政機関、自衛隊、指定公共機関、指定地方公共機関及び防災上重要な施設の管理者（以下「防災関係機関」という。）が処理すべき事務又は業務の大綱を定め、さらに県民の役割を明らかにし、各種災害対策を迅速、的確かつ総合的に実施することにより、県民の生命、身体及び財産を災害から保護することを目的とする。

第2節 基本方針

- 1 この計画は、「基本編」と「震災対策編」をもって構成するものとし、水防法（昭和24年法律第193号）に基づく「広島県水防計画」及び石油コンビナート等災害防止法（昭和50年法律第84号）に基づく「広島県石油コンビナート等防災計画」とも十分な調整を図る。
- 2 この計画は、防災の時間経過に応じて、災害予防計画、災害応急対策計画及び災害復旧計画の基本的事項を定め、災害対策を総合的に推進していくものである。
- 3 この計画に基づき、各防災関係機関は細部実施計画等を定め、その具体的推進に努める。
- 4 この計画は、防災関係機関の災害対策の推進状況に応じて、必要な修正を行う。

第3節 防災業務実施上の基本原則

防災関係機関は、災害の未然防止、災害発生時の被害拡大防止、応急対策及び災害復旧等防災業務の実施に関しては、各法令、この計画及び広島県防災対策基本条例によるほか、次の一般原則に従う。

- 1 市町は、基礎的な地方公共団体として、区域内の災害に対して第一次的な責務を有するものであり、住民の郷土愛護、隣保協同の精神を基調として、その市町の有するすべての機能を十分に発揮し得るよう、その市町の地域に係る防災計画を作成してこれに対処する。
- 2 県は、市町及び指定地方公共機関が処理する防災に関する事務又は業務の実施を助け、かつ、その地方行政機関又は県の他の執行機関、指定公共機関若しくは指定地方公共機関に対し、応急措置の実施を要請し、又は求める。
- 3 指定地方行政機関は、その所掌する事務又は業務について防災に関する計画を定め災害に対処するとともに、その所掌する事務については県又は市町に対して勧告し、指導し、助言し、その他適切な措置をとる。
- 4 指定公共機関及び指定地方公共機関は、その業務について防災に関する計画を定め災害に対処するとともに、その業務の公共性にかんがみ、それぞれの業務を通じて防災に寄与するよう努める。
- 5 公共的団体、防災上重要な施設の管理者及びその他法令により防災に関し責務を有する者は、その管理する施設の災害に対しては自己の責任において措置するものとし、その業務の公共性又は公益性にかんがみ、それぞれの業務を通じて防災に寄与するよう努める。
- 6 防災関係機関は、その所掌する業務を遂行するにあたって、他の機関の防災上有する責務が十分に果たされるよう相互に協力し、応援する。
また、高齢者、障害者、外国人、乳幼児及び妊産婦などのいわゆる災害時要援護者（以下「災害時要援護者」という。）や観光客などに対する配慮や、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立に努める。
- 7 広島県防災会議（以下「防災会議」という。）は、各防災関係機関の行う災害対策が相互に一体的有機性をもつて的確かつ円滑に実施されるよう連絡調整を行う。
- 8 県民は、平常時から防災意識の醸成に努めるとともに、災害発生時には、相互の協力により、被害が最小限になるよう努める。

第4節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱の主要なものは、次のとおりである。

1 県

- (1) 津波警報の伝達
- (2) 災害情報の収集及び伝達
- (3) 被害調査
- (4) 災害広報
- (5) 被災者の救出，救助等の措置
- (6) 被災施設の応急復旧
- (7) 災害時における防疫その他保健衛生に関する応急措置
- (8) 被災児童，生徒等に対する応急教育
- (9) 防災関係機関の防災事務又は業務の実施についての総合調整
- (10) 災害時におけるボランティア活動の支援
- (11) 被災建築物応急危険度判定（震災時）
- (12) 被災宅地危険度判定（震災及び豪雨時）
- (13) 広島地方気象台と協力し，緊急地震速報の利用の心得などの周知・広報に努める

2 県警察

- (1) 災害情報の収集及び伝達
- (2) 被害実態の把握
- (3) 被災者の救出，救助等の措置
- (4) 避難路及び緊急交通路の確保
- (5) 交通の混乱の防止及び交通秩序の維持
- (6) 行方不明者の搜索及び遺体の見分，検視
- (7) 危険箇所の警戒並びに住民等に対する避難の勧告，指示及び誘導
- (8) 不法事案の予防及び取締り
- (9) 被災地・避難場所及び重要施設等の警戒
- (10) 広報活動
- (11) 関係機関による災害救助及び復旧活動に対する協力

3 市町

- (1) 災害情報の収集及び伝達
- (2) 被害調査
- (3) 災害広報
- (4) 避難の勧告，指示及び避難者の誘導並びに避難所の開設
- (5) 被災者の救出，救助等の措置
- (6) 消防及び水防活動
- (7) 被災施設の応急復旧
- (8) 災害時における防疫その他保健衛生に関する応急措置
- (9) 被災児童，生徒等に対する応急教育
- (10) 市町内における公共的団体及び住民の防災組織の育成指導
- (11) 災害時におけるボランティア活動の支援

- (12) 被災建築物応急危険度判定（震災時）
- (13) 被災宅地危険度判定（震災及び豪雨時）
- (14) 広島地方気象台と協力し、緊急地震速報の利用の心得などの周知・広報に努める

4 指定地方行政機関

(1) 中国管区警察局

- ア 管区内各県警察の指導，調整及び広域緊急援助隊等の応援派遣に関する調整
- イ 他管区警察局との連携
- ウ 関係機関との協力
- エ 情報の収集及び連絡
- オ 警察通信の運用
- カ 津波警報の伝達

(2) 中国四国防衛局

- ア 米軍の艦船・航空機に起因する災害に関する通報を受けた場合に、関係地方公共団体等に連絡すること
- イ 災害時における防衛省本省及び米軍等との連絡調整

(3) 中国総合通信局

- ア 電波の管理及び電気通信の確保
- イ 災害時における非常通信の運用監督
- ウ 非常通信協議会の指導育成
- エ 災害対策用移動通信機等の貸与及び携帯電話事業者等に対する貸与要請
- オ 災害対策用移動電源車の貸与

(4) 中国財務局

- ア 被災復旧事業費の査定への立会
- イ 地方公共団体に対する被災復旧事業にかかる財政融資資金地方資金の貸付
- ウ 国有財産の無償貸付等
- エ 金融機関に対する金融上の措置の要請

(5) 中国四国厚生局

国立病院機構等関係機関との連絡調整（災害時における医療の提供）

(6) 広島労働局

- ア 工場，事業場における労働災害の防止に関する指導，監督
- イ 労働者の業務上の災害補償保険に関する業務

(7) 中国四国農政局

- ア 農業関係被害の調査，報告，情報の収集
- イ 農地保全施設又は農業水利施設の防災管理
- ウ 災害時における生鮮食料品等の供給対策
- エ 災害時における家畜の管理，飼料供給の対策及び指導
- オ 土地改良機械の緊急貸付
- カ 応急対策のための技術者の現況の把握及び動員

(8) 近畿中国森林管理局

- ア 保安林，保安施設，地すべり防止施設等の管理
- イ 災害応急対策用木材の供給

(9) 中国経済産業局

- ア 所掌事務に係る災害情報の収集及び伝達

- イ 電気，ガスの供給の確保に必要な指導
- ウ 被災地域において必要とされる災害対応物資（生活必需品，災害復旧資材等）の円滑な供給を確保するため必要な指導
- エ 被災中小企業者の事業再建に必要な資金融通の円滑化等の措置
- (10) 中国四国産業保安監督部
 - ア 所掌事務に係る災害情報の収集及び伝達
 - イ 火薬類，高圧ガス等所掌に係る危険物又はその施設，電気施設，ガス施設等の保安の確保に必要な監督，指導
 - ウ 鉱山における危害及び鉱害の防止並びに鉱山施設の保全に関する監督指導
- (11) 中国地方整備局
 - ア 直轄土木施設の計画，整備，災害予防，応急復旧及び災害復旧
 - イ 地方公共団体等からの要請に基づく応急復旧用資機材，災害対策用機械等の提供
 - ウ 国土交通省所掌事務に関わる地方公共団体等への勧告，助言
 - エ 災害に関する情報の収集及び伝達
 - オ 洪水予報及び水防警報の発表及び伝達
 - カ 災害時における交通確保
 - キ 海洋の汚染の防除
 - ク 緊急を要すると認められる場合は，申し合わせに基づく適切な応急措置を実施
- (12) 中国運輸局
 - ア 所掌業務に係る災害情報の収集及び伝達
 - イ 運送等の安全確保に関する指導監督
 - ウ 関係機関及び関係輸送機関との連絡調整
 - エ 船舶運航事業者に対する航海命令
 - オ 港湾運送事業者に対する公益命令
 - カ 自動車運送事業者に対する運送命令
- (13) 広島空港事務所
 - ア 災害時における航空機による輸送の安全確保に必要な措置
 - イ 遭難航空機の捜索及び救難
 - ウ 指定地域上空の飛行規制とその周知徹底
- (14) 広島地方气象台
 - ア 気象及び地震の観測並びにその成果の収集及び発表
 - イ 気象，地象（地震を除く。）及び水象の予報及び警報の発表
 - ウ 気象，地象及び水象に関する情報の収集及び発表
 - エ 緊急地震速報の利用の心得などの周知・広報に努める
- (15) 第六管区海上保安本部
 - ア 情報の収集及び情報連絡
 - イ 警報等の伝達
 - ウ 海難救助等
 - エ 緊急輸送
 - オ 物資の無償貸付又は譲与
 - カ 関係機関及び地方公共団体の災害応急対策の実施に対する支援
 - キ 流出油等の防除
 - ク 海上交通安全の確保
 - ケ 危険物の保安措置

- コ 警戒区域の設定
- サ 治安の維持

5 自衛隊

(1) 災害派遣の準備

- ア 災害派遣に必要な基礎資料の調査及び収集
- イ 自衛隊災害派遣計画の作成

(2) 災害派遣の実施

- ア 人命及び財産の保護のため必要な救援活動の実施
- イ 災害救助のため防衛省の管理に属する物品の無償貸付又は譲与

6 指定公共機関

(1) 国立病院機構

災害時における医療、助産等救護活動の実施

(2) 郵便事業株式会社中国支社

- ア 災害地の被災者に対する郵便葉書等の無償交付
- イ 被災者が差し出す郵便物の料金免除
- ウ 被災地あて救助用郵便物等の料金免除
- エ 被災地あて寄付金を内容とする郵便物の料金免除

(3) 郵便局株式会社中国支社

災害時における災害特別事務取扱い等の窓口業務の確保

(4) 日本銀行広島支店

- ア 災害発生時等における通貨の円滑な供給の確保
- イ 災害発生時等における現金輸送及び通信手段の確保
- ウ 災害発生時等における金融機関の業務運営の確保、業務運営に関する指導等
- エ 災害発生時等における金融機関による非常金融措置の実施
- オ 災害発生時等における各種金融措置に関する広報

(5) 日本赤十字社広島県支部

- ア 災害時における医療、助産等救護の実施
- イ 避難所奉仕及び義援金の募集、配分
- ウ 日赤関係医療施設の保全

(6) 日本放送協会広島放送局

- ア 気象等予警報及び被害状況等の報道
- イ 県民に対する防災知識の普及に関する報道
- ウ 被災者の安否情報、被災地域への生活情報の放送
- エ 放送施設の保守
- オ 義援金の募集、配分

(7) 西日本高速道路株式会社中国支社

- ア 管理道路の防災管理
- イ 被災道路の復旧

(8) 本州四国連絡高速道路株式会社

- ア 管理道路の防災管理
- イ 被災道路の復旧

- (9) 西日本旅客鉄道株式会社
 - ア 鉄道施設の防災管理
 - イ 災害時における旅客の安全確保
 - ウ 災害時における鉄道車両等による救助物資、避難者等の緊急輸送の協力
 - エ 被災鉄道施設の復旧
- (10) 日本貨物鉄道株式会社
 - 災害時における救助物資の緊急輸送の協力
- (11) 西日本電信電話株式会社（以下「NTT西日本」という。）広島支店、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社（以下「NTTコム」という。）、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国支社（以下「NTTドコモ中国支社」という。）
 - ア 公衆電気通信設備の整備と防災管理
 - イ 災害非常通信の確保及び気象警報の伝達
 - ウ 被災公衆電気通信設備の復旧
 - エ 災害用伝言ダイヤル「171」及び災害用ブロードバンド伝言板「Web171」の提供
 - オ 「災害用伝言板サービス」の提供
- (12) 日本通運株式会社広島支店
 - 災害時における救援物資の緊急輸送の協力
- (13) 中国電力株式会社
 - ア 電力施設の防災管理
 - イ 災害時における電力供給の確保
 - ウ 被災施設の応急対策及び応急復旧
- (14) KDDI株式会社
 - ア 電気通信設備の整備及び防災管理
 - イ 電気通信の疎通確保及び設備の応急対策の実施
 - ウ 被災電気通信設備の災害復旧

7 指定地方公共機関

- (1) ガス供給事業者
 - ア ガス施設の防災管理
 - イ 災害時におけるガスの供給の確保
 - ウ 被災ガス施設の応急対策及び災害復旧
- (2) 旅客、貨物運送業者
 - ア 災害時における旅客の安全確保
 - イ 災害時における救助物資、避難者の輸送の協力
 - ウ 被災鉄軌道施設等の応急対策及び復旧
- (3) 民間放送機関
 - ア 気象等予警報及び被害状況等の報道
 - イ 県民に対する防災知識の普及に関する報道
 - ウ 被災者の安否情報、被災地域への生活情報の放送
 - エ 放送施設の保守
- (4) 社団法人広島県医師会
 - ア 災害時における医療、助産等救護の実施
 - イ 負傷者の収容並びに看護

- (5) 広島県厚生農業協同組合連合会及び社会福祉法人恩賜財団広島県済生会
社団法人広島県医師会に準ずる。

8 防災上重要な施設の管理者

- (1) 病院，劇場，百貨店，旅館等不特定かつ多数の者が出入りする施設の管理者
- ア 施設の防災管理
 - イ 施設に出入りしている患者，観客，宿泊者その他不特定多数の者に対する避難の誘導等の安全対策の実施
- (2) 石油類，火薬類，高圧ガス，毒物，劇物，各燃料物資等の製造，貯蔵，処理又は取扱いを行う施設の管理者
- ア 施設の防災管理
 - イ 被災施設の応急対策
 - ウ 施設周辺住民に対する安全対策の実施
- (3) 社会福祉施設等の管理者
- ア 施設の防災管理
 - イ 施設入所者に対する避難の誘導等安全対策
- (4) その他防災上重要な施設の管理者
- 前記(1)，(2)，(3)に準じた防災対策の実施

第5節 広島県の自然的条件

1 地 勢

地帯構造の上からいえば、中国地方は西日本内帯に属し、山地は一般に低く、起伏も緩やかである。また、地形構造はわりあい単純であり、中央よりやや北に偏して東西に走る脊梁山地と、その両側に広がる高原状の低山地からなり、海岸には極めて小規模の平野がみられるにすぎない。

中国地方の中央部にあってその南斜面を占める広島県は、上述の中国地方の一般的特性を典型的に示し、県内のほとんどは低い山地によって占められ、江の川の本・支流と太田川、芦田川の下流にみられる平野部もいたって狭い。

広島県の南部が面する瀬戸内海は、日本の典型的な沈水海岸の景観を示しており、大小多数の島々が浮かび、海岸線は屈曲に富んでいる。

2 地形特性

(1) 地形の規則的な配列

主たる地形の配列は脊梁山地方向であるが、これと斜行又は平行する北東－南西方向の直線的な谷・山列が特に広島県西部において発達する。また、西北西－東南東方向の直線谷もよく発達し、北東－南西方向の構造と組み合って菱形模様の地形単位をつくっている。

これらの規則的な地形配列は、古い地質時代の断層構造線が侵食されて形成されたものである。

(2) 四段の階段状山地

中国地方には侵食小起伏面（平地であった所が侵食から取り残された地形で、高原や山頂平坦面として分布する。）がよく発達し、本県では脊梁山地面（海拔1,000m以上）、吉備高原面（同600～700m）、世羅台地面（同350～450m）及び瀬戸内面（同250m以下）の四段が認められる。

(3) 花崗岩地形の発達

県内には花崗岩類が広く分布する。花崗岩類は他の岩石に比べて一般に風化・侵食されやすく、侵食小起伏面や山麓緩斜面など特徴ある地形を生じている。岩がごつと露出する急斜面と、その下方になだらかに広がる斜面との対照的な景観は、瀬戸内海の島々の特徴であるが、前者が古生層・流紋岩であるのに対し、後者は粗粒の花崗岩であることが多い。

3 広島県の自然史

日本列島の帯状構造は二畳紀後半～三畳紀に造られたものといわれ、中国地方の骨格もこの頃生成された。中生代白亜紀の大規模な火成活動（花崗岩、流紋岩等の貫入・噴出）の後、長期にわたって陸上侵食を受け、平坦化が進んだが、新生代第三紀中頃の日本海の生成以降、南からのフィリピン海プレートによる南北圧縮、東からの太平洋プレートによる東西圧縮の影響により、中国地方は波状に変形しながら隆起し、脊梁山地の上昇と三次・庄原盆地及び瀬戸内海の相対的沈降が生じた。

第四紀（約200万年前）以降は、氷河性海水準変動による影響がこの曲隆運動に加わり現在の広島県の地形が形成されていった。

第四紀更新世ヴェルム氷期（約1万～7万年前）には、海面は現在よりも最大で約140m低下し、陸化した瀬戸内海はナウマン象やニホンジカの群棲する原野であった。

約1万年前からの完新世には、気候の温暖化により急激に海面が上昇して瀬戸内海が誕生した。本県の主要な都市部が位置する瀬戸内海沿岸のデルタ地帯は、この海面上昇の後に形成された沖積平野であって、未固結の砂泥が厚く堆積したものである。

4 気 候

本県は北部から西部にかけて中国山地が連なり、南岸は瀬戸内海に面している。このため気候はおおむね温暖といえるが、気温・降水量とも南部と北部ではかなりの差異がある。

気温の年平均値は南部の沿岸部では15度前後、北部の中国山地では約10度となっている。

1月の平均気温は低いところで氷点下1度、高いところでは6度であり、8月の平均気温は22度から28度となっており、1月、8月とも地域による差が大きい。

年間の降水量は、北西部の中国山地沿いで最も多く2300～2400ミリであるが、南東部に向かって次第に少なくなり、東部の沿岸部や島しょ部では1200ミリ前後となっている。

第2章 災害予防計画

第1節 基本方針

この計画は、災害を未然に防止するとともに、災害発生時における応急措置等の迅速かつ的確な実行を期するため、災害予防責任者（指定行政機関の長、地方公共団体の長、その他執行機関、指定公共機関、指定地方公共機関及び公共的団体並びに防災上重要な施設の管理者をいう。以下この章において同じ。）の行うべき業務の大綱及び相互の連絡調整について定めることとし、その内容は次のとおりとする。

- 1 県土の保全に関する事項
- 2 防災施設・設備の新設又は改良に関する事項
- 3 県民の防災活動の促進に関する事項
- 4 調査、研究に関する事項
- 5 迅速かつ円滑な災害応急対策への備えに関する事項
- 6 円滑な避難体制の確保に関する事項
- 7 災害対策資機材等の備蓄等に関する事項
- 8 災害時要援護者対策に関する事項
- 9 災害救助基金に関する事項

第2節 県土の保全に関する計画

1 目的

この計画は、災害に強い県土を形成することにより、災害を未然に防ぎ、被害を軽減することを目的とする。

2 現況及び対策

(1) 治山

ア 実施責任者

県，市町，近畿中国森林管理局

イ 現況

本県は、沿岸部の保水性に乏しい風化花崗岩からなる脆弱な地質と、北部中国山地の平地の少ない急峻な地形に加え、相次ぐ集中豪雨や台風災害等により、森林の荒廃が進んでいる。また、宅地開発等が山麓部へと拡大し、災害の恐れのある「山地災害危険地区」が数多く存在している。

ウ 対策

山地に起因する災害の「復旧対策と未然防止」を図るため、山地災害危険地区対策や荒廃森林整備等を計画的に実施する。

(2) 河川

ア 実施責任者

県，市町，中国地方整備局

イ 現況

本県の河川は、各河川管理者により、河川改修やダム建設事業等による河川整備等が進められているが、未改修河川も多く、洪水や高潮により人命や財産に大きな被害を与える恐れがある。また、都市化の進展が著しい流域や、大規模な開発が進んでいる流域においては、洪水時等における危険度が増大することも予測されている。

ウ 対策

洪水、高潮による災害の発生防止、河川の適正利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全を図り、特に未改修河川や治水安全度の低下が予想される河川について重点的かつ計画的な河川整備を行う。

(3) 砂防

ア 実施責任者

県，市町，中国地方整備局

イ 現況

本県の地質は、花崗岩及び流紋岩が広く分布し、県下のほぼ70%を占めている。特に花崗岩は48%を占め、断層や節理等から水が染み込むと深部まで科学的変質が進行し、いわゆる「マサ土」と呼ばれる風化花崗岩となるため、土砂災害が発生しやすく、土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所数等が全国最多である。

ウ 対策

砂防事業や急傾斜地崩壊対策事業は、「土砂災害の危険性が極めて高い箇所」や「重要交通網等を含む危険箇所」及び「市町地域防災計画に位置づけられている避難場所や社会福祉施設等災害時要援護者関連施設を保全対象に含む危険箇所」等から効率的かつ重点的に整備を実施する。

また、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」（平成12

年法律第57号以下「土砂災害防止法」という。)に基づき、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の指定を計画的に行い、土砂災害による被害抑制対策を推進する。

(4) 海 岸

ア 実施責任者

県，市町，中国地方整備局

イ 現 況

本県は瀬戸内海に面し、大小合せて130余の島が点在し、海岸線は長く、入江が多く見られ、温暖な気候とあいまって天然の良港となっている。また古くから干拓や埋立などが行われ、沿岸部が利用されてきたこと等により、台風による暴風、波浪や高潮などによる被害が発生しやすい状況にある。

これらの被害や地震災害を防止するため、海岸法の規定に基づき、現在、海岸線の約5割が海岸保全区域に指定され、そのうち9割以上について海岸保全施設が整備されている。

ウ 対 策

海岸保全施設の整備の充実と既存施設の維持管理に努めるとともに、これら施設の整備充実にあたっては、関係機関相互の連絡を図り、効率的な保全事業の促進及び適正な管理を図る。

(5) ため池

ア 実施責任者

県，市町，ため池管理者

イ 現 況

本県では小規模なため池に水源を求めた開田が有史以来すすめられ、約20,000箇所(全国第2位)のため池が存在している。これらのため池の90%以上は、大正時代以前に造られており、今日の農村における高齢化、混住化、水田の荒廃等による維持管理の粗放化により老朽化がさらに進んでいることから、決壊等の恐れのある危険なため池は年々増加している。

ウ 対 策

ため池の決壊は、農地の流失はもとより、人命、財産に重大な被害をもたらすことから、ため池災害を未然に防止するために、老朽ため池の実態把握に努め、老朽度に応じて計画的に整備を推進する。また、ため池管理者による適切な維持管理とあいまって、水防関係機関との連携による的確な防災体制の確立を図り、ため池災害の未然防止に努める。

第2節の2 防災施設・設備の新設又は改良計画

1 目的

この計画は、防災に関する各種の施設・設備について、必要な新設又は改良を要するものの整備及び点検について必要な事項を定め、災害を未然に防止することを目的とする。

2 実施責任者

災害予防責任者

3 実施事項

次に掲げる施設・設備について、点検及び必要な整備を実施する。

- (1) 水害予防に関する施設・設備
- (2) 風害予防に関する施設・設備
- (3) 雪害予防に関する施設・設備
- (4) 高潮、津波予防に関する施設・設備
- (5) 土石流、地すべり、山崩れ、がけ崩れ等災害の予防、警戒避難体制に関する施設・設備
- (6) 建造物災害の予防に関する施設・設備
- (7) 地下空間における災害の予防に関する施設・設備
- (8) 海上における大規模な流出油等の災害防止に関する施設・設備
- (9) 災害時における緊急輸送に必要な施設・整備
- (10) その他の防災に関する施設・設備

4 実施方法

この計画については、計画的かつ総合的に実施する必要があるため、既存の法令による各種の整備計画及びこれに基づくそれぞれの災害予防責任者の所掌事務又は業務計画にしたがって実施するものとし、必要により防災会議が関係機関の総合調整に当たる。

第3節 県民の防災活動の促進に関する計画

1 方針

県民の防災活動を促進するため、防災教育や防災訓練の実施、消防団への入団促進、自主防災組織の育成・指導、ボランティア活動の環境整備、企業防災の促進に努めるものとする。これらにあたっては、様々なニーズへの対応に十分配慮するよう努めるものとする。

また、個人や家庭、地域、企業、団体等が連携して日常的に減災のための行動と投資を息長く行う「県民運動」を展開し、その推進にあたっては、時機に応じた重点課題を設定する実施方針を定めるとともに、関係機関等の連携の強化を図るものとする。

2 防災教育

(1) 目的

各種の災害についての必要な知識を、災害予防責任者及び防災業務従事者のみならず、県民等に周知徹底し、災害の未然防止と、災害時における迅速かつ的確な措置を行うことにより、被害を最小限度に防止することを目的とする。

(2) 実施責任者

災害予防責任者

(3) 実施内容

ア 防災思想の普及、徹底

防災関係機関は、県民が、自らの身の安全は自らが守るという自覚を持ち、平常時から災害に対する備えを心がけるとともに、豪雨、土砂災害、地震・津波など過去の災害から得られた教訓の伝承に努め、災害時には自らの身の安全を守るような行動をすることができ、また、災害時には、近隣の負傷者、災害時要援護者を助ける、避難場所で自ら活動する、あるいは、国、公共機関、地方公共団体等が行っている防災活動に協力するなど、防災への寄与に努めるよう、自主防災思想の普及、徹底を図る。

また、教育機関や民間団体等との密接な連携の下、防災に関するテキストやマニュアルの配布、有識者による研修や講演会の開催等により、防災教育を実施する。

イ 県民等に対する防災知識の普及・啓発

県及び市町は、災害時に県民等が的確な判断に基づいた行動ができるよう、防災週間や防災とボランティア週間等を通じて、災害についての正しい知識の普及・啓発を行い、意識の高揚を図る。

また、自主防災組織など地域コミュニティや家庭・家族単位での防災に関する教育の普及促進を図る。

(ア) 普及啓発内容

- a 暴風、豪雨、豪雪、洪水及び地震等の異常な自然現象に対する防災知識
- b 各種の産業災害に対する自主的な安全管理に関する知識
- c 火薬、危険物等の保安に関する知識
- d 電気、ガス施設の安全確保に関する知識
- e 建築物に対する防災知識
- f 土砂災害等災害危険箇所に関する防災知識
- g 文化財、公共施設等に関する防災知識
- h 災害により交通の途絶しやすい地域に関する防災知識
- i 海上における大規模な流出油等の防災に関する知識
- j その他防災知識の普及啓発に必要な事項

- k 様々な条件下で地震発生時にとるべき行動、緊急地震速報利用の心得など
- (イ) 実施方法
- a パンフレット、リーフレット、ポスターによる普及啓発
 - b テレビ、ラジオ、有線施設等放送施設による普及啓発
 - c 新聞、広報紙、インターネット、その他の広報媒体による普及啓発
 - d 映画、スライド等による普及啓発
 - e 防災に関する講習会、展示会等の開催による普及啓発
 - f 学校教育等を通じての児童生徒等に対する周知徹底
 - g その他時宜に即した方法による普及啓発

3 防災訓練

(1) 目的

各種の災害について必要な防災訓練を実施し、災害時における防災業務が迅速、的確かつ実効のあるものとするを目的とする。

(2) 実施責任者

災害予防責任者

(3) 実施事項

災害想定については、風水害、産業災害、林野火災、地震等とし、概ね次の事項について訓練を実施する。

- ア 災害広報
- イ 避難誘導
- ウ 消火活動
- エ 水防活動
- オ 交通規制
- カ 救護活動
- キ 非常無線通信
- ク 消防広域応援
- ケ 自衛隊派遣要請
- コ 行方不明者の捜索活動
- サ 食料供給・給水活動
- シ 緊急道路の確保
- ス 緊急物資の輸送
- セ 通信施設・電力設備・ガス施設・水道施設の応急復旧
- ソ 他の都道府県との広域応援
- タ 海難救助、山岳遭難者の救助活動
- チ 避難救助及び非常招集
- ツ 海上における大規模な流出油等災害対策
- テ 緊急地震速報を利用した安全確保行動
- ト その他防災に関する活動

(4) 実施方法

それぞれの災害予防責任者において自主的に計画を樹立して、最も効果のある時期、場所、参加団体等を決定して実施する。

防災会議は、自ら次の総合訓練を主催するとともに、必要により災害予防責任者が実施する防災訓練の調整を行う。

- ア 大規模災害発生時における防災関係機関，市民，企業及び行政相互の連絡協力体制の確立と地域住民の防災意識の高揚を図るための総合防災訓練
 - イ 大規模災害発生時における県災害対策本部・支部，市町及び防災関係機関との連携強化を図るための図上訓練
- なお，災害予防責任者は，訓練実施結果について評価・検討を行い防災体制の改善に反映させるものとする。

4 消防団への入団促進

(1) 目的

消防団員数を確保するための取組みとして，地域の実態に即した団員確保方策を検討し，住民の更に幅広い層から消防団の入団促進を図ることを目的とする。

(2) 実施責任者

県，市町

(3) 実施内容

市町は，消防団員数の確保とともに消防団の充実強化と活性化を図るため，次に掲げる取組みを積極的に推進する。

県は，市町が行う消防団の入団促進等について指導・支援に努める。

- ア 地方公共団体職員及び公共的団体職員の入団促進
- イ (社)全国消防機器協会等会社社員の入団促進
- ウ 女性消防団員の入団促進
- エ 大学生等の若年層及びOB消防職団員等の入団促進
- オ 消防団員の活動環境の整備
- カ 消防団と事業所の協力体制の推進

5 自主防災組織の育成，指導

(1) 目的

災害時における被害の防止又は軽減を図るため，隣保協同の精神に基づき，地域住民又は施設の関係者等による自主的な防災組織（以下「自主防災組織」という。）の組織化を支援するとともに，その育成，指導を推進することを目的とする。

(2) 実施責任者

ア 市町

基本法第5条第2項の規定により，自主防災組織の育成，指導に努める。

イ 県

市町との有機的な連携を図り，自主防災組織の育成，指導に努める。

ウ その他の災害予防責任者

市町及び県の行う自主防災組織の育成，指導に協力する。

(3) 実施内容

各実施責任者は，具体的な実施計画を作成し，次の実施事項を積極的に推進する。その際，男女共同参画の促進に努めるものとする。

- ア 自主防災組織の規約，活動計画等の作成指導
- イ リーダー養成のための講習会等の開催
- ウ 情報伝達訓練，避難訓練等の防災訓練の実施指導
- エ その他自主防災組織の育成，指導に必要な事項

(4) 自主防災組織の編成

ア 自主防災組織は、既存のコミュニティである町内会や自治会等を活用する。

イ 昼間と夜間とで人口が異なる地域においては、昼夜間及び休日・平日等においても支障がないよう組織を編成する。

(5) 自主防災組織の活動

自主防災組織の構成員は、活動計画等に基づき、平常時及び災害時において効果的に防災活動を行うよう努めるものとする。

ア 平常時の活動

(ア) 情報の収集及び伝達体制の確立

(イ) 防災知識の普及

(ウ) 防災訓練の実施

(エ) 火気使用設備器具等の点検

(オ) 防災資機材等の備蓄、整備

イ 災害時の活動

(ア) 被害の状況等情報の収集及び伝達

(イ) 出火防止、初期消火

(ウ) 避難誘導活動

(エ) 救出救護活動

(オ) 給食給水や救援物資の配給への協力

(6) 県の協力・支援

県は、市町の行う自主防災組織の育成や、活動の核となる防災に関する専門的知識・技能を有する人材の養成等、自主防災組織の活性化に関する活動に積極的に協力する。また、他の団体が実施する事業による資機材や活動拠点の整備促進等を支援する。

6 ボランティア活動の環境整備

(1) 目的

平常時からボランティアの組織化を行い、ボランティア活動の環境整備に努めることを目的とする。

(2) 実施責任者

県、市町、日本赤十字社広島県支部及び広島県社会福祉協議会

(3) 実施内容

ア 県及び市町は、災害時におけるボランティアの迅速かつ有効な活用を図るため、医療業務、看護業務、介護業務、通訳、無線通信、被災建築物の応急危険度判定等の専門的な資格や技能を有する者（以下「専門ボランティア」という。）を平常時から登録し、把握しておくものとする。

イ 県及び市町は、登録されている専門ボランティアに対して、その防災に関する知識及び技術の向上を図るため、研修、訓練等を行う。

ウ 日本赤十字社広島県支部及び広島県社会福祉協議会は、災害時に個人参加のボランティアを指導し、効果的な活動が行えるよう、ボランティアコーディネーターの養成に努める。

エ 災害時におけるボランティア活動を効果的に支援するため、県、市町、日本赤十字社広島県支部及び広島県社会福祉協議会は平常時からボランティア団体等との連携を図る。

7 企業防災の促進

(1) 目的

企業の防災意識の高揚を図り、災害時における企業の防災活動の推進を図ることを目的とする。

(2) 実施責任者

県，市町

(3) 実施内容

企業は、災害時の企業の果たす役割（生命の安全確保、二次災害の防止、事業の継続、地域貢献・地域との共生）を十分に認識し、各企業において災害時に重要業務を継続するための事業継続計画（BCP）を策定するよう努めるとともに、地域住民との連携による相互防災応援協定の締結、防災体制の整備、防災訓練、事業所の耐震化、予想被害からの復旧計画策定、各計画の点検・見直し等を実施するなどの防災活動の推進に努めるものとする。

このため、県及び市町は、こうした取組みに資する情報提供等を進めるとともに、企業職員の防災意識の高揚を図るための啓発活動の実施や地域の防災訓練への積極的参加の呼びかけ、防災に関する助言を行うよう努めるものとする。

第4節 調査、研究に関する計画

1 目的

この計画は、各種の災害について常時必要な調査研究を行い、災害の未然防止に努めるほか、災害時における応急対策並びに復旧対策等に万全を期することを目的とする。

2 実施責任者

災害予防責任者

3 実施事項

- (1) 防災施設の新設又は改良に関する調査研究
- (2) 災害の原因及び災害に対する措置等についての科学的、技術的な調査研究
- (3) 調査研究の結果の公表

4 実施方法

それぞれの災害予防責任者において決定するものとし、必要により、防災会議が関係機関との調整に当たる。

第5節 迅速かつ円滑な災害応急対策への備えに関する計画

1 方針

防災関係機関は、災害が発生した場合に、迅速・的確かつ円滑に災害応急対策を実施するための備えを行っていくものとする。

2 災害発生直前の応急対策への備え

(1) 配備動員体制の整備関係

ア 県の配備動員体制

県の配備体制は、注意体制、警戒体制、非常体制（災害対策本部を設置した体制）とし、その移行時期、職員の参集基準、災害対策本部の設置場所等について、本計画第3章及び災害対策運営要領で定める。

また、災害対策運営要領において、災害対策本部の組織（部、班）と事務分掌を定め、各班ごとに、事務処理の要領を定めた行動マニュアルを作成して、職員に周知する。

イ 市町の配備動員体制

市町長はあらかじめ緊急防災要員を指名するとともに、職員の参集基準を明確にするなど、初動体制を確立しておくものとする。

ウ 防災関係機関等の配備動員体制

防災関係機関等は、それぞれの機関等の防災業務計画等において配備動員体制を定めておくものとする。

(2) 気象警報等の伝達関係

ア 情報ネットワーク等の整備

防災関係機関は、インターネット等の情報ネットワークを活用するなど、より細かな情報を正確かつ迅速に収集伝達するシステムの構築に努めるものとする。

イ 防災行政無線等による情報伝達

市町は、防災行政無線による伝達やインターネット等の情報ネットワークを活用するなど、より細かな情報を正確かつ迅速に収集伝達するシステムの構築に努めるものとする。

避難所（小、中学校等）との情報連絡についても同様とする。

ウ 伝達手段の多重化、多様化

市町は、住民等に対して気象警報等が確実に伝わるよう、防災行政無線（同報系）の整備を促進するとともに、全国瞬時警報システム（J-ALERT）、広報車、半鐘、サイレン、テレビ（CATV含む）、ラジオ（コミュニティFM放送を含む。）、携帯電話（登録制メール、エリアメールを含む。）、ワンセグ、インターネット、アマチュア無線等を用いた伝達手段の多重化、多様化を図るものとする。

(3) 住民等の避難誘導関係

本計画第2章第5節の2「円滑な避難体制の確保に関する計画」で定める。

3 災害発生直後の応急対策への備え

(1) 災害情報の収集・伝達関係

県及び市町は、災害発生時における被害に関する情報、被災者の安否情報等の収集・伝達に係る体制の整備に努める。

また、放送事業者等に対し、必要に応じて被害情報等の広報の実施を要請する体制を構築する。

(2) 通信機能の整備関係

ア 防災関係機関は、応急対策の実施等に関する緊急かつ特別の必要に備えて、あらかじめN T T西日本に災害時優先電話の申込み及び変更手続きを行うものとする。

また、緊急地震速報受信設備を整備し、職員をはじめ各施設等の利用者等へ緊急地震速報を伝達できる体制を構築するよう努める。

イ 市町は、災害情報等の迅速な収集・伝達、緊急地震速報等の情報を住民へ速やかに伝達するため、緊急地震速報受信設備や防災行政無線等のシステムの構築を進めるとともに、保有する機器の整備・充実に努めるものとする。

また、防災関係機関以外の者の所有する無線局について、あらかじめその実態を把握し、その利用について協議して、マニュアルを作成しておくものとする。

さらに、平素から地域内のアマチュア無線局の状況を把握するよう努め、災害時において非常通信の協力依頼ができるよう連絡体制の確立に努めるものとする。

ウ 県は、災害等により、広島県総合行政通信網の県庁統制局又は中継局が使用できなくなった場合に備えて、地上系通信網のループ化や代替通信機能の確保に努めるものとする。

エ 県と市町は、地震・津波災害による通信網の途絶や輻輳に備え、衛星携帯電話等の導入を図り、災害対策本部間の連絡を確保する。

オ 防災関係機関は、各種の情報連絡を行うために移動体通信（携帯電話）等の有効利用による緊急連絡手段の確保を図る。

この場合において、既存ネットワークのデジタル化や大容量通信ネットワークの整備を推進するものとする。

カ 通信施設については、防災関係機関は、非常用電源（自家発電用施設、電池等）、移動無線機、可搬形無線機等の仮回線用資機材など、応急用資機材の確保充実に努めるとともに、平常時においてもこれらの点検整備を行う。

キ 通信機能を保有する機関は、災害時等いつでも迅速・的確に通信運用が行われるよう定期的に機能確認を実施するとともに、平素から操作方法等の訓練を実施するものとする。

ク 防災関係機関は、水防、消防及び救助に関する通信施設の整備に努める。

4 災害派遣、広域的な応援体制への備え

(1) 自衛隊災害派遣関係

ア 市町及び関係機関は、平素から、市町及び関係機関における自衛隊災害派遣部隊等の受け入れ担当連絡部署（職員）の指定及び配置を行うものとする。

イ 市町及び関係機関は、平素から、自衛隊災害派遣部隊の宿营地を選定しておくものとする。

ウ 市町及び関係機関は、平素から、ヘリポートを選定しておくものとする。

なお、ヘリポートを選定する際は、避難場所及び避難所との競合を避けることとする。

(2) 相互応援協力関係

防災関係機関は、あらかじめ広域応援体制の整備に努めるものとする。

また、それぞれの応急対策実施項目に関係する防災関係機関相互をはじめ、事業者、業界団体等との協定等を締結し、円滑な災害応急対策に努める。

5 救助・救急，医療，消火活動への備え

(1) 医療，救護活動関係

ア 連携体制

市町及び県は，災害の発生に備え，平常時から災害医療関係機関等の防災関係機関との連携体制を確保するとともに，負傷者の発生に対応するため，医薬品等医療資機材の備蓄に努めるものとする。

また，県は，医療救護活動に必要な医薬品等に不足が生じる場合又は市町から要請がある場合に備え，関係業者から速やかに調達できるよう調達手段を確立しておくものとする。

イ 情報共有

県は，中国地方各県と，各県災害拠点病院の状況，位置，特徴，連絡先等の情報を平常時において，あらかじめ共有し，速やかな応援体制に活用するものとする。

(2) 消防活動体制の整備関係

ア 市町及び一部事務組合（以下「市町等」という。）は，大地震等発生時の火災防止のため，次の事項について，平素から広報等を通じ住民及び事業所等に周知しておくものとする。

(ア) 出火防止及び初期消火

住民・自主防災組織・事業所等は，自らの生命・財産を守るため，出火防止及び初期消火に努める。

(イ) 火災の拡大防止

大地震等により火災が発生したときは，住民・自主防災組織・事業所等は，互いに協力して可能な限り消火活動を行い，火災の拡大の防止に努める。特に危険物等を取り扱う事業所については，二次災害の発生防止に努める。

イ 市町等は，次の事項について，あらかじめ消防体制を整備しておくものとする。

(ア) 大地震等発生直後の消防職（団）員の初動体制，初期消火活動の実施計画を定める。

(イ) 大地震等発生直後に，住民に対して出火防止及び火災の延焼状況等を迅速に広報するため，広報の要領，広報班の編成について定める。

(ウ) 大地震等発生直後の火災を早期に発見するとともに，防火水槽の破損及び道路の通行状況等を迅速に把握できるよう情報収集の体制を定める。

(エ) 大地震等発生時には，水道管の破損や停電等による長期間の給水停止が想定されることから，防火水槽や耐震性貯水槽の設置等を推進するほか，河川，池，水路等の自然水利を積極的に活用するため，取水場所の整備等を行い，消防水利の多元化を図る。

(オ) 救助工作車，救急車，照明車等の車両及び応急措置の実施に必要な救急救助用資機材及び，消防ポンプ自動車等の消防用機械・資機材の整備に努めるものとする。

(カ) 緊急消防援助隊の充実強化を図るとともに，県及び防災関係機関との連携による実践的な訓練の実施に努める。

(キ) 大規模・特殊災害に対応するための高度な技術・資機材を有する救助隊の整備の推進に努めるものとする。

(3) 危険物等災害応急対策関係

災害の発生に備え，事業所においては平素から関係法令の遵守及び自主保安体制の確立に努める一方，関係行政機関はこれらに対して，必要な指導を行うものとする。

6 緊急輸送活動への備え

市町は、あらかじめ定める災害時における輸送車両等の運用計画又は調達計画により、車両、船舶等及びそれらの燃料等の調達先を明確にしておき、人員及び物資等の輸送手段を確保する。

県は、災害発生時の緊急輸送活動のために多重化や代替性を考慮しつつ確保すべき輸送施設（道路、港湾、漁港、飛行場等）及び輸送拠点（トラックターミナル、卸売市場等）について把握するとともに、災害に対する安全性を考慮しつつ、国等関係機関と協議の上緊急輸送ネットワークの形成を図るとともに、市町に対する周知徹底に努めるものとする。

道路管理者は、緊急輸送道路を選定し、災害直後から発生する緊急輸送を円滑かつ確実に確保するため、緊急輸送道路の道路改良、橋梁耐震補強、法面对策等を計画的に推進する。

7 避難収容・情報提供活動への備え

（1）避難対策のための整備関係

本計画第2章第5節の2「円滑な避難体制の確保に関する計画」で定める。

（2）住宅対策関係

県及び市町は、応急仮設住宅の建設場所のために、あらかじめ公有地を把握するよう努めるとともに、被災者用の住居として利用可能な公営住宅や空家等の把握に努め、災害時に迅速に斡旋できる体制の整備を図るものとする。

また、発災時に被災建築物応急危険度判定及び被災宅地危険度判定が円滑かつ適正に実施できるよう、判定士等の養成、登録、判定資機材の備蓄、情報連絡網の整備・更新、後方支援の体制の整備等、実施体制の充実並びに判定士の技術力の保持・向上に努めるものとする。

（3）帰宅困難者対策関係

災害発生時に、公共交通機関が運行を停止し、自力で帰宅することが困難な帰宅困難者が大量に発生する場合に備えて、県及び市町は、県民や企業等に対し、「むやみに移動を開始しない」という基本原則や、従業員等が一定期間事業所内に留まることができる備蓄の必要性等の周知を図る。また、市町は必要に応じて、一時滞在施設の確保等に努めるものとする。

（4）孤立集落対策関係

災害発生時に、道路等が被害を受け、集落が孤立する場合に備え、市町は、学校区や町内会など、地域の状況に適した単位で、孤立可能性のある集落を把握し、次の対策の推進に努める。

- ア 避難所、集落、世帯での水、食糧、日用品等の備蓄
- イ 防災行政無線や衛星携帯電話など情報通信手段の整備
- ウ 臨時ヘリポート適地の確保など救助・救援体制の確立
- エ 避難計画の整備や避難訓練の実施

8 救援物資の調達・供給活動への備え

県及び市町等は、被災者の生活の維持のため必要な食料、飲料水、燃料、毛布等の生活必需品等を調達・確保し、ニーズに応じて供給・分配を行えるよう努めるものとする。

なお、被災地で求められる物資は、時間の経過とともに変化することを踏まえ、時宜を得た物資の調達に留意するものとする。また、夏季には扇風機等、冬季には暖房器具、燃料等も含めるなど被災地の実情を考慮するとともに、男女のニーズの違いや、高齢者、災害時要援護者等のニーズに配慮するものとする。

(1) 食料供給関係

ア 県及び市町は、災害に備え、緊急用食料の備蓄に努めるものとする。

イ 県及び市町は、防災関係機関や販売業者等と密接に連携して、それらからの供給可能な数量、その保管場所等をあらかじめ把握しておく。

(2) 給水関係

ア 市町長、水道事業者及び水道用水供給事業者は、災害時に備えて水道施設の耐震性の向上や、応急給水拠点の整備等水道システム全体の安定性の向上に努めるとともに、応急給水や応急復旧のための手順や方法を明確にした計画の策定や訓練の実施等の緊急対応体制、大規模災害に備えた広域的な相互応援対策等の確立に努めるものとする。

なお、医療機関等に対する緊急時の給水等については、十分配慮しておくものとする。

イ 知事は、災害時に備え、平素から市町長が実施する耐震化施策等について必要な指導・支援を行う。

ウ 市町は、遊休井戸等の緊急時に活用できる水源の確保・管理に努める。

(3) 生活必需品等供給関係

県及び市町は、被災者に対し、衣服、寝具その他の生活必需品（以下「生活必需品等」という。）を円滑に供給するため、平素から物資の備蓄に努めるとともに、区域内の卸売業者、大規模小売店等における生活必需品等の放出可能量の把握、確認に努め、災害時において速やかに調達できるよう体制の確立に努める。

(4) 救援物資の調達・配送関係

県内で大規模な災害が発生し、市町単独では必要な物資の確保が困難な場合に備え、県は、民間事業者のノウハウを活用した救援物資の調達方法や救援物資輸送拠点の運営方法、国や関係機関と連携した救援物資輸送車両等への燃料確保の仕組み等の整備に努める。

9 文教関係

ア 避難計画の作成

学校の管理者（市町立学校にあっては当該市町教育委員会、県立学校及び私立学校（私立専修学校及び私立各種学校を含む。以下同じ。）にあっては、学校長、公立大学にあっては学長）は、あらかじめ市町長等と協議のうえ、地震・津波災害など地域の状況を十分考慮して、避難場所、経路を選定し、避難計画を作成する。避難計画においては、学校内・外における避難場所、避難経路、避難責任者、指示伝達方法、保護者への児童生徒等の引渡し方法等を定める。

イ 応急教育計画の作成

応急教育の実施責任者（市町立学校（幼稚園を除く。）にあっては当該市町教育委員会、県立学校及び私立小・中・高等学校（各種学校のうち外国人学校及び専修学校のうち3年制高等課程を含む。）にあっては学校長）は、あらかじめ応急教育の実施場所、実施方法等必要な事項について、地域の状況を十分に考慮した応急教育計画を作成し、災害時においても教育活動に支障を来さないよう配慮する。

ウ 園児・児童・生徒・学生に対する防災教育

(ア) 県教育委員会は、園児・児童・生徒に対する防災教育の実施について、公立学校（大学を除く。以下この項において同じ。）の管理者を指導する。

また、県は、私立学校及び公立大学に対し、公立学校に準じた防災教育を行うよう指導又は要請する。

(イ) 公立学校の管理者は、住んでいる地域の特徴や過去の教訓等について継続的な防災教育に努めるものとする。また、児童生徒が危険予測・危険回避能力を身につけることができるよう、計画的に、教科、学級活動・ホームルーム活動、学校行事等、教育活動全体を通じて、災害の基礎的な知識及び災害発生時の対策（各学校の防災計画）などの指導を行うとともに、平素から登下校中の避難行動及び避難場所について、指導する。

また、県は、私立学校に対し、公立学校に準じた対策を行うよう指導又は要請する。

(ウ) 高等学校の生徒を対象にして、応急看護の実践的技能の習得を図る。

エ 学校施設の耐震化

公立学校の設置者（市町立学校にあっては当該市町、県立学校にあっては県）は、文部科学省が定める施設整備基本方針に基づき、平成 27 年度までのできるだけ早い時期に、耐震化を完了させるよう取組みを進める。併せて、建物の天井材や外装材等の非構造部材の耐震化を進める。

学校法人等が設置する私立学校については、学校法人等に対して、施設の耐震化の促進に向けて支援する。

オ 地域の避難所となる場合の対策

(ア) 学校又は公民館等社会教育施設の管理者は、被災者の避難所として使用される場合の受け入れ場所・受け入れ人員等の利用計画を作成する。

(イ) 学校又は公民館等社会教育施設の管理者は、市町長と協議のうえ、飲料水及び非常用食料の備蓄に努めるとともに、簡易トイレ、テント等の配備計画を作成する。

カ 教職員に対する研修

県教育委員会は、生徒等に対する防災教育・応急教育、学校が避難所となる場合の対策等について、教職員の研修を行う。

また、県は、私立学校及び公立大学に対し、これに準じた教育及び研修を行うよう指導又は要請する。

キ 社会教育等を通じた啓発

県教育委員会は、PTA、青少年団体、女性団体等を対象とした各種研修会、集会等を通じて、防災に関する知識の普及、啓発を図り、県民がそれぞれの立場から地域の防災に寄与する意識を高める。

また、文化財を災害から守るため、平素から文化財保護団体の活動等を通じて、文化財に対する防災知識の普及を図る。

第5節の2 円滑な避難体制の確保等に関する計画

1 方針

防災関係機関は、風水害等の自然災害が発生した場合に、住民の迅速かつ円滑な避難体制を確保するよう、必要な防災対策を推進する。

2 浸水想定区域等の指定

(1) 浸水想定区域の指定

ア 県及び中国地方整備局は、次の河川について、河川がはん濫した場合に浸水が想定される区域を浸水想定区域として指定し、指定の区域及び浸水した場合に想定される水深を公表するとともに、関係市町の長に通知するものとする。

(ア) 水防法に基づき指定した洪水予報を実施する河川

(太田川、江の川、小瀬川、芦田川、黒瀬川、沼田川)

(イ) 避難判断水位を定めその水位に到達した旨の情報を提供する河川

(天満川、旧太田川、元安川、古川、安川、三篠川、根谷川、水内川、瀬野川、八幡川、黒瀬川、二河川、賀茂川、府中大川、鈴張川、志路原川、芦田川、砂川、出口川、御調川、瀬戸川、高屋川、吉野川、加茂川、箱田川、有地川、神谷川、野呂川、沼田川、天井川、和久原川、藤井川、本郷川、三津大川、羽原川、山南川、手城川、永慶寺川、御手洗川、可愛川、岡ノ下川、河手川、服部川、南原川、太田川、冠川、多治比川、仏通寺川、梨和川、菅川、入野川、西野川、西城川、北溝川、馬洗川、上下川、国兼川、美波羅川、神野瀬川、布野川、板木川、戸郷川、成羽川、比和川)

イ 浸水想定区域の指定を受けた市町は、市町地域防災計画において、少なくとも当該浸水想定区域ごとに、次の事項を定めるものとする。

(ア) 洪水予報等の伝達方法

(イ) 避難場所

(ウ) その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項

なお、浸水想定区域内に地下街等（地下街その他地下に設けられた不特定かつ多数の者が利用する施設）又は主として災害時要援護者が利用する施設で当該施設の利用者の洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるものがある場合には、さらに次の事項を定めるものとする。

(エ) これらの施設の名称及び所在地

(オ) 当該施設への洪水予報等の伝達方法

(2) 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域の指定

ア 県は、関係市町長の意見を聴いて、土砂災害のおそれのある区域を土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域として指定する。土砂災害特別警戒区域については、以下の措置を講ずるものとする。

(ア) 住宅宅地分譲地、社会福祉施設等のための開発行為に関する許可

(イ) 建築基準法に基づく建築物の構造規制

(ウ) 土砂災害時に著しい損壊が生じる建築物に対する移転等の勧告

(エ) 勧告による移転者への融資、資金の確保

イ 土砂災害警戒区域の指定を受けた関係市町は、市町地域防災計画において、警戒区域ごとに次の事項を定めるものとする。

(ア) 避難勧告等の発令基準及び発令対象区域

土砂災害警戒情報が発表された場合における避難勧告等の発令基準や、土砂災害警戒区域等を踏まえ、町内会、自治会等、同一の避難行動をとるべき避難単位の設定

(イ) 避難所の開設・運営

土砂災害に対して安全な避難所の開設、運営体制及び避難所開設状況の伝達

(ウ) 災害時要援護者への支援

災害時要援護者関連施設、在宅の災害時要援護者に対する情報の伝達体制、災害時要援護者情報の共有

(エ) 情報の収集及び伝達体制

雨量情報、土砂災害警戒情報、住民からの前兆現象や近隣の災害発生情報等についての情報の収集及び伝達体制

(3) 高潮浸水想定区域の指定

県は、台風等による高潮災害のおそれのある区域について、必要に応じて、各沿岸地域の自然特性、社会経済特性等の現状を把握するための基礎調査を行い、高潮浸水想定区域を明らかにし、施設整備、警戒避難体制等が有機的に連携した高潮防災対策を推進する。

3 ハザードマップの作成

浸水想定区域、土砂災害警戒区域（以下、「浸水想定区域等」という。）をその区域に含む市町は、浸水想定区域等、避難場所、避難路等水害に関する総合的な資料を図面表示等を含む形で取りまとめたハザードマップの作成を行う。

また、高潮、中小河川及び内水による浸水に対応したハザードマップの作成についても、関係機関が連携しつつ作成・検討に努める。

ハザードマップには次の事項を記載するものとする。

- (1) 市町地域防災計画において定められた洪水予報、土砂災害に関する情報等の伝達方法
- (2) 避難場所に関する事項
- (3) その他円滑かつ迅速な避難の確保を図るため必要な事項
- (4) 浸水想定区域内の地下街等及び主として災害時要援護者が利用する施設で当該施設の利用者の洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるものの名称及び所在地

4 避難計画の作成等

(1) 多数の人が集まる施設の避難計画

学校、保育所、工場、映画館等多数の人が集まる施設の設置者又は管理者等は、市町長が避難の勧告を行った場合、関係者を速やかに安全な場所へ避難させる責務を有するので、あらかじめ、市町長と協議して避難計画を作成しておく。

(2) 地下街等の避難計画

地下街等（地下街、デパートの地下売り場など、従業員以外の不特定多数の者が利用しており、浸水が発生した場合にその利用者が円滑かつ迅速に避難することが困難で、被害の発生が想定される地階）の管理者は、利用者や従業員の安全確保のために水防の責任者、連絡体制、避難誘導計画等を定めた浸水被害を防止するための計画を作成し、従業員などへの防災教育、訓練を行うよう努めるものとする。

特に、市町地域防災計画に名称及び所在地を定められた地下街等の所有者又は管理者は、単独で又は共同して、防災体制に関する事項、避難誘導に関する事項、避難の確保を図るための施設の整備に関する事項、防災教育・訓練に関する事項等に関する避難確保計画を作成し、これを市町長に報告するとともに、公表するものとする。

市町は、地下街等不特定かつ多数の利用者がいる施設等においては、施設管理者と連携して、避難誘導等安全体制の確保に配慮するものとする。

(3) 避難場所、避難路の選定・周知

市町は、災害発生時において適切な措置をとるため、あらかじめ避難場所、避難路等の選定を行い、平素から住民への周知徹底を図るとともに住民を含めた訓練に努めることとする。

なお、避難場所、避難路の選定に当たっては、土砂災害など地域の状況を十分考慮したものとするとともに、住民参加のワークショップ等を開催するなど、住民の意見を取り入れた避難路の選定を図るものとする。

あらかじめ避難場所に選定した市町は、避難場所、避難路沿い等に誘導表示板、案内標識等を設置して、速やかに避難できるようにしておくものとする。

(4) 避難所の開設・運営

市町は、避難場所の開設及び運営について、あらかじめ計画を策定しておくものとする。

(5) 避難の誘導

ア 災害時要援護者の避難に当たっては、自主防災組織、消防団、近隣住民と連携を図りながら避難誘導を行えるよう、市町は、避難の連絡方法や避難補助の方法をあらかじめ定めておくものとする。

イ 興行場、駅、その他の不特定多数の者の利用が予定されている施設の管理者は、避難誘導に係る計画の作成及び訓練の実施に努めるものとする。なお、この際、必要に応じ、多数の避難者の集中や混乱にも配慮した計画、訓練とするよう努めるものとする。

5 住民への周知等

県及び中国地方整備局は、洪水、高潮、土砂災害等による浸水想定区域等を公表し、安全な国土利用や耐水性建築方式の誘導、風水害時の避難体制の整備の支援に努める。

県は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第26条及び29条に基づき、地すべりによって重大な土砂災害の急迫した危険が予想される場合、避難のための立退きの勧告または指示の判断に資するため、当該土砂災害が想定される土地の区域及び時期に関する情報を関係市町長に通知し、併せて一般に周知する。

市町は、作成したハザードマップ等を、配布、ホームページへの掲載その他の必要な措置を講じ、住民等へ周知するものとする。また、地下街等における浸水被害を防止するため、作成した洪水ハザードマップを地下街等の管理者へ提供する。

水防管理者は、地域住民の水災に対する警戒、災害時の円滑な避難行動等に資するため、重要水防箇所を一般に周知するように努めるものとする。

6 避難場所の整備

(1) 市町は、避難場所となる施設について、必要に応じ次の施設・設備等の整備に努めるものとする。

ア 換気、照明等避難生活の環境を良好に保つための設備

イ 貯水槽、井戸、仮設トイレ、マット、通信機器等

ウ 災害時要援護者にも配慮した施設・設備

エ テレビ、ラジオ等被災者による災害情報の入手に資する機器

オ 食料、水、非常用電源、常備薬、炊きだし用具、毛布等避難生活に必要な物資等（指定した避難場所又はその近傍で確保できるよう努める）。

カ 必要に応じて、避難場所における家庭動物のためのスペースの確保に努めるものとする。

(2) 県及び市町は、風水害の際に自力での避難が極めて困難な災害時要援護者のために、関連する施設について、想定する浸水深に対して安全な構造にするなど、一時避難が可能となるよう配慮するものとする。

7 動物愛護管理に関する計画

災害発生時には、放浪・逸走動物（特定動物を含む）や負傷動物が多数生じると同時に、多くの動物が飼主とともに避難所等に避難してくることが予想される。

県及び市町は、動物愛護管理の観点から、これらの動物の保護や適正な飼養に関し、関係機関と連携を図りながら、犬や特定動物による人への危害防止や被災動物の保護・収容等に係る体制の整備に努める。

第5節の3 災害対策資機材等の備蓄等に関する計画

1 目的

この計画は、応急対策活動及び復旧対策活動を迅速かつ円滑に行うため、平常時から災害対策資機材等の備蓄に努めるとともに、調達体制を確立しておくことを目的とする。

2 実施責任者

災害予防責任者

3 災害対策資機材等の対象

- (1) 食料，飲料水及び生活必需品等（被服，寝具，その他生活必需品をいう。以下同じ。）
- (2) 医薬品等医療資機材
- (3) 防災資機材
 - ア 救助・救難用資機材
 - イ 消火用資機材
 - ウ 水防関係資機材
 - エ 流出油処理用資機材
 - オ 陸上建設機械
 - カ 被災建築物応急危険度判定資機材
 - キ 被災宅地危険度判定資機材

4 実施方法

実施責任者は、常時物資及び資材の所要量を確保し整備と点検に努めるとともに、保管場所、保管責任者を明らかにするものとし、物資の調達、配給、輸送方法等についても、あらかじめ物資資材の生産業者、集荷業者、販売業者、配給業者、輸送機関等と緊密な協力関係を樹立するよう努める。

また、各防災関係機関が緊急時に相互に協力できる物資及びその数量等の把握に努める。

(1) 備蓄数量

備蓄数量は、地域特性を考慮し、過去の災害事例をもとに、設定するものとする。

(2) 備蓄品目の選定

備蓄品目の選定については、想定される最悪のケースに対応できるように品目を選定する必要がある。その際には、電気、ガス、通信、上水道、下水道等県民生活に重大な影響を与えるライフラインの被害による影響も考慮する必要がある。

(3) 備蓄の実施主体及び役割

備蓄は、家庭・企業、市町、県の3者が行うものとする。

ア 家庭・企業

各家庭・企業は、食料、飲料水及び生活必需品等について、3日分程度を備蓄し、自らの身の安全は自らで守るよう努める。

イ 市町

市町は、独自では物資の確保が困難となった被災者に対し、食料、飲料水、生活必需品等を給与し、円滑な応急対策を行うために必要な物資、資機材を備蓄するよう努める。

また、家庭・企業に対して、備蓄に関する啓発を行うものとする。

ウ 県

原則として市町への緊急支援を目的として備蓄に努める。

また、家庭・企業に対して、備蓄に関する啓発を行うものとする。

(4) 備蓄の方法

物資の性質に応じ、集中備蓄又は避難所の位置を勘案した分散備蓄を行うものとする。

なお、物資の備蓄倉庫の整備に努めるものとする。

(5) 備蓄場所

備蓄場所は、災害時においても十分に機能が保たれると認められる場所を選定する。

ア 市町

市町庁舎、民間倉庫をはじめ、避難所となる学校、公民館等にも可能な限り備蓄するよう努める。

また、備蓄に当たっては孤立が想定される集落等にも配慮するものとする。

イ 県

防災拠点施設等の県有施設及び民間倉庫等に備蓄する。

なお、医薬品等医療資機材については、災害拠点病院、災害協力病院及び県立病院への備蓄を考慮する。

5 備蓄及び調達体制の確立

(1) 食料

ア 食料の備蓄

大規模災害発生時においては、建物の損壊、交通機関やライフラインの途絶等により食料の確保が困難となることが予想されるため、各家庭・企業、市町及び県は、ガス、電気、水がなくてもすぐに食べられる食料を中心に平常時から備蓄に努めるものとする。

イ 備蓄量等

(ア) 備蓄量

各家庭は、3日分程度の食料の備蓄に努める。

市町は、被害想定調査結果等を基に算出した備蓄対象者数に対し、発災直後の2食分程度の備蓄に努める。

県は、被害想定調査結果等を基に算出した備蓄対象者数に対し、市町対応後の2食分程度の備蓄に努める。

(イ) 備蓄品目

乾パン、アルファ化米、缶詰、粉ミルク等を備蓄し、保存期限ごとに更新するものとする。

また、備蓄品目の選定に当たっては、災害時要援護者や食物アレルギー患者等への対応にも配慮するものとする。

ウ 食料の調達体制の確立

「災害応急救助計画」に基づく応急対策を円滑に実施するため、県及び市町は、生産者及び販売業者と十分協議し、その協力を得るとともに必要に応じて物資の調達に関する契約又は協定の締結に努めるものとする。

(2) 飲料水

ア 飲料水等の備蓄

災害発生時においては、水道施設等が破損し、水道が使用できなくなるおそれがあるため、各家庭・企業、市町は、平常時から飲料水の備蓄に努めるものとする。

また、市町は、迅速な応急給水を行うため、ポリ容器、給水タンク等の資機材の備蓄に努めるものとする。

イ 飲料水の調達体制の確立

「災害応急救助計画」に基づく応急対策を円滑に実施するため、県及び市町は、飲料水等の生産者及び販売業者と十分協議し、その協力を得るとともに、必要に応じて飲料水の調達に関する契約又は協定の締結に努める。

(3) 生活必需品等

ア 生活必需品等の備蓄

災害発生時においては、建物の損壊、交通機関の途絶等により生活必需品等の確保が困難となることが予想されるため、各家庭・企業、市町及び県は、備蓄に努めるものとする。

イ 備蓄量等

(ア) 備蓄量

各家庭は、3日分程度の生活必需品の備蓄に努める。

市町は、被害想定調査結果等を基に算出した備蓄対象者数に対し、発災直後の1日分程度の備蓄に努める。

県は、被害想定調査結果等を基に算出した備蓄対象者数に対し、市町対応後の1日分程度の備蓄に努める。

(イ) 備蓄品目

毛布、哺乳びん、おむつ、生理用品、簡易トイレ、ポリタンク（飲料水等確保用）、ビニールシート（テント代用、雨漏防止）、簡易食器類、日用品セット等

ウ 生活必需品等の調達体制の確立

「災害応急救助計画」に基づく応急対策を円滑に実施するため、県及び市町は、生産者及び販売業者と十分協議し、その協力を得るとともに、必要に応じて物資の調達に関する契約又は協定の締結に努めるものとする。

(4) 医薬品等医療資機材

災害発生時において、「災害応急救助計画」に基づく応急対策を円滑に実施するために、県、市町及び災害拠点病院・協力病院その他の医療関係機関は、平常時から医薬品等医療資機材の備蓄に努めるものとする。

また、関係業者等と十分協議し、その協力を得るとともに、必要に応じて物資の調達に関する契約又は協定の締結に努めるものとする。

ア 備蓄量

被災予測数等を考慮して、備蓄量を算出するものとする。

イ 備蓄品目

災害による負傷の形態を考慮し、最も必要とされる医薬品等医療資機材から順次備蓄に努めるものとする。

なお、具体的には包帯、ガーゼ、三角巾、副木、消毒薬、輸液等の外科的治療に用いる医薬品等のほか、特に災害拠点病院・災害協力病院においては、多数患者の受入れや医療救護班の派遣等に必要となる資機材についても備蓄するものとする。

ウ 医薬品の管理

医薬品等医療資機材の備蓄に当たっては、適正な管理と保存期限ごとの更新を行うものとする。

(5) 防災資機材

県、市町及びその他防災関係機関は、次に掲げる資機材の備蓄に努める。また、関係業者等

と十分協議し、その協力を得るとともに、必要に応じて物資の調達に関する契約又は協定の締結に努めるものとする。

ア 救助・救難用資機材

県、市町及びその他防災関係機関は、エンジンカッター、エアジャッキ及び救命ボート等の救助・救難活動に必要な資機材の備蓄や調達のための連絡体制の確立に努める。

イ 消火用資機材

県、市町及びその他防災関係機関は、消火器、消防ポンプ等の消火用資機材の備蓄又は調達のための連絡体制の確立に努める。

ウ 水防関係資機材

県、市町及びその他防災関係機関は、土のう袋、シート、鉄線、杭、縄及び可動式ポンプ等の水防関係資機材の備蓄又は調達のための連絡体制の確立に努める。

エ 流出油処理用資機材

県、市町及びその他防災関係機関は、吸着マット、オイルフェンス及び油処理剤等の流出油処理用資機材の備蓄又は調達のための連絡体制の確立に努める。

オ 陸上建設機械

県、市町及びその他防災関係機関は、人命救助及び復旧作業等に必要な陸上建設機械の調達のための連絡体制の確立等に努める。

カ 被災建築物応急危険度判定資機材

県及び市町は、被災建築物応急危険度判定に必要な判定調査票・判定ステッカー・下げ振り等の資機材の備蓄又は調達のための連絡体制の確立等に努める。

キ 被災宅地危険度判定資機材

県及び市町は、被災宅地危険度判定に必要な判定調査票・判定ステッカー等の資機材の備蓄又は調達のための連絡体制の確立等に努める。

第6節 災害時要援護者対策に関する計画

1. 方針

近年の災害においては、災害時要援護者が犠牲になるケースが目立つ。

このため、高齢化や国際化の進展を踏まえ、災害時要援護者に配慮した環境整備や社会福祉施設、病院等の安全・避難対策、在宅の災害時要援護者対策、災害時要援護者への啓発などの対策を積極的に推進する。

2 災害時要援護者に配慮した環境整備

(1) 市町は、避難場所、避難所、避難路の指定にあたっては、地域の災害時要援護者の実態に合わせ、安全性や利便性に配慮する。

また、災害時において災害時要援護者が避難しやすいように、避難場所等の案内板の設置や、外国語の付記などの環境づくりに努めるとともに、災害等に対する確な対応が可能となるよう、気象情報や災害情報等を伝達するための施設整備に努めるなど、伝達体制の拡充に努める。

(2) 市町は、新たな都市開発を行う際には、社会福祉施設、病院等の配置について、土砂災害警戒区域や浸水の危険性の高い土地等への設置をできるだけ回避するとともに、避難場所、避難所、避難路との位置関係を考慮する。

3 社会福祉施設、病院等の安全・避難対策

(1) 組織体制の整備

県及び市町は、社会福祉施設、病院等の経営者等に対し、災害発生時において施設利用者等の安全を確保するための組織体制の整備を指導する。

また、自主防災組織や事業所等の防災組織の整備及び指導を通じ、それら防災組織と社会福祉施設、病院等との連携を図り、施設利用者等の安全確保対策に関する協力体制を構築する。

(2) 避難体制の整備

県及び市町は、社会福祉施設や病院等による避難場所の確保や避難場所への搬送の協力依頼機関（消防等）の確保が被災時に困難となる場合に備え、関係機関（他市町、県関係団体等）と連携し、被災施設入所者の避難先の確保等の体制整備を行う。

(3) 施設・設備等の整備

県及び市町は、社会福祉施設、病院等の経営者等に対し、施設の耐震性・安全性の向上に努めるよう指導する。

また、県及び市町は、社会福祉施設等の新規整備について、土砂災害警戒区域や浸水の危険性の高い土地等への設置をできるだけ回避するとともに、やむを得ず設置する場合には、避難体制の確立、建築物等の耐震化、情報通信施設の整備等を指導する。

また、県、市町及び社会福祉施設、病院等の経営者等は、災害発生後の施設入所者の生活維持に必要な物資及び防災資機材の整備に努める。

4 在宅の災害時要援護者対策

(1) 組織体制の整備

県及び市町は、連携して高齢者や障害者等の在宅の災害時要援護者を把握し、自主防災組織や事業所等の防災組織の整備及び指導を通じ、地域全体で災害時要援護者の避難誘導、情報伝達、救助等の体制づくりに努める。

(2) 通報体制の整備

市町は、在宅の災害時要援護者、特に聴覚障害者等情報入手が困難な者の安全を確保するための緊急時の通報体制の整備に努める。

(3) 環境の整備

県及び市町は、高齢者・身体障害者等が被災時に安全に避難できるよう歩道の拡幅、段差の解消、点字案内板の設置など、環境の整備に努めるものとする。

(4) 防火器具等の普及・啓発

市町は、在宅の災害時要援護者の安全性を高めるため、防災器具や防災製品の普及・啓発に努める。

(5) 災害発生時の避難支援プランの策定

市町は、防災担当部局と福祉担当部局との連携の下、災害時要援護者に関する情報を平常時から収集し、管理・共有するとともに、災害発生時にとるべき行動について、あらかじめ地域の実情に応じた災害時要援護者支援プラン（全体・個別計画）を策定し、防災対策の充実に努める。

5 災害時要援護者への啓発・防災訓練

(1) 防災知識等の普及啓発

県及び市町は、災害時要援護者及びその家族に対し、防災パンフレット等の配布により災害に対する基礎的知識、家庭での予防・安全対策等の理解を深めるとともに、地域の防災訓練等への積極的な参加の呼びかけを行うなど、災害発生時にとるべき行動等、防災に対する理解を深めるよう啓発に努める。

また、市町は、地域で生活する外国人に対し、外国語の防災パンフレットの配布、防災標識等への外国語の付記などの対策を推進するよう努める。

(2) 防災訓練

県及び市町は、災害時要援護者（高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦、車椅子利用者等）を想定した、避難誘導、情報伝達などの訓練に努めるものとする。

第7節 災害救助基金に関する計画

1 方針

この計画は、災害救助に要する費用に充てるための災害救助基金の積み立てに関して必要な事項を定めることとする。

2 実施責任者

県

3 実施事項

県は、災害救助法（昭和22年法律第118号）第37条の規定による災害救助基金を積み立てる。

この基金は、大規模な災害により、災害救助法が適用された場合、同法第23条に規定する次の救助を行う費用の支弁の財源に充てることを目的としており、その内容は、現金（預金で運用）と備蓄物資からなる。

- (1) 避難所の設置
- (2) 応急仮設住宅の供与
- (3) 炊き出しその他による食品の給与及び飲料水の供給
- (4) 被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与
- (5) 医療及び助産
- (6) 災害にかかった者の救出
- (7) 災害にかかった住宅の応急修理
- (8) 学用品の給与
- (9) 埋葬
- (10) 遺体の捜索及び処理
- (11) 災害によって住居又はその周辺に運ばれた土石、竹木等で、日常生活に著しい支障を及ぼしているものの除去

4 実施方法

基金の管理運用については、災害救助基金管理及び支出規則（昭和23年広島県規則第21号）に定めるところによる。

第3章 災害応急対策計画

第1節 基本方針

この計画は、災害が発生し、又は発生のおそれがある場合に、災害発生の防御及び拡大防止について迅速かつ実効ある措置を期するため、災害応急対策責任者（指定地方行政機関の長、地方公共団体の長、その他執行機関、指定公共機関、指定地方公共機関、公共的団体及び防災上重要な施設の管理者をいう。以下この章において同じ。）の行うべき業務の大綱及び相互の連絡調整について定めることとし、その内容は次のとおりとする。

- 1 災害発生直前の応急対策に関する事項
- 2 災害発生後の応急対策に関する事項
- 3 ヘリコプターによる災害応急対策に関する事項
- 4 災害派遣・広域的な応援体制に関する事項
- 5 救助・救急、医療及び消火活動に関する事項
- 6 緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送活動に関する事項
- 7 避難収容及び情報提供活動に関する事項
- 8 救援物資の調達・供給活動に関する事項
- 9 保健衛生・防疫、遺体の処理に関する活動に関する事項
- 10 応急復旧、二次災害防止活動に関する事項
- 11 自発的支援の受入れに関する事項
- 12 文教計画に関する事項
- 13 災害救助法適用に関する事項
- 14 航空機事故による災害応急対策に関する事項
- 15 海上における大量流出油等災害応急対策に関する事項
- 16 主な災害の特質及び対策に関する事項

第2節 災害発生直前の応急対策

第1項 組織、動員計画

1 目的

この計画は、災害応急対策に対処するために必要な防災組織の整備、所要要員の配備動員等に関して必要な事項を定め、災害応急対策の推進に万全を期することを目的とする。

2 災害応急組織の基本原則

- (1) 災害応急対策は、原則として災害応急対策責任者において、それぞれの法令に基づく所掌事務又は業務を通じて行う。
- (2) 災害応急対策の実施に関する総合調整は、災害対策本部において行う。
- (3) 県における応急対策の分掌は、広島県行政組織規則（昭和39年規則第18号）及び広島県公営企業組織規程（昭和49年広島県公営企業管理規程第6号）の定めるところにより行い、その総合調整は広島県危機管理監（以下「危機管理監」という。）において行う。

3 災害対策本部

県は、総合的な対策を講じるため、特に知事が必要と認めるときに基本法第23条の規定に基づく広島県災害対策本部を設置する。

(1) 設置の基準

基本法第23条の規定に基づく広島県災害対策本部の、設置に係る基準は次のとおりである。

災害の種類	判断方法	判断基準
風水害	総合的な対策を講ずるため、特に知事が必要と認めるとき	① 県内の市町に、『土砂災害警戒情報』又は『はん濫危険情報』が発表されたとき、若しくは発表されると見込まれるとき ② 本県の全部又は一部が台風の暴風圏内に入ることが確実と予測されるとき ③ 甚大な被害が発生、又は発生するおそれがあるとき ④ 災害応急対策のために、自衛隊の派遣を要請したとき
地震・津波	自動設置	① 県内で震度6弱以上を観測したとき ② 気象庁が「広島県」に「津波警報（大津波）」を発表したとき
	総合的な対策を講ずるため、特に知事が必要と認めるとき	③ 県内で震度5強を観測し、かつ甚大な被害が発生したと予測される時 ④ 県内で震度5弱を観測し、かつ甚大な被害が発生したとき ⑤ 気象庁が「広島県」に「津波警報（津波）」を発表し、かつ甚大な被害が発生したと予測される時
林野火災	総合的な対策を講ずるため、特に知事が必要と認めるとき	林野火災の鎮圧の見込みが立たず、かつ、住民の生命、住家又は公共施設に相当の規模に及ぶ被害が発生し、又は発生するおそれがあるとき
その他	突発的な事故等による災害が発生し、その被害が相当大規模に及ぶおそれがあり、かつ、これに対する総合的な対策を講ずるため、知事が必要と認めるとき	

(2) 組織

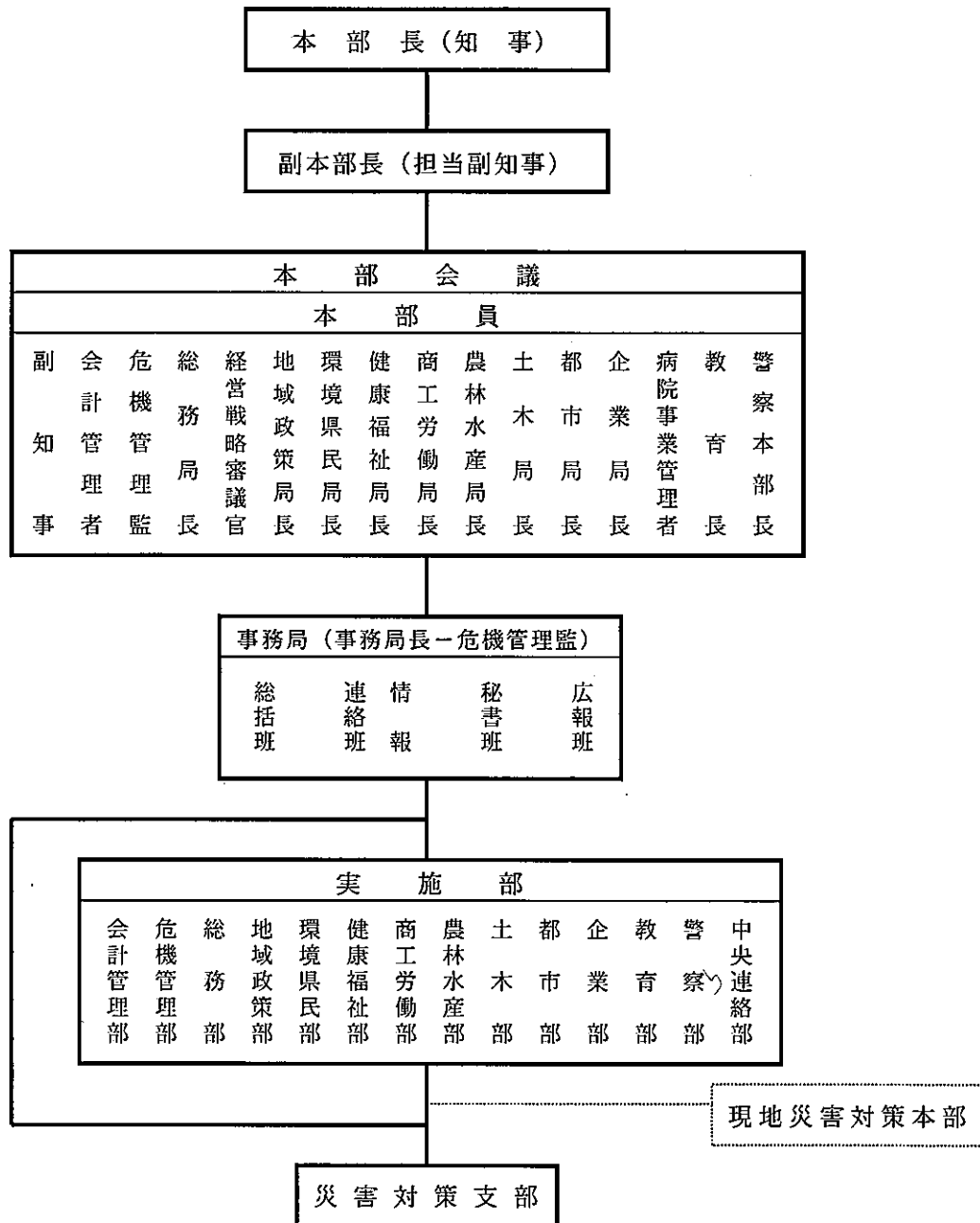
広島県災害対策本部の組織は、次のとおりとする。

ア 災害対策本部長は、基本法第23条の規定により知事をもって充て、副本部長には担当副知事、本部員に副知事、会計管理者、危機管理監、各局長、病院事業管理者、県警察本部長及び教育委員会教育長をもって充てる。

イ 災害対策本部の本部長（知事）に事故があった場合等指揮を執ることが困難な場合は、副本部長（副知事）が指揮を執るものとする。

- ウ 本部に、部、班を設け、部に部長、副部長を、班に班長を置く。
- エ 本部に事務局を置き、その事務は危機管理監で処理する。
事務局に事務局長及び事務局員を置き、事務局長には危機管理監、事務局員には危機管理監職員及び関係課（室）職員をもって充てる。
- オ 本部のもとに災害対策支部を置き、支部長には総務事務所（支所）長をもって充てる。
- カ 災害の規模その他の状況により、特に現地での応急対策を必要と認めるときは、現地災害対策本部（以下「現地本部」という。）を置くことができる。
- キ 現地本部の所管区域、現地本部長、構成員及び事務局の所在地は、その都度本部長が定める。
- ク 災害対策本部は、国が非常災害現地対策本部又は緊急災害現地対策本部を設置した場合には、それと連携を図る。
- ケ 以上による災害対策本部の組織を図示すれば次のとおりである。

広島県災害対策本部



(3) 広島県災害対策本部の任務

広島県災害対策本部は、災害対策の推進に関し、総合的かつ一元的体制を確立するとともに、本計画並びにその他法令の規定に定めるところにより、災害予防及び災害応急対策を実施する。

(4) 設置及び廃止の手続き

- ア 災害対策本部を設置した場合、知事は、本部の名称、設置場所等を告示する。
- イ 設置した場合、知事は、防災会議を構成する各機関の長及び市町長に通知する。
- ウ 本部を廃止した場合も前号と同様の手続きを行う。

(5) 災害対策本部の所掌事務

災害対策本部の部の機構及び事務分掌は、広島県災害対策運営要領に掲載のとおりとする。

(6) 災害予防又は災害応急対策に必要な協力の求め

災害対策本部長は、災害予防又は災害応急対策を的確かつ迅速に実施するため必要があると認めるときは、防災関係機関等に対し、資料又は情報の提供、意見の表明等の必要な協力を求めることができる。

(7) 災害対策本部の設置場所

災害対策本部（危機管理センター）の設置場所は、広島県庁舎北館とし、代替施設は広島県庁舎東館又は広島県防災拠点施設（三原市本郷町）とする。但し、被災の状況によって、その他の施設に設置することもある。

4 配備及び動員

(1) 配備

ア 関係機関の配備体制

災害応急対策責任者は、応急対策を推進するため、それぞれの配備体制を整えておく。

イ 県における配備体制

(ア) 夜間及び休日の時間外における情報の収集・連絡体制を県危機管理課に整備し、災害・危機事案の発生に際して、迅速に対処する。

(イ) 災害の発生又は発生のおそれがある場合において、応急対策を推進するため、次の体制によって対処する。

種 別	体制の概要及び業務内容	措 置
注意体制	状況により、速やかに高度の配備体制に移行できる体制。主として情報収集及び連絡活動	広島県災害対策運営要領に基づき措置する。
警戒体制	事態の推移に伴い直ちに非常体制に移行できる体制。主として情報収集、連絡活動、災害予防及び災害応急対策	
非常体制	災害対策本部・支部を設置した体制。全庁的に、情報収集、連絡活動、災害予防及び災害応急対策を実施	

(2) 動 員

ア 関係機関の災害対策要員の動員

(ア) 災害応急対策責任者は、それぞれの応急対策を推進するため、災害時における動員体制を確立しておく。

(イ) 応急対策に要する人員は、その機関において確保するものとする。ただし、災害の規模により他の機関の応援、協力を必要とする場合は、災害対策本部で調整する。

イ 県における災害対策要員の動員

(ア) 県における災害対策要員の動員は、広島県災害対策運営要領に基づき、それぞれの配備体制により動員する。動員の迅速化を図るため、職員緊急呼出しシステム、携帯電話等を適宜活用する。

(イ) 大規模な災害が発生し、県各局等で要員が不足する場合は、県人事課（災害対策本部を設置している場合は動員班）で動員及び調整を行う。

第1項の2 労働力確保計画

1 目的

この計画は、応急対策の実施に当たり、本計画第3章第2節「組織、動員計画」に定めるもののほか、応急対策実施上必要な労働力の確保について必要な事項を定めることを目的とする。

2 実施責任者

災害応急対策上必要とされる労働力の確保は原則として、それぞれの災害応急対策責任者が行う。

3 実施方法

- (1) 災害応急対策はそれぞれ自己の保有する労働力で実施する。
- (2) 災害応急対策責任者の保有する能力で不足する場合、基本法第62条第2項の規定による協力要員の確保に努める。
- (3) 関係市町長、知事及びその他の災害応急対策責任者が必要とする労働力の確保について、相互に緊密な連絡を保ち協力する。
- (4) 以上の措置をもってしてもなお不足する場合は、その責任者の要請により知事が必要なあつせんその他の措置をとる。

第2項 気象警報等の伝達に関する計画

1 目的

この計画は、気象等の予報及び警報等災害に関する情報を災害応急対策責任者及び住民に対し、迅速かつ確実に伝達し、災害応急対策の実施に万全を期することを目的とする。

2 気象等予報及び警報並びに土砂災害警戒情報の伝達

(1) 発表官署

発表官署	発表する場合	法令名
広島地方気象台	異常気象により災害が起こるおそれがある場合。	気象業務法 第13条 水防法 第10条第1項
中国地方整備局 太田川河川事務所 広島地方気象台 (共同)	太田川下流 左岸 広島市安佐北区亀山一丁目から海まで 右岸 広島市安佐南区八木町字馬淵から海まで 太田川上流 左岸 広島県山県郡安芸太田町大字遊谷字野為1138番の2地先から広島市安佐北区亀山一丁目まで 右岸 広島県山県郡安芸太田町大字戸内乙井出889番の2地先から広島市安佐南区八木町字馬淵まで 三篠川 左岸 広島市安佐北区狩留家町字黒王1028番地先から幹川合流点まで 右岸 広島市安佐北区狩留家町字六宗1018番地先から幹川合流点まで 根谷川 左岸 広島市安佐北区可部町大字下町屋字土居426番の2地先から幹川合流点まで 右岸 広島市安佐北区可部八丁目2270番地先から幹川合流点まで について洪水のおそれがある場合。	水防法 第10条第2項 気象業務法 第14条の2第2項
中国地方整備局 太田川河川事務所 広島地方気象台 下関地方気象台 (共同)	小瀬川 左岸 広島県大竹市小方町小方字安条山650番の1地先から海まで 右岸 山口県岩国市大字小瀬字深瀬3354番地先から海まで について洪水のおそれがある場合。	水防法 第10条第2項 気象業務法 第14条の2第2項
中国地方整備局 三次河川国道事務所 広島地方気象台 (共同)	江の川 左岸 広島県安芸高田市八千代町土師字久保750番地先から広島、島根県境まで 右岸 広島県安芸高田市八千代町勝田字上谷232番地先から広島、島根県境まで について洪水のおそれがある場合。	水防法 第10条第2項 気象業務法 第14条の2第2項
中国地方整備局 三次河川国道事務所 広島地方気象台 (共同)	馬洗川 左岸 広島県三次市南加敷町字下掛原743番地先から幹川合流点まで 右岸 広島県三次市四十貫町字樋の尻273番地先から幹川合流点まで 西城川 左岸 広島県三次市三次町字楡原641番地先から馬洗川合流点まで 右岸 広島県三次市三次町五日市1115番地先から馬洗川合流点まで 神野瀬川 左岸 広島県三次市山家町621番の3地先から幹川合流点まで 右岸 広島県三次市布野町下布野字戸戸878番の2地先から幹川合流点まで について洪水のおそれがある場合。	水防法 第10条第2項 気象業務法 第14条の2第2項

発表官署	発表する場合	法令名
<p>中国地方整備局 福山河川国道事務所</p> <p>広島地方気象台 (共同)</p>	<p>芦田川</p> <p>左岸 広島県府中市久佐町字ツカ丸286番の50地先から海まで</p> <p>右岸 広島県府中市諸毛町字永野山3271番の2地先から海まで</p> <p>高屋川</p> <p>左岸 広島県福山市神辺町字平野小字古市173番の2地先から幹川合流点まで</p> <p>右岸 広島県福山市神辺町大字川北字古市1808番の1地先から幹川合流点まで</p> <p>について洪水のおそれがある場合。</p>	<p>水防法 第10条第2項 気象業務法 第14条の2第2項</p>
<p>広島県 西部建設事務所呉支所</p> <p>広島地方気象台 (共同)</p>	<p>黒瀬川 (左岸・右岸 広島県呉市郷原町二級ダムから海まで)</p> <p>について洪水のおそれがある場合。</p>	<p>水防法 第11条第1項 気象業務法 第14条の2第3項</p>
<p>広島県 東部建設事務所三原支所</p> <p>広島地方気象台 (共同)</p>	<p>沼田川</p> <p>左岸 広島県三原市本郷町船木字兼広1359-9地先から海まで</p> <p>右岸 広島県三原市本郷町船木字藤附1211-2地先から海まで</p> <p>について洪水のおそれがある場合。</p>	<p>水防法 第11条第1項 気象業務法 第14条の2第3項</p>
<p>広島県 土木局砂防課</p> <p>広島地方気象台 (共同)</p>	<p>大雨警報発表中において、大雨による群発的な土砂災害発生の危険度が高まった場合。</p>	<p>災害対策基本法 第55条 気象業務法 第11条</p>
<p>気象庁本庁</p>	<p>津波のおそれがある場合。</p> <p>地震動により重大な災害が起こるおそれのある場合は、強い揺れが予想される地域に対し緊急地震速報(警報)を発表する。また、これを報道機関等の協力を求めて住民等へ周知する。 (注) 緊急地震速報(警報)は、地震発生直後に震源に近い観測点で観測された地震波を解析することにより、地震の強い揺れが来る前に、これから強い揺れが来ることを知らせる警報である。ただし、震源付近では強い揺れの到達に間に合わない。</p>	<p>気象業務法 第13条</p>

(2) 種類及び発表の基準

ア 広島地方気象台が発表する注意報及び警報

(ア) 注意報

気象現象等により県域(一次細分区域:「南部」「北部」,市町)に災害が予想される場合、住民及び関係機関の注意を喚起するために発表する。

種 類		発 表 基 準																		
一 般 の 利 用 に 適 合 す る も の	風 雪 注 意 報	風雪により、災害が起こるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。 雪を伴い平均風速が陸上で12m/s以上、海上で15m/s以上になると予想されるとき。																		
	強 風 注 意 報	強風により、災害が起こるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。 平均風速が陸上で12m/s以上、海上で15m/s以上になると予想されるとき。																		
	大 雨 注 意 報	大雨により、災害が起こるおそれがある場合。具体的には市町で別表1の基準になると予想されるとき。																		
	大 雪 注 意 報	大雪により、災害が起こるおそれがある場合。具体的には24時間の降雪の深さが次のいずれか以上になると予想されるとき。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>一次細分区域</th> <th colspan="3">南 部</th> <th colspan="2">北 部</th> </tr> <tr> <th>市 町 村 等 を まとめた地域</th> <th>広島・呉</th> <th>福山・尾三</th> <th>東広島 ・竹原</th> <th>備北</th> <th>芸北</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24時間 降雪の深さ</td> <td colspan="3">平地 10cm 山地 25cm</td> <td>平地 20cm 山地 35cm</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	一次細分区域	南 部			北 部		市 町 村 等 を まとめた地域	広島・呉	福山・尾三	東広島 ・竹原	備北	芸北	24時間 降雪の深さ	平地 10cm 山地 25cm			平地 20cm 山地 35cm	
	一次細分区域	南 部			北 部															
	市 町 村 等 を まとめた地域	広島・呉	福山・尾三	東広島 ・竹原	備北	芸北														
	24時間 降雪の深さ	平地 10cm 山地 25cm			平地 20cm 山地 35cm															
	濃 霧 注 意 報	濃霧により、交通機関等に著しい支障が生じるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。 視程が陸上で100m以下又は海上で500m以下になると予想されるとき。																		
	雷 注 意 報	落雷等により、被害が予想される場合。																		
	乾 燥 注 意 報	空気が乾燥し、火災の危険がある場合。具体的には次の条件に該当するとき。 最小湿度が35%以下で、実効湿度が65%以下になると予想されるとき。																		
な だ れ 注 意 報	なだれが発生して被害があると予想される場合。具体的には次の条件に該当するとき。 降雪の深さが40cm以上になると予想されるとき、又は積雪の深さが50cm以上あって最高気温が10℃※以上になると予想されるとき。																			
着 雪 注 意 報	着氷(雪)により、通信線や送電線等に被害が予想される場合。具体的には次の条件に該当するとき。 24時間の降雪の深さが、平地で10cm以上になるか、山地で30cm以上になり、気温0～3℃が予想されるとき。																			
霜 注 意 報	晩霜により、農作物に著しい被害が予想される場合。具体的には最低気温が次の条件に該当するとき。 ※ 4月以降最低気温が4℃以下と予想されるとき。																			
低 温 注 意 報	低温のため農作物等に著しい被害が予想される場合。具体的には次の条件に該当するとき。 ※ 冬期：最低気温が-4℃以下と予想されるとき。 夏期：最高気温又は最低気温が平年より6℃以上低いと予想されるとき。																			
波 浪 注 意 報	波浪・うねり等により、災害が起こるおそれがあると予想される場合。具体的には次の条件に該当するとき。 有義波高(注4)が1.5m以上になると予想されるとき。																			
洪 水 注 意 報	洪水注 意 報 津波、高潮以外による洪水によって、災害が起こるおそれがあると予想される場合。具体的には市町で別表2の基準以上になると予想されるとき。																			
高 潮 注 意 報	高 潮 注 意 報 台風等による海面の異常な上昇について、一般の注意を喚起する必要がある場合。具体的には、市町で別表5の基準以上になると予想されるとき。																			
地面現象 注 意 報	地面現象 注 意 報※ ¹ 大雨・大雪等による山崩れ、地すべり等により、災害が起こるおそれがあると予想される場合。																			
浸 水 注 意 報	浸 水 注 意 報※ ¹ 大雨・長雨・融雪等の現象に伴う浸水により、災害が起こるおそれがあると予想される場合。																			

種 類		発 表 基 準
水防活動の 利用に 適合するもの※	水防活動用 気象注意報	大雨注意報 雨報
	水防活動用 高潮注意報	高潮注意報 潮報
	水防活動用 はん濫注意情報 (洪水注意報)	はん濫注意情報 (洪水注意報)

(イ) 警報

気象現象等により県域（一次細分区域：「南部」「北部」，市町）に重大な災害が予想される場合，住民及び関係機関の警戒を促すために発表する。

種 類		発 表 基 準																			
一般の 利用に 適合するもの	気 象 報	暴 風 報	暴風により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。平均風速が陸上で20m/s以上，海上で25m/s以上になると予想されるとき。																		
		暴 風 雪 報	暴風雪により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。雪を伴い，平均風速が陸上で20m/s以上，海上で25 m/s以上になると予想されるとき。																		
		大 雨 報	大雨により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には市町で別表3のいずれか以上になると予想されるとき。																		
		大 雪 報	大雪により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には24時間の降雪の深さが次のいずれか以上になると予想されるとき。																		
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>一次細分区域</th> <th colspan="3">南 部</th> <th colspan="2">北 部</th> </tr> <tr> <th>市町村等を まとめた地域</th> <th>広島・呉</th> <th>福山・尾三</th> <th>東広島 ・竹原</th> <th>備北</th> <th>芸北</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24時間 降雪の深さ</td> <td>平地 30cm 山地 60cm</td> <td>平地 30cm 山地 50cm</td> <td>平地 30cm 山地 50cm</td> <td>平地 30cm 山地 60cm</td> <td>平地 30cm 山地 60cm</td> </tr> </tbody> </table>	一次細分区域	南 部			北 部		市町村等を まとめた地域	広島・呉	福山・尾三	東広島 ・竹原	備北	芸北	24時間 降雪の深さ	平地 30cm 山地 60cm	平地 30cm 山地 50cm	平地 30cm 山地 50cm	平地 30cm 山地 60cm	平地 30cm 山地 60cm
	一次細分区域	南 部			北 部																
	市町村等を まとめた地域	広島・呉	福山・尾三	東広島 ・竹原	備北	芸北															
	24時間 降雪の深さ	平地 30cm 山地 60cm	平地 30cm 山地 50cm	平地 30cm 山地 50cm	平地 30cm 山地 60cm	平地 30cm 山地 60cm															
	波 浪 報	波浪警報	風浪・うねり等により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には次の条件に該当するとき。 有義波高（注4）が2.5m以上になると予想されるとき。																		
	洪 水 報	洪水警報	津波，高潮以外による洪水により，重大な災害が起こるおそれがある場合。具体的には市町で別表4のいずれか以上になると予想されるとき。																		
高 潮 報	高潮警報	台風等による海面の異常な上昇について，一般の注意を喚起する必要がある場合。具体的には，市町で別表5の基準以上になると予想されるとき。																			
地面現象 警 報	地面現象警報 ※ ¹	大雨・大雪等による山崩れ・地すべり等により，重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合。																			
浸水警報	浸水警報 ※ ¹	大雨・長雨・融雪等の現象に伴う浸水により，重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合。																			

種 類		発 表 基 準	
水防活動の 利用 ※ ²	水防活動用 気象警報	大雨警報	一般の利用に適合する大雨警報と同じ。
	水防活動用 高潮警報	高潮警報	一般の利用に適合する高潮警報と同じ。
	水防活動用 はん濫警戒情報 (洪水警報)	はん濫警戒情報 (洪水警報)	一般の利用に適合するはん濫警戒情報(洪水警報)と同じ。

(注) 1 ※¹印は、標題を出さないで気象注意報・警報に含めて行う。

※²印は、一般の利用に適合する大雨、高潮、洪水の各注意報・警報に代えて行い、水防活動用の語は用いない。

※印は要素が気象官署のものであることを示す。

- 注意報、警報はその種類にかかわらず解除されるまで継続される。また新たな注意報、警報が発表されるときは、これまで継続中の注意報、警報は自動的に解除され新たな注意報、警報に切り替えられる。
- 注意報及び警報は、当該気象等の現象の発生予想地域を技術的に特定することができる場合には、地域を指定して発表する。
- 有義波高とは、測器による一連の観測で得られた個々の波を、波高の大きい順に並び替え、高い方から数えて全体の1/3の数の波について平均値をとったものである。
目視観測による波高は有義波高とほぼ等しいといわれている。

(ウ) 地震など大規模災害発生後に暫定的に運用する注意報、警報の基準

平成13年(2001年)芸予地震に匹敵する大規模災害が発生した場合には、地盤や建物等の弱体化を考慮し、広島地方気象台は広島県等と必要性を調整のうえ、被災地域に対する注意報、警報について、発表基準を下げた暫定基準により運用する。

暫定基準は、事象発生後に確認あるいは想定される被災状況等に応じて、広島地方気象台が広島県等と調整のうえ、注意報、警報の種類ごと及び市町ごとに検討し、通常の実表基準に一定の割合をかけるなどにより決定する。

ただし、事象発生後概ね24時間以内に降雨が予想されるなど早急に暫定基準を設定すべき状況にあると広島地方気象台が判断した場合には、事前に準備した暫定基準で大雨警報・注意報及び洪水警報・注意報を運用する。

事象発生から1日程度経過した以降については、広島地方気象台は広島県等と連携して、状況に適合した暫定基準による警報・注意報の運用開始などを調整する。

暫定基準による運用実施後は、広島地方気象台は広島県等と調整のうえ、定期的(概ね1ヶ月ごと)に、被災地域の復旧状況及び気象災害発生状況等を考慮のうえ、暫定基準の適否及び運用継続等を見直す。

大規模地震発生後早急に暫定基準を設定すべき状況時に運用される暫定基準

【暫定基準：震度6弱以上の地域】

広島地方気象台から基準設定後、通知

【暫定基準：震度5強の地域】

広島地方気象台から基準設定後、通知

別紙

大雨、洪水及び高潮警報・注意報基準表（別表1～5）の解説

- (1) 大雨及び洪水警報・注意報の雨量基準、土壌雨量指数基準、流域雨量指数基準、複合基準のうち基準が設定されていないもの、および、高潮警報・注意報で現象が発現せず基準を設定していない市町村等についてはその欄を“－”で示している。
- (2) 大雨及び洪水の欄中においては、「平坦地、平坦地以外」等の地域名で基準値を記述する場合がある。「平坦地、平坦地以外」等の地域は別添地図（別図1）（http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/index_h.html）を参照。
- (3) 大雨及び洪水の欄中、R1、R3 はそれぞれ1、3時間雨量を示す。例えば、「R1=70」であれば、「1時間雨量70mm以上」を意味する。
- (4) 大雨警報については、雨量基準に到達することが予想される場合は「大雨警報（浸水害）」、土壌雨量指数基準に到達すると予想される場合は「大雨警報（土砂災害）」、両基準に到達すると予想される場合は「大雨警報（土砂災害、浸水害）」として発表する。
- (5) 土壌雨量指数基準値は1km四方毎に設定しているが、別表1及び3の土壌雨量指数基準には、市町村等の域内における基準値の最低値を示している。1km四方毎の基準値については、別添資料（http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/index_shisu.html）を参照のこと。
- (6) 洪水の欄中、「〇〇川流域=30」は、「〇〇川流域の流域雨量指数30以上」を意味する。
- (7) 高潮警報・注意報の基準の潮位は一般に高さを示す「標高」で表す。「標高」の基準面として東京湾平均海面（TP）を用いるが、島嶼部など一部では国土地理院による高さの基準面あるいはMSL（平均潮位）等を用いる。

＜参考資料＞

土壌雨量指数：土壌雨量指数は、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数。詳細は土壌雨量指数の説明

（<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/dojoshisu.html>）を参照。

流域雨量指数：流域雨量指数は、降雨による洪水災害発生の危険性を示す指標で、対象となる地域・時刻に存在する流域の雨水の量を示す指数。詳細は流域雨量指数の説明

（<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ryuikishisu.html>）を参照

別表1

大雨注意報

市町村等をまとめた地域	市町	雨量基準	土壌雨量指数基準
広島・呉	広島市	平坦地：R3=40 平坦地以外：R1=40	82
	呉市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40 あるいは R3=80	94
	大竹市	R3=70	90
	廿日市市	平坦地：R3=70 平坦地以外：R1=40	87
	江田島市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R3=60	94
	府中町	R1=30	98
	海田町	R3=40	98
	熊野町	平坦地：R3=80 平坦地以外：R1=30	98
	坂町	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40	95
福山・尾三	三原市	平坦地：R1=20 平坦地以外：R3=60	96
	尾道市	R1=30	93
	福山市	平坦地：R3=40 平坦地以外：R1=30 あるいは R3=50	92
	府中市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40	98
	世羅町	R1=40	100
	神石高原町	R1=30	99
東広島・竹原	竹原市	R1=40	97
	東広島市	平坦地：R3=60 平坦地以外：R1=40	97
	大崎上島町	R1=30	97
備北	三次市	R1=40	109
	庄原市	R1=40	91
芸北	安芸高田市	R1=40	109
	安芸太田町	R1=50	110
	北広島町	R1=40	109

別表2

洪水注意報

市町村等をまとめた地域	市町	雨量基準	流域雨量指数基準	複合基準
広島・呉	広島市	平坦地：R3=40 平坦地以外：R1=40	瀬野川流域=10, 吉山川流域=14, 水内川流域=23, 八幡川流域=22	—
	呉市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40 あるいはR3=80	二河川流域=7	—
	大竹市	R3=70	玖島川流域=22	—
	廿日市市	平坦地：R3=70 平坦地以外：R1=40	吉和川流域=17, 小瀬川流域=22	平坦地：R3=40 かつ 吉和川流域=11
	江田島市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R3=60	—	平坦地：R1=20 かつ 平坦地：R3=40
	府中町	R1=30	—	—
	海田町	R3=40	瀬野川流域=13	—
	熊野町	平坦地：R3=80 平坦地以外：R1=30	二河川流域=14	—
	坂町	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40	—	—
福山・尾三	三原市	平坦地：R1=20 平坦地以外：R3=60	御調川流域=7, 棕梨川流域=10	—
	尾道市	R1=30	御調川流域=12, 本郷川流域=6	—
	福山市	平坦地：R3=40 平坦地以外：R1=30 あるいはR3=50	藤井川流域=7, 本郷川流域=5, 服部川流域=7, 高屋川流域=8	—
	府中市	平坦地：R1=30 平坦地以外：R1=40	上下川流域=10, 矢多田川流域=10	平坦地：R3=50 かつ 上下川流域=7
	世羅町	R1=40	美波羅川流域=8, 芦田川流域=12	—
	神石高原町	R1=30	小田川流域=8, 帝釈川流域=12, 福柗川流域=10	—
東広島・竹原	竹原市	R1=40	賀茂川流域=5	—
	東広島市	平坦地：R3=60 平坦地以外：R1=40	沼田川流域=14, 棕梨川流域=8, 黒瀬川流域=11	—
	大崎上島町	R1=30	—	—
備北	三次市	R1=40	上下川流域=10, 美波羅川流域 =12, 戸張川流域=7	—
	庄原市	R1=40	比和川流域=14, 東城川流域=17, 本村川流域=6	—
芸北	安芸高田市	R1=40	生田川流域=15, 本村川流域=8	—
	安芸太田町	R1=50	滝山川流域=25, 柴木川流域=18, 西宗川流域=16, 大佐川流域=10, 筒賀川流域=10, 太田川流域=36	—
	北広島町	R1=40	滝山川流域=19, 柴木川流域=7	R3=50 かつ滝山川流 域=14

別表3

大雨警報

市町村等を まとめた地域	市町	雨量基準	土壌雨量指数基準
広島・呉	広島市	平坦地：R3=70 平坦地以外：R1=60	108
	呉市	平坦地：R1=50 平坦地以外：R1=60 あるいは R3=120	124
	大竹市	平坦地：R3=100 平坦地以外：R3=110	119
	廿日市市	平坦地：R3=110 平坦地以外：R1=60	115
	江田島市	平坦地：R1=50 平坦地以外：R3=100	124
	府中町	R1=50	129
	海田町	R3=60	129
	熊野町	平坦地：R3=120 平坦地以外：R1=50	129
	坂町	平坦地：R1=50 平坦地以外：R1=60	126
福山・尾三	三原市	平坦地：R1=40 平坦地以外：R3=90	114
	尾道市	R1=45	110
	福山市	平坦地：R3=60 平坦地以外：R1=60 あるいは R3=90	109
	府中市	平坦地：R1=45 平坦地以外：R1=60	116
	世羅町	R1=60	118
	神石高原町	R1=50	117
東広島・竹原	竹原市	R1=60	136
	東広島市	平坦地：R3=90 平坦地以外：R1=70	136
	大崎上島町	R1=50	136
備北	三次市	R1=70	140
	庄原市	R1=70	117
芸北	安芸高田市	R1=70	140
	安芸太田町	R1=80	142
	北広島町	R1=70	140

別表4

洪水警報

市町村等を まとめた地域	市町	雨量基準	流域雨量指数基準	複合基準
広島・呉	広島市	平地：R3=70 平地以外：R1=60	瀬野川流域=13, 吉山川流域=18, 水内川流域=29, 八幡川流域=28	—
	呉市	平地：R1=50 平地以外：R1=60 あるいはR3=120	二河川流域=9	—
	大竹市	平地：R3=100 平地以外：R3=110	玖島川流域=27	—
	廿日市市	平地：R3=110 平地以外：R1=60	吉和川流域=21, 小瀬川流域=27	平地：R3=50 かつ 吉和川流域=11
	江田島市	平地：R1=50 平地以外：R3=100	—	平地：R1=30 かつ 平地：R3=60
	府中町	R1=50	—	—
	海田町	R3=60	瀬野川流域=25	R3=40 かつ 瀬野川流域=15
	熊野町	平地：R3=120 平地以外：R1=50	二河川流域=18	—
	坂町	平地：R1=50 平地以外：R1=60	—	—
福山・尾三	三原市	平地：R1=40 平地以外：R3=90	御調川流域=9, 椋梨川流域=17	平地：R1=35 かつ 御調川流域=8
	尾道市	R1=45	御調川流域=15, 本郷川流域=8	—
	福山市	平地：R3=60 平地以外：R1=60 あるいはR3=90	藤井川流域=9, 本郷川流域=6, 服部川流域=9, 高屋川流域=10	—
	府中市	平地：R1=45 平地以外：R1=60	上下川流域=12, 矢多田川流域=12	平地：R3=80 かつ 上下川流域=7
	世羅町	R1=60	美波羅川流域=10, 芦田川流域=18	—
	神石高原町	R1=50	小田川流域=14, 帝釈川流域=15, 福栴川流域=13	—
東広島・竹原	竹原市	R1=60	賀茂川流域=6	—
	東広島市	平地：R3=90 平地以外：R1=70	沼田川流域=17, 椋梨川流域=10, 黒瀬川流域=15	—
	大崎上島町	R1=50	—	—
備北	三次市	R1=70	上下川流域=18, 美波羅川流域=15, 戸張川流域=9	—
	庄原市	R1=70	比和川流域=18, 東城川流域=21, 本村川流域=9	—
芸北	安芸高田市	R1=70	生田川流域=19, 本村川流域=12	—
	安芸太田町	R1=80	滝山川流域=31, 柴木川流域=22, 西宗川流域=20, 大佐川流域=13, 筒賀川流域=13, 太田川流域=45	—
	北広島町	R1=70	滝山川流域=24, 柴木川流域=16	R3=60 かつ 滝山川流域=14

別表5

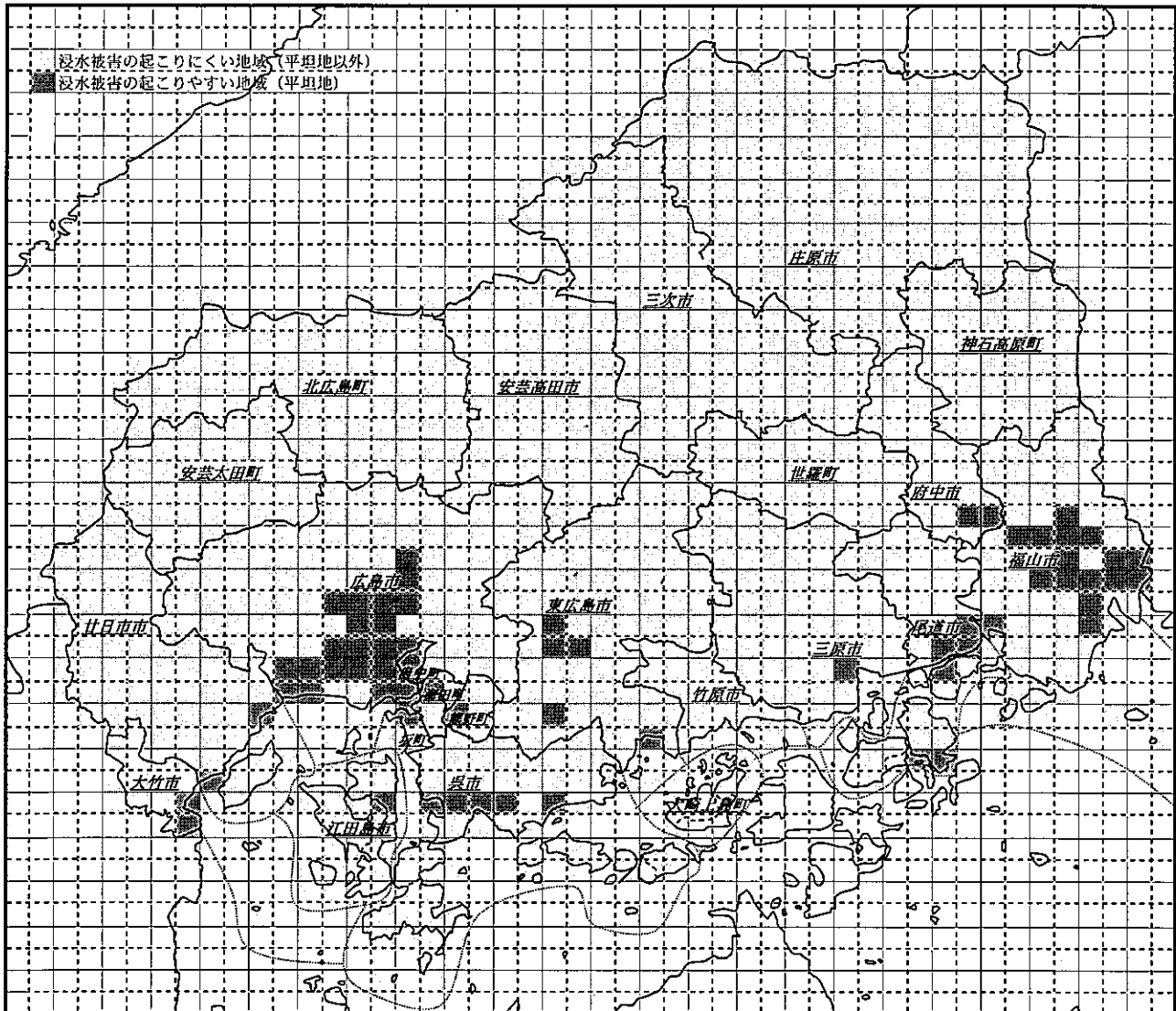
高潮注意報・警報

市町村等を まとめた地域	市町	潮位	
		警報	注意報
広島・呉	広島市	2.5m	2.1m
	呉市	2.6m	2.2m
	大竹市	2.6m	2.1m
	廿日市市	2.6m	2.1m
	江田島市	2.6m	2.1m
	府中町	—	—
	海田町	2.5m	2.1m
	熊野町	—	—
福山・尾三	坂町	2.6m	2.1m
	三原市	2.5m	2.1m
	尾道市	2.5m	2.1m
	福山市	2.6m	2.2m
	府中市	—	—
	世羅町	—	—
東広島・竹原	神石高原町	—	—
	竹原市	2.7m	2.2m
	東広島市	2.7m	2.2m
備北	大崎上島町	2.5m	2.0m
	三次市	—	—
芸北	庄原市	—	—
	安芸高田市	—	—
	安芸太田町	—	—
	北広島町	—	—

別 図 1

「平坦地」と「平坦地以外」の区分

- ・平坦地とは、概ね平均傾斜率が 30 パーミル（パーミル：千分の一）以下で都市化率が 25 パーセント以上の地域で、平坦地以外とはそれ以外の地域。
- ・平均傾斜率は、該当格子に雨水がたまりやすいかどうかの指標で、都市化率は、地表面がアスファルト等に被覆されていて、雨水が地下に浸透しにくいかを表す指標



イ 気象庁が発表する津波警報等の種類及び内容

(ア) 種類

- a 津波警報：担当する津波予報区において津波による重大な災害のおそれがあると予想されるとき発表する。
- b 津波注意報：担当する津波予報区において津波による災害のおそれがあると予想されるとき発表する。
- c 津波予報：津波による災害のおそれがないと予想されるとき発表する。

(イ) 発表基準・解説・発表される津波の高さ等

a 津波警報・注意報

種 類		発表基準	解説	発表される津波の高さ
津波警報	大津波	予想される津波の高さが高いところで3メートル以上である場合	高いところで3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。	3m, 4m, 6m, 8m, 10m以上
	津波	予想される津波の高さが高いところで1メートル以上3メートル未満である場合	高いところで2m程度の津波が予想されますので、警戒してください。	1m, 2m
津波注意報		予想される津波の高さが高いところで0.2メートル以上1メートル未満である場合であって、津波による災害のおそれがある場合	高いところで0.5m程度の津波が予想されますので、注意してください。	0.5m

- 注) 1 津波による災害のおそれなくなると認められる場合、津波警報又は津波注意報の解除を行う。このうち津波注意報は、津波の観測状況等により、津波がさらに高くなる可能性は小さいと判断した場合には、津波の高さが発表基準より小さくなる前に、海面変動が継続することや留意事項を付して解除を行う場合がある。
- 2 「津波の高さ」とは、津波によって潮位が高くなった時点におけるその潮位と、その時点で津波がなかったとした場合の潮位との差であって、津波によって潮位が上昇した高さをいう。

b 津波予報

区 分	発表基準	内容
津波予報	津波が予想されないとき。(地震情報に含めて発表)	津波の心配なしの旨を発表
	0.2メートル未満の海面変動が予想されたとき。(津波に関するその他の情報に含めて発表)	高いところでも0.2メートル未満の海面変動のため被害の心配はなく、特段の防災対応の必要がない旨を発表
	津波注意報解除後も海面変動が継続するとき。(津波に関するその他の情報に含めて発表)	津波に伴う海面変動が観測されており、今後も継続する可能性が高いため、海に入ってから作業や釣り、海水浴などに際しては十分な留意が必要である旨を発表

ウ 国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所と広島地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種 類	発 表 基 準
洪水予報 太田川水系	太田川下流はん濫注意情報（洪水注意報） 太田川上流はん濫注意情報（洪水注意報） 三篠川はん濫注意情報（洪水注意報） 根谷川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	太田川下流はん濫警戒情報（洪水警報） 太田川上流はん濫警戒情報（洪水警報） 三篠川はん濫警戒情報（洪水警報） 根谷川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	太田川下流はん濫危険情報（洪水警報） 太田川上流はん濫危険情報（洪水警報） 三篠川はん濫危険情報（洪水警報） 根谷川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	太田川下流はん濫発生情報（洪水警報） 太田川上流はん濫発生情報（洪水警報） 三篠川はん濫発生情報（洪水警報） 根谷川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

エ 国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所、広島地方気象台及び下関地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種 類	発 表 基 準
洪水予報 小瀬川水系	小瀬川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	小瀬川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	小瀬川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	小瀬川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

オ 国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所と広島地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種 類	発 表 基 準
洪水予報 江の川水系	江の川上流はん濫注意情報（洪水注意報） 西城川はん濫注意情報（洪水注意報） 馬洗川はん濫注意情報（洪水注意報） 神野瀬川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	江の川上流はん濫警戒情報（洪水警報） 西城川はん濫警戒情報（洪水警報） 馬洗川はん濫警戒情報（洪水警報） 神野瀬川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	江の川上流はん濫危険情報（洪水警報） 西城川はん濫危険情報（洪水警報） 馬洗川はん濫危険情報（洪水警報） 神野瀬川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	江の川上流はん濫発生情報（洪水警報） 西城川はん濫発生情報（洪水警報） 馬洗川はん濫発生情報（洪水警報） 神野瀬川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

カ 国土交通省中国地方整備局福山河川国道事務所と広島地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種類	発表基準
洪水予報 芦田川水系	芦田川はん濫注意情報（洪水注意報） 高屋川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	芦田川はん濫警戒情報（洪水警報） 高屋川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	芦田川はん濫危険情報（洪水警報） 高屋川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	芦田川はん濫発生情報（洪水警報） 高屋川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

キ 広島県西部建設事務所呉支所と広島地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種類	発表基準
洪水予報 黒瀬川水系	黒瀬川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	黒瀬川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水予報基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	黒瀬川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	黒瀬川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

ク 広島県東部建設事務所三原支所と広島地方気象台が共同で発表する注意報及び警報

区分	種類	発表基準
洪水予報 沼田川水系	沼田川はん濫注意情報（洪水注意報）	洪水予報基準地点の水位がはん濫注意水位（警戒水位）に達し、更に水位の上昇が見込まれるとき。
	沼田川はん濫警戒情報（洪水警報）	洪水予報基準地点の水位が一定時間後にはん濫危険水位に到達することが見込まれるとき、あるいは避難判断水位に達し更に水位の上昇が見込まれるとき。
	沼田川はん濫危険情報（洪水警報）	基準地点の水位がはん濫危険水位に達したとき。
	沼田川はん濫発生情報（洪水警報）	洪水予報区間内ではん濫が発生したとき。

ケ 広島県土木局砂防課と広島地方気象台が共同で発表する土砂災害警戒情報

区分	発表・解除基準
土砂災害警戒情報	<p>発表基準</p> <p>大雨警報発表中において、実況雨量及び気象庁が作成する降雨予測に基づいて算出した降雨指標が監視基準に達した（群発的な土砂災害発生の危険度が高まった）とき、市町ごとに発表。</p>
	<p>解除基準</p> <p>降雨指標が監視基準を下回り、かつ短時間で再び監視基準を超過しないと予想されるとき、市町ごとに解除。ただし、無降雨状態が長時間継続しているにもかかわらず監視基準を下回らない場合は、土壌雨量指数等を鑑み、広島県土木局と広島地方気象台が協議のうえで警戒を解除できる。</p>
	<p>広島県土木局砂防課及び広島地方気象台は、地震など大規模災害発生後、必要に応じて「地震等発生後の暫定基準」により、土砂災害警戒情報の発表基準を取り扱うものとする。</p>

コ 気象庁が発表する緊急地震速報

区分	発表基準
緊急地震速報（警報）	地震動により重大な災害が起こるおそれのある場合は、強い揺れが予想される地域に対し緊急地震速報（警報）を発表する。

（注）緊急地震速報（警報）は、地震発生直後に震源に近い観測点で観測された地震波を解析することにより、地震の強い揺れが来る前に、これから強い揺れが来ることを知らせる警報である。ただし、震源付近では強い揺れの到達に間に合わない。

(3) 気象等予報及び警報並びに土砂災害警戒情報の伝達

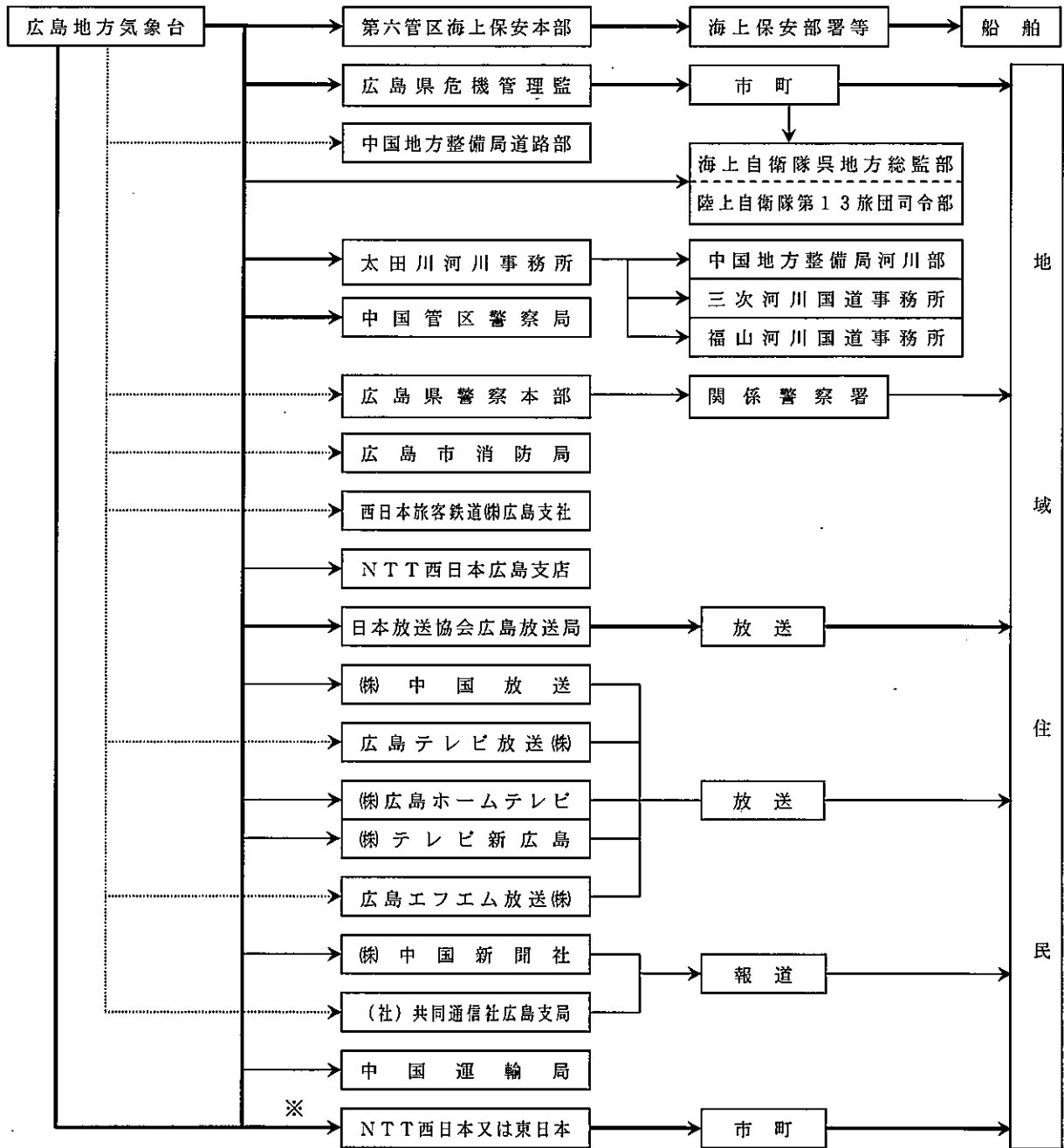
ア 広島地方気象台は、気象等の予報及び警報並びに土砂災害警戒情報（津波警報等及び緊急地震速報（警報）を除く。）を発表した場合、次の機関に通知する。

(ア) 伝達機関

機 関 名	担 当 課 名	備 考
第六管区海上保安本部	警備救難部環境防災課	
西日本電信電話株式会社 又は東日本電信電話株式会社		警報のみ
広島県	危機管理監危機管理課	
日本放送協会広島放送局	放送センター報道	
中国地方整備局	道路部道路管理課 太田川河川事務所調査設計課	
中国運輸局	総務部総務課	
中国管区警察局	総務監察・広域調整部災害対策官	
※広島県警察本部	警備部警備課	
※広島市消防局	危機管理部	
※西日本旅客鉄道(株)広島支社	施設指令	
西日本電信電話株式会社広島支店	災害対策室	
陸上自衛隊第13旅団	司令部地誌班	
各報道機関		

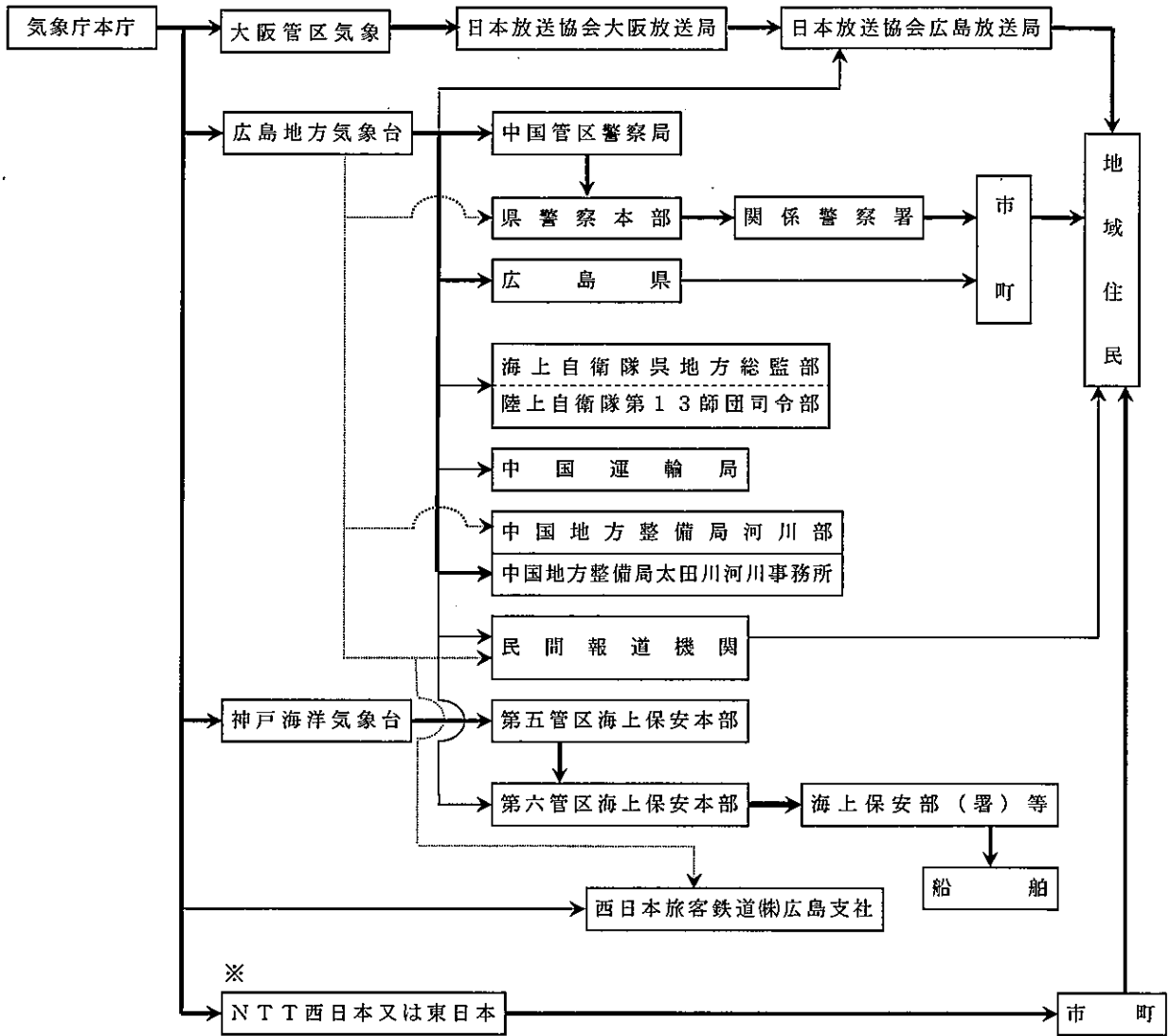
※副次的な伝達先

(イ) 伝達経路



- (注) 1 広島地方気象台からの伝達経路のうち、実線は防災情報提供システム専用線、点線は専用線以外の副次的な伝達経路である。(副次的な伝達経路とは、インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。)
- 2 太線は、「気象業務法に規定される伝達経路」である。
- 3 ※は、警報(解除を含む)のみオンラインにより伝達する。
- 4 「NTT西日本又は東日本」とは、西日本電信電話株式会社又は東日本電信電話株式会社を意味する。

イ 気象庁本庁は、津波警報等を発表した場合、次の経路により関係機関に通知する。



- (注) 1 広島地方気象台からの伝達経路のうち、実線は防災情報提供システム専用線、点線は専用線以外の副次的な伝達経路である。(副次的な伝達経路とは、インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。)
- 2 太線は、「気象業務法に規定される伝達経路」である。
- 3 ※は、津波警報(同解除を含む)のみオンラインによる伝達である。
- 4 日本放送協会広島放送局は津波警報が発表された時に、「緊急警報信号」を発信する。
- 5 民間報道機関は、(株)中国放送・広島テレビ放送(株)・(株)広島ホームテレビ・(株)テレビ新広島・広島エフエム放送(株)・(株)中国新聞社である。
- 6 「NTT西日本又は東日本」とは、西日本電信電話株式会社又は東日本電信電話株式会社を意味する。

ウ 広島地方気象台等から通知を受けた機関の措置

(ア) 第六管区海上保安本部

広島地方気象台等から通知を受けた気象等予報及び警報並びに土砂災害警戒情報は、次により関係機関に伝達する。

a 伝達経路

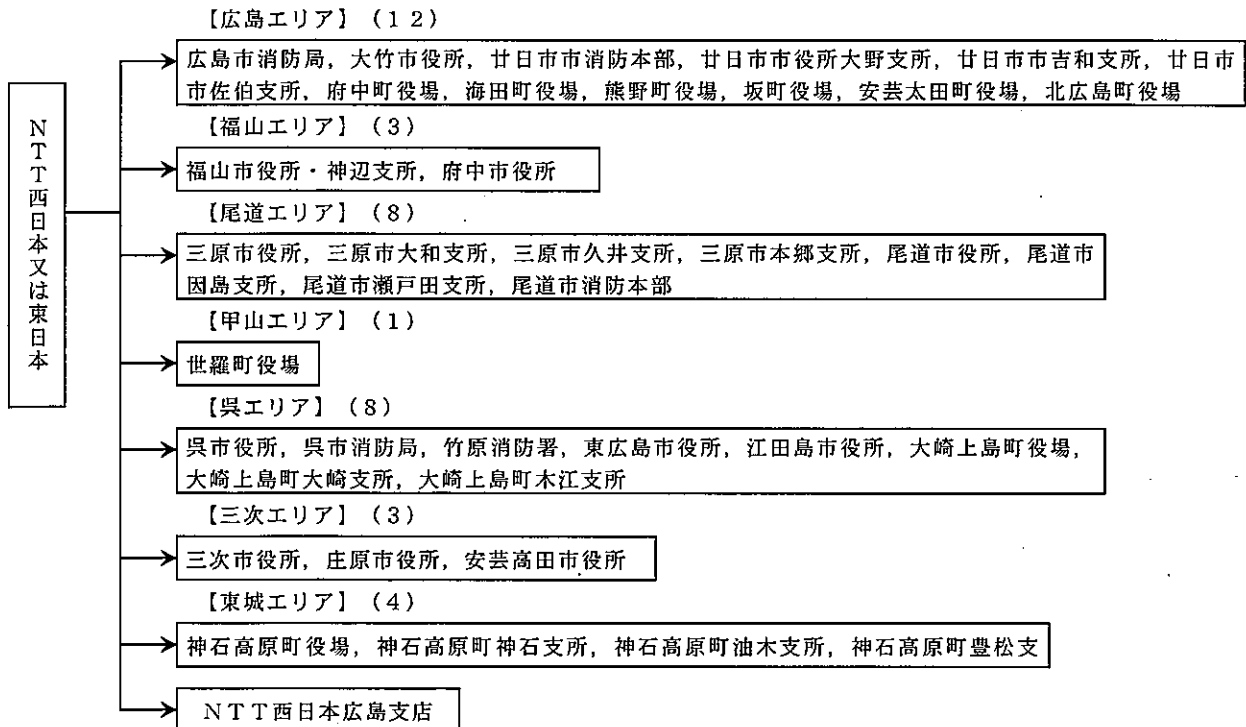


b 伝達方法

- (a) 管内の部署，所属船艇，航空機に対しては，専用通信系により周知させる。
- (b) 一般船舶に対しては，地域航行警報，標識の掲揚並びに船艇及び航空機による巡回等により直ちに周知する。
- (c) 船舶運航会社，海運組合，漁業協同組合等に対しては，必要に応じ一般加入電話により周知させる。

(イ) 西日本電信電話株式会社

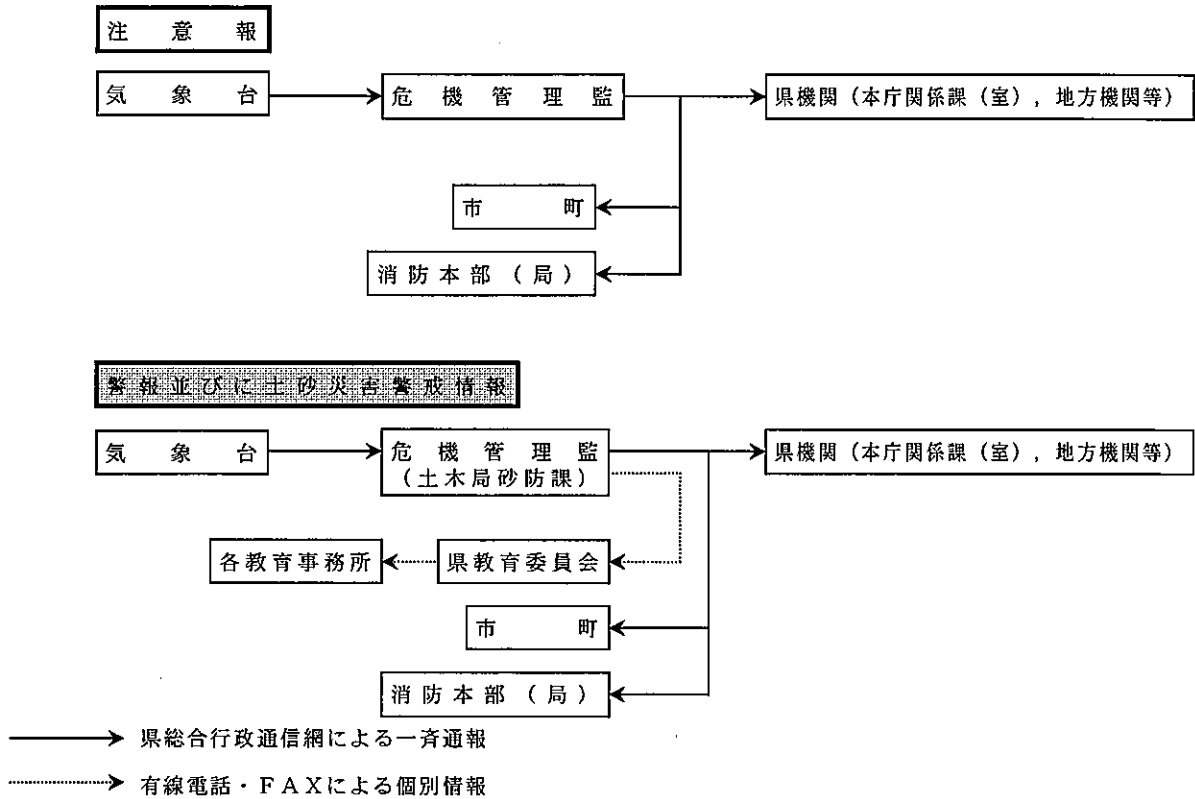
広島地方気象台等から通知を受けた警報は次の経路により市町に伝達する。



※ ファクシミリ網による一斉同報方式

(ウ) 広島県

広島地方気象台から通知を受けた気象等予報及び警報並びに土砂災害警戒情報は、次により関係地方機関，市町及び消防本部へ伝達する。



- (注) 1 災害対策本部を設置した場合は、「危機管理監」を「災害対策本部」とし、「関係県地方機関」を「災害対策支部」と読み替える。
 2 現地本部が設置された場合の伝達は、災害対策本部が行う。
 3 土砂災害警戒情報が発表・解除された場合の伝達は、土木局砂防課が行う（関係機関のみ）。

(エ) 広島県警察本部

気象台から通知を受けた気象等予報，警報，河川洪水予報及び土砂災害警戒情報は，次の経路により伝達する。

- a 津波警報等が気象庁から発表され，広島地方気象台又は中国管区警察局を經由して通知された場合，直ちに各警察署を通じて市町に伝達する。
- b 津波警報等以外の気象等予報，警報，河川洪水予報及び土砂災害警戒情報の通知を受けた場合は，必要により各警察署に通知する。通知を受けた警察署は状況により必要な措置をとる。

(オ) 市町

- a 前各号に定めるところにより気象等予報，警報，河川洪水予報及び土砂災害警戒情報の通知を受けた場合は，防災行政無線の利用等の方法により速やかに住民に周知させる。
- b 津波警報等の通知を受けた場合は，防災行政無線の利用等の方法により速やかに住民に周知させる。
- c 常にラジオ，テレビ等に注意し，気象等予報，警報，河川洪水予報及び土砂災害警戒情報の発表を知ったときは，関係機関と密接な連絡をとり，事後の情報の把握に努める。
- d 河川洪水予報及び土砂災害警戒情報等の緊急性の高い警報等の通知を受けた場合は，避難勧告・避難指示等の発表の判断に利用するものとする。

(カ) 放送機関

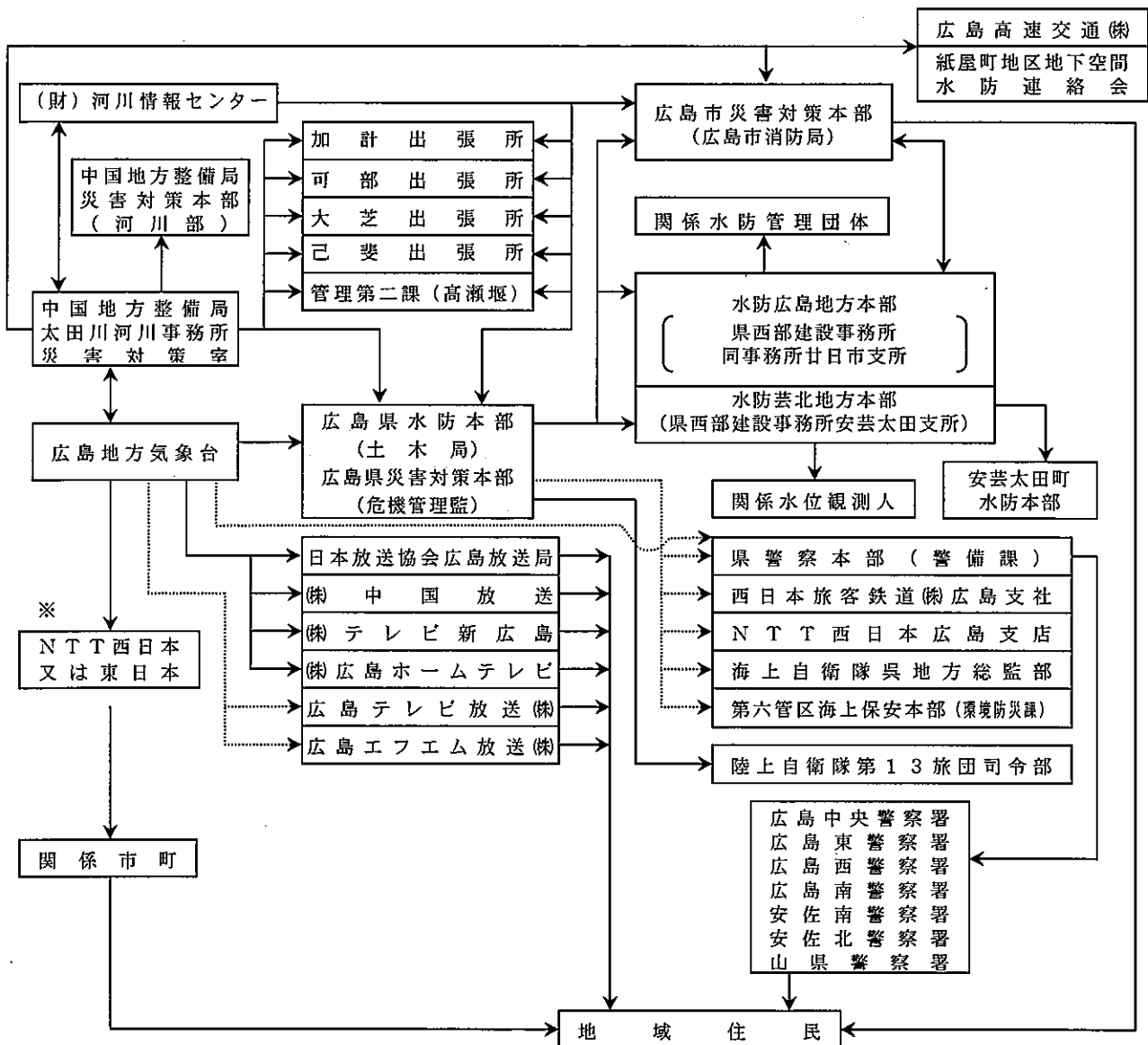
広島地方気象台等から通知を受けた気象等予報、警報、河川洪水予報及び土砂災害警戒情報は、次により放送し、住民に周知させる。

- a 警報、河川洪水予報及び土砂災害警戒情報及び津波警報等については、即時に放送を行う。
- b 注意報については、定時ニュース等により速やかに放送を行う。

(4) 水防法第10条第2項及び気象業務法第14条の2第2項の規定により、中国地方整備局太田川河川事務所と広島地方気象台が共同して発表する太田川水系洪水予報の伝達経路

ア 中国地方整備局太田川河川事務所と広島地方気象台が共同して発表する太田川水系洪水予報は次の経路により伝達する。

イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3) -ウ- (カ) により住民に周知させる。



(注1) ※は警報のみ伝達 (はん濫警戒情報 (洪水警報) の通知により代える。)

→は必要に応じて伝達

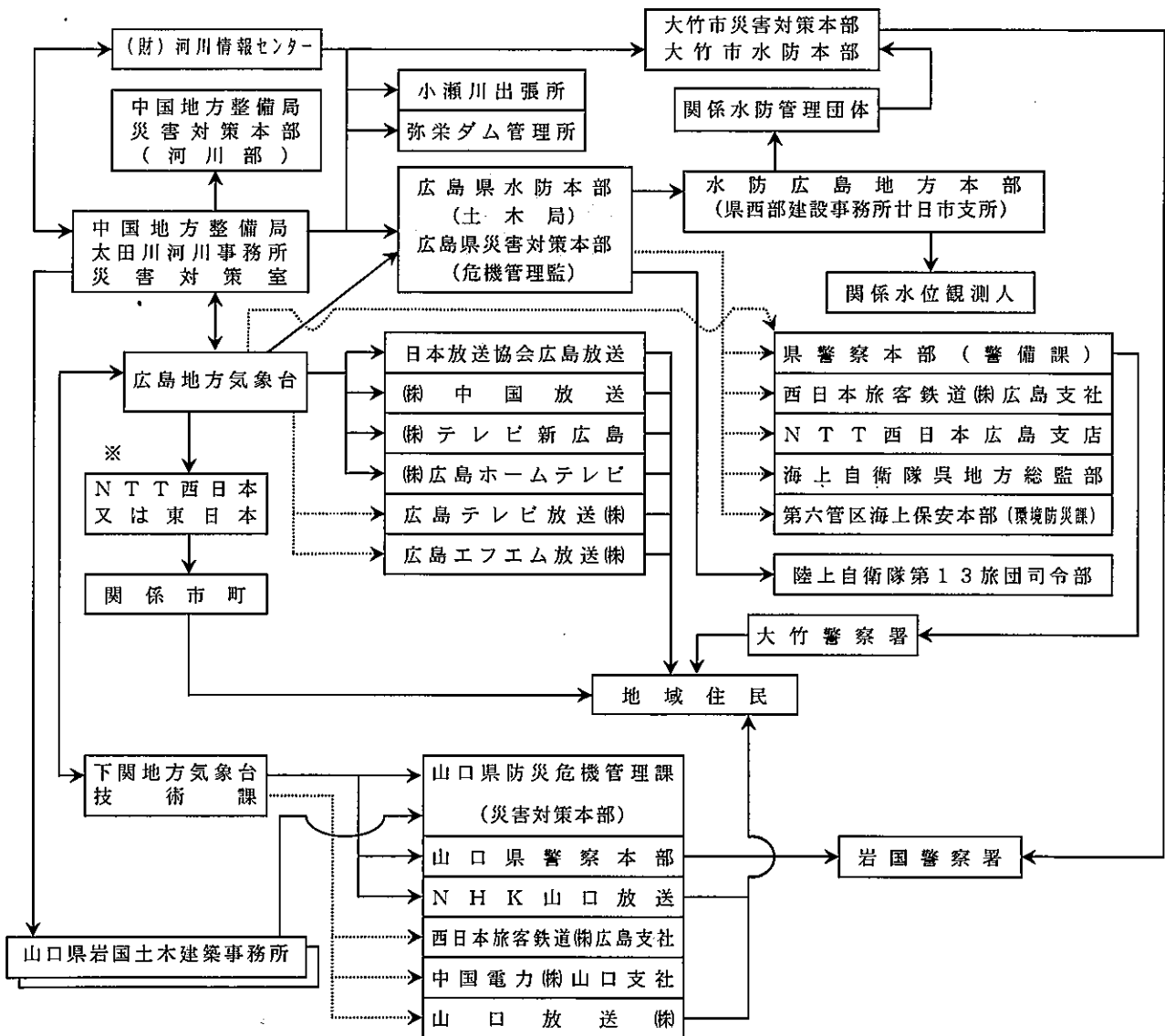
(注2) 気象台からの伝達方法

→は防災情報提供システム専用線

→は専用線以外の副次的な伝達経路 (インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。)

(5) 水防法第10条第2項及び気象業務法第14条の2第2項の規定により、中国地方整備局、太田川河川事務所と広島地方気象台が共同して発表する小瀬川水系洪水予報の伝達経路
 ア 中国地方整備局太田川河川事務所と広島地方気象台が共同して発表する小瀬川洪水予報は次の経路により伝達する。

イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3)一ウー(カ)により住民に周知させる。



(注1) ※は警報のみ伝達（はん濫警戒情報（洪水警報）の通知により代える。）

.....→ は必要に応じて伝達

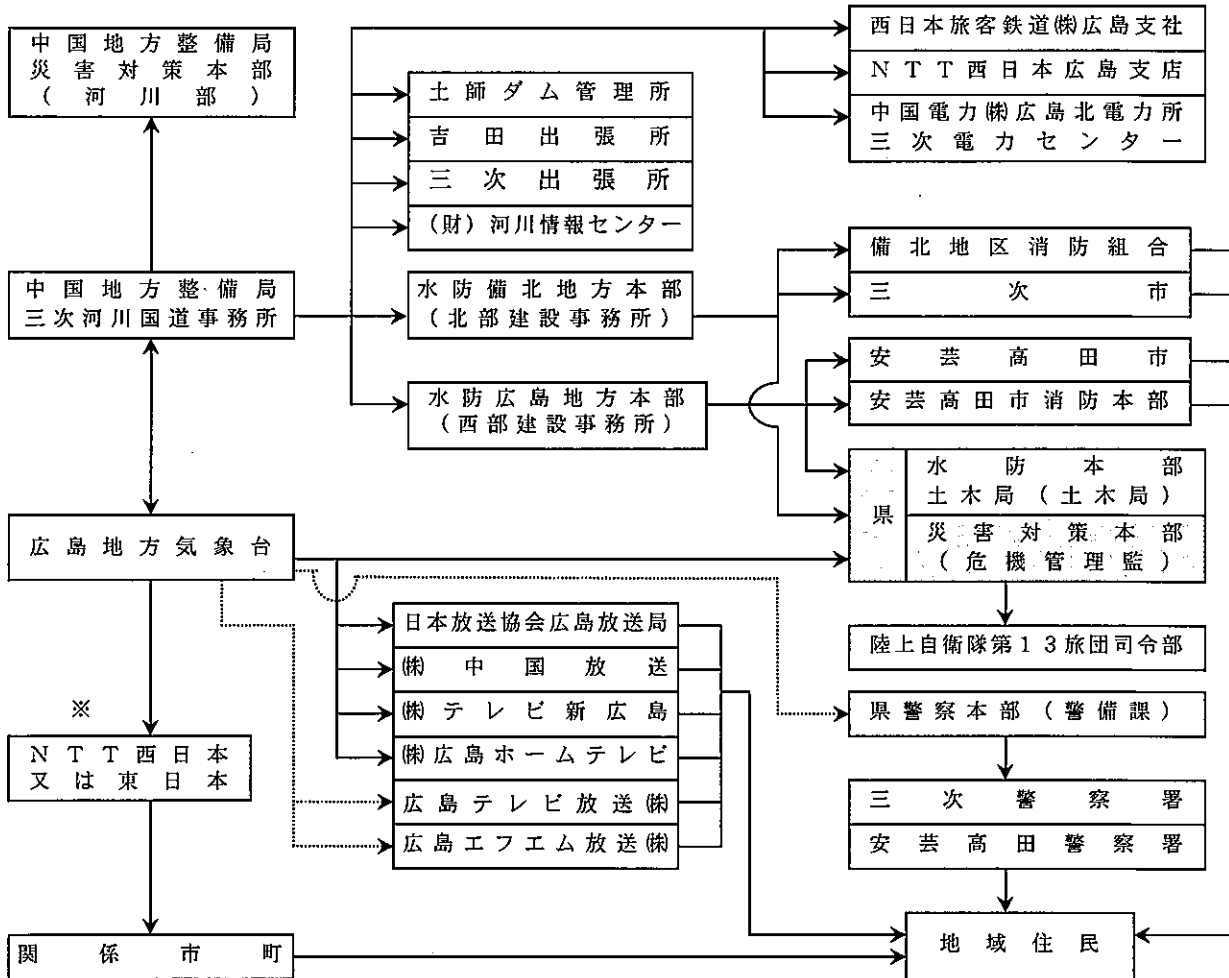
(注2) 気象台からの伝達方法

————→ は防災情報提供システム専用線

.....→ は専用線以外の副次的な伝達経路（インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。）

(6) 水防法第10条第2項及び気象業務法第14条の2第2項の規定により、中国地方整備局三次河川国道事務所と広島地方気象台が共同して発表する江の川上流水系洪水予報の伝達経路
ア 中国地方整備局三次河川国道事務所と広島地方気象台が共同して発表する江の川上流水系洪水予報は次の経路により伝達する。

イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3) -ウ- (カ) により住民に周知させる。



(注1) ※は警報のみ伝達(はん濫警戒情報(洪水警報)の通知により代える。)

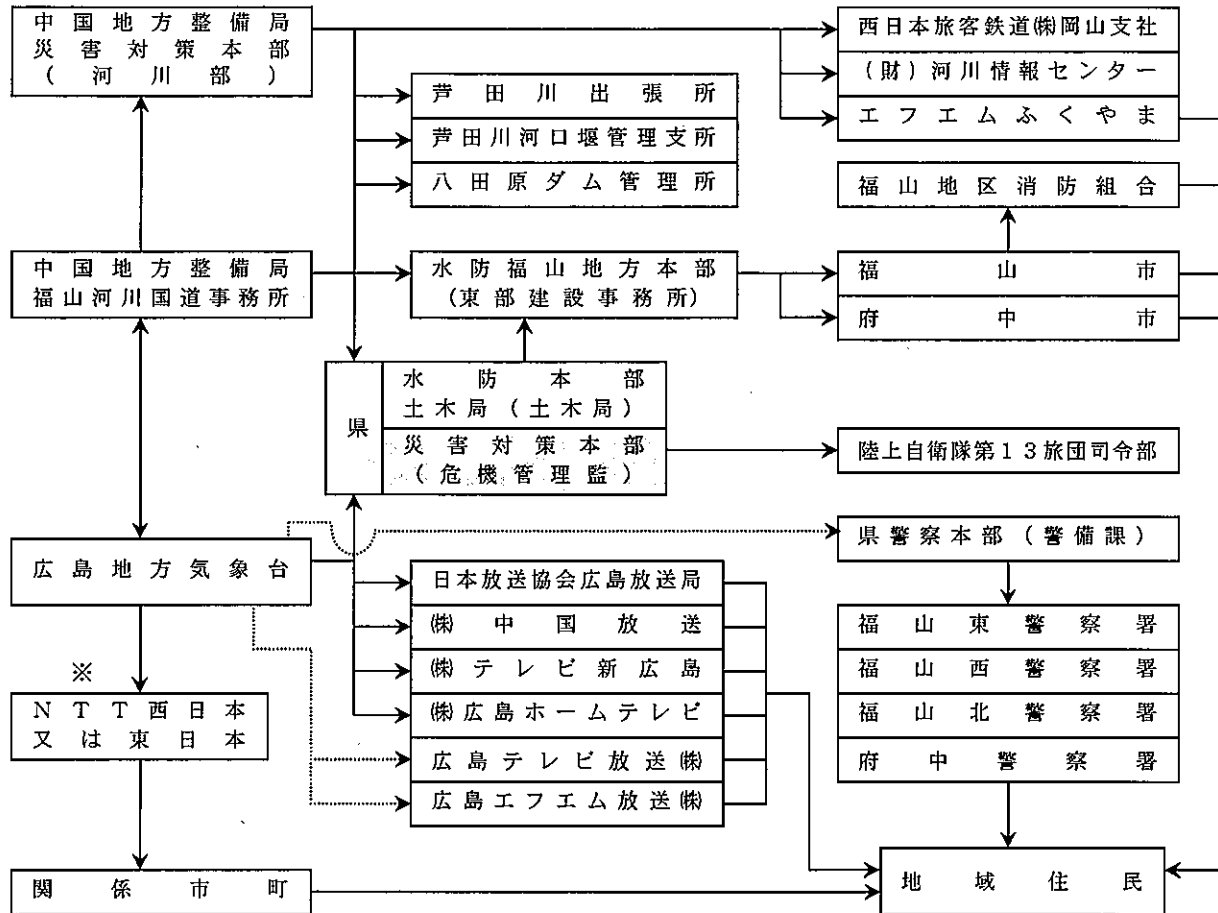
----->は必要に応じて伝達

(注2) 気象台からの伝達方法

————>は防災情報提供システム専用線

----->は専用線以外の副次的な伝達経路(インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。)

- (7) 水防法第10条第2項及び気象業務法第14条の2第2項の規定により、中国地方整備局福山河川国道事務所と広島地方気象台が共同して発表する芦田川水系洪水予報の伝達経路
- ア 中国地方整備局福山河川国道事務所と広島地方気象台が共同して発表する芦田川水系洪水予報は次の経路により伝達する。
- イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3)－ウ－(カ)により住民に周知させる。



(注1) ※は警報のみ伝達(はん濫警戒情報(洪水警報)の通知により代える。)

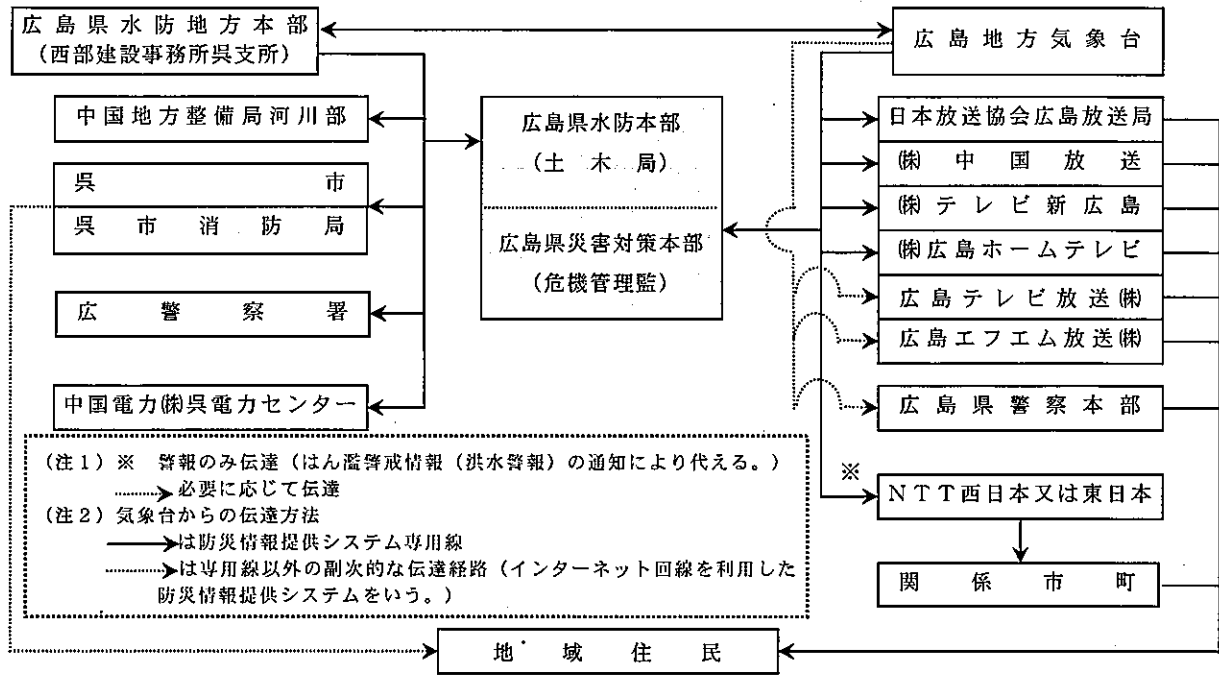
-----> は必要に応じて伝達

(注2) 気象台からの伝達方法

————> は防災情報提供システム専用線

-----> は専用線以外の副次的な伝達経路(インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。)

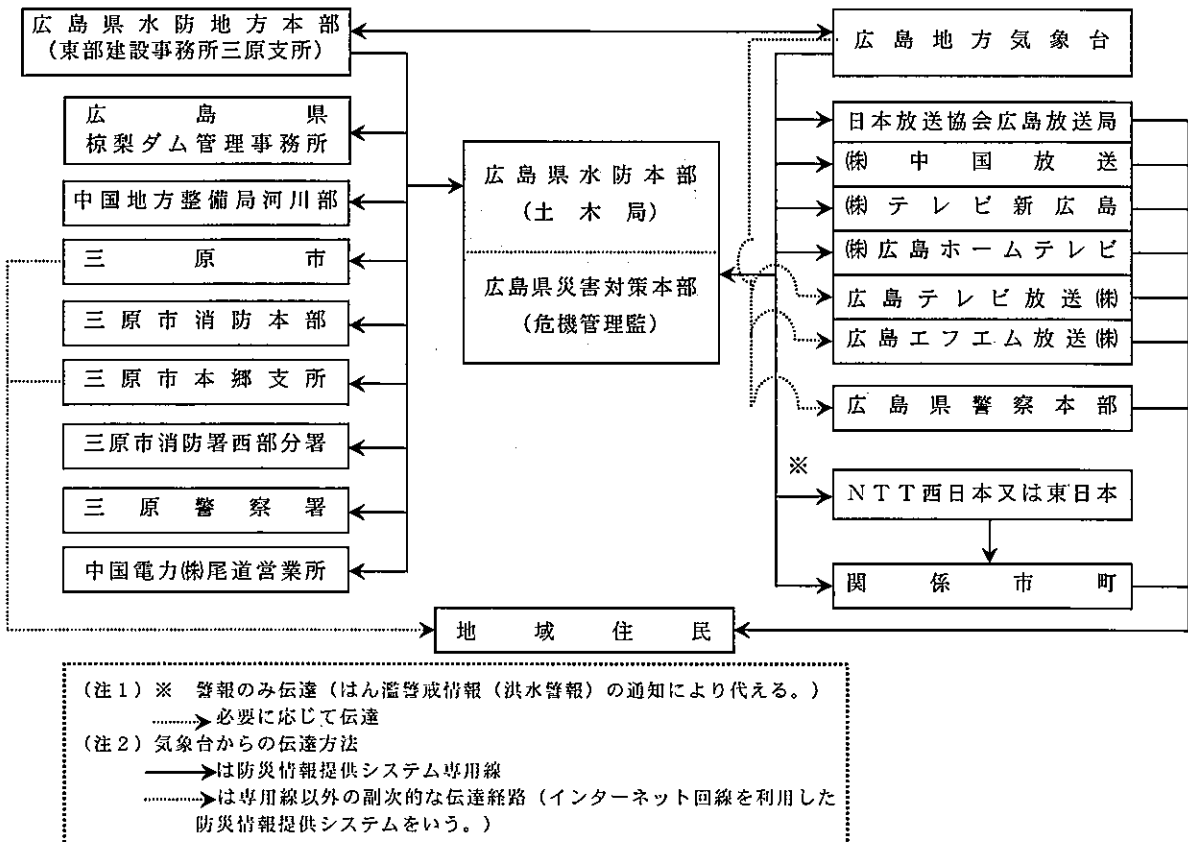
- (8) 水防法第11条第1項及び気象業務法第14条の2第3項の規定により、広島県西部建設事務所呉支所と広島地方気象台が共同して発表する黒瀬川水系洪水予報の伝達経路
- ア 広島県西部建設事務所呉支所と広島地方気象台が共同して発表する黒瀬川水系洪水予報は次の経路により伝達する。
- イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3)－ウ－(カ)により住民に周知させる。



(9) 水防法第11条第1項及び気象業務法第14条の2第3項の規定により、広島県東部建設事務所三原支所と広島地方気象台が共同して発表する沼田川水系洪水予報の伝達経路

ア 広島県東部建設事務所三原支所と広島地方気象台が共同して発表する沼田川水系洪水予報は次の経路により伝達する。

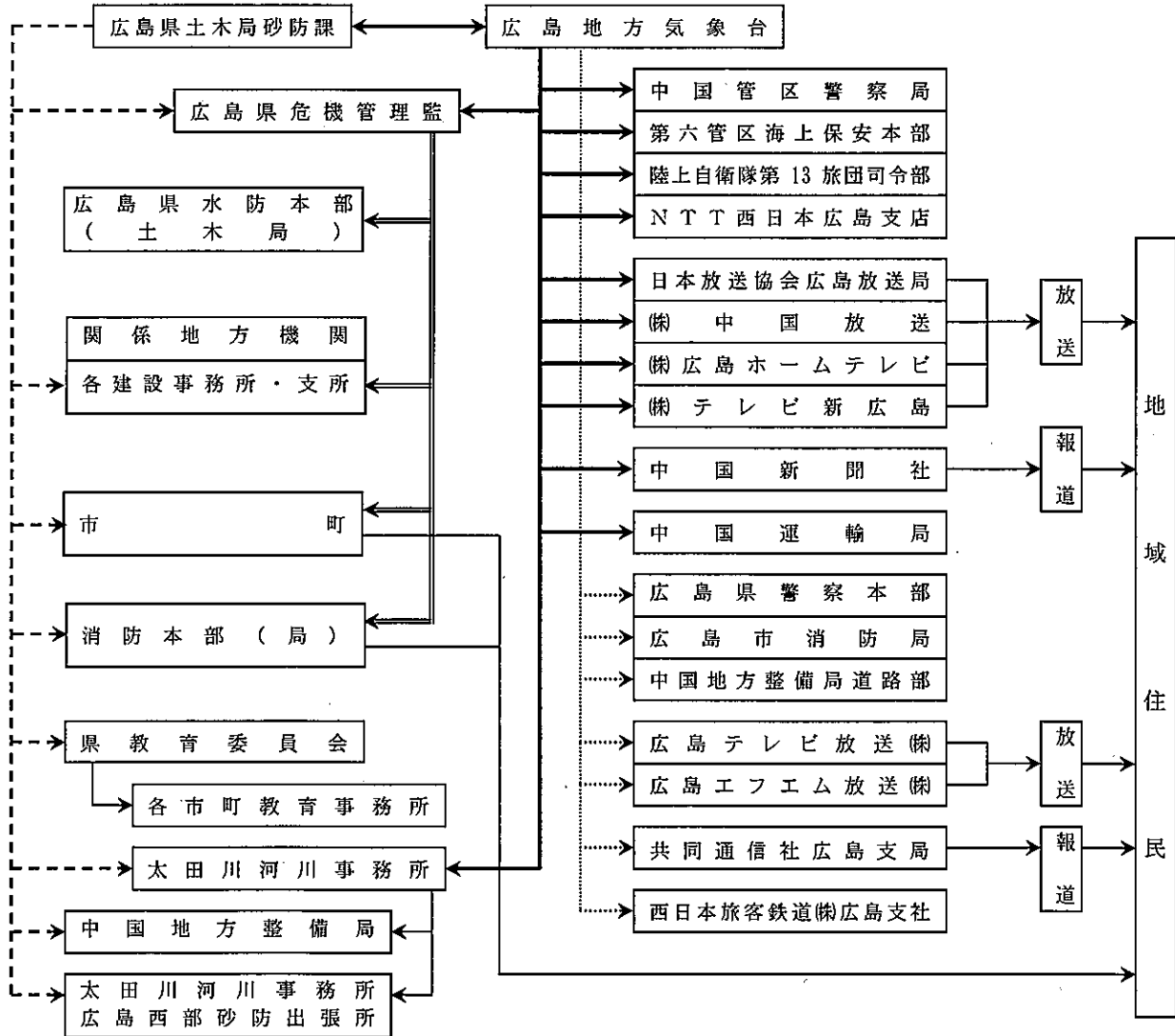
イ 放送機関は洪水予報を受けた場合、(3)ウ-(カ)により住民に周知させる。



(10) 基本法第55条及び気象業務法第11条の規定により、広島県土木局砂防課と広島地方気象台が共同して発表する土砂災害警戒情報の伝達経路

ア 広島県土木局砂防課と広島地方気象台が共同して発表する土砂災害警戒情報は次の経路により伝達する。

イ 放送機関は土砂災害警戒情報を受けた場合、(3)ウ(カ)により住民に周知させる。



—— 防災情報提供システム専用線

==== 広島県防災情報システム

----- FAX

..... 専用線以外の副次的な伝達経路（インターネット回線を利用した防災情報提供システムをいう。）

—— 独自の手法

3 水防警報の伝達

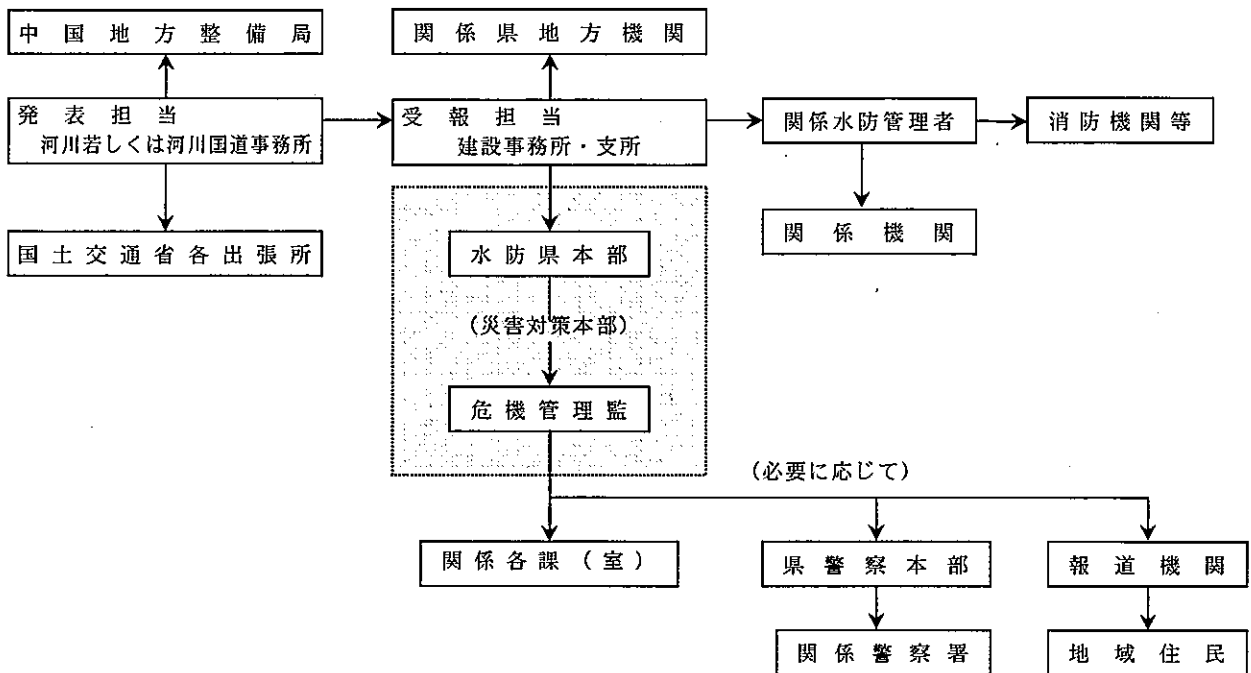
(1) 発表責任者

発表担当者	河川名等	法令名	摘要
国土交通大臣	国土交通大臣が指定した河川 太田川水系 太田川（幹川） } の一部 三篠川 } 根谷川 } 古川 } 旧太田川 } の全部 元安川 } 天満川 } 滝山川 } の一部 芦田川水系 芦田川（幹川） } の一部 高屋川 } 江の川水系 江の川（幹川） } の一部 神野瀬川 } 馬洗川 } 西城川 } 小瀬川水系 小瀬川（幹川） } の一部	水防法 第16条第1項	中国地方整備局災害対策計画により太田川水系及び小瀬川水系については太田川河川事務所、芦田川水系については福山河川国道事務所、江の川水系については三次河川国道事務所が発表する。
知事	知事が指定した河川 太田川水系 太田川（幹川） } の一部 猿猴川 } の全部 京橋川 } 根谷川 } の一部 安川 } 水内川 } 三篠川 } 芦田川水系 高屋川 } の一部 箱田川 } 加茂川 } 神谷川 } の全部 吉野川 } の一部 有地川 } 出口川 } 芦田川（幹川） } 江の川水系 志路原川 } の一部 馬洗川 } 美波羅川 } 国兼川 } 西城川 } 上下川 } 神野瀬川 } 布野川 } 板木川 } 比和川 } 高梁川水系 成羽川 } の一部 瀬野川水系 瀬野川 } の一部 黒瀬川水系 黒瀬川 } の一部	同上	各河川を管理する建設事務所・支所が発表する。

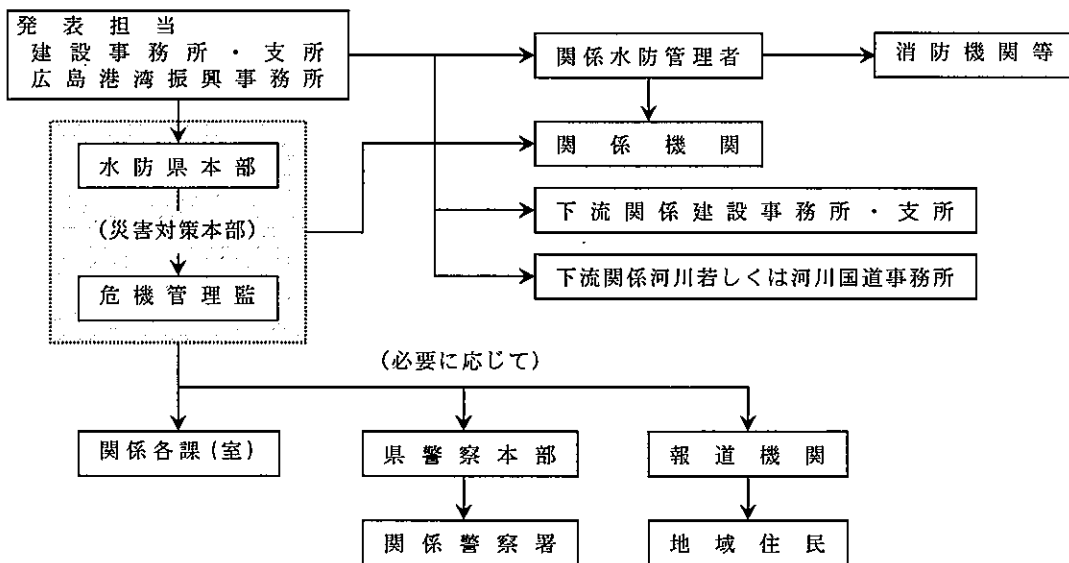
	<p>二河川水系 二河川 の一部</p> <p>八幡川水系 八幡川 の一部</p> <p>賀茂川水系 賀茂川 の一部</p> <p>本郷川水系 本郷川 の一部</p> <p>沼田川水系) の一部 沼田川 仏通寺川 梨和川 菅川 天井川</p>		
	<p>知事が指定した海岸</p> <p>大竹市海岸 全域</p> <p>廿日市市海岸 広島港港湾区域を除く 広島港港湾区域</p> <p>広島市海岸 全域</p> <p>海田町海岸 全域</p> <p>坂町海岸 観音崎より北 観音崎より南</p> <p>呉市海岸 旧呉市, 旧川尻町, 旧蒲刈町, 旧下蒲刈 町, 釣土田港北端～大迫港南端北回り 釣土田港北端～大迫港南端南回り 旧豊浜町, 旧豊町 旧安浦町</p> <p>江田島市海岸 屋形石～大柿港南端西回り 屋形石～大柿港南端東回り</p> <p>東広島市海岸 全域</p> <p>竹原市海岸 全域</p> <p>大崎上島町海岸 全域</p> <p>三原市海岸 瀬戸田港港湾区域を除く 瀬戸田港港湾区域</p> <p>尾道市海岸 中浜港北端～重井港南端 旧尾道市, 向島町 上記以外</p> <p>福山市海岸 尾道糸崎港港湾区域 尾道市界～阿伏兎港西端 阿伏兎港西端より東</p>	<p>同上</p>	<p>各海岸を管理する建設事務所・支所もしくは広島港湾振興事務所が発表する。</p>

(2) 伝達経路

ア 中国地方整備局関係事務所の発表する水防警報の伝達



イ 各建設事務所・支所及び広島港湾振興事務所の発表する水防警報の伝達

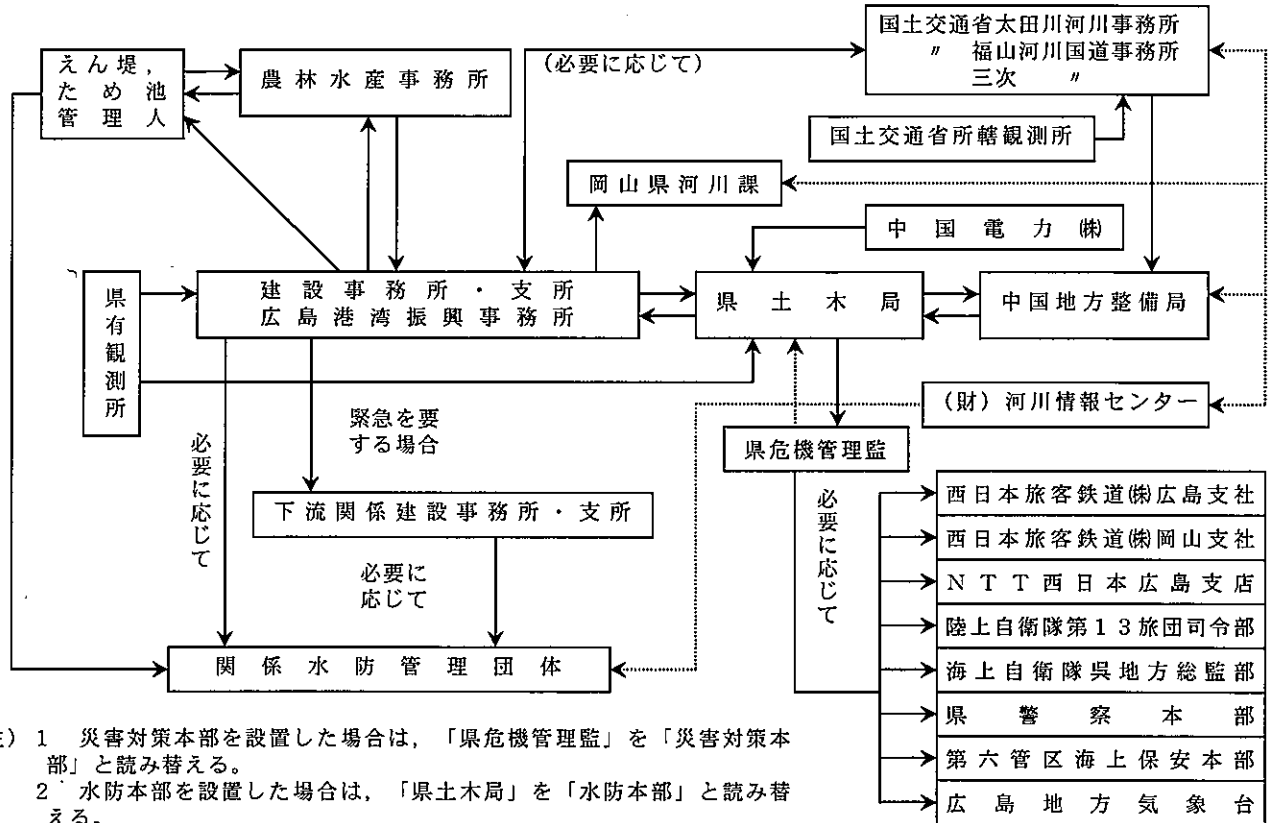


ウ 災害対策本部を設置した場合、(2)において「危機管理監」及び「県地方機関」は、それぞれ「災害対策本部」及び「災害対策支部」と読み替える。

4 水位、潮位等の通報

(1) 県の設置している水位、潮位観測所の通報

水防管理者又は量水標管理者は、水防活動用気象等の予報の伝達を受けた場合に知事の定める通報水位を超えると、あるいは洪水又は高潮のおそれがあることを知った時は、水防計画に定めるところにより関係者に通報する。



(2) 水位等に係る情報の交換

水位及び雨量に係る観測所を設置している災害応急対策責任者は、応急対策上必要な範囲において相互に水位等の情報を交換する。

5 火災予防上の気象通報

(1) 気象の状況の通報

広島地方気象台は、気象の状況が火災の予防上危険であると認められるときは、その状況を直ちに県危機管理監に通報し、通報を受けた県危機管理監は、直ちにこれを消防本部に通報する。

(2) 通報の具体的な基準

広島地方気象台が、火災予防上の気象通報を行う場合の具体的な基準は次のとおりである。

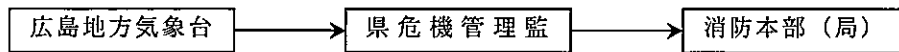
ア 実効湿度が60%以下で、最小湿度が35%以下となり、最大風速7m/s以上の風が吹く見込みのとき。

イ 平均風速12m/s以上の風が1時間以上連続して吹く見込みのとき。

ただし、降雨・降雪中は通報しないこともある。

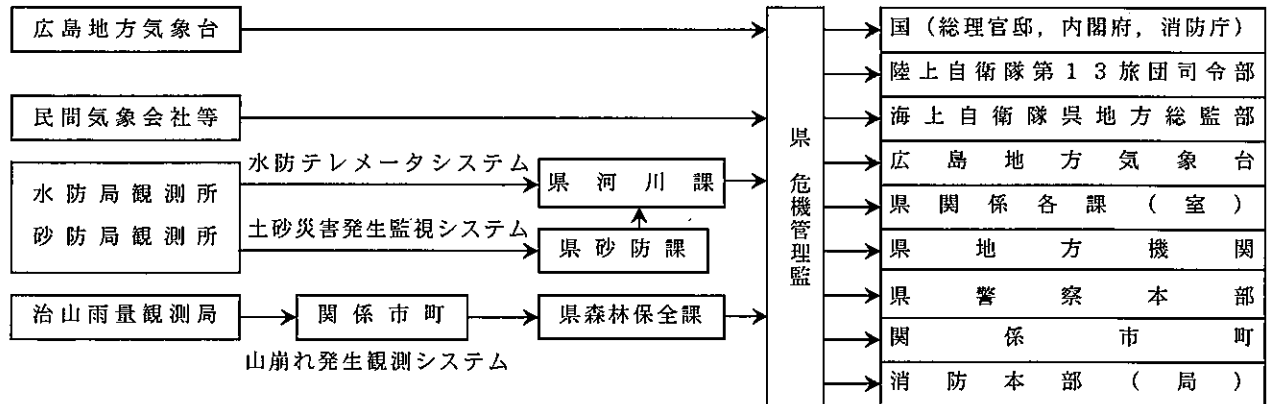
(3) 通報の伝達経路

広島地方気象台が行う火災予防上の気象通報は、次の経路により通報する。



6 広島県防災情報システムによる気象情報等の提供

県は、広島県防災情報システムに送られてくる各観測施設等の気象情報等を入手し、防災関係機関の災害対応に役立てるため、次の経路により提供する。



第3項 住民等の避難誘導に関する計画

1 避難の指示

(1) 避難等の指示権者

ア 基本法による場合

実施責任者	措置する場合	措置の内容	条 項
市 町 長	災害が発生し、又は発生するおそれがあり、人の生命、身体を保護し、災害の拡大を防止するため必要な場合。	立退き、立退き先を指示し、勧告する。	基本法 第60条第1項
知 事	同上の場合 災害の発生により市町がその全部又は大部分の事務を行うことができなくなったとき。	同 上	基本法 第60条第5項
警 察 官 海 上 保 安 官	同上の場合 市町長が指示できないとき又は市町長が要求したとき。	立退き、立退き先を指示する。	基本法 第61条
市 町 長	災害が発生し、又は発生するおそれがあり、人の生命、身体に対する危険を防止するため警戒区域を設定した場合。	警戒区域を設定し、災害応急対策従事者以外の者の立入り制限、禁止又は当該区域からの退去を命ずる。	基本法 第63条第1項
警 察 官 海 上 保 安 官	同上の場合 市町長又は委任を受けた市町の吏員が現場にいないとき又は市町長等が要求したとき。	同 上	基本法 第63条第2項
自 衛 官	同上の場合 市町長その他市町長の職権を行うことができる者がその場にいないとき。	同 上	基本法 第63条第3項

イ その他の法令による場合

実施責任者	措置する場合	措置の内容	条 項
消 防 吏 員 消 防 団 員	火災の現場で消防警戒区域を設定した場合。	区域から退去を命令。	消防法 第28条第1項
警 察 官	同上の場合 消防吏員等が現場にいないとき、又は消防吏員等の要求があったとき。	同 上	消防法 第28条第2項
水防団長、水防団員、消防機関に属する者	水防上緊急の必要があるため、警戒区域を設定した場合。	同 上	水防法 第21条第1項
警 察 官	同上の場合 水防団長等が現場にいないとき、又は水防団長等の要求があったとき。	同 上	水防法 第21条第2項
知事、その命を受けた県職員、水防管理者	洪水、高潮のはん濫により著しい危険が切迫した場合。	必要と認める区域の居住者に立退きを指示。	水防法 第29条
知事、その命を受けた県職員	地すべりの危険が切迫した場合。	必要と認める区域内の居住者に立退きを指示。	地すべり等防止法 第25条
警 察 官	人の生命、身体に危険を及ぼし、又は財産に重大な損害を及ぼすおそれがある災害時において特に急を要する場合。	関係者に警告を発する。 危害を受けるおそれのある者を避難させる。	警察官職務執行法 第4条
自 衛 官	災害派遣を命ぜられた自衛官は警察官がその場にいないとき、警察官職務執行法第4条並びに第6条第1項、第3項及び第4項の規定を準用する場合。	同 上	自衛隊法 第94条

(2) 避難の勧告、指示

ア 法令により権限を有する者は、災害発生のおそれがある場合に勧告を発し自発的な避難を促す。

イ 災害による危険が切迫している場合は、避難の指示を発し避難させる。

ウ 避難の指示をしても徹底しない場合は、警察官職務執行法第4条の規定による警察官の措置により避難させる。

(3) 避難準備情報の伝達

市町は、避難勧告及び避難指示のほか、一般住民に対して避難準備を呼びかけるとともに、災害時要援護者等、特に避難行動に時間を要する者に対して、その避難行動支援対策と対応しつつ、早めの段階で避難行動を開始することを求める避難準備（災害時要援護者避難）情報（以下、「避難準備情報」という。）を伝達するものとする。

(4) 伝達方法

避難の措置を実施したときは、当該実施者は速やかにその内容を防災行政無線（同報系）、全国瞬時警報システム（J-ALERT）、広報車、半鐘、サイレン、テレビ（CATV含む。）、ラジオ（コミュニティFM放送を含む。）、携帯電話（登録制メール、エリアメールを含む。）、ワンセグ、インターネット、アマチュア無線など、情報の受け手に応じて多種多様な手段を通じ又は直接住民に伝達する。また、必要に応じて、防災関係機関及び自主防災組織等の協力を得て住民への周知徹底を図る。この場合において、高齢者や障害者等の災害時要援護者となりうる者や一時滞在者等に対する伝達について十分考慮するものとする。

(5) 避難勧告等の判断・伝達マニュアルの作成

市町は、避難指示、避難勧告、避難準備情報等について、河川管理者及び水防管理者等の協力を得つつ、洪水、土砂災害等の災害事象の特性、収集できる情報を踏まえ、判断基準を明確にし、どの地域の、誰に、どのような手順で、どのような経路を通じて伝達するかを定めた避難勧告等の判断・伝達マニュアルを作成しておくものとする。県は、マニュアルの作成及び見直しについて、市町と積極的に連携し、支援するものとする。

(6) 避難の指示等についての注意事項

- ア 指示、勧告は、発表者、避難を命ずる理由、避難対象地域、避難場所及び経路を明確にし、避難場所はあらかじめ選定しておく。
- イ 市町は、あらかじめ災害の発生状況、土砂災害等の危険箇所の異常の有無等、避難の勧告、指示を発するための情報の収集方法等について定めておく。
- ウ 市町は、あらかじめ危険が予想される地域について、雨量、水位、潮位等による避難の勧告、指示を発する場合の基準を設けておく。
- エ 市町は、あらかじめ避難の指示、勧告を住民に伝達する方法を明らかにし、住民に徹底しておく。
- オ 各法令に定める措置権者は、相互の連絡を密にして、災害時に混乱を生じないよう事前に協議しておく。

2 報告

(1) 避難勧告等を行った場合

市町長は、基本法第60条の規定により、次の要領により知事に報告する。

ア 提出先

危機管理監（災害対策本部を設置した場合は本部情報連絡班）に報告する。

イ 報告方法

総合行政通信網電話（ファクシミリを含む。）又は有線電話とする。

ウ 報告事項

- (ア) 指示、勧告した場合、その理由、地区名、対象戸数、人員、指示した立退き先、日時
- (イ) 避難の必要がなくなった場合、その理由、日時

(2) 避難所を開設した場合

被災者を入所させる避難所を開設した場合、次の要領により知事に報告する。

- ア 提出先 前項に同じ
- イ 報告方法 開設後直ちに総合行政通信網電話（ファクシミリを含む。）又は有線電話で行い、その後速やかに文書による報告を行う。
- ウ 報告事項 避難所開設日時、場所、箇所数、収容人員、開設期間の見込み及びその他必要と認められる事項。

3 避難場所・避難路の選定

市町長は、避難場所・避難路の選定にあたっては、避難場所・避難路の周辺にがけ崩れ、浸水、大火による輻射、工場の爆発等の危険がなく、災害時においても避難住民の安全が十分に保てると認められる場所等としなければならない。また、選定した避難場所・避難路について、平素から広報等により住民への周知徹底を図ることとする。

さらに、災害時要援護者のため特別に配慮がなされた福祉避難所の設置や、必要に応じて旅館やホテル等の借り上げ、一般の避難所に区画された部屋を設けるなど、災害時要援護者にとって生活しやすい避難場所の確保に努めるものとする。

避難場所・避難路の選定基準は、概ね次による。

(1) 避難場所

- ア 避難者一人当たりの必要面積は、1㎡以上とする。
- イ 要避難地区の全ての住民を収容できるよう配置する。
- ウ 避難場所内の木造建築物の割合は、総面積の2%未満であり、かつ、散在していなければならない。
- エ 避難場所は、大規模ながけ崩れ、土石流や浸水などの危険のないところとする。
- オ 純木造密集市街地から300m以上、建ぺい率5%程度の疎開地では200m以上、耐火建築物からは50m以上離れているところとする。

(2) 避難路

- ア 避難路中の道路、橋梁及びトンネル等、道路施設自体の安全性や周囲の状況について十分検討し、必要ならば適切な措置を講ずる。

避難路の幅員は原則として15m以上とする。ただし、これに該当する道路がない場合は、おおむね8m以上の幅員を有する道路を選定する。（避難住民の安全性を確保するため、幅員が15～10mの場合には、一般車両の通行規制、10m以下の場合には、緊急車両及び一般車両の通行規制等を行う必要がある。）

- イ 避難路は、相互に交差しないものとする。
- ウ 避難路は、道路沿いに火災、爆発等の危険性の大きい工場等がない道路とする。
- エ 洪水、高潮等による浸水や土砂災害等も考慮し、海岸、河川及び急傾斜地沿いの道路は、原則、経路として選定しないものとする。

4 避難の誘導

(1) 避難誘導に当たる者

- ア 市町職員、警察官、消防職員、消防団員その他の避難措置の実施者
- イ 自主防災組織のリーダー等

(2) 避難誘導の方法

- ア 避難場所・避難路沿いの要点等に誘導に当たる職員等を配置し、あるいは案内標識を設置するなどして、住民の速やかな避難を図る。

なお、あらかじめ避難場所を選定した市町長は、避難場所、避難路沿い等に案内標識を設置して、速やかに避難できるようにしておくものとする。

また、帰宅困難者に対しても、交通情報を伝達するとともに帰宅困難な場合は、適切な避難場所への誘導を行う。

- イ 避難は幼少児、女性、高齢者及び障害者を優先する。
- ウ 高齢者、障害者等自力で避難の困難な災害時要援護者に関しては、事前に援助者を決めておく等の災害時要援護者避難支援プラン（全体・個別計画）を作成して支援体制を整備し、危険が切迫する前に避難できるよう配慮する。
- エ 避難の勧告又は指示に従わない者については、極力説得して任意に避難するよう指導する。
- オ 避難場所又は避難路に障害物あるいは危険物がある場合は、市町長の指示のもとに当該物件の除去、保安その他必要な措置を講じ、避難の円滑を図る。
- カ 交通孤立地区等が生じた場合、ヘリコプター、船舶による避難についても検討し、必要に応じ実施するものとする。

5 再避難の措置

誘導に当たる関係防災機関及び職員等は、正確な情報把握に努め、避難場所や避難経路の状況が悪化した場合には、機を失することなく再避難等の措置を講じる。

第3節 災害発生後の応急対策

第1項 災害情報計画

1 目的

この計画は、災害が発生した場合における被害地域の実態を的確に把握し、災害応急対策の実施に万全を期することを目的とする。

2 情報の収集伝達手段

県、市町における災害情報等の収集及び伝達手段は次のとおりである。

(1) 県

ア 情報の収集手段

(ア) 市町からの電話、ファクシミリ、県総合防災行政通信網（防災行政無線、衛星通信）による報告

(イ) ヘリコプターによる上空からの報告（ヘリコプターテレビ等）

(ウ) 県警察本部からの電話、ファクシミリ等による報告

(エ) その他関係機関からの電話、ファクシミリ等による報告

(オ) 広島地方気象台からの通報

(カ) 中国電力のホットラインの活用

(キ) アマチュア無線のボランティアの活用

(ク) マスコミの報道

(ケ) 広島県震度情報ネットワークシステムの活用

(コ) 広島県救急医療情報ネットワークの活用

(サ) 広島県防災情報システムの活用

イ 関係機関への伝達手段

(ア) 電話、ファクシミリ、口頭による伝達

(イ) 県総合行政通信網（防災行政無線、衛星通信）の活用

(ウ) 消防防災無線や衛星通信による総務省消防庁及び各都道府県への伝達

(エ) 中国電力のホットラインの活用

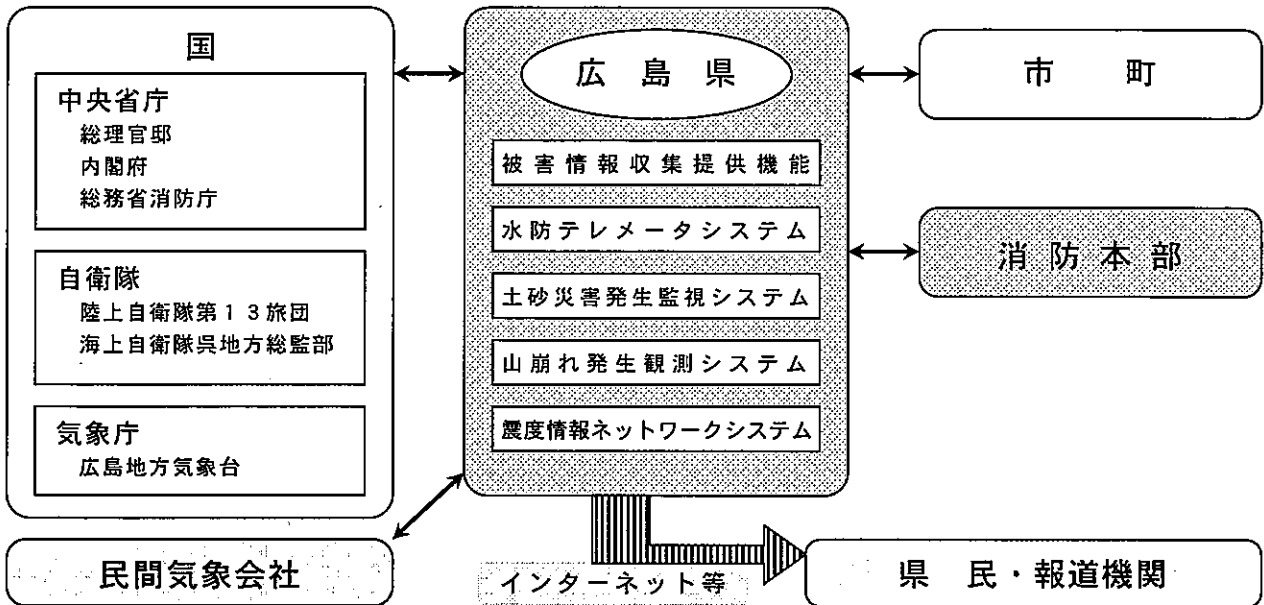
(オ) アマチュア無線のボランティアの活用

(カ) 報道機関への放送依頼（多言語による災害情報の提供）

(キ) 広島県救急医療情報ネットワークの活用

(ク) 広島県防災情報システムの活用

広島県防災情報システムの概念図



(2) 市町

ア 情報の収集手段

- (ア) 住民からの電話，ファクシミリ，口頭による情報
- (イ) パトロール車等による巡回
- (ウ) 市町防災行政無線による収集
- (エ) 地元消防機関，警察署からの電話，ファクシミリ等による通報
- (オ) その他地元関係機関からの電話，ファクシミリ等による通報
- (カ) タクシー会社等無線施設所有者からの情報
- (キ) 地元アマチュア無線のボランティアの活用
- (ク) マスコミの報道
- (ケ) 広島県震度情報ネットワークシステムの活用
- (コ) 広島県防災情報システムの活用

イ 関係機関への伝達手段

- (ア) 電話，ファクシミリ，口頭による報告
- (イ) 市町地域防災無線の活用
- (ウ) 県総合行政通信網（防災行政無線，衛星通信）の活用
- (エ) コミュニティFM，CATVの活用
- (オ) 登録制メール，エリアメールの活用
- (カ) 地元アマチュア無線のボランティアの活用

(3) その他の収集伝達手段

インターネット等の情報ネットワークを活用するなど，より細かな情報を正確かつ迅速に収集伝達するシステムの構築に努めるものとする。

3 災害情報の収集伝達

(1) 通常の場合の経路

ア 災害の予防，未然防止又は拡大防止のための情報

(ア) 基本法第54条第4項の規定により災害が発生するおそれのある異常な現象について通報を受けた市町長は、速やかにその旨を県危機管理監に通報する。

また、緊急な対応を要する場合は、同時に関係のある県地方機関に通報する。

(イ) 前項の場合において急施を要するときは、その市町長は、県危機管理監への通報に先立ち気象現象については広島地方気象台に、その他については、その現象が直接影響する施設を管理する責任者に通報する。

(ウ) 前2号の通報を受けた県危機管理監は、災害の予防、未然防止又は拡大防止のため必要がある場合は、関係のある災害応急対策責任者及び庁内各課（室）を経て、県地方機関に通知する。

また、原則として、覚知後30分以内で可能な限り早く、分かる範囲で、国（消防庁）や必要に応じて自衛隊等に通報し、初動体制に万全を期する。

県は、市町からの報告を入手後速やかに国（消防庁）に対して報告を行うとともに、市町からの報告を待たずして情報を入手したときは、直ちに消防庁に対して報告を行う。

なお、県が国（消防庁）へ報告すべき災害は、次のとおりである。

a 一般基準

(a) 災害救助法の適用基準に合致するもの

(b) 県が災害対策本部を設置したもの

(c) 災害が2都道府県以上にまたがるもので本県における被害は軽微であっても、全国的に見た場合に同一災害で大きな被害を生じているもの

b 個別基準

(a) 地震

地震が発生し、県又は市町の区域内で震度4以上を記録したもの

(b) 津波

津波により人的被害又は住家被害を生じたもの

(c) 風水害

① がけ崩れ、地すべり、土石流等により、人的被害又は住家被害を生じたもの

② 河川の溢水、破堤又は高潮等により、人的被害又は住家被害を生じたもの

(d) 雪害

① 雪崩等により、人的被害又は住家被害を生じたもの

② 道路の凍結又は雪崩等により、孤立集落を生じたもの

c 社会的基準

「a 一般基準」、「b 個別基準」に該当しない災害であっても、報道機関に取り上げられる等社会的影響度が高いと認められるもの

イ その他の情報

災害応急対策責任者は、災害に関係ある事実又は情報を知ったとき、及び自己の管理する施設が災害を受けたときは、その情報及び被害の概況並びに災害に対してとった措置の大要を県危機管理監に通報する。県危機管理監は必要と認めた場合は関係のある他の災害応急対策責任者及び庁内各課（室）を経て、県地方機関に通知する。

ウ 災害に関する民間団体への通知

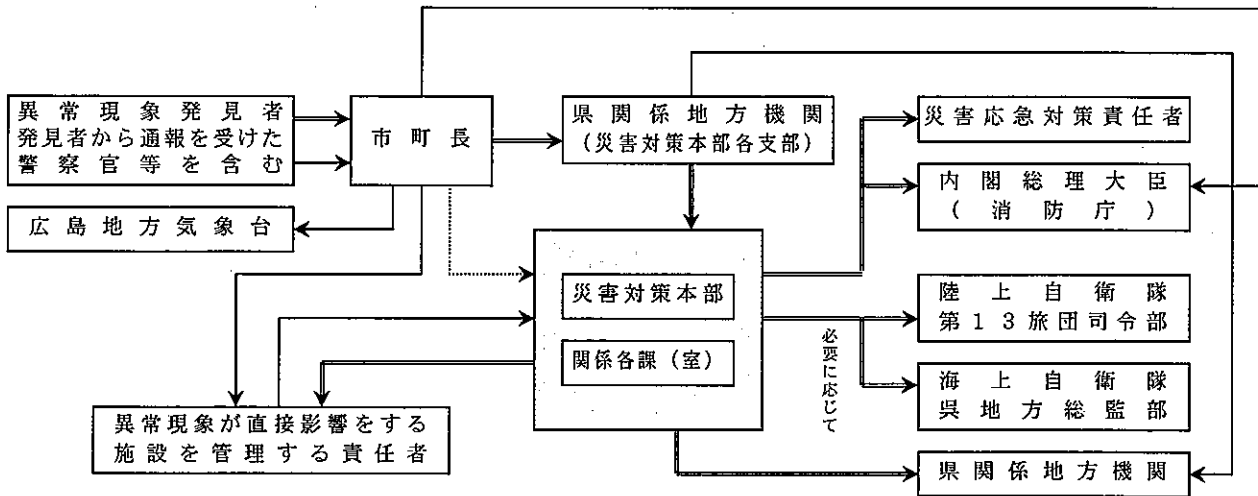
前各号の経路により情報を受けた関係機関は、必要と認めたときは関係のある民間団体へ通知する。

エ 災害応急対策責任者相互の被害情報の交換

災害応急対策責任者は自己の管理する施設が被害を受けたときは、被害の状況及びその災害に対しとった措置をできるだけ相互に通報する。

(2) 災害対策本部を設置した場合の経路の特例

前項各号によるすべての情報は、次の経路により災害対策本部へ通報され関係機関に通知する。



(注) 1 県地方機関、その他の機関が異常現象発見者である場合は、市町長が行う経路手続きを準用し、その旨をその異常現象発生地域の市町長に通知する。
 2 \longrightarrow は通常の場合の経路であり、 \longrightarrow は急施を要する場合で災害対策本部へ通知するいとまのない場合の経路である。
 また、 \dashrightarrow は、緊急を要する場合で、災害対策本部へ直接通知する場合の経路である。

4 災害発生及び被害状況報告・通報

災害が発生した場合は、応急対策を迅速に実施するため、市町は災害対策基本法及びその他関係法令の規定に基づき、県に対し災害発生報告及び被害状況報告を速やかに行う。

市町からの報告は原則として、広島県防災情報システム（被害情報収集提供機能）を利用して行う。

また、市町は、災害発生直後については、被害規模に関する概括的情報を含め、把握できた範囲から直ちに県へ連絡するものとする。

ただし、県に報告できない場合にあっては、直接内閣総理大臣（消防庁経由）へ報告するものとする。

なお、消防庁が定める「火災・災害等即報要領」に基づく直接即報基準に該当する火災・災害等の場合、市町は県へ連絡するとともに直接消防庁へも連絡する。

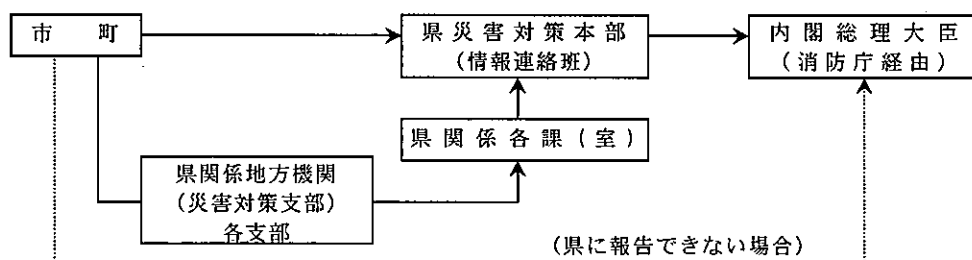
大規模災害の発生による市町機能の喪失等により、市町が県への被害報告を行うことが困難となった場合、県は、多様な手段を用いて、直接、情報収集に努めるものとする。

(1) 災害発生報告

災害応急対策実施のため、基本法第53条第1項の規定により行う報告で、災害発生状況の迅速な把握を主眼とする。

ア 伝達経路

災害発生報告は、次の経路により行う。（災害対策本部が設置されていない場合は「県災害対策本部」は「危機管理監」と読み替える。）



※ 内閣総理大臣への報告先（以下この節において同じ）

総務省消防庁

区分		平日 (9:30~18:15) ※応急対策室	左記以外 ※宿直室
回線別			
NTT回線	電話	03-5253-7527	03-5253-7777
	FAX	03-5253-7537	03-5253-7553
消防防災無線	電話	7-90-49013	7-90-49101~49103
	FAX	7-90-49033	7-90-49036
地域衛星通信 ネットワーク	電話	77-048-500-90-49013	77-048-500-90-49101~49103
	FAX	77-048-500-90-49033	77-048-500-90-49036

イ 災害発生報告の様式

災害発生報告は、報告の迅速かつ的確を期するため、原則として次の様式（表1）により行う。

ウ 災害発生報告の処理

災害対策本部（災害対策本部が設置されていない場合は危機管理監）は、報告の内容を関係課（室）に連絡するものとし、連絡を受けた関係課（室）は、必要に応じ関係地方機関を通じて所要の調査を行う。

エ 消防機関への通報が殺到した場合の報告

災害により、消防機関への通報が殺到した場合、その状況を市町（当該市町が消防の事務を処理する一部事務組合の構成市町である場合は、当該一部事務組合をいう。以下この項において同じ。）は、直ちに消防庁及び県に対し報告する。

この場合、即報の迅速性を確保するため、市町の消防部局から直接、電話、ファクシミリ等最も迅速な方法により報告するものとする。

オ 県に報告することができない場合の災害発生時の報告

市町が県に報告できない場合の災害発生時の報告先は、内閣総理大臣（消防庁経由）とする。

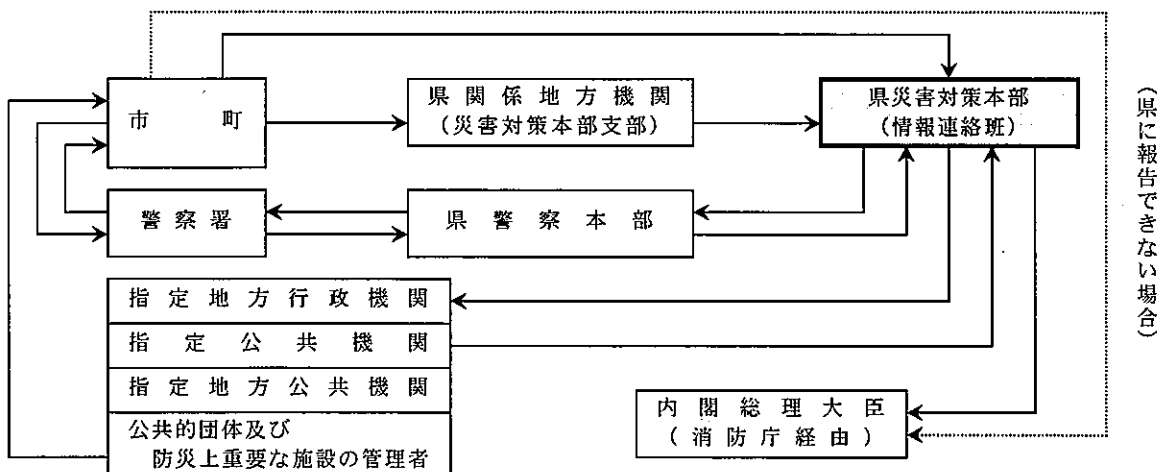
なお、県と連絡がとれるようになった後の報告については、県に対して行うものとする。

(2) 被害状況の報告及び通報

応急対策の実施及び災害復旧のため、関係法令等の規定により行う報告及び通報で、応急対策の実施及び復旧の措置を講ずるに必要な被害状況を把握することを主眼とする。

ア 伝達経路

被害状況報告及び通報は、次の経路により行う。（災害対策本部が設置されていない場合は、「県災害対策本部」は「危機管理監」と読み替える。）



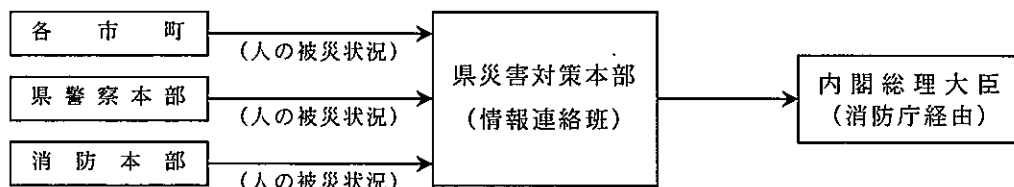
イ 被害状況の報告等

- (ア) 市町は、人的被害の状況（行方不明者の数を含む。）、建築物の被害状況及び火災、津波、土砂災害の発生状況等の情報を収集するとともに、被害規模に関する概括的情報を含め、把握できた範囲から直ちに県へ連絡するものとする。特に、行方不明者の数については、捜索・救助体制の検討等に必要の情報であるため、市町は、住民登録や外国人登録の有無にかかわらず、当該市町の区域（海上を含む。）内で行方不明となった者について、県警察等関係機関の協力に基づき正確な情報の収集に努めるものとする。また、行方不明者として把握した者が、他の市町に住民登録や外国人登録を行っていることが判明した場合には、当該登録地の市町村（外国人のうち、旅行者など外国人登録の対象外の者は外務省）又は都道府県に連絡するものとする。
- (イ) 災害発生直後については、県災対本部（災害対策本部を設置していない場合は危機管理監）は、市町等から収集した情報及び自ら把握した被害規模に関する概括的な情報を消防庁へ報告する。
- (ウ) 関係課（室）は、関係法令その他の規定に基づいて、市町、県関係地方機関から報告された被害の状況を取りまとめるとともに、前記（1）－ウの規定に基づき調査した結果を、速やかに（表2）による被害総括表に記入し、県災対本部（災害対策本部を設置していない場合は危機管理監）に報告する。
- (エ) 指定地方行政機関及び指定公共機関は、被害状況取りまとめのため、知事からその報告を依頼されたときは、これに協力する。
- (オ) 県災対本部（災害対策本部を設置していない場合は危機管理監）は、災害発生報告及び被害状況報告に基づき、（表2）により定期的に被害状況を取りまとめて、災害応急対策及び災害復旧に資する。
- (カ) 被害状況取りまとめの結果は、災害対策基本法第53条第2項の規定により内閣総理大臣（消防庁経由）に報告するほか、必要に応じて政府及び関係機関の援助を要請するための報告を行う。
- (キ) 県に報告することができない場合の被害状況の報告
市町が県に報告できない場合の被害状況の報告先は、内閣総理大臣（消防庁経由）とする。

なお、県と連絡がとれるようになった後の報告については、県に対して行うものとする。

(3) 人の被害についての即報

各市町、県警察本部及び各消防本部が、災害による人の被害についての情報を入手した場合は、広島県防災情報システム等を利用して、速やかに県災対本部（災害対策本部が設置されていない場合は危機管理監）に伝達する。



(表1)

災 害 発 生 報 告

() 県支部
() 市町

月 日 時 分 受信				13 火災の発生 状 況					
発信者 職氏名				14 交通途絶と なった路線					
受信者	情報連絡班	氏名		15 破堤溢水 した河川 海岸ため池					
1 調査 日時	月 日 時 分			16 そ の 他 の 被 害					
2 発生 場所									
人の被害	3 死 者	人	氏 名 (生年月日)		17 災 害 対 策 本 部 設 置	月 日 分 時			
	4 行 方 不 明 者	"	"	"		18 避 難 の 指 示 ・ 勧 告 状 況	地区名	避難場所	人員
	5 重 傷 者	"	"	"					人
	6 軽 症 者	"	"	"					
住家の被害	7 全 壊 (全焼・流出)	棟	世	人	災害に 対しと つて いる 措 置	19 消 防 職 員			人
	8 半 壊 (半焼)	"	"	"		20 消 防 団 員			"
	9 床 上 浸 水	"	"	"		21 警 察 官			"
	10 床 下 浸 水	"	"	"		22 そ の 他			"
						計		"	
非住家の被害	11 学 校 等 公 共 建 物					23 そ の 他 の 応 急 措 置			
	12 そ の 他								

(表2)

被害総括表

月		日		時		分		現在		() 県支部		() 市町			
被害区分		被害内容				被害区分		被害内容		被害額(千円)					
① 人の被害	ア 死者	人		氏名		④ 公共建物の被害	キ 幼稚園	公	棟						
	イ 行方不明者	"		"				私	"						
	ウ 重傷者	"		"			ク 専修学校 各種学校	公	"						
	エ 軽傷者	"		"				私	"						
② 住家の被害	ア 全壊 (全焼・流出)	()	棟	世帯	人	ケ 病院			"						
	イ 半壊(半焼)	()	"	"	"		コ 官公庁その他			"					
	ウ 一部破損	()	"	"	"	⑤ 神社・仏閣・ 文化財の被害				"					
	エ 床上浸水	()	"	"	"	⑥ 公共土木施設 の被害		ア 道路被害	か所						
	オ 床下浸水	()	"	"	"		イ 橋梁被害	橋							
③ 非住家の被害	ア 全壊 (全焼・流失)	公共建物		棟		ウ 河川被害			か所						
		その他		"			エ 砂防設備被害			"					
	イ 半壊(半焼)	公共建物		"		オ 地すべり防止施設被害			"						
		その他		"		カ 急傾斜地崩壊防止施設被害			"						
被害区分		被害内容		被害額(千円)		キ 治山施設被害			"						
④ 公共建物の被害	ア 小学校	公	か所												
		私	"												
	イ 中学校	公	"												
		私	"												
	ウ 高等学校	公	"												
		私	"												
	エ 大学	公	"												
		私	"												
オ 高等専門学校	"														
カ 特別支援学校	"														
						⑦ 農林水産施設 の被害	ア 流出・埋没	ha							
							田冠	水	"						
							イ 流出・埋没	"							
							畑冠	水	"						
							ウ 農道被害	か所							
						エ 溜池・水路被害	"								
						オ 頭首工被害	"								

被害区分		被害内容	被害額(千円)	被害区分	被害内容	被害額(千円)			
⑦ 農林水産施設の被害	力路面被害	か所		⑧ ヌその他	か所				
	橋梁被害	橋			り災世帯数	世帯			
	キ水産施設被害	か所			り災者数	人			
	クその他				被害総額	千円			
⑨ その他の被害	ア農産被害			⑩ 火災発生	ア建物	件			
	イ林産被害				イ危険物	〃			
	ウ水産被害				ウその他	〃			
	エ商工被害			災害対策本部設置	月 日 時 分				
	オ土石流	溪流			災害に 対して とった 措置	地区名	避難場所	世帯数	人数
	カ地すべり	か所							
	キがけ崩れ	〃							
	ク木材流出	m ³							
	ケ山林消失	ha							
	コ鉄軌道被害	か所							
	クシ沈没	隻							
	クシ流失	〃							
	クシ破損	〃							
	ス清掃施設被害	か所					合計		
	セ都市施設被害	〃				消防職員		人	
	ソ自然公園等施設被害	〃				消防団員		〃	
	タ工業用水道被害	〃				警察官		〃	
	チ水道施設被害	〃				その他		〃	
	ツ水道(断水)	〃				計		〃	
	テ電話(不通)	回線				その他			
ト電気(停電)	戸								
ナガス(停止)	〃								
ニブロック塀等被害	か所								

用語の定義

人の被害	死者	当該災害が原因で死亡し、死体を確認したもの、又は死体は確認できないが、死亡したことが確実な者とする。
	行方不明者	当該災害が原因で所在不明となり、かつ死亡の疑いのある者とする。
	重傷者	当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は受ける必要のある者のうち1か月以上の治療を要する見込みの者とする。
	軽傷者	当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は受ける必要のある者のうち1か月未満で治療できる見込みの者とする。
住家被害	住家	現実に居住のため使用している建物をいい、社会通念上の住家であるかどうかを問わない。
	全壊 (全焼・流出)	住家その居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち、住家全部が倒壊、流失、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失もしくは流失した部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が50%以上に達した程度のものとする。
	半壊(半焼)	住家その居住のための基本的機能の一部を喪失したもの、すなわち、住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもの、具体的には、損壊部分とその住家の延床面積20%以上70%未満のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が20%以上50%未満のものとする。
	一部破損	全壊及び半壊にいたらない程度の住家の破損で、補修を必要とする程度のものとする。ただし、ガラスが数枚破損した程度のごく小さなものは除く。
	床上浸水	住家の床より上に浸水したもの、及び全壊・半壊には該当しないが、土砂竹木のたい積により一時的に居住することができないものとする。
	床下浸水	床上浸水にいたらない程度に浸水したものとする。
	世帯	生計を一つにしている実際の生活単位とする。
非住家被害	非住家	住家以外の建物をいう。なお、官公庁、学校、病院、公民館、神社、仏閣などは非住家とする。ただし、これらの施設に、常時、人が居住しているときは、当該部分は住家とする。
	公共建物	官公庁、学校、病院、公民館、幼稚園等の公用又は公共の用に供する建物とする。
	その他	公共建物以外の倉庫、土蔵、車庫等の建物とする。
	※ 非住家被害は、全壊又は半壊の被害を受けたもののみを記入するものとする。	

公 共 土 木 施 設	公共土木施設	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法（昭和26年法律第97号）による国庫負担の対象となる施設とする。
	道路被害	高速自動車国道，一般国道，県道及び市町村道の一部が損壊し，車両の通行が不能となった程度の被害とする。
	橋梁被害	市町村道以上の道路に架設した橋の一部又は全部が流失し，一般の渡橋が不能となった程度の被害とする。
	河川被害	河川法（昭和39年法律第167号）が適用され，もしくは準用される河川もしくはその他の河川，又はこれらのものの維持管理上必要な堤防，護岸，水利，床止その他の施設もしくは沿岸を保全するために防護することを必要とする河岸の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	砂防設備被害	砂防法（明治30年法律第29号）第1条に規定する砂防設備，同法第3条の規定によって同法が準用される砂防のための施設又は同法第3条の2の規定によって同法が準用される天然の河岸の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	地すべり防止施設被害	地すべり等防止法にいう地すべり防止施設の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	急傾斜地崩壊防止施設被害	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律にいう急傾斜地崩壊防止施設の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	治山施設被害	公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法にいう林地荒廃防止施設（治山施設）の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	港湾施設被害	港湾法にいう港湾施設の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	漁港施設被害	漁港漁場整備法にいう漁港施設の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
農 林 水 産 業 施 設	海岸被害	海岸又は海岸施設の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	農林水産業施設	農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律（昭和25年法律第169号）による補助対象となる施設とする。
	田畑の流出埋没	田畑の耕土流失，砂利等のたい積，畦畔の崩壊等により耕作が不能になったものとする。
	田畑の冠水	植付作物の先端が見えなくなる程度に水につかったものとする。
そ の 他	溜池・水路被害	溜池及び水路の被害で，復旧工事を要する程度のものとする。
	農産被害	農林水産業施設以外の農産被害をいい，例えばビニールハウス，農作物等の被害とする。
	林産被害	農林水産業施設以外の林産被害をいい，例えば立木，苗木等の被害とする。
	水産被害	農林水産業施設以外の水産被害をいい，例えば，のり，漁具，漁船等の被害とする。

その他	商工被害	建物以外の商工被害で例えば工業原材料、商品、生産機械器具等とする。
	土石流	土石流危険渓流において土石流等が発生したもの又は土石流危険渓流以外において、土砂流出により、負傷者以上の人的被害、公共施設及び住宅に一部破損以上の被害を受けたもの及び被害を受けるおそれが生じたものとする。
	地すべり	地すべりが発生したものとする。
	がけ崩れ	急傾斜地崩壊危険箇所において斜面崩壊が発生したもの又は急傾斜地崩壊危険箇所以外において斜面崩壊が発生した場合で、がけ崩れにより、負傷者以上の人的被害、公共施設及び住宅に一部破損以上の被害を受けたものとする。
	鉄軌道被害	電車等の運行が不能となった程度の被害とする。
	船舶被害	ろ、かいのみをもって運転する舟以外の舟で、船体が没し、航行不能となったもの及び流失し、所在が不明になったもの、並びに修理しなければ航行できない程度の被害を受けたものとする。
	清掃施設被害	ごみ処理及びし尿処理施設の被害とする。
	都市施設被害	街路、公園等、下水道施設、都市排水施設で、地方公共団体の維持管理に属するものの被害とする。（維持管理に属することとなるものを含む。）
	自然公園等施設被害	自然公園法（昭和32年法律第161号）、広島県立自然公園条例及び広島県自然環境保全条例に定める施設等の被害で、施設利用が不能となった程度のものとする。
	水道（断水）	上水道又は簡易水道で断水している戸数のうち、最も多く断水した時点における戸数とする。
	電話（不通）	災害により通話不能となった電話の回線数のうち、最も多く通話不能となった時点における回線数とする。
	電気（停電）	災害により停電した戸数のうち、最も多く停電した時点における戸数とする。
	ガス（停止）	一般ガス事業又は簡易ガス事業で供給停止となっている戸数のうち、最も多く供給停止となった時点における戸数とする。
	ブロック塀等	倒壊したブロック塀又は石塀の箇所数とする。
その他	各項に該当しない被害とする。	
り災世帯	災害により全壊、半壊及び床上浸水の被害を受け、通常の生活を維持できなくなった生計を一にしている世帯とする。例えば寄宿舍、下宿その他これに類する施設に宿泊するもので、共同生活を営んでいるものについては、これを一世帯として扱い、また、同一家屋の親子、夫婦であっても、生活が別であれば分けて扱うものとする。	
り災者	り災世帯の構成員とする。	
被害総額	物的被害の概算額とする。（千円単位）	
火災発生	火災発生件数については、地震によるもののみ報告するものとする。	

第2項 通信運用計画

1 災害時の通信連絡の確保

災害時における通信連絡は、迅速かつ的確に行わなければならないので、次のような方法により確保する。

(1) 加入電話の非常申し込み

防災関係機関は、応急対策の実施等について緊急かつ特別の必要な場合は、NTT西日本に非常通話・非常電報の申込みを行うものとする。

区 分	応 答 先	申込みダイヤル番号
非常・緊急電話	情報案内センタ	「102」
非常・緊急電報	電報センタ	「115」

(優先利用の承認及び取扱い)

なお、前記の非常・緊急電話(非常・緊急電報)扱いを利用する発信電話は、「災害時優先電話」として、あらかじめNTT西日本に申込みを行い、承認を受けておくものとする。

優先扱い申込み先	申込みダイヤル番号
116センタ	「116」

※ 災害対策用電話について変更があった場合は、速やかにNTT西日本に変更を申込み、承認を受けておくものとする。

(特設公衆電話(無償)の要請)

災害救助法等が適用された場合等に、避難場所等に設置する無料電話をいう。

要 請 先	電 話 番 号
NTT西日本広島支店設備部災害対策室	082-505-4800

(臨時電話(有償)等の申込み)

30日以内の利用期間を指定して、加入電話の提供を受けるための契約電話(有料)をいう。

区 分	申 込 先	申込みダイヤル番号
臨時電話等	116センタ	「116」

※ 一般の電話申込みも、この番号。

臨時携帯電話の申込み先(有償)

臨時携帯電話の申込み先	電 話 番 号
ドコモ・ビジネスネット株式会社 モバイルレンタルセンタ	0120-680-100

(2) 専用電話、有線電気通信設備の利用

災害時において一般加入電話を利用することが困難な場合には、災害応急対策責任者は応急対策上必要な連絡のため、中国電力株式会社、西日本旅客鉄道(株)広島支社、広島県警察本部及びその他の機関の設置又は管理する有線通信施設を、その機関の業務に支障を与えない範囲において、基本法第57条及び第79条の規定により優先利用できるものとする。使用する際の手続きについてはその機関と協議して決める。

(3) 無線施設の利用

災害時において、有線通信施設を利用することができない場合に、人命の救助、災害の救援、災害情報の収集・伝達等応急活動に必要な通信手段として、災害対策本部と災害対策支部及び市町間をネットワークする広島県総合行政通信網を利用する。

更に必要とする場合は、中国地方非常通信協議会が策定した非常通信ルートをはじめ、関係機関の無線施設を利用する。

非常通信ルートの利用に当たっては、あらかじめマニュアル等を作成しておくものとする。

なお、アマチュア無線局は設置者も多く緊急時の連絡方法として重要であるので、市町の区域内のアマチュア無線の実態を把握し、その利用について協議しておく。

(4) 中央防災無線等の利用

県と総理官邸及び内閣府等を結ぶ中央防災無線、県と消防庁を結ぶ消防防災無線等を大規模災害時の情報連絡手段として利用する。

2 通信施設の応急復旧

被害を受けた通信施設の応急復旧は、施設の設置者が関係機関の協力を得て実施の責務を有する。

第4節 ヘリコプターによる災害応急対策

1 目的

大規模災害時においては、道路の損壊、建物や電柱の損壊により道路の通行が困難あるいは、孤立集落が生じることが予想されることから、県及び広島市は、ヘリコプターの特性を十分活用でき、かつ、その必要性が認められる場合において、ヘリコプターを積極的に活用した災害応急対策活動等を行う。

2 活動体制

県内の防災関係機関が所有するヘリコプターとしては、県の防災ヘリコプター、広島市の消防ヘリコプターのほか、県警察及び海上保安庁のヘリコプターがある。

また、大規模災害時には他の都道府県及び消防機関の消防・防災ヘリコプターによる応援を受けるものとする。

さらに、災害派遣要請により自衛隊のヘリコプターの支援を受けることができる。

これらのヘリコプターを有効に活用するために、関係機関は連携して、ヘリコプターによる応急対策活動が実施できるよう体制整備に努める。

3 活動内容

防災関係機関のヘリコプターについては、その特性を十分活用し、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 被災状況等の偵察、情報収集活動
- (2) 救急・救助活動
- (3) 救援隊・医師等の人員搬送
- (4) 救援物資・資機材等の搬送
- (5) 林野火災における空中消火
- (6) その他特にヘリコプターの活用が有効と認められる活動

4 活動拠点の確保

県及び市町は、ヘリコプターによる災害応急対策活動を円滑に行うため、次の各号に掲げる項目を実施する。

- (1) 関係機関と連携して災害拠点病院や防災活動の拠点となるその他の重要な施設に緊急輸送ヘリポートを計画的に整備する。
- (2) 緊急時に着陸できる臨時ヘリポートの適地を把握し、市町においては離着陸時の安全性を確保するための支援を行う。

5 安全運航体制の確保

- (1) 大規模災害時においては、応援ヘリコプターや報道ヘリコプター等多数のヘリコプターが被災地上空に飛来し、危険な状態となりやすいことから、二次災害防止のため、各ヘリコプター保有機関は連携して安全運航体制を確立する。
- (2) 被災地上空を飛ぶヘリコプターが、消防・防災ヘリコプター等が行う救助等の活動の支障となる場合は「災害時における救援航空機等の安全対策マニュアル」（国土交通省航空局平成8年1月26日制定）に基づき、被災地上空からの一時的な待避等について協力要請を行い、安全に活動できる体制を確保する。
- (3) ヘリコプター運航のための無線の周波数については、航空共通波又は飛行援助通信用周波数

を使用する。

- (4) ヘリコプターの離着陸時の安全確保のために地上支援要員を配置するなど安全運航体制を確立する。

6 県及び広島市の消防・防災ヘリコプターの運航

(1) 基本的な考え方

県と広島市は、各自が所有するヘリコプターの災害出動、点検時期等について相互に調整し、県内における安定した航空消防防災体制の確立を図る。

ア 可能な限り、常時1機は災害出動できる体制をとる。

イ 年間運航計画については、防災ヘリコプター、消防ヘリコプター各々の運航不能期間等を勘案しながら策定する。

ウ 災害出動に関する受付は、広島市消防局警防部警防課（通信指令室）が行い、他の都道府県への応援要請等は広島県危機管理監危機管理課が行う。

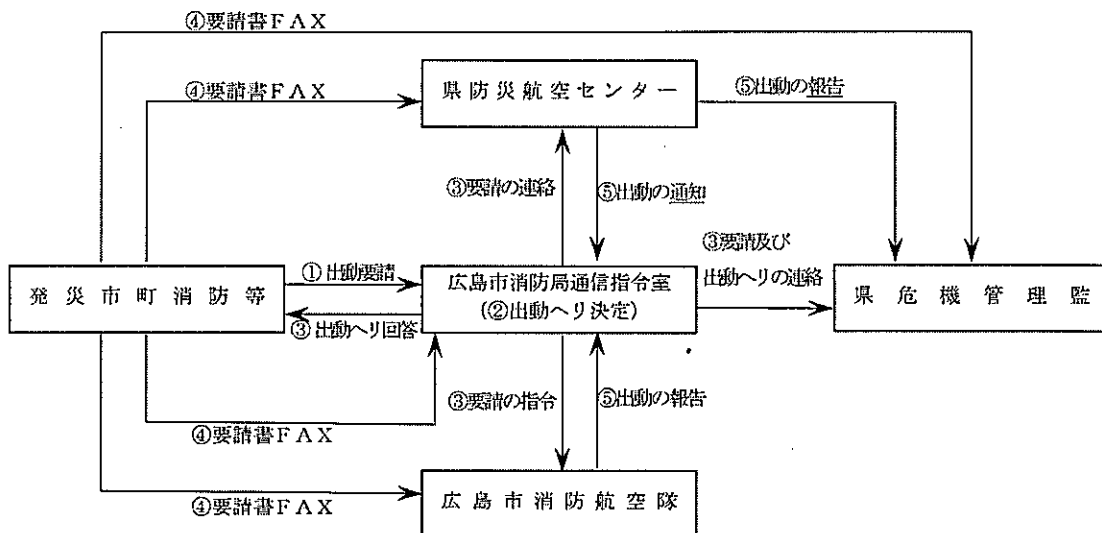
(2) 県内市町からの支援要請

ア 支援の原則

市町長（消防・一部事務組合を含む）から出動要請を受けた県及び広島市は、公共性、緊急性、非代替性を勘案し、ヘリコプターによる支援の有効性及び必要性が認められる場合に支援を行うものとする。

イ 要請方法

県及び広島市に対するヘリコプターの支援要請は次の図による。



7 各機関への出動要請

(1) 県警察

県は、地上からの災害状況の把握が困難な場合には、ヘリコプターテレビによる映像の配信を県警察へ要請する。

(2) 海上保安庁

県は、海上保安庁ヘリコプターによる応急対策活動が必要な場合には、第六管区海上保安本部へ出動を要請する。

(3) 自衛隊

県は、「第5節 自衛隊災害派遣計画」に基づき要請する。

(4) 他の都道府県及び消防機関の応援ヘリコプター





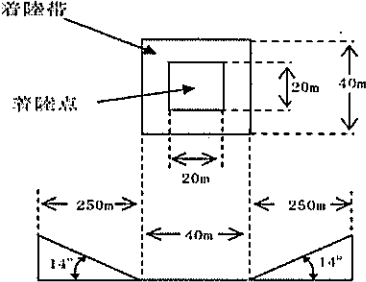

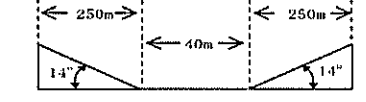

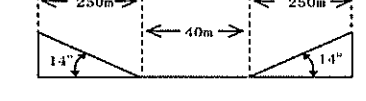
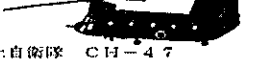
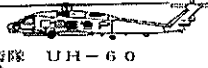

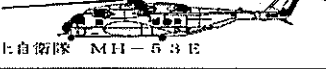
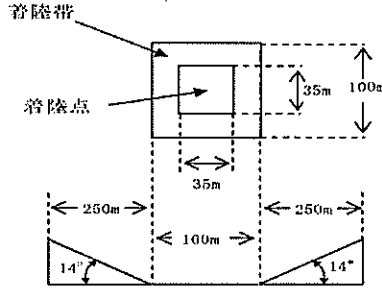
県及び市町は、「大規模特殊災害時における広域航空消防応援実施要綱（総務省消防庁）」、「全国都道府県における災害時の広域応援に関する協定（平成8年7月18日締結）」等に基づいて応援要請する。

また、県は「緊急消防援助隊運用要綱（総務省消防庁）」等に基づき、消防庁長官に対し、応援要請する。

8 臨時ヘリポートの設定

(1) 臨時ヘリポートの設定基準

臨時ヘリポートの設定基準（地積）は、次のとおりである。

区分	消防・防災ヘリコプター 警察、海上保安庁ヘリコプター	設定基準（地積）
中型	 広島県防災航空隊 ベル412EP  広島市消防航空隊 AS365N3  広島県警察航空隊 A109E  海上保安庁広島航空基地 ベル412	
小型	自衛隊ヘリコプター  陸上自衛隊 OH-6	
中型	 陸上自衛隊 UH-1	
大型	 陸上自衛隊 CH-47  海上自衛隊 UH-60  海上自衛隊 MCH-101  海上自衛隊 MH-53E	

(2) 臨時ヘリポートの準備

災害派遣要請をした関係機関は、次の事項に留意して受入れ体制に万全を期すこと。

ア 離着陸時の風圧により巻き上げられる危険性のあるものを撤去し、砂じんの舞い上がるおそれがあるときは、十分に散水しておく。

また、積雪時は除雪又は圧雪しておく。

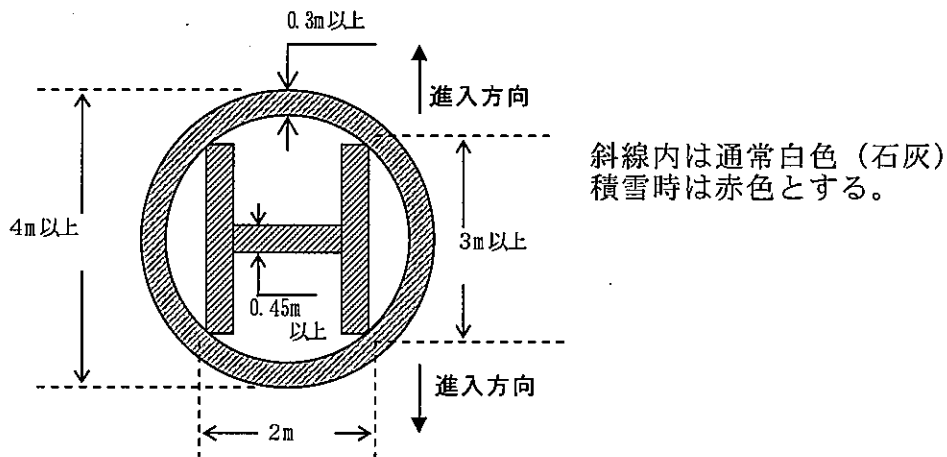
イ 離着陸時は、安全確保のために関係者以外の者を接近させないようにする。

ウ 臨時ヘリポートにおける指揮所、物資集積場所等の配置については、地理的条件に応じた機能的配置を考慮するとともに、事前に派遣部隊等と調整をすること。

エ 風向風速を上空から確認判断できるように、臨時ヘリポート近くに吹き流し又は旗をたてる。

これが準備できない場合でも航空機の進入方向を示す発煙筒を焚く。

オ 着陸地点には次図を標準とした $\textcircled{\text{H}}$ を表示する。



カ 物資を空輸する場合は、物資計量のための計量器を準備する。

キ 臨時ヘリポートの使用に当たっては、災害対策本部（危機管理監）及び施設等管理者に連絡すること。

(3) 臨時ヘリポートを選定する際は、避難場所及び避難所との競合をさけることとする。

第5節 災害派遣・広域的な応援体制

第1項 自衛隊災害派遣要請計画

1 目的

この計画は、自衛隊法第83条の規定に基づき、知事、第六管区海上保安本部長及び広島空港長（以下「要請者」という。）が行う自衛隊の災害派遣要請について必要事項を定めることを目的とする。

2 災害派遣要請の基準

自衛隊の派遣要請は、災害が発生し、又はまさに発生しようとしているとき、指定地方行政機関、地方公共団体、及び指定地方公共機関等の防災能力をもってしては、防災上十分な効果が得られない場合、その他特に要請者が必要と認める場合に行う。

なお、陸上自衛隊第13旅団長及び海上自衛隊呉地方総監等は、自衛隊法第83条及び基本法第68条の2の規定により、要請者から部隊等の派遣要請があり、事態やむを得ないと認める場合、又はその事態に照らし特に緊急を要し、要請を待ついとまがないと認められる場合は、速やかに部隊等を派遣して、災害救助活動を実施する。

3 災害派遣要請の対象となる応急対策の範囲

- (1) 被害状況の把握及び通報
- (2) 遭難者等の捜索・救助
- (3) 消 防
- (4) 水 防
- (5) 人員及び救援物資の緊急輸送
- (6) 道路及び水路の啓開
- (7) 応急の医療、救護、防疫
- (8) 炊飯及び給水
- (9) 救援物資の無償貸付又は譲与
- (10) 危険物の保安及び除去

4 災害派遣を命ぜられた部隊等の自衛官の権限

災害派遣を命ぜられた部隊等の自衛官は、災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、市町長等、警察官及び海上保安官がその場にいない場合に限り、次の市町長の職権を行うことができる。

この場合において、当該市町長の職権を行ったときは、直ちにその旨を市町長に通知しなければならない。

- (1) 警戒区域の設定、立ち入り制限・禁止、退去命令
- (2) 当該市町の区域内の他人の土地等の一時使用等
- (3) 現場の被災工作物等の除去等
- (4) 当該市町の区域内の住民等を応急措置の業務に従事させること。

5 災害派遣要請の手続

- (1) 要請に当たっては、自衛隊法施行令（昭和29年政令第179号）第106条の規定に基づき、所定事項を記載した文書によって要請するものとする。ただし、緊急を要するときは、

電話等迅速な方法で行い、文書の提出はその後において行うことができる。

要請文書には、次の事項を記載する。

- ア 災害の情况及び派遣を要請する事由
- イ 派遣を希望する期間
- ウ 派遣を希望する区域及び活動内容
- エ その他参考となるべき事項

(2) 派遣要請先、要請者連絡先及び連絡方法

ア 要請先及び連絡方法

(ア) 陸上自衛隊第13旅団長

陸上自衛隊第13旅団司令部 安芸郡海田町寿町2-1

第3部(防衛班)

電話 082-822-3101 内線2410

(夜間・土日・祝日等)内線2440(当直幕僚)

(イ) 海上自衛隊呉地方総監

海上自衛隊呉地方総監部防衛部 呉市幸町8-1

オペレーション

電話 0823-22-5511 内線2823, 2222(当直)

(ウ) 航空自衛隊西部航空方面隊司令官

航空自衛隊西部航空方面隊 福岡県春日市原町3-1-1

司令部防衛部運用課

電話 092-581-4031 内線2348

(課業時間外)内線2203(SOC当直)

イ 要請者連絡先及び連絡方法

(ア) 広島県危機管理監危機管理課 広島市中区基町10-52

電話 082-228-2111 内線2783~2786

(直通)082-511-6720

082-228-2159

(イ) 第六管区海上保安本部 広島市南区宇品海岸三丁目10-17

電話 082-251-5111 内線3271~3275

(直通)082-251-5115, 5116(当直)

(ウ) 大阪航空局広島空港事務所 三原市本郷町善入寺字平岩64-34

電話 0848-86-8650

(3) 災害派遣要請の要求等

ア 市町長は、応急措置を実施するため必要があると認めるときは、知事に自衛隊の災害派遣の要請をするよう求めることができる。

イ 市町長は、上記アの要求ができない場合には、その旨及び災害の状況を防衛大臣又はその指定するもの(陸上自衛隊第13旅団長、海上自衛隊呉地方総監等)に通知することができる。この場合において、当該通知を受けた防衛大臣等は、その事態に照らし特に緊急を要し、要請を待ついとまがないと認められるときは、自主派遣をすることができる。

ウ 市町長は、上記イの通知をしたときは、速やかに県知事に通知しなければならない。

6 災害情報の連絡

災害情報の交換は、本計画第3章第3節第1項3「災害情報の収集伝達」の定めるところにより行う。

7 災害地における調整

要請者は自衛隊が要請の趣旨にそってその業務が円滑に実施できるよう、災害地における災害応急対策責任者相互間の業務の調整、応急対策実施箇所の調整、その他必要な事項について所要の措置をとる。

8 災害派遣部隊の受入れ

- (1) 自衛隊の災害派遣が決定したときは、要請者は、関係市町又は関係機関の長に、派遣部隊の受入れ体制を整備させるとともに、必要に応じて派遣部隊と関係市町又は関係機関との連絡に当たる職員を現地に派遣する。
- (2) 災害派遣を依頼した市町又は関係機関の長は、派遣部隊の受入れに必要な次の事項について万全を期すこととする。

ア 派遣部隊到着前

- (ア) 市町又は関係機関における派遣部隊等の受入れ担当連絡部署（職員）の指定及び配置（平常時からの指定及び配置を含む。）
- (イ) 派遣部隊指揮所及び連絡員が市町及び関係機関と緊密な連絡をとるに必要な適切な施設（場所）の提供
- (ウ) 派遣部隊の宿营地及び駐車場等の準備（平常時から宿营地候補の検討を含む。）
- (エ) 派遣部隊が到着後速やかに救援目的の活動を開始できるよう、必要な資機材等の準備
- (オ) 臨時ヘリポートの設定（第3章第4節ヘリコプターによる災害応急対策計画による。）

(カ) 船艇が使用できる岸壁の準備

イ 派遣部隊到着後

- (ア) 派遣部隊を迅速に目的地に誘導する。
- (イ) 他の関係機関の救援活動との重複を避け、最も効果的な救援活動が分担できるよう、派遣部隊指揮官と協議する。
- (ウ) 派遣部隊指揮官、編成装備、到着日時、活動内容及び作業進捗状況等を知事等に報告する。

9 派遣に要する経費の負担

部隊等が派遣された場合、次の各号に掲げる経費は自衛隊において負担し、それ以外の経費は、それぞれの災害応急対策責任者の負担とする。

- (1) 部隊の輸送費（民間の輸送力（フェリー等を含む。）を利用する場合及び有料道路の通行を除く。）
- (2) 隊員の給与
- (3) 隊員の食糧費
- (4) その他の部隊に直接必要な経費

10 災害派遣部隊の撤収要請

- (1) 要請者は、自衛隊の派遣の必要がなくなると認めた場合は、自衛隊の撤収を要請する。
- (2) 災害派遣命令者は、前項の要請があった場合又は派遣の必要がなくなると認める場合は、速やかに部隊等の撤収を命ずる。

第2項 相互応援協力計画

1 方針

大規模災害が発生し、被害が広範囲に及び、各防災関係機関のみでは十分な応急措置ができない場合、他の防災関係機関や他の都道府県等の協力を得て応急措置を実施する。

2 実施内容

市町、県、県警察、防災関係機関は必要に応じて、他の機関に協力を要請し、応急措置等を迅速かつ円滑に遂行する。

(1) 市町

ア 知事等に対する応援要請

市町長は、当該市町の災害応急対策を実施するため必要があると認めるときは、県に対し、原則として次の事項を示し、応援を求め、又は災害応急対策の実施を要請する。なお、原則として文書により行うこととするが、そのいとまのないときは、口頭又は電話等、迅速な方法で行い、事後速やかに文書を提出する。

- (ア) 災害の状況及び応援を必要とする理由
- (イ) 応援を必要とする職種別人員
- (ウ) 応援を必要とする資機材、物資等の品名・数量等
- (エ) 応援を必要とする場所及び応援場所への経路
- (オ) 応援を必要とする期間
- (カ) その他必要な事項

イ 他の市町長に対する応援要請

市町長は、当該市町の災害応急対策を実施するため必要があると認めるときは、県内全市町による災害時の相互応援に関する協定等に基づき他の市町長に応援を求める。

応援を求められた市町長は、県が行う市町間の調整に留意するとともに必要な応援を行う。

(2) 県

ア 他の都道府県に対する応援要請

知事は、災害応急対策を実施するため必要があると認めるときは、災害時の相互応援に関する協定（全国都道府県における災害時の広域応援に関する協定中国五県災害等発生時の広域支援に関する協定、中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定）に基づき応援を要請する。

イ 市町に対する応援

(ア) 知事は、県内において大規模災害が発生した場合、直ちに、被災した市町の災害対策本部に連絡員を派遣して情報を収集し、市町から災害応急対策を実施するための応援を求められた場合又は応援を行う必要が認められる場合は、県の災害応急対策の実施との調整を図りながら、必要な支援を行う。

(イ) 知事は、被災市町の行う災害応急対策の的確かつ円滑な実施を確保するため、他の市町長に対し、原則として次の事項を示して被災市町の災害応急対策の実施状況を勘察しながら、被災市町に対する応援について必要な指示又は調整を行う。

- a 災害の状況及び応援を必要とする理由
- b 応援を必要とする職種別人員
- c 応援を必要とする資機材、物資等の品名・数量等
- d 応援を必要とする場所及び応援場所への経路
- e 応援を必要とする期間

f その他必要な事項

ウ 指定行政機関等に対する災害応急対策の実施の要請

知事は、県内における災害応急対策が的確かつ円滑に行われるようにするため、必要があると認めるときは、原則として次の事項を明らかにして、指定行政機関の長若しくは指定地方行政機関の長に対し応急措置の実施を要請する。なお、原則として文書により行うこととするが、そのいとまのないときは、口頭又は電話等、迅速な方法で行い、事後速やかに文書を提出する。

- (ア) 災害の状況及び応援を必要とする理由
- (イ) 応援を必要とする職種別人員
- (ウ) 応援を必要とする資機材、装備、物資等の品名・数量等
- (エ) 応援を必要とする場所及び応援場所への経路
- (オ) 応援を必要とする期間
- (カ) その他必要な事項

エ 緊急消防援助隊等消防の応援

知事は、大規模災害により、県内の市町の消防力をもって対応できないと認めるときは、消防庁長官に対し、緊急消防援助隊等消防の応援を要請する。

総務省消防庁

区 分		平日 (9:30~18:15) ※応急対策室	左 記 以 外 ※ 宿 直 室
N T T回線	電 話	03-5253-7527	03-5253-7777
	F A X	03-5253-7537	03-5253-7553
消防防災無線	電 話	7-90-49013	7-90-49101~49103
	F A X	7-90-49033	7-90-49036
地域衛星通信 ネットワーク	電 話	77-048-500-90-49013	77-048-500-90-49101~49103
	F A X	77-048-500-90-49033	77-048-500-90-49036

(3) 県警察

県公安委員会は、県内警備力を持って災害に対処することができない場合、警察庁又は他の都道府県警察に対し、警察災害派遣隊等の援助要請を行う。

(4) 第六管区海上保安本部

関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、海上における災害応急対策の実施に支障を来さない範囲において、陸上における救助・救急活動等について支援するほか、次に掲げる支援活動を実施する。この場合、応急医療能力及び宿泊能力を強化した災害対応型巡視船の活用について配慮する。

ア 医療活動場所の提供について要請があったときは、医務室を設備しているヘリコプター搭載型巡視船等を当たらせる。

イ 災害応急対策の従事者の宿泊について要請があったときは、ヘリコプター搭載型巡視船等を当たらせる。

(5) 防災関係機関

ア 防災関係機関の長は、当該防災関係機関の災害応急対策を実施するため必要があると認めるときは、県に対し、原則として次の事項を示し応援を求め、又は市町若しくは他の防災関係機関の応援のあっ旋を依頼する。なお、原則として文書により行うこととするが、そのいとまのないときは、口頭又は電話等、迅速な方法で行い、事後速やかに文書を提出する。

- (ア) 災害の状況及び応援を必要とする理由
- (イ) 応援を必要とする機関名（あつ旋を求める場合）
- (ウ) 応援を必要とする職種別人員
- (エ) 応援を必要とする資機材，装備，物資等の品名・数量等
- (オ) 応援を必要とする場所及び応援場所への経路
- (カ) 応援を必要とする期間
- (キ) その他必要な事項

イ 防災関係機関相互の協力

- (ア) 各機関は，他の機関から応援を求められた場合は，自らの災害応急対策の実施に支障のない限り，協力又は便宜を供与する。
- (イ) 各機関の協力業務の内容は，「防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱」に定める範囲とする。
- (ウ) 各機関相互の協力が円滑に行われるよう，事前に協議を行っておく。
- (エ) 県は，各機関の間で相互協力のあつ旋をする。

(6) 相互応援協定等の締結

各防災関係機関は，災害時における相互応援を円滑に実施するため，あらかじめ他の関係機関と相互応援に関する協定などを締結するとともに，共同訓練の実施やその他円滑に相互応援を実施するために必要な措置及び，平常時から担当部署の指定，体制の整備などに努めるものとする。

(7) 応援要員の受入体制

防災関係機関が災害応急対策を実施するに際して，各機関が県外から必要な応援要員等を導入した場合，知事及び受入れ先の市町長は，これらの要員や資機材のための宿泊施設，駐車場等について，各機関の要請に応じて可能な限り，準備，あつ旋する。

第3項 防災拠点に関する計画

1 方針

この計画は、地震発生時における災害対策活動の拠点施設を整備し、救援物資の輸送及び救援部隊集結のための拠点を指定配置するに当たり、必要な事項を定めるものとする。

2 広島県防災拠点施設

(1) 施設の機能

ア 食料、生活必需品、防災資機材の備蓄拠点機能

災害に備え、被災者用物資として毛布や非常食料など、また、救助用資機材としてパールやハンマーなどを備蓄する。

イ 救援物資の集積・搬送拠点機能

災害時に県内外から寄せられる大量の救援物資を集積し被災地へ搬送する。

ウ 救援部隊の集結・後方支援拠点機能

災害時には遠隔地からの救援部隊の集結場所となる。また、救援部隊の待機・休息スペースを確保する。

エ 防災航空センター機能

ヘリコプターによる消防防災活動を実施する防災航空センターを整備。

なお、大規模災害時には、他の防災関係機関からの応援ヘリが飛来することが想定されるため、応援ヘリの駐機、格納のためのスペースを確保する。

オ 災害対策本部代替拠点機能

地震・津波災害等により、県庁舎が使用できない場合に、災害対策本部として活動ができる機能を確保する。

(2) 施設の特徴

ア 備蓄倉庫、防災広場と防災航空センターを一体的に整備しているため、救援物資の緊急輸送の即応が可能である。

イ 県中央に位置し、広島空港に隣接しているため、県内各地へ短時間で物資の搬送が可能である。

(3) 施設の管理運営

区分	内容	管理運営
平常時	・防災に関する広報啓発 ・備蓄資機材等の管理 等	危機管理監， 防災航空センター， 健康福祉局
	・防災ヘリコプターの運航	防災航空センター
災害発生時	・災害対策本部との連絡調整 ・備蓄物資搬入・搬出作業 ・救援物資の仕分け・一時保管作業 ・応援要員・ボランティア受入等	災害対策本部実施部防災拠点班 (危機管理監，健康福祉局等)
	・防災ヘリコプターの運航	災害対策本部実施部防災航空班
	【本部設置時】 ・災害対策本部事務局事務 (詳細は災害対策運営要領で定める)	災害対策本部事務局

(4) 施設の概要

施設名称	広島県防災拠点施設		
場 所	〒729-0416 三原市本郷町善入寺94-22		
連絡先	0848-86-8931 (TEL) 0848-86-8932 (#) 0848-86-8933 (FAX)		
敷地面積	約24,918㎡		
構 成 施 設 等	※ 備蓄倉庫棟	鉄骨造1階建て 床面積4,482㎡	物資の備蓄 救援物資の集積・搬送
	主な 備蓄物資	食 料 品：乾パン，粉ミルク，離乳食，アルファ化米 生活必需品：毛布，紙おむつ（幼児用，成人用），生理用品，簡易トイレ（凝固剤，収納袋） 防災資機材：【被災地用】 ビニールシート，一輪車，バール，ハンマー，のこ， 金てこ，RCバール，救助ロープ，防塵メガネ，防塵マスク， ケプラー手袋，絶縁ボルトクリッパー，油圧ジャッキ 【仕分け作業用】 畳（緊急畳），毛布（真空パック），ビニールシート，投光器， コードリール，ヘルメット，軍手，雨具，（2間×4間），発電機，リヤカー	
	※ 管 理 棟	鉄骨造2階建て 床面積約1,883㎡	防災航空センター事務室，会議室， 防災室，多目的室
	ヘリ格納庫		防災ヘリコプター格納庫
	防災広場	約8,500㎡	救援物資の仕分け作業スペース 救援部隊の集結スペース
駐 車 場	約2,800㎡	防災活動用の駐車場	

※ 免震構造（特殊ゴム等で構成される免震装置により地震時の建築物の揺れを小さくする構造）

3 救援拠点

(1) 拠点の指定及び開設

防災拠点施設を補完し，被災地における災害対策活動を迅速かつ効果的に実施するため，県は，既存の公園や体育館等の施設をあらかじめ救援拠点として指定し，災害発生時に必要に応じて開設する。

ア 救援物資輸送拠点

県外から送られてくる大量の救援物資の受け入れ及び搬送のための拠点とする。

イ 救援部隊集結拠点

倒壊家屋等からの救出活動を迅速かつ効率的に行うための救援部隊の集結拠点とする。

(2) 配置計画

ア 救援物資輸送拠点

種 類	施 設	対象地域	箇所数
陸上対応	① 救援物資搬入 ② 救援物資一次保管用建屋 ③ 臨時ヘリポート用広場 ④ その他(会議室, 仮眠室等)	西 部	3箇所
		中 央 部	1箇所
		東 部	2箇所
		北 部	1箇所
		計	7箇所
海上対応	① 輸送船接岸用バース ② 救援物資搬入・搬出用広場 ③ 救援物資一時保管用建屋 ④ 臨時ヘリポート用広場 ⑤ その他(会議室, 仮眠室等)	広 島 港	3箇所
		呉 港	3箇所
		竹 原 港	1箇所
		大 西 港	1箇所
		尾道糸崎港	2箇所
		福 山 港	1箇所
		計	11箇所
合 計			18箇所

イ 救援部隊集結拠点

種 類	施 設	配置場所	箇所数
警 察	① 救援部隊集結用広場 ② その他(会議室, 仮眠室等)	広 島 市 周 辺	5箇所 (各1箇所)
消 防		呉 市 周 辺	
自 衛 隊		尾 道 市 周 辺	5箇所 (各1箇所)
	福 山 市 周 辺		
		三 次 市 周 辺	5箇所 (各1箇所)

(3) 拠点施設の運営

ア 救援物資輸送拠点

市町, ボランティア, 広島県トラック協会等の協力を得て県が運営する。

イ 救援部隊集結拠点

救援部隊である警察, 消防, 自衛隊において, 独自に計画運営を行う。

第6節 救助・救急、医療及び消火活動

第1項 救難計画

1 目的

この計画は、災害時における救出、救護、その他人の生命、身体、財産の保護及び遺体に対する措置について必要な事項を定めることを目的とする。

2 陸上災害救難

(1) 実施責任者

実施責任者	実施の範囲	法令名
県警察 消防機関	災害により住民の生命、身体、財産に危険が迫った場合、危機状態からの救出	警察法第2条 警察官職務執行法第4条 消防組織法第1条
警察官	災害による遺体の見分	死体取扱規則第4条
知事	被災者の救出 遺体の搜索、処理、埋葬及び障害物の除去	災害救助法第2条、第23条、第30条 災害救助法施行細則第1条 災害救助法第2条、第23条、第30条
市町長	災害時における身元不明、原因不明の遺体の 取扱い	行旅病人及び行旅死亡人取扱法第2条

(2) 実施方法

ア 被災者の救出

(ア) 通常の場合

市町長が救難責務を有するが直接の救出は消防機関、県警察がこれに当たる。

この場合、市町長は救出担当機関と密接な連携を保ち救出作業が円滑に行われるよう配慮する。

(イ) 災害救助法を適用した場合

知事は、市町長を補助者として消防機関、警察等関係者の協力により救出に当たる。

なお、知事が市町長に実施を委任したときは、市町長が実施責任者となり救出を行う。

イ 遺体の搜索、収容、処理、埋葬等

(ア) 遺体の搜索

知事は災害救助法を適用した場合、市町長を補助者として消防機関、その他の関係者の協力のもとに災害救助法施行細則の適用基準に従い搜索を行う。

なお、知事が市町長に実施を委任したときは、市町長が実施責任者となり遺体の搜索を行う。

(イ) 遺体の収容、処理、埋葬

a 知事が行う措置

(a) 災害救助法による措置

知事は、災害救助法施行細則の適用基準にしたがい、保護者、引取人のない遺体について、市町長を補助者として遺体の措置を行う。

(b) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による措置

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第30条により遺体の移動制限及び禁止、埋葬の許可を行う。

b 市町長が行う措置

災害救助法が適用された場合において、知事が市町長に実施を委任したときは、市町長が実施責任者となり遺体の収容、処理、埋葬を行う。

また、災害時における身元不明、原因不明の遺体については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法の規定により措置する。

c 県警察の行う措置

警察官は、死体取扱規則により遺体を見分するとともに、遺体、身元の調査など所要の措置を行う。

ウ 障害物の除去

知事は災害救助法を適用した場合、災害救助法施行細則に定める適用基準により被災者の日常生活に著しい障害を及ぼすものを除去する。

また、知事が除去の実施を市町に委任した場合は、市町長がこれを実施する。

3 海上救難

(1) 実施責任者

実施責任者	実施の範囲	法令名
第六管区 海上保安本部	海難の際の人命、積荷及び船舶の救助並びに天災地変その他救済を必要とする場合の援助	海上保安庁法第2条、第5条
県警察 消防機関	災害により住民の生命、身体、財産に危険が迫った場合、危機状態からの救出	警察法第2条 警察官職務執行法第4条 消防組織法第1条
知事（災害救助法 施行令により知事 が実施を指示した 場合は市町長）	被災者の救出 遺体の捜索、処理、埋葬及び障害物の除去	災害救助法第2条、第23条、第30条 災害救助法施行細則第1条 災害救助法第2条、第23条
市町長	市町長の区域の地先海面における海難の救助 急救難	水難救護法第1条

(2) 実施方法

ア 第六管区海上保安本部

第六管区海上保安本部は、自己の防災業務計画により、次の救助対策を実施する。

(ア) 災害応急対策

a 警報等の伝達

船舶等に対する警報等の伝達は、次により行うものとする。

(a) 気象、津波、高潮、波浪等に関する警報及び災害に関する情報の通知を受けたときは、地域航行警報、標識の掲揚並びに船艇及び航空機による巡回等により直ちに周知するとともに、必要に応じて関係事業者にも周知する。

(b) 航路障害物の発生、航路標識の異状等船舶交通の安全に重大な影響を及ぼす事態の発生を知ったとき又は船舶交通の制限若しくは禁止に関する措置を講じたときは、速やかに地域航行警報を行うとともに、必要に応じて六管区水路通報により周知する。

(c) 大量の油等の流出、放射性物質の放出、高圧ガスの漏出、火薬等の爆発等により、船舶、水産資源、公衆衛生等に重大な影響を及ぼすおそれのある事態の発生を知ったときは、地域航行警報並びに船艇及び航空機における巡回等により速やかに周知する。

b 情報の収集

次に掲げる事項に関し、関係機関等と密接な連絡をとるとともに、船艇、航空機等を活用し、積極的に情報収集活動を実施するものとする。

- (a) 海上及び沿岸部における被害状況
 - ・ 被災地周辺海域における船舶交通の状況
 - ・ 被災地周辺海域における漂流物等の状況
 - ・ 船舶，海洋施設，港湾施設等の被害状況
 - ・ 石油コンビナートの被害状況
 - ・ 水路，航路標識の異状の有無
 - ・ 港湾等における避難者の状況
 - (b) 陸上における被害状況（船艇及び航空機による情報収集活動の実施においては，（a）の情報収集の実施その他海上における災害応急対策の実施に支障を来さない範囲において行うものとする。）
 - (c) 震源域付近海域における海底地形変動等の状況
 - (d) 関係機関等の対応状況
 - (e) その他発災後の応急対策の実施上必要な事項
- c 海難救助等
- 海難救助等を行うに当たっては，災害の種類，規模等に応じて合理的な計画を立て，次に掲げる措置を講ずるものとする。
- その際，救助・救急活動において使用する資機材については，原則として携行するものとするが，必要に応じて民間の協力等を求めることにより，必要な資機材を確保し，効率的な救助・救急活動を行うものとする。
- (a) 船舶の海難，人身事故等が発生したときは，速やかに船艇，航空機又は特殊救難隊等によりその捜索活動を行う。
 - (b) 船舶火災又は海上火災が発生したときは，速やかに巡視船艇，特殊救難隊又は機動防除隊によりその消火を行うとともに，必要に応じて地方公共団体に協力を要請する。
 - (c) 危険物が排出されたときは，その周辺海域の警戒を厳重にし，必要に応じて火災の発生防止，航泊禁止措置又は避難勧告を行う。
- d 緊急輸送
- 傷病者，医師，避難者等又は救援物資等の緊急輸送については，必要に応じ，又は要請に基づき，迅速かつ積極的に実施するものとする。
- 輸送対象の想定は次のとおりとする。
- (a) 第1段階・・・避難期
 - ・ 救助・救急活動及び医療活動の従事者並びに医薬品等人命救助に要する人員及び物資
 - ・ 消防，水防活動等災害拡大防止のための人員及び物資
 - ・ 政府災害対策要員，地方公共団体災害対策要員，情報通信，電力，ガス施設保安要員等初動の応急対策に必要な要員等
 - ・ 負傷者等の後方医療機関への搬送
 - ・ 緊急輸送に必要な輸送施設，輸送拠点の応急復旧，交通規制等に必要な人員及び物資
 - (b) 第2段階・・・輸送機能確保期
 - ・ 上記（a）の続行
 - ・ 食糧，水等生命の維持に必要な物資
 - ・ 傷病者及び被災者の被災地外への輸送
 - ・ 輸送施設の応急復旧等に必要な人員及び物資
 - (c) 第3段階・・・応急復旧期

- ・ 上記（b）の続行
 - ・ 災害復旧に必要な人員及び物資
 - ・ 生活必需品
- e 危険物の保安措置
- 危険物の保安については、次に掲げる措置を講ずるものとする。
- (a) 危険物積載船舶については、必要に応じて移動を命じ、又は航行の制限若しくは禁止を行う。
- (b) 危険物荷役中の船舶については、荷役の中止等事故防止のために必要な指導を行う。
- (c) 危険物施設については、危険物流出等の事故を防止するために必要な指導を行う。
- f 物資の無償貸付又は譲与
- 物資の無償貸付若しくは譲与について要請があったとき又はその必要があると認めるときは、「国土交通省所管に属する物品の無償貸与及び譲与に関する省令」（平成18年国土交通省令第4号）に基づき、海上災害救助用物品を被災者に対して無償貸付けし、又は譲与する。
- g 関係機関及び地方公共団体の災害応急対策の実施に対する支援
- 関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、海上における災害応急対策の実施に支障を来さない範囲において、陸上における救助・救急活動等について支援するほか、次に掲げる支援活動を実施するものとする。この場合、応急医療能力及び宿泊能力を強化した災害対応型巡視船の活用について配慮するものとする。
- (a) 医療活動場所の提供について要請があったときは、医務室を設備しているヘリコプター搭載型巡視船等を当たらせる。
- (b) 災害応急対策の従事者の宿泊について要請があったときは、ヘリコプター搭載型巡視船等を当たらせる。
- h 海上交通安全の確保
- 海上交通の安全を確保するため、次に掲げる措置を講ずるものとする。
- (a) 船舶交通のふくそうが予想される海域においては、必要に応じて船舶交通の整理、指導を行う。この場合、緊急輸送を行う船舶が円滑に航行できるよう努める。
- (b) 海難の発生その他の事情により、船舶交通の危険が生じ、又は生ずるおそれがあるときは、必要に応じて船舶交通を制限し、又は禁止する。
- (c) 海難船舶又は漂流物、沈没物その他の物件により船舶交通の危険が生じ、又は生ずるおそれのあるときは、速やかに必要な応急措置を講ずるとともに、船舶所有者等に対し、これらの除去その他船舶交通の危険を防止するための措置を講ずべきことを命じ、又は勧告する。
- (d) 船舶交通の混乱を避けるため、災害の概要、港湾・岸壁の状況、関係機関との連絡手段等、船舶の安全な運航に必要と思われる情報について、無線等を通じ船舶への情報提供を行う。
- (e) 水路の水深に異状を生じたと認められるときは、必要に応じて検測を行うとともに、応急標識を設置する等により水路の安全を確保する。
- (f) 航路標識が損壊し、又は流失したときは、速やかに復旧に努めるほか、必要に応じて応急標識の設置に努める。
- i 警戒区域の設定
- 人の生命又は身体に対する危険を防止するため特に必要が認められるときは、基本法第63条第1項及び第2項の定めるところにより、警戒区域を設定し、船艇及び航空機

等により船舶等に対し、区域外への退去及び入域の制限又は禁止の指示を行うものとする。

また、警戒区域を設定したときは、直ちに最寄りの市町長にその旨を通知するものとする。

j 治安の維持

海上における治安を維持するため、情報の収集に努め、必要に応じ、巡視船艇等及び航空機により次に掲げる措置を講ずるものとする。

(a) 災害発生地域の周辺海域に配備し、犯罪の予防・取締りを行う。

(b) 警戒区域又は重要施設の周辺海域において警戒を行う。

イ 県警察及び消防機関

県警察及び消防機関は、警察官職務執行法及び消防組織法の定めるところにより海難の救助を行う。

ウ 知事及び市町長

(ア) 知事

知事は、海難につき必要と認めたときは、災害救助法を適用し同法施行細則に定める救助を行う。

(イ) 市町長

市町長は、自己の管轄区域の地先海面における海難に対して必要と認めたときは、水難救護法の定めるところにより関係機関の協力を得て対処する。

(3) 遺体の搜索、収容、処理、埋葬等

陸上災害救難に準ずる他、海上保安官は海上保安庁死体取扱規則により遺体を見分するとともに、遺体、身元の調査など所要の措置を行う。

4 惨事ストレス対策

救出活動等を実施する各機関は、職員等の惨事ストレス対策の実施に努めるものとする。

消防機関は、必要に応じて、消防庁等に精神科医等の専門家の派遣を要請するものとする。

第2項 医療救護・助産計画

1 趣旨

災害時において無医地区の発生、医療体制の混乱、傷病の多発等により、その市町の医療能力をもってしては十分な医療救護、助産を行い得ない場合、応急的にこれらの措置をとる。

2 実施責任者及び実施内容

(1) 県

ア 防災関係機関と連携して、迅速かつ的確な医療救護活動が実施できるよう、平常時において、あらかじめ連携に必要な情報等を共有するとともに、連携強化のための協議を行うものとする。

イ 迅速・的確な救急救命措置を講じるため、平常時において、あらかじめ医師と救急救命士の連携体制を構築しておくものとする。

ウ 災害時に医療施設の診療状況等の情報を迅速に把握するため、広島県救急医療情報ネットワークを整備し、操作等の訓練等を実施するとともに、発災時には、医療機関の被災状況等を収集し、広島県救急医療情報ネットワークを利用して、災害時医療に必要な情報を提供するものとする。

エ 必要に応じ、県災害対策本部へ統括DMATを受入れ、医療救護活動について調整を行うものとする。

オ 県の医療機関等（県立病院、県保健所）は、治療中の患者等の安全の確保はもとより、災害により負傷した被災者に対し、応急的に医療救護活動を実施するものとする。

また、近隣医療機関等の被災状況を確認する等、被害情報の収集に努めるものとする。

カ 市町の要請があった場合又は自ら必要と認めたときは、中国四国厚生局、日本赤十字社広島県支部、災害拠点病院、広島県医師会及び他県等に医療救護活動を要請するとともに、各関係機関との連絡調整を図るものとする。

また、災害の急性期においては、統括DMATと調整の上、必要に応じて災害派遣医療チーム（DMAT）の出動要請を行うものとする。

キ 災害派遣医療チーム（DMAT）から中長期的な医療を担うチームへの円滑な引継ぎを図るよう必要な調整を実施するものとする。

ク 県は、災害における被災者のメンタルヘルス対策のための相談、支援体制の整備を図るものとする。

(2) 市町

ア 市町長は、災害時には、あらかじめ定める計画に基づき、地区医師会との連携のもとに医療救護活動を実施する。

イ 市町の医療救護活動のみで対処できない場合は、直ちに県等に協力を要請する。

ウ 災害救助法を適用した場合、知事が医療救護活動を行う責務を有するが、同法第30条及び同法施行令第23条の規定により知事が委任した場合は、市町長が実施責任者となる。

(3) 中国四国厚生局

県の要請があった場合又は自ら必要と認めたときは、独立行政法人国立病院機構との連絡調整を実施する。（災害時における医療の提供）

(4) 国立病院機構

県の派遣要請があった場合又は自ら必要と認めたときは、医療救護班派遣等による医療救護活動を実施する。

(5) 日本赤十字社広島県支部

県又は市町の要請があった場合もしくは自ら必要と認めるときは、「日本赤十字社法（昭和27年法律第305号）」及び「災害救助又は応援の実施に関する委託契約書（平成18年12月14日）」に基づき、医療救護班の派遣等による医療救護活動を実施する。

(6) 広島県医師会

県又は市町の要請があった場合又は自ら必要と認めるときは、「災害時の医療救護活動に関する協定書」に基づき医療救護活動を実施する。

(7) 災害拠点病院

ア 災害時に適切な医療の提供が行えるよう、平常時において、診療機能を有する建物の耐震化を進めるとともに、ライフライン機能の拡充、備蓄等の充実に努めるものとする。

イ 平常時において、防災関係機関や他の災害拠点病院との連携関係を構築するものとする。

ウ 発災時に速やかに広島県救急医療情報ネットワークの利活用ができるよう、平常時から操作訓練等を実施するとともに、発災時には、広島県救急医療情報ネットワークを利用して、当該施設の被災・稼動状況など、必要な情報の提供及び情報の活用を行うものとする。

エ 機能喪失等により患者搬送等の必要が生じた場合には、県、近隣の連携する災害拠点病院に応援を要請するものとする。

オ 自院の被害が少なく、県からの医療救護活動要請があった場合又は自ら必要と認める場合には、災害拠点病院間で連携し、医療救護班、災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣等による医療救護活動の実施や重篤患者の受入に対応するものとする。

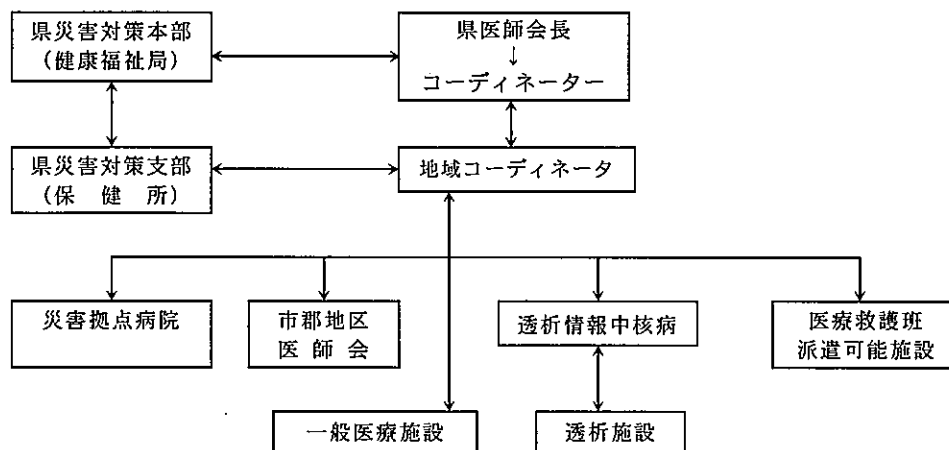
カ 自院がDMATの拠点本部となる場合には、統括DMATを受入れ、医療救護活動の調整を行うとともに、DMATの支援の下で医療救護活動を実施するものとする。

3 医療救護

(1) 基本原則

ア 県内7つの二次保健医療圏を「災害医療圏」とし、災害時の活動単位とする。

イ 医療救護活動の連絡・調整役として、全県対応の「コーディネーター」と災害医療圏対応の「地域コーディネーター」を県医師会長の任命により設置し、県内の医療救護活動の調整を図る。



(2) 医療救護班の編成及び救助活動

- ア 医療救護班は原則として、医師1人、看護師2人及び事務員1人を1班として構成し、必要に応じて薬剤師1人を加える。（日本赤十字社広島県支部の場合は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、薬剤師1人及び主事2人（内1人は自動車操作要員））
- イ 医療救護班の派遣が可能な施設は、広島県救急医療情報システムに入力するとともに、地域コーディネーターに連絡する。
災害医療圏内への出動は、地域コーディネーターが調整・連絡し、災害医療圏外への出動はコーディネーターが調整後、地域コーディネーターから連絡する。
- ウ 現場における派遣された複数の医療救護班の調整については、地域コーディネーター又はコーディネーターの連絡を受けた災害拠点病院の医師が行う。
- エ 医療救護班が撤収する時期については、所属する災害医療圏の地域コーディネーターが連絡する。
- オ 必要に応じて避難所等に救護所を設けるものとし、保健所内には救護所を支援する救護センターを設けるものとする。
- カ 救護に必要な医薬品及び衛生材料で、現地又は救助機関で確保できないものがあるときは、県、市町において、あらかじめ主要医療薬品卸業者との調達の方法について協議の上あつせん確保に努める。
- キ 災害派遣医療チーム（DMAT）の活動等については、別に定めるDMAT運用計画等によるものとする。

(3) 災害救助法が適用された場合の医療救護

ア 医療の対象となる場合

- (ア) 医療機関が被害を受け、診療のための人的、物的機能が停止した場合
- (イ) 無医地区のように元来医療機関が存在せず、隣接地区に所在する医療機関の医療を受けていたが、災害の発生により交通が途絶し、医療が受けられなくなった場合
- (ウ) 災害によりその市町の医療機関の1日診療可能患者数をはるかに超える患者がある場合
- (エ) 簡単な投薬処置しかできない診療所のみで複雑な処置、特殊な診療を要する患者が発生した場合

イ 医療の範囲

- (ア) 診察
- (イ) 薬剤又は治療材料の支給
- (ウ) 処置、手術その他の治療及び施術
- (エ) 病院又は診療所への収容
- (オ) 看護

ウ 医療の方法

知事は、日本赤十字社広島県支部との契約に基づき、(2) アにより編成する救護班で行うことを原則とし、特に必要があるときは、県、市町において編成する救護班で行う。

なお、重症患者で、救護班では人的、物的に救護が困難な場合は、災害拠点病院などの医療機関に収容する。

エ 医療救助期間

災害発生の日から14日間とする。特に必要がある場合は期間延長を行う。

4 惨事ストレス対策

医療・救護活動等を実施する各機関は、職員等の惨事ストレス対策の実施に努めるものとする。

5 助産

(1) 原則として医療救護に準ずる。

(2) 災害救助法が適用された場合、次に定めるところによる。

ア 助産の対象となる者

災害発生の以前又は以後7日以内に分べんした者で、災害のため、助産の方途のなくなった者

イ 助産の範囲

分べんの介助，分べん前後の処置，衛生材料の支給

ウ 助産の期間

分べんした日から7日以内

第3項 消防計画

1 目的

この計画は、その施設及び人員を活用して、県民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、火災等の災害による被害を軽減するための必要事項を定めることを目的とする。

2 実施責任者

消防については、市町がその責に任じ、県は非常事態の場合において、緊急の必要があるとき、災害防御の措置に関して、必要な指示をすることができる。

3 実施方法

応急対策は、市町が市町消防計画に定めるところにより実施する。

4 惨事ストレス対策

消防活動等を実施する各機関は、職員等の惨事ストレス対策の実施に努めるものとする。

消防機関は、必要に応じて、消防庁等に精神科医等の専門家の派遣を要請するものとする。

第4項 水防計画

1 目的

この計画は、洪水、津波又は高潮に際し、水災を警戒し、防御し、及びこれによる被害を軽減し、もって公共の安全を保持するため必要事項を定めることを目的とする。

2 実施責任者

水防管理団体、消防機関等、水防協力団体、県、広島地方気象台、中国地方整備局は水防法の定めるところにより、それぞれの責任を有する。

3 実施方法

応急対策の実施は、広島県水防計画の定めるところによる。

4 災害対策本部との関係

災害対策本部が設置された場合、水防本部は災害対策本部の所轄に属することとし、水防の有機的一体性の確保に努める。

第5項 危険物等災害応急対策計画

1 目的

危険物、高圧ガス、火薬類及び毒物劇物等の危険性の高い物質（以下「危険物等」という。）を製造、貯蔵又は取り扱いを行う事業所においては、危険物等の流出、出火、爆発等の災害が発生した場合、自衛消防組織等の活動により、被害を最小限度にとどめ、周辺地域に対する被害の拡大を防止するものとする。

また、関係行政機関は、消防法（昭和23年法律第186号）、高圧ガス保安法（昭和26年法律第204号）、火薬類取締法（昭和25年法律第149号）及び毒物及び劇物取締法（昭和25年法律第303号）等の関係法令の定めるところにより所要の措置を行う。

石油コンビナート等災害防止法（昭和50年法律第84号）に基づく石油コンビナート等特別防災区域については、石油コンビナート等防災計画による。

2 実施方法

(1) 危険物災害応急対策

当該事業所及び関係行政機関は、危険物施設等が火災等により危険な状態となった場合、又は爆発等の災害が発生した場合に、地域住民等への危害を防除するため次の措置を実施する。

ア 危険物施設の所有者、管理者及び占有者

(ア) 施設が危険な状態になったときは、直ちに危険物を安全な場所に移動し、あるいは注水冷却する等の安全措置を講ずる。

(イ) 県警察及び市町へ、災害発生について直ちに通報するとともに、必要があると認めるときは、付近の住民に避難するよう警告する。

(ウ) 自衛消防隊その他の要員により、初期消火活動を実施するとともに、必要に応じ、他の関係企業の応援を得て延焼防止活動を実施する。

なお、消火活動等を実施するに当たっては、海上への波及防止並びに河川・農地等への流出被害防止について、十分留意して行うものとする。

(エ) 消防機関の到着に際しては、進入地点に誘導員を配置して消防機関を誘導するとともに、爆発性、引火性・有毒性物品の所在並びに品名、数量、施設の配置及び災害の態様を報告する。

イ 市町

(ア) 県へ災害発生について、直ちに報告するとともに災害の状況について情報収集を行う。

(イ) 危険物を製造し、貯蔵し、又は取り扱う事業所に対し、次に掲げる措置をとるよう指示し、又は自らその措置を行う。

- a 危険物の流出あるいは爆発等のおそれのある作業及び移送の停止措置
- b 危険物の流出、出火、爆発等の防止措置
- c 危険物施設の応急点検
- d 異常が認められた施設の応急措置

また、必要があると認めるときは、広報活動、警戒区域の設定、住民の立入制限、退去の指示等を行う。

(ウ) 消防計画等により消防隊を出動させ、災害発生事業所の責任者等から報告、助言等を受け、必要に応じ、関係事業所等の協力を得て救助及び消火活動を実施する。

(エ) 自己の消防力等では対処できない場合は、広島県内広域消防相互応援協定等に基づいて、他の市町及び消防本部に対して応援を要請する。

ウ 県

- (ア) 関係機関から得た情報を総合し、市町の実施する応急措置について、必要があると認めるときは、指示を行うとともに、他の市町に応援するよう指示する。
- (イ) 市町から自衛隊の災害派遣要請の要求を受けたとき又は自ら必要があると認めるときは、自衛隊に対して災害派遣を要請する。

エ 県警察

- (ア) 県及び関係機関との連絡・通報体制の確立
- (イ) 危険物を製造し、貯蔵し、又は取り扱う事業所に対し、危害防止のための措置をとるよう命令し、又は自らその措置を講ずる。また、市町職員が現場にいないとき及び必要があると認めるときは、警戒区域を設定し、住民の立入制限、退去等を命令する。なお、この場合は、その旨市町へ通知する。
- (ウ) 負傷者の救出及び救護
- (エ) その他状況により必要と認められる応急対策

オ 第六管区海上保安本部

情報の収集及び連絡・通報を行うとともに、関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、次の支援を実施する。

- (ア) 陸上における救助・救援活動
 - (イ) ヘリコプター搭載型巡視船等による医療活動場所及び宿泊場所の提供
 - (ウ) その他の支援活動
- (2) 高圧ガス災害応急対策

当該事業所及び関係行政機関は、高圧ガス施設等が火災等により危険な状態となった場合、又は爆発等の災害が発生した場合に、地域住民等への危害を防除するため次の措置を実施する。

ア 高圧ガス施設等の所有者、占有者の措置

- (ア) 製造施設が危険な状態となったときは、直ちに作業を中止し、設備内のガスを安全な場所に移し、又は放出し、充填容器が危険な状態となったときは、直ちにこれを安全な場所に移し、又は水（地）中に埋める等の安全措置を講ずる。
- (イ) 所轄消防署又は所在市町長の指定する場所へ災害発生について直ちに通報するとともに、必要があると認めるときは、付近の住民に避難するよう警告する。

イ 市町

- (ア) 県へ災害発生について、直ちに報告するとともに災害の状況について情報収集を行う。
- (イ) 製造事業者、販売業者、貯蔵所の所有者又は消費者等に対し、危害防止のための措置をとるよう指示し、又は自らその措置を講じ、必要があると認めるときは、火気使用禁止の広報、警戒区域の設定、住民の立入制限、退去の指示等を行う。
- (ウ) 消防計画等により消防隊を出動させ、災害発生事業所の責任者等からの報告、助言等を受け、必要に応じ、関係事業所等の協力を得て救助及び消火活動を実施する。
- (エ) 自己の消防力では対処できない場合は、広島県内広域消防相互応援協定等に基づいて、他の市町及び消防本部に対して応援を要請する。

ウ 県（（ア）及び（イ）については、県から事務を移譲された市町を含む。）

- (ア) 製造事業者、販売業者、貯蔵所の所有者又は消費者等に対して、高圧ガス製造施設、貯蔵所の全部若しくは一部の使用の一時停止を命じ、又は製造、引渡し、貯蔵、移動、消費又は廃棄を一時禁止、又は制限する。
- (イ) 高圧ガス又はこれを充てんした容器の所有者、占有者に対して、その廃棄又は所在場所の変更を命ずる。
- (ウ) 関係機関から得た情報を総合し、市町の実施する応急措置について、必要があると認め

るときは、指示を行うとともに、他の市町に応援するよう指示する。

- (エ) 市町から自衛隊の災害派遣要請の要求を受けたとき又は自ら必要があると認めるときは、自衛隊に対して災害派遣を要請する。

エ 県警察

- (ア) 県及び関係機関との連絡・通報体制の確立

(イ) 高圧ガスの製造事業者、販売業者、貯蔵所の所有者又は消費者等に対し、危害防止のための措置をとるよう命令し、又は自らその措置を講ずる。また、市町職員が現場にいないとき及び必要があると認めるときは、警戒区域を設定し、住民の立入制限、退去等を命令する。なお、この場合は、その旨市町へ通知する。

- (ウ) 負傷者の救出及び救護

- (エ) その他状況により必要と認められる応急対策

オ 第六管区海上保安本部

情報の収集及び連絡・通報を行うとともに、関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、次の支援を実施する。

- (ア) 陸上における救助・救援活動

(イ) ヘリコプター搭載型巡視船等による医療活動場所及び宿泊場所の提供

- (ウ) その他の支援活動

(3) 火薬類災害応急対策

火薬類関係施設等（火薬類の製造所、販売所、貯蔵所、運搬車両、消費事業所）の事業者及び関係行政機関は、火薬類関係施設等が火災等により危険な状態となった場合、又は爆発等の災害が発生した場合に地域住民等への公共安全を確保するため、次の措置を実施する。

ア 火薬庫又は火薬類の所有者、占有者

- (ア) 火薬類を安全地域に移す余裕のある場合には、これを移し、かつ、見張人をつけること。通路が危険であるか又は搬送する余裕がない場合には、水中に沈める等安全な措置を講じる。あるいは、火薬庫の入口、窓等を目塗土で完全に密閉し、木部には防火の措置を講ずる等安全な措置を講ずる。

(イ) 県警察（又は所轄海上保安部）、消防及び市町へ、災害発生について直ちに通報するとともに、必要があると認めるときは、付近の住民に避難するよう警告する。

(ウ) 平成9年1月に火薬類対策推進広島県会議が策定した「火薬類関係施設等緊急防災対策マニュアル」に基づき、円滑かつ確実に防災対策に取り組むものとする。

イ 市町

- (ア) 県へ災害発生について、直ちに報告するとともに災害の状況について情報収集を行う。

(イ) 火薬類の所有者及び占有者に対し、危害防止のための措置をとるよう指示し、又は自らその措置を講じ、必要があると認めるときは、火気使用禁止の広報、警戒区域の設定、住民の立入制限、退去の指示等を行う。

(ウ) 製造業者（知事権限にかかるもの）、販売業者又は消費者に対して、製造施設又は火薬庫の全部若しくは一部の使用の一時停止を命ずる。

(エ) 製造業者（知事権限にかかるもの）、販売業者、消費者その他火薬類を取り扱う者に対して、製造、販売、貯蔵、運搬、消費又は廃棄を一時禁止し、又は制限する。

(オ) 火薬類の所有者又は占有者に対して、火薬類の所在場所の変更又はその廃棄を命ずる。

(カ) 火薬類を廃棄した者に対して、その廃棄した火薬類の収去を命ずる。

(キ) 消防計画等により消防隊を出動させ、災害発生事業所の責任者等からの報告、助言等を受け、必要に応じ、関係事業所等の協力を得て救助及び消火活動を実施する。

(ク) 自己の消防力では対処できない場合は、広島県内広域消防相互応援協定等に基づいて、

他の市町及び消防本部に対して応援を要請する。

ウ 県

関係機関から得た情報を総合し、市町の実施する応急措置について、必要があると認めるときは、指示を行うとともに、他の市町に応援するよう指示する。

エ 県警察

(ア) 県及び関係機関との連絡・通報体制の確立

(イ) 製造業者、販売業者又は消費者に対して、製造施設又は火薬庫による災害の発生防止のための措置をとるよう命令し、又は自らその措置を講ずる。また、市町職員が現場にいないとき及び必要があると認めるときは、警戒区域を設定し、住民の制限、退去等を命令する。なお、この場合は、その旨市町へ通知する。

(ウ) 負傷者の救出及び救護

(エ) その他状況により必要と認められる応急対策

オ 第六管区海上保安本部

情報の収集及び連絡・通報を行うとともに、関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、次の支援を実施する。

(ア) 陸上における救助・救援活動

(イ) ヘリコプター搭載型巡視船等による医療活動場所及び宿泊場所の提供

(ウ) その他の支援活動

カ 中国四国産業保安監督部

製造業者（大臣権限にかかるもの）に対して、製造施設の全部若しくは一部の使用の一時停止を命じ、又は製造、販売、貯蔵、運搬、消費又は廃棄を一時禁止し、又は制限する。

(4) 毒物劇物災害応急対策

当該事業者及び関係行政機関は、毒物劇物施設等が火災、漏洩事故等により危険な状態となった場合、又は爆発等の災害が発生した場合に、地域住民等への危害を防除するため次の措置を実施する。

ア 毒物劇物施設の所有者、管理者及び占有者

(ア) 施設が危険な状態になったときは、直ちに毒物劇物を安全な場所に移動する等、飛散、流出等の防止対策を講ずる。

(イ) 保健所、県警察又は消防機関及び市町へ、災害発生について直ちに通報するとともに、必要があると認めるときは、付近の住民に避難するよう警告する。

(ウ) 自衛消防隊その他の要員により、初期消火活動を実施するとともに、必要に応じ、他の関係企業の応援を得て延焼防止活動を実施する。

なお、消火活動等を実施するに当たっては、海上への波及防止並びに河川・農地等への流出被害防止について、十分留意して行うものとする。

(エ) 消防機関の到着に際しては、進入地点に誘導員を配置して消防機関を誘導するとともに、爆発性、引火性・有毒性物品の所在並びに品名、数量、施設の配置及び災害の態様を報告する。

イ 市町

(ア) 県、保健所、警察署及び消防本部へ災害発生について、直ちに報告する。

(イ) 県、施設管理者及び毒物劇物取扱責任者等と密接な連絡をとり、危害防止のため必要があると認めるときは、広報活動、警戒区域の設定、住民の立入制限、退去等の指示等を行う。

(ウ) 保健所を設置する市は、毒物劇物販売業者の施設で災害が発生した場合は、危害防止のため、作業停止、回収等必要な措置をとるよう指導する。

- (エ) 消防計画等により消防隊を出動させ、災害発生事業所企業の責任者等からの報告、助言等を受け、必要に応じ、関係事業所等の協力を得て救助及び消活動を実施する。
- (オ) 自己の消防力等では対処できない場合は、広島県内広域消防相互応援協定等に基づいて、他の市町及び消防本部に対して応援を要請する。

ウ 県

- (ア) 関係機関と密接な連絡をとり、毒物劇物の流出等のおそれのある作業等の停止措置、流出漏えいした毒物劇物の回収又は毒性の除去その他保健衛生上の危害を防止するために必要な措置を講ずる。
- (イ) 市町の実施する応急措置について、必要があると認めるときは、指示を行うとともに、他の市町に応援するよう指示する。
- (ウ) 市町から自衛隊の災害派遣要請の要求を受けたときは、自衛隊に対して災害派遣を要請する。

エ 県警察

- (ア) 県及び関係機関との連絡・通報体制の確立
- (イ) 毒物劇物を製造、販売、及び業務上取り扱う事業所に対し、危害防止のための措置をとるよう命令し、又は自らその措置を講ずる。また、市町職員が現場にいないとき及び必要があると認めるときは、警戒区域を設定し、住民の立入制限、退去等を命令する。なお、この場合は、その旨市町へ通知する。
- (ウ) 負傷者の救出及び救護
- (エ) その他状況により必要と認められる応急対策

オ 第六管区海上保安本部

情報の収集及び連絡・通報を行うとともに、関係機関及び地方公共団体の災害応急対策が円滑に実施されるよう、要請に基づき、次の支援を実施する。

- (ア) 陸上における救助・救援活動
- (イ) ヘリコプター搭載型巡視船等による医療活動場所及び宿泊場所の提供
- (ウ) その他の支援活動

第7節 緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送活動

第1項 災害警備計画

1 目的

この計画は、災害時における公共の安全と秩序を維持するため、警察法、警察官職務執行法、海上保安庁法及びその他の法令の定めるところにより行われる警察活動について、その組織配備等必要な事項を定めることを目的とする。

2 県警察の災害警備対策

県警察は、関係機関と密接な連絡のもとに災害警備対策を推進し、災害が発生し又は災害が発生するおそれがある場合には、早期に警備体制を確立して情報の収集に努め、住民の生命及び身体を保護を第一とした警備活動に努める。

(1) 災害発生時の警備活動

県警察は、災害が発生し又は発生するおそれがある場合には、事案の規模、態様に応じ所要の部隊編成を行い、おおむね次のような警備活動を行う。

ア 災害情報の収集及び伝達

イ 被害実態の把握

ウ 被災者の救出、救助等の措置

エ 避難路及び緊急交通路の確保

オ 交通の混乱の防止及び交通秩序の維持

カ 行方不明者の捜索及び遺体の見分、検視

キ 危険箇所の警戒並びに住民等に対する避難の勧告、指示及び誘導

ク 不法事案の予防及び取締り

ケ 被災地・避難場所及び重要施設等の警戒

コ 広報活動

サ 関係機関による災害救助及び復旧活動に対する協力

(2) 災害警備体制

県警察の災害に対処する警備体制は、おおむね次のとおりとする。

区 分	基 準	配備及び任務
災害警備 情報連絡室	災害の発生のおそれが低く、警備実施活動に必要な準備を行う時間的余裕のある場合。	情報収集及び連絡活動を主として行い、状況により警戒体制又は非常体制に迅速に移行できる体制とする。
災害警備 対策室	相当な被害の発生が予想され、十分な注意と警戒を必要とする場合。	情報収集、連絡活動、災害の応急対策を実施するとともに、事態の推移に伴い、直ちに非常体制に切り替える体制とする。
災害警備 対策本部	災害により既に相当な被害が発生し、被害の拡大が予想される場合	一切の災害警備活動の実施

(3) 災害警備対策本部等の設置

県警察は災害が発生し又は発生するおそれのある場合には、警備体制の区分に応じ、警察本部及び警察署に、準備体制においては「災害警備情報連絡室」を、警戒体制においては「災害警備対策室」を、非常体制においては「災害警備対策本部」を設置して、体制を確立する。

(4) 警備部隊の編成及び部隊運用

災害が発生し又は発生するおそれがあるときは、警察本部長の定めるところにより、警備部隊の編成を行い、迅速かつ的確な部隊の運用を行う。

災害の規模によっては、他の都道府県公安委員会に援助の要求をし、警備体制の強化を図る。

3 第六管区海上保安本部の治安維持対策

海上における治安を維持するため、情報の収集に努め、必要に応じ、巡視船艇等及び航空機により次に掲げる措置を講ずるものとする。

- (1) 災害発生地域の周辺海域に配備し、犯罪の予防・取締りを行う。
- (2) 警戒区域又は重要施設の周辺海域において警戒を行う。

第2項 交通、輸送応急対策計画

1 目的

この計画は、災害時において、交通、輸送の機能が途絶し、又は混乱した場合において、これらの機能又は秩序を速やかに回復し、緊急輸送を円滑に行うため必要な事項を定めることを目的とする。

2 交通秩序応急対策

(1) 陸上交通の確保

ア 災害時における交通の規制

県公安委員会は、道路の被害及び交通状況の把握に努め、災害が発生し、又はまさに発生しようとしている場合において、災害応急対策を的確かつ円滑に行うために緊急の必要があると認めるときは、区域又は道路の区間を指定して、緊急通行車両（災害対策基本法施行令「昭和37年第288号」第32条の2で定める、道路交通法「昭和35年法律第105号」第39条第1項の緊急自動車及び災害対策に従事する者又は災害応急対策に必要な物資の緊急輸送その他災害応急対策を実施するため運転中の車両。以下同じ。）以外の車両の通行を禁止又は制限することができる。

(ア) 被災地及び周辺における優先通行

緊急通行車両であっても、人命救助及び消火活動に従事する車両の通行を最優先する。

(イ) 緊急交通路の確保

被災地及びその周辺に通じる主要道路については、緊急通行車両の交通路（以下「緊急交通路」という。）として指定するとともに、発災後、区域又は道路の区間を指定して緊急通行車両以外の車両の通行を禁止又は制限し、緊急交通路を確保する。

また、当該の区域又は道路の区間については、緊急通行車両以外の車両の走行を抑制する。

(ウ) 県内への車両の流入制限

隣接県に通じる中国縦貫自動車道、中国横断自動車道、山陽自動車道、国道2号、国道54号、国道183号等主要道路については、隣接県又は近接県による指導・広報により緊急通行車両以外の車両の通行を禁止又は制限し、県内への車両の流入を極力制限する。

このため、県内の主要交差点、隣接県境及び高速道路の各インターチェンジ等必要な箇所に交通検問所を設置する。

イ 運転者に対する指導、広報

県公安委員会は、一般国道、主要地方道等管内の幹線道路を主体に、幹線道路の主要交差点にできるだけ多くの警察官を配置するとともに、道路交通情報板や立看板等のあらゆる広報媒体を利用して、通行禁止に係る区域・区間やう回路等の周知を図るとともに、「運転者のとるべき措置」として、次の事項を遵守するよう指導、広報を行う。

(ア) 走行中の車両

- a 速やかに、車両を通行禁止の区域又は区間以外の場所に移動すること。速やかな移動が困難な場合は、車両をできる限り道路の左側端に寄せ、緊急通行車両の妨害とならない方法で駐車すること。
- b 移動、駐車後は、カーラジオ等により、地震情報や交通規制情報を聴取し、その情報や周囲の状況に応じて行動すること。
- c 車両を置いて避難するときは、できる限り道路外に移動しておくこと。やむを得ず

道路上に置いて避難するときは、道路の左側端に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーを付けたままとし、窓は閉め、ドアロックはしないこと。

(イ) 避難のための車両

避難は、原則として徒歩で行い、車両を使用しないこと。

ウ 路上の障害物除去等

(ア) 県公安委員会は、災害対策基本法に基づき、緊急車両以外の車両の通行を禁止又は制限しようとするときには、あらかじめ当該道路の管理者に通知するとともに、連携して通行禁止区域等における障害物の除去及び応急復旧等を優先的に実施する。

(イ) 警察官は、通行禁止区域等における緊急通行車両の通行を確保するため、車両その他の物件の占有者、所有者又は管理者に対して、これを道路外の場所へ移動することを命じることができる。

なお、命令の相手方が現場にいない等により、当該措置等を命じることができないときは、警察官は自ら当該措置等をとることができる。

また、警察官が現場にいない場合に限り、自衛官又は消防吏員は、当該措置をとることができる。

エ 通行禁止又は制限に関する広報

県公安委員会は、緊急通行車両以外の車両の通行禁止又は制限を行った場合には、直ちに居住者等に対してその禁止又は制限の対象、区域及び期間を記載した標示の設置と広報幕等による現場広報を行うとともに、県警察本部、日本道路交通情報センター、交通管制センター、道路管理者、報道機関等を通じて、交通規制状況、う回路状況、車両の使用抑制、運転者のとるべき措置等について、徹底した広報を実施する。

オ 関係機関との連携

(ア) 県公安委員会は、緊急通行車両以外の車両の通行禁止又は制限を行った場合は、道路管理者等の関係機関や警備業協会等の関係団体との間で相互に緊密な連携を保ち、適切な交通規制を行うものとし、その状況を災害対策本部へ通報するものとする。

(イ) 県公安委員会は、交通規制のため車両が滞留し、その場で長時間停止することになった場合には、関係機関・団体と協力して、その解消に適切な対応措置を講ずる。

(ウ) 通行妨害車両等の排除については、社団法人日本自動車連盟中国本部広島支部（以下「JAF」という。）と「災害時における通行妨害車両等の排除活動に関する協定」を締結していることから、JAFに対して協力を要請する。

カ 緊急通行車両の確認に伴う標章及び証明書

県公安委員会は、災害応急対策として緊急の必要があると認め、緊急通行車両以外の車両の通行禁止又は制限を、区域又は道路の区間を指定して行った場合、緊急通行車両の確認及び緊急通行車両の標章並びに証明書の交付を、県公安委員会（交通規制課、各警察署、高速道路交通警察隊）又は県知事（県民活動課）において行う。

なお、緊急通行車両の「標章」及び「緊急通行車両確認証明書」の様式は、別記1、2のとおりである。

キ 緊急通行車両の事前届出・確認制度

(ア) 県公安委員会は、災害発生時の緊急通行車両の確認を迅速かつ円滑に進めるため、災害時に緊急通行が必要とされる指定行政機関等が所有する車両について、事前届出の手続きをさせる。

(イ) 緊急通行車両の事前届出の対象車両は、次のa及びbのいずれにも該当する車両とする。

a 基本法第50条第1項に規定する次の災害応急対策に使用される計画がある車両

- (a) 警報の発令及び伝達並びに避難の勧告又は指示に関する事項
- (b) 消防、水防その他の応急措置に関する事項
- (c) 被災者の救護、救助その他保護に関する事項
- (d) 災害を受けた児童及び生徒の応急の教育に関する事項
- (e) 施設及び設備の応急復旧に関する事項
- (f) 清掃、防疫その他の保健衛生に関する事項
- (g) 犯罪の予防、交通規制その他災害地における社会秩序維持に関する事項
- (h) 緊急輸送の確保に関する事項
- (i) その他災害の発生の防衛又は拡大の防止に関する事項

b 次のいずれかに該当する車両

- (a) 指定行政機関等が保有している車両
- (b) 指定行政機関等との契約等により常時指定行政機関等の活動のために専用使用される車両
- (c) 災害時に指定行政機関等が調達する車両

(ウ) 事前届出者

事前届出は、緊急通行に係る業務の実施について責任を有する者（代行者を含む。）が行うものとし、具体的には、指定行政機関等の長又は総務担当若しくは当該業務担当の責任者とする。

(エ) 事前届出先

事前届出先は、緊急通行車両として届け出る車両の使用の本拠の位置を管轄する警察署交通課又は警察本部交通規制課とする。

(オ) 事前届出に必要な書類

- a 当該車両を使用して行う業務内容を証明する書類（指定行政機関等の上申書輸送協定書等により災害応急対策に従事する車両にあっては輸送協定書等）
- b 緊急通行車両事前届出書（車両1台につき2通・別記3のとおり）
- c 当該車両の自動車検査証の写し（1通）

(カ) 緊急通行車両事前届出済証の交付等

- a 事前届出があった場合は、緊急通行車両に該当すると認められるものについて緊急通行車両事前届出済証を交付する。

災害が発生し、緊急通行車両以外の車両の通行が禁止又は制限された場合は、交付を受けた緊急通行車両事前届出済証を警察本部（交通部交通規制課）又は最寄りの警察署等に持参することにより緊急通行車両確認証明書及び標章を交付する。

- b 緊急通行車両事前届出済証の交付を受けた車両が緊急通行車両としての必要性がなくなったときは、届出済証を速やかに交付を受けた警察署等に返還させる。

ク 除外車両の取扱い

県公安委員会は、基本法第76条第1項の規定に基づく通行の禁止又は制限を行う場合において、業務の性質上、国民の日常生活に欠くことのできない車両等公益上又は社会生活上通行させることがやむを得ないと認められる車両については、除外車両として緊急通行車両の通行に支障を及ぼさない限り通行を認める。

(ア) 除外車両は、次に掲げる車両のうち、除外車両として規制対象除外車両標章及び規制対象除外車両通行証明書の交付を受け、当該除外標章を掲示し、当該目的のために使用中のものとする。

- a 傷病者の救護又は医師による救急患者の診断若しくは治療のため現に使用中の車両
- b 報道機関との委託契約により、新聞及びロール紙の輸送を業務として、現に使用中

の車両

- c その他公益上又は社会生活上特に通行させる必要があると認められる車両
 (イ) 除外標章及び証明書の様式は、別記4, 5に示すとおりである。

別記1



- 備考 1 色彩は、記号を黄色、緑色及び「緊急」の文字を赤色、「登録(車両)番号」、「有効期限」、「年」、「月」及び「日」の文字を黒色、登録(車両)番号並びに年、月及び日を表示する部分を白色、地を銀色とする。
 2 記号の部分に、表面の画像が光の反射角度に応じて変化する措置を施すものとする。
 3 図示の長さの単位は、センチメートルとする。

別記2

第 号		年 月 日
緊急通行車両確認証明書		広島県知事 印 広島県公安委員会 印
番号標に表示されている番号		
車両の用途(緊急輸送を行う車両にあっては、輸送人員又は品名)		
使用者	住所	() 局 番
	氏名	
通行日時		
通行経路	出発地	目的地
備 考		

備考 用紙は、日本工業規格A5とする。

別記3

緊急通行車両事前届出書 平成 年 月 日 広島県公安委員会 殿 申請者住所 (電話) 氏名 印		第 号 緊急通行車両事前届出済証 左記のとおり事前届出を受けたことを証する。 平成 年 月 日 広島県公安委員会 印
番号標に表示されている番号		(注) 1 災害発生時にはこの届出済証を最寄りの警察本部、警察署、交通検問所等に提出して確認証明書及び標章の交付を受けてください。 2 届出内容に変更が生じ、又は本届出済証を亡失し、滅失し、汚損し、若しくは破損した場合には、広島県公安委員会（警察本部経由）に届け出て再交付を受けてください。 3 次に該当するときは、本届出証を返還してください。 (1) 緊急通行車両に該当しなくなったとき。 (2) 緊急通行車両が廃車となったとき。 (3) その他、緊急通行車両としての必要性がなくなったとき。 4 本届出済証は、自動車検査証と一緒に保管してください。
車両の用途(緊急輸送を行う車両にあっては、輸送人員又は品名)		
使用者	住所 () 局 番	
	氏名	
出発地		
(注) この事前届出書は2通作成して、当該車両を使用して行う業務の内容を疎明する書類を添付の上、車両の使用の本拠の位置を管轄する警察署に提出してください。		

別記4



- 備考
- 1 色彩は、記号を黄色、緑及び「除外」の文字を青色、「登録(車両)番号」、「有効期限」、「年」、「月」、「日」及び「広島県公安委員会」の文字を黒色、登録(車両)番号並びに年、月及び日を表示する部分を白色、地を銀色とする。
 - 2 記号の部分に、表面の画像が光の反射角度に応じて変化する措置を施すものとする。
 - 3 図示の長さの単位は、センチメートルとする。

別記5

第 号		年 月 日
規制対象除外車両通行証明書		
広島県公安委員会 印		
番号標に表示されている番号		
通行目的		
使用者	住所	(電話)
	氏名	
通行日時		
運行経路	出 発 地	目 的 地
備考		

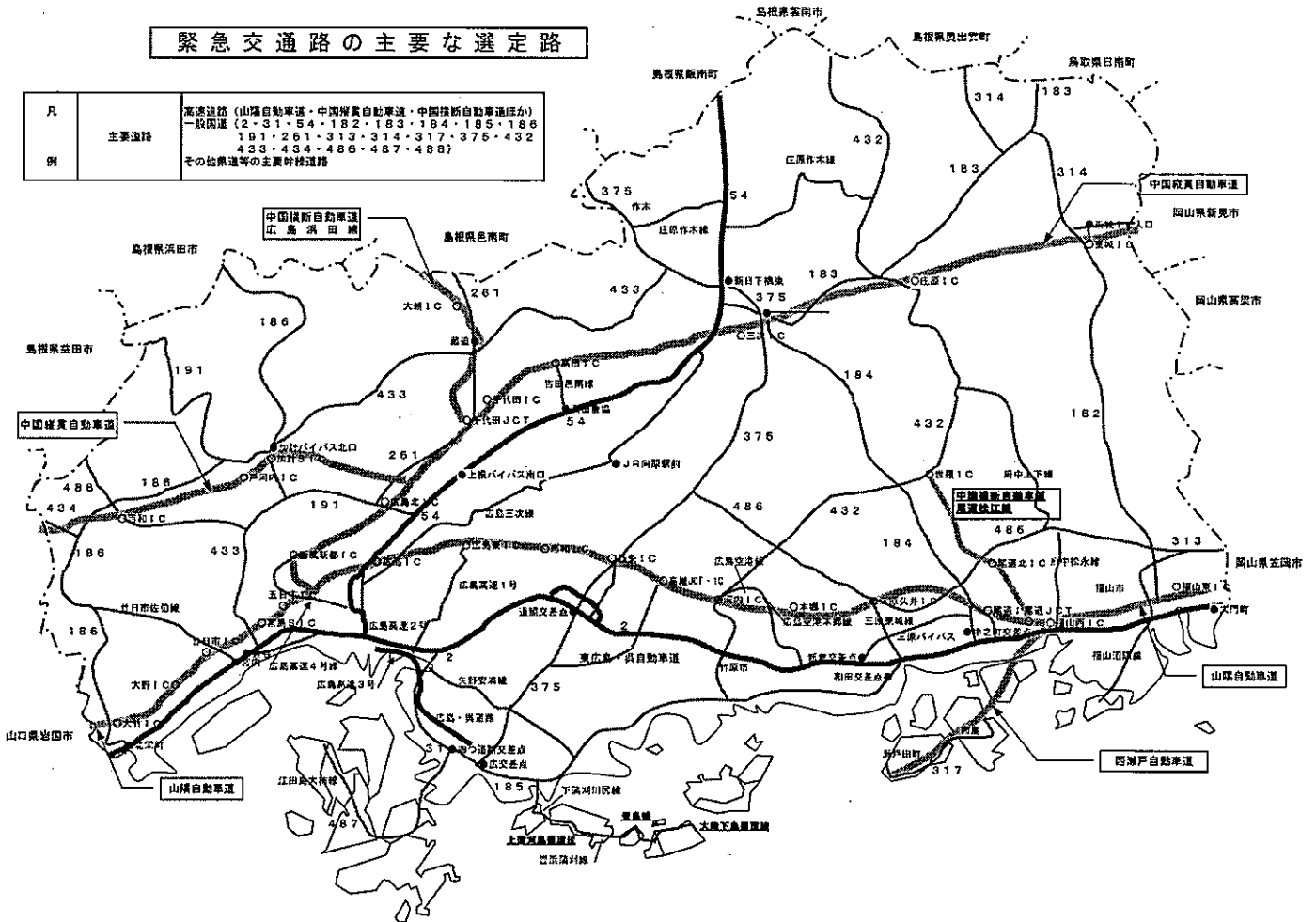
備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列5とする。

(裏)

注 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1 緊急通行車両の通行を優先させ、その通行に支障を及ぼさないこと。 2 「規制対象除外車両標章」を車両の前面の見えやすい箇所に掲示するとともに、必ずこの証明書を携行すること。 3 通行目的欄に掲げる目的以外に使用しないこと。 4 警察官等の指示があるときは、これに従うこと。 5 他の車両に使用したり、他人に貸与しないこと。 6 当該用務が終了したときは、「規制対象除外車両標章」及びこの証明書を最寄りの警察署等に速やかに返還すること。

緊急交通路の主要な選定路

凡	高速道路(山陽自動車道・中国縦貫自動車道・中国横断自動車道ほか)
主要道路	一般国道(2・31・54・182・183・184・185・186 191・261・313・314・317・375・432 433・434・486・487・488)
例	その他県道等の主要幹線道路



(2) 海上交通安全の確保

第六管区海上保安本部は、海上交通の安全を確保するため、次に掲げる措置を講ずるものとする。

- ア 船舶交通のふくそうが予想される海域においては、必要に応じて船舶交通の整理、指導を行う。この場合、緊急輸送を行う船舶が円滑に航行できるよう努める。
- イ 海難の発生その他の事情により、船舶交通の危険が生じ、又は生ずるおそれがあるときは、必要に応じて船舶交通を制限し、又は禁止する。
- ウ 海難船舶又は漂流物、沈没物その他の物件により船舶交通の危険が生じ、又は生ずるおそれのあるときは、速やかに必要な応急措置を講ずるとともに、船舶所有者等に対し、これらの除去その他船舶交通の危険を防止するための措置を講ずべきことを命じ、又は勧告する。
- エ 船舶交通の混乱を避けるため、災害の概要、港湾・岸壁の状況、関係機関との連絡手段等、船舶の安全な運航に必要なと思われる情報について、無線等を通じ船舶への情報提供を行う。
- オ 水路の水深に異状を生じたと認められるときは、必要に応じて検測を行うとともに、応急標識を設置する等により水路の安全を確保する。
- カ 航路標識が損壊し、又は流出したときは、速やかに復旧に努めるほか、必要に応じて応急標識の設置に努める。

(3) 航空交通安全の確保

国土交通省が作成した「災害時における救援航空機等の安全対策マニュアル」によるものとする。主要な安全対策は次のとおりである。

ア 情報の収集及び整理

被災地周辺空域での航空交通状況、航空機の離着陸場の利用状況等の情報を把握、整理し、これらの情報を関係者へ通報する。

イ 飛行の注意喚起、自粛協力要請等の航空情報（ノータム）の発出を行う。

(ア) 被災地周辺空域等の一定空域での飛行の注意喚起

(イ) 救援機の飛行経路の周知等による救援機と一般航空機との飛行経路等の分離のための協力要請

(ウ) 特に航空機が輻輳して危険又は救援活動に支障があると判断される場合は、一定空域を明示して、一般機について当該空域を一定期間飛行自粛するよう協力要請

ウ 航空交通情報の提供についての周知

救援機等が多数飛来する場外離着陸場等の周辺空域において、航空交通の輻輳等により救援活動に支障がある場合に、無線電話により地上等からパイロットに対して離着陸の順番や空中待機の方法等の航空交通情報を提供する場合、その情報の具体的内容をノータムで周知するとともに、その聴取を推奨する。

エ 被災地上空等で救援活動の支障となる飛行を行う運航者に対し、個別に協力要請をしたり、危険な飛行を行う運航者に対し、適切な措置を講じる。

オ 関係者間の緊急連絡網の確立

カ 関係者よりなる連絡調整会議を適時適切に開催する。

3 交通施設災害応急対策

(1) 実施責任者

交通施設の区分	実施責任者
道路	道路管理者（中国地方整備局，県，市町，西日本高速道路株式会社中国支社，本州四国連絡高速道路株式会社等）
港湾	港湾管理者（県，市），中国地方整備局
鉄道・軌道	西日本旅客鉄道(株)広島支社，岡山支社，米子支社，新幹線管理本部，広島電鉄(株)

(2) 実施基準

道路、港湾、鉄道等の交通施設に係る災害応急対策は、当面必要最小限度の機能を確保することを第一の目標とし、最小限の機能が確保された後、本来の機能回復に努めるものとする。この場合の実施の基準は、概ね次に掲げる順序による。

ア 陸上交通施設（道路及び鉄道軌道）

(ア) 孤立地域の解消。この場合の地域は市町単位を原則とする。ただし、人命の救助等急施を要する場合はこの限りでない。

(イ) 広域間の幹線交通の確保

(ウ) その他の道路交通の確保。この場合交通量の多い路線又は区間から実施する。

イ 海上交通施設（港湾）

(ア) 接岸及び係留施設

(イ) 外かく施設

(ウ) 水域施設

ただし、人命、財産の危険のある場合又は急施を要する場合はこの順序によらず実施する。

(3) 実施方法

施設の管理者は、それぞれ管理する交通施設の災害に対処する計画を定め、災害応急対策を実施する。

この場合、その施設の所在する地域の関係機関（市町を含む。）は、自己の業務に支障のない範囲において、これに協力する。

4 応急輸送対策

(1) 被災者及び災害対策要員の輸送、応急対策のための資材、物資の輸送等に必要となる輸送力は災害応急対策責任者で確保する。

(2) 災害応急対策責任者で必要とする輸送力を確保できない場合は、知事に協力あつせんの要請をする。知事は次に掲げる機関の協力を得て所要輸送力を確保しあつせんする。

輸送区分	協力機関
自動車輸送	中国運輸局，陸上自衛隊第13旅団，その他関係機関
鉄道・軌道輸送	中国運輸局，西日本旅客鉄道(株)広島支社，岡山支社，米子支社，新幹線管理本部，その他関係機関
船舶輸送	中国運輸局，第六管区海上保安本部，海上自衛隊呉地方隊，その他関係機関
航空機輸送	第六管区海上保安本部，陸上自衛隊第13旅団，海上自衛隊呉地方隊，航空自衛隊西部航空方面隊，広島空港事務所，広島県警察本部

第3項 貯木及び在港船舶対策計画

1 目的

この計画は、災害時における貯木及び在港船舶の安全を確保するとともに、これらによる災害が他に類を及ぼすことを防ぐことを目的とする。

2 貯木対策

(1) 実施責任者

貯木場管理者、木材取扱者及びその他木材に関して直接責任を有する者が管理上の責任を有するため、市町長、警察署長及び海上保安部（署）長は、災害の発生のおそれがある場合に管理者等に対し、除去、保安等必要な措置をとるよう指示する。

(2) 実施方法

ア 管理責任者の実施事項

(ア) 収容能力の把握

木材貯蔵の実態を把握し、常時収容能力を超えて貯木しないよう留意する。

(イ) 施設の整備

木材の係留施設を特に強化し、強化に必要な資材を準備する。

(ウ) 流出防止

木材は強固ないかだを組み、固縛するなどの措置を行い、津波又は高潮による流出を防止する。

(エ) 移 転

高潮又は河川の増水により木材の流出が予想される場合は、他の安全な区域への移転を行う。

(オ) 収容及び通報

木材が流出した場合には、速やかに収容対策を講じ、収容できない流出木材については、海上保安部（署）長等の関係機関に通報する。

イ 市町長等の指示

市町長、警察署長及び海上保安部（署）長（ただし、特定港域内の流木については港長）は、災害の発生が予測されるときは、その災害によって流出するおそれがある貯木について、除去、保安その他必要な措置をとることを指示する。

3 在港船舶対策

(1) 実施責任者

実施責任者	港 名	根拠法令
港長 (各海上保安部（署）長)	特定港 広島、呉、尾道糸崎、福山	港則法
各海上保安部（署）長	特定港以外の港 忠海、竹原、安芸津、大竹、土生、重井、佐木、 瀬戸田、鮎崎、木ノ江、御手洗、大西、蒲刈、厳島	

(2) 実施方法

ア 移動命令

港長又は海上保安部（署）長は、特に必要があると認めるときは、港則法（昭和23年法律第174号）第10条、第37条第3項及び37条の5の規定により、港則法第2条に定める港に在港する船舶に対して移動（避難）を命ずる。

イ 乗船命令

港長は、港則法第8条第3項の規定により危険を防止するため必要と認められる場合、特定港内において修繕中又は係留中の船舶に対し必要な船員の乗船を命ずる。

ウ 海上保安官の行う避難勧告

海上保安官は、海上における人命、財産を保護するため特に必要があると認めるときは、避難の勧告を行う。

(3) 関係機関の協力

県警察、港湾管理者、漁港管理者及びその他の関係者は、第六管区海上保安本部の行う在港船舶対策に対して協力を行う。

(水面を利用した貯木場一覧は、附属資料に掲載)

第8節 避難生活及び情報提供活動

第1項 避難計画

1 趣旨

災害未然防止のための避難の指示及び避難した者の保護のため、必要となる避難所の開設等について明記し、生命、身体、財産の保全を図る。

2 避難所の開設

(1) 避難所設置義務

市町は、災害により被害を受けた者又は受けるおそれのある者で避難を必要とする者を、一時的に入所させ保護することを目的に避難所を開設する責務を有する。災害救助法が適用され、知事が実施を委任した場合、市町長は実施責任者として（災害救助法第30条及び災害救助法施行令第23条による）、災害が発生した日から7日以内（特に必要な場合は延長を行う）の間、避難所を開設して救助に当たる。

(2) 避難所

避難所は、学校、公民館、福祉センター、図書館等の公共施設を利用するのが適当である。

(3) 福祉避難所

施設がバリアフリー化されているなど、災害時要援護者のために特別の配慮がなされた条件で指定した避難所のことである。保健センター、社会福祉施設等の既存施設を利用するのが適当である。また、市町は、福祉避難所として利用可能な施設に関する情報を収集し、施設管理者と十分調整し、協力を得られる施設を選定し、福祉避難所として指定する。

(4) 避難所の把握及び周知

避難所及び福祉避難所の所在地、名称、概況、収容可能人数等その実態を把握するとともに関係者に周知する。

3 災害時要援護者の避難等

市町は、災害時要援護者及び災害発生後援護が必要となる者が避難所で生活するために必要な設備やスペースを確保するとともに、福祉避難所の設置や、避難場所として宿泊施設を借上げる等、多様な避難所の確保に努めるものとする。

災害時要援護者の避難等の措置について、当該市町のみで対応できない場合は、他の市町や関係機関等の協力を求めて、当該市町外の社会福祉施設等へ避難させる。

県は、当該市町が災害時要援護者を他の市町へ避難させるための協力要請をした場合など、当該市町への支援が必要と考えられる場合には、他の市町や他都道府県との連絡調整等を行う。

4 避難所の管理運営

避難所の運営に当たっては、市町、自主防災組織、ボランティア団体、その他防災関係機関職員のそれぞれの役割分担を明確にし相互に協力して避難所での安全の確保と秩序の維持に努める。

特に、市町はあらかじめ避難所毎の担当職員を定めるなど、発災後の迅速な人員配置に努めるとともに、自主防災組織等とも連携して、円滑な避難所の運営に努める。

なお、市町及び県は、相互に連携を図り、避難者の健全な住生活の早期確保を図ることとし、保護者等への引取や応急仮設住宅の迅速な提供、公営住宅、民間賃貸住宅等利用可能な既存住宅のあっせん及び活用等によって避難所の早期解消に努めるとともに、災害の規模、被災者の避難及び収容状況、避難の長期化等を考慮して、必要に応じ旅館やホテル等への移動を避難者に促す

ものとする。

避難所の具体的な管理運営に係る主な業務としては、次の点に留意する。

- (1) 情報伝達手段を確保し、避難住民に対して正確な情報及び指示を与えるとともに、避難者数の確認、避難者名簿の作成等により避難所及び避難者の状況を早期に把握し、関係防災機関へ連絡する。
また、避難所で生活せず食事のみ受け取っている被災者等の情報把握に努め関係防災機関へ連絡する。
- (2) 食事提供の状況、トイレの設置状況等の把握に努め、避難所の衛生管理など必要な対策を講じるとともに、救護所の設置等の医療体制の確保や、避難者の心身の健康の確保のため保健師等による健康相談、心のケアなど必要な対策を行う。
また、プライバシー確保や様々なニーズの違いに対応できるよう、男女双方の視点等に配慮するなど、良好な生活環境を維持するよう注意を払う。
- (3) 避難の長期化等必要に応じて、入浴施設設置の有無及び利用頻度、洗濯等の頻度、医師や看護師、保健師等による巡回の頻度、暑さ・寒さ対策の必要性、ごみ処理の状況など、避難者の健康状態や避難所の衛生状態の把握に努め、必要な措置を講じるよう努めるものとする。
また、避難所での健康状態の悪化を防止するための適切な食料等の分配、食事の提供等栄養管理に努める。
- (4) 避難所における食料、飲料水及び生活必需品等の必要量を把握し、効率的に配給する。
- (5) 災害時要援護者用の窓口を設置し、ニーズを把握し支援を行う。
また、心身双方の健康状態には特段の配慮を行い、福祉避難所への避難や必要に応じ福祉施設等への入所、介護職員等の派遣、車椅子等の手配等を福祉事業者、ボランティア団体等の協力を得つつ、計画的に実施するものとする。
- (6) 避難所の運営における女性の参画を推進するとともに、女性専用のトイレ、物干し場、更衣室、授乳室の設置や生理用品、女性用下着の女性による配布、避難所における安全性の確保など、女性や子育て家庭のニーズに配慮した避難所の運営に努めるものとする。
- (7) 必要に応じて、避難所における家庭動物のためのスペースの確保に努めるものとする。
- (8) 県は、避難所の設置・運営について、必要に応じ、応援職員を派遣するなど、市町を支援するものとする。

5 広域的避難

被災市町は、災害の規模、被災者の避難、収容状況、避難の長期化等を考慮して、当該市町外への広域的な避難、避難所や応急仮設住宅等への収容等が必要であると判断した場合には、県に広域避難収容に関する支援を要請するものとする。

県は、被災市町からの要請を受けた場合など、支援が必要と考えられる場合には、他の市町や他都道府県との連絡調整等を行う。

また、大規模災害の発生による市町機能の喪失等により、市町において広域的避難に係る事務が行えなくなった場合、県は、市町に代わり必要な手続きを行うものとする。

被災県及び市町等は、居住地以外の市町村へ避難する避難者に対して、避難先の自治体と連携のうえ、必要な情報等の提供に努めるものとする。

6 帰宅困難者対策

公共交通機関が運行を停止し、自力で帰宅することが困難な帰宅困難者が大量に発生した場合、県及び市町は、県民等への広報を行うとともに、必要に応じ、一時滞在施設等への避難誘導を行うものとする。

第2項 災害広報・被災者相談計画

1 目的

この計画は、災害時における住民の不安解消、混乱の防止を図るため、各防災関係機関が実施する広報・被災者相談に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 実施方法

(1) 広報活動

ア 広報責任者

各防災関係機関は、「災害情報計画」で得た情報及び住民が行うべき措置等を周知させる必要があると認めたときは、各防災関係機関が定める広報手続きにより、広報活動を実施する。

県は、災害対策本部を設置した場合において、関係機関から得た情報を県民に周知させる必要があると認めた場合は、県政記者クラブを通じて広報活動を実施する。

ただし、急を要する広報については、直接各放送機関に対して広報事項を示して、放送の要請を行う。

イ 広報の目的

各防災関係機関は、災害発生直後には、パニック、火災等による二次災害の防止を中心に広報活動を実施する。

また、応急復旧時には、食料や交通などの生活情報を中心に広報活動を実施する。

ウ 広報機関による広報の内容

(ア) 市町、消防機関

市町、消防機関は、県警察、その他関係機関と緊密な連携の下に、次の事項について広報活動を行う。

a 広報の内容

<災害発生直後の広報>

- (a) 気象等に関する予警報及び情報
- (b) 避難に関する情報（避難場所、避難勧告・指示等）
- (c) 医療、救護所の開設に関する情報
- (d) 災害発生状況に関する情報
- (e) 出火防止、初期消火に関する情報
- (f) 二次災害防止に関する情報（デマの防止、電気、ガス、水道等の措置）
- (g) その他必要な情報

<応急復旧時の広報>

- (a) 食料、水、その他生活必需品の供給に関する情報
- (b) 電気、ガス、水道の復旧に関する情報
- (c) 交通機関、道路の復旧に関する情報
- (d) 電話の利用と復旧に関する情報
- (e) ボランティア活動に関する情報
- (f) 仮設住宅、ホームステイ等に関する情報
- (g) 臨時相談所に関する情報
- (h) 住民の安否に関する情報
- (i) 被災宅地危険度判定に関する情報
- (j) その他生活情報等必要な情報

b 広報の方法

- (a) 同時通報用無線放送，有線放送，オフトーク通信等による広報
- (b) 窓口による広報
- (c) 広報車，ハンドマイク等による広報
- (d) 立て看板，横断幕，貼り紙等の掲示広報
- (e) ビラ配布等による広報
- (f) 自主防災組織，自治会組織等を通じた連絡
- (g) 県に対する広報の要請
- (h) 報道機関への情報提供，放送要請
- (i) 文字，手話，外国語等を用いた広報
- (j) インターネット等を利用した広報
- (k) 携帯電話による災害速報メールを利用した広報
- (l) コミュニティFM，CATVの活用
- (m) 登録制メール，エリアメールの活用

(イ) 県警察

県警察は，防災関係機関と緊密な連携の下に，前記（ア）aに揚げる事項のほかに，次の事項について広報活動を実施する。

a 広報の内容

- (a) 交通規制に関する情報
- (b) 犯罪の防止に関する情報

b 広報の方法

- (a) 広報車，無線警ら車，ハンドマイク等による広報
- (b) 立て看板，横断幕，貼り紙等の掲示広報
- (c) ヘリコプターによる広報
- (d) 警察庁，中国管区警察局，各都道府県警察本部を通じた広報
- (e) 報道機関への情報提供
- (f) 日本道路交通情報センター，交通管制センター，道路管理者等を通じた道路状況広報
- (g) インターネット等を利用した広報

(ウ) 県

県は防災関係機関と緊密な連携の下に，次の事項について広報活動を実施する。

また，市町が被災し，住民に対する十分な広報が実施できない場合には，報道機関への情報提供や放送要請，県の広報媒体等により，市町の広報活動を補完する。

a 広報の内容

＜災害発生直後の広報＞

- (a) 気象等に関する予警報及び情報
- (b) 医療，救護所の開設に関する情報
- (c) 災害発生状況に関する情報
- (d) 応急救助の実施状況に関する情報
- (e) 交通規制に関する情報
- (f) その他必要な情報

＜応急復旧時の広報＞

- (a) 食料，水，その他生活必需品の供給に関する情報
- (b) 電気，ガス，水道等公益事業施設の被害発生及び応急復旧状況に関する情報

- (c) 電話の利用と復旧に関する情報
- (d) 鉄道、バス等の運行状況及び道路交通に関する情報
- (e) 緊急輸送に関する情報
- (f) 海上交通に関する情報
- (g) 公共土木施設等の被害発生及び応急復旧情報に関する情報
- (h) ボランティアに関する情報
- (i) 仮設住宅、ホームステイ等に関する情報
- (j) 金融非常措置及び金融機関営業状況に関する情報
- (k) 県民の心得等民心の安定及び社会秩序のための必要事項
- (l) 被災宅地危険度判定に関する情報
- (m) その他生活情報等必要な情報

b 広報の方法

- (a) 災害県民窓口による広報
- (b) 広報車、ハンドマイク等による広報
- (c) 立て看板、横断幕、貼り紙等の掲示広報
- (d) ビラ配布等による広報
- (e) 報道機関への情報提供、放送要請
- (f) 文字、手話、外国語等を用いた広報
- (g) 広島県総合行政通信網を利用した市町等防災関係機関や避難所へのテレビファクシミリによる広報
- (h) 臨時災害FM局によるラジオ放送
- (i) インターネット等を利用した広報

(エ) 指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関

指定地方行政機関、指定公共機関及び指定地方公共機関は、前記の(ア) a、(イ) a及び(ウ) aに掲げた事項の中で、各機関の業務に関連した情報を県民に周知する必要があると認めたときは、他の防災関係機関と緊密な連携の下に各種の広報媒体を利用して広報活動を実施する。

(オ) 報道機関

報道機関は、前記(ア)～(エ)の中に掲げた情報、その他の有効適切な情報を災害関係記事又は番組を編成して報道する。

その際には、関係機関の告知事項や、災害対策のためのキャンペーン番組等を盛り込む。

また、県及びその他防災関係機関から災害広報の実施依頼があった場合は、積極的に協力する。

(カ) 放送機関に対する放送の依頼

知事及び市町長は、緊急を要する場合で、かつ、特別の必要があるときは、放送機関に、災害に関する通知、要請、伝達、警告及び予警報等の放送を、あらかじめ協議して定めた手続きにより、依頼する。なお、市町は、知事を通じて依頼する。

知事と放送機関との放送要請に関する協定は次のとおりである。

a 県と日本放送協会との災害時における放送要請に関する協定

協定年月日	昭和53年12月21日		
協定者	甲	広島県知事	宮澤 弘
	乙	日本放送協会	
		中国本部長	大泉利道

b 県と民間放送機関との災害時における放送要請に関する協定

協定年月日 昭和56年3月20日

協定者 甲 広島県知事 宮澤 弘

乙 株式会社中国放送

取締役社長 山本満夫

広島テレビ放送株式会社

取締役社長 河村郷四

株式会社広島ホームテレビ

代表取締役 宮田正明

株式会社テレビ新広島

取締役社長 金光武夫

協定年月日 昭和58年5月1日

協定者 甲 広島県知事 竹下虎之助

乙 広島エフエム放送株式会社

取締役社長 松田耕平

(注) 協定の内容は、いずれも広島県地域防災計画附属資料（以下「附属資料」という。）に掲載されている。

なお、広島市は、日本放送協会広島放送局及び民間放送機関との間に、この協定と同じ内容の協定を昭和60年3月1日に締結した。

エ 災害に係る記録写真の取材

災害が発生した場合、災害応急対策責任者はできるだけ災害記録写真等の取材に務め、取材条件を添え整理保存し、災害対策本部又は各関係機関から要請があった場合、自己の業務に支障を及ぼさない限り記録写真等の貸与又は提供をする。

(2) 被災者相談活動

ア 被災者相談機関

災害が発生したときには、各防災関係機関は、被災者の生活環境の早期改善のため、速やかに被災者又は関係者からの相談・問合せに応じるとともに、要望、苦情等に対処する。

イ 相談方法

各防災関係機関は、被災者等からの相談・問合せに応じるとともに、要望、苦情等を広く聴取し、問題の早期解決を図るため、相談窓口を設ける。

また、必要に応じて、被災地及び避難場所等への臨時相談所の設置や広報車又は二輪車（バイク、自転車）等による被災地の巡回・移動相談を実施する。

なお、相談所の規模及び構成員等は、災害の実情に応じたものとする。

第3項 住宅応急対策計画

1 趣旨

災害が発生し、災害救助法が適用された場合には、知事は当該市町長と協力して、被災者を収容するための仮設住宅の建設をはじめとする必要な住宅応急対策を講じる。

2 実施する応急対策の内容

- (1) 災害救助法第23条第1号に規定する収容施設（応急仮設住宅を含む。）の供与（仮設住宅の建設及び供与）
- (2) 災害救助法第23条第6号に規定する災害にかかった住宅の応急修理
- (3) 公営住宅、企業所有の宿泊施設及び職員用住宅等の一時的供与
- (4) 民間賃貸住宅の情報提供等

3 実施責任者

- (1) 知事は、災害救助法及び同法施行細則の規定に基づき収容施設の供与に必要な住宅（応急仮設住宅の建設を含む。）及び施設の確保に努める。
なお、県内のみで確保が困難な場合、近隣他府県へ被災者を一時収容するための施設の提供を要請する。
- (2) 知事は、災害救助法及び同法施行細則の規定に基づき市町長と協力して被災した住宅の応急修理を行う。
- (3) 災害救助法第30条及び同法施行令23条の規定により、前各項の救助について市町長に実施を委任したときは、市町長が実施する。

4 応急仮設住宅の建設及び供与の方法

(1) 建設場所の確保

建設場所については、保健衛生、交通、教育等について考慮して、あらかじめ把握している公有地で確保する。

ただし、やむを得ない場合は、私有地を利用することもできるものとする。この場合利用しようとする土地の所有者との十分な協議を必要とする。

(2) 供与の対象とする者

応急仮設住宅の供与の対象となる者は、住家が全壊、全焼又は流失し、居住する住家がない者で、自らの資力をもってしては、住宅を確保することのできない者とする。

(3) 建設戸数

建設戸数の決定に当たっては、当該市町長の意見を聞き、知事が決定する。この場合、別途確保し供与する公営住宅等の状況を勘案するものとする。

(4) 応急仮設住宅の供与の期間は、特別な場合を除き、災害救助法の定める2年以内とする。

(5) 応急仮設住宅の管理

応急仮設住宅の管理は、当該市町長が行う。

ただし、特別な事情がある場合には、当該市町長の協力を得て、知事自ら実施する。

なお、必要に応じて、応急仮設住宅における家庭動物の受入れについても配慮するものとする。

5 住宅の応急修理

災害救助法及び同法施行細則の規定に基づく住宅の応急修理については、知事が市町長に実施を指示し、市町長が実施する。

ただし、特別な事情により市町長が実施することが困難な場合は知事自ら実施する。

(1) 対象となる者

住宅の応急修理の対象となる者は、住家が半焼又は半壊し、そのままでは当面の日常生活を営むことができない者で、自らの資力をもってしては応急修理ができない者とする。

(2) 修理の範囲

住宅の応急修理は、居室、炊事場、便所等のように日常生活に欠くことのできない必要最小限度の部分とする。

(3) 必要資機材及び従事者の確保

必要資機材及び従事者の確保については、関係業界の協力を得て、知事が行う。

(4) 実施期間

住宅の応急修理の実施期間は、災害発生の日から1か月以内とする。ただし、やむを得ない事情がある場合には、事前に厚生労働大臣の承認を得て、必要最小限度の期間の延長を行う。

6 公営住宅の提供

被災市街地復興特別措置法第21条の適用がある者について受入れを行う。

また、緊急対応として、災害対策基本法の規定に基づく激甚災害の指定及び災害救助法の適用があった場合については、県内公営住宅の一時的目的外使用許可による収容施設の提供も考慮する。

7 企業等宿泊施設及び職員用住宅等の供与

知事は、企業等の所有する社宅・寮及びその他宿泊施設の提供による供与について協力を要請するものとする。

8 民間賃貸住宅の情報提供

知事は、民間賃貸住宅の情報提供や無報酬での媒介について（社）広島県宅地建物取引業協会及び（社）全日本不動産協会広島県本部協力に対して協力を要請するものとする。

9 被災宅地危険度判定

大地震又は豪雨等によって宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合、二次災害を軽減、防止し、住民の安全を確保するために、被災宅地危険度判定士（以下「宅地判定士」という。）を活用して被害の発生状況を迅速かつ的確に把握し、被災宅地危険度判定（以下「宅地判定」という。）を実施する。

(1) 事前対策

ア 市町は、的確な宅地判定を実施するため次の事項についてあらかじめ定めておく。

(ア) 宅地判定実施の決定と判定実施本部の設置

(イ) 宅地判定の実施に関する県との調整連絡及び県に対する支援要請

(ウ) 宅地判定実施方法の決定等の基準

(エ) 初動体制整備のための宅地判定士の養成、確保

(オ) 宅地判定士等の判定区域までの移動方法、宿泊場所の設定その他必要な事項

(カ) 判定資機材の調達、備蓄

(キ) その他必要な事項

イ 知事は市町からの要請に対し的確な支援を行う。

ウ 県は、市町の協力を得て、宅地判定に関する講習会を開催し、宅地判定士の養成に努めるとともに、必要な判定用資機材を備蓄する。

エ 県は、国、他の都道府県と連携して、宅地判定の円滑な実施のための体制の整備を行う。

(2) 宅地判定実施の事前準備

ア 市町長は、広島県土砂災害危険箇所図等を参考に、宅地判定実施の可能性が高い地域等を推定し、迅速に判定活動を実施するための環境を整備する。

イ 市町長は宅地判定実施本部を、県は宅地判定支援本部の体制について、あらかじめ準備しておく。

(3) 宅地判定の実施

ア 市町長は、大地震又は豪雨の発生後に、宅地の被害に関する情報に基づき、必要があると判断した時は、宅地判定実施本部を設置し、宅地判定の実施を決定する。また、市町長は、宅地判定実施のための支援を知事に要請することができる。

イ 知事は、市町長から支援要請を受けた場合は、宅地判定支援本部を設置し、宅地判定士に協力を要請する等、必要な支援措置を講じる。

ウ 被災の規模等により市町が宅地判定の実施に関する事務を行うことができなくなったときは、知事が、宅地判定の実施に関し必要な措置を講じる。

エ 県及び市町は、宅地判定等の判定区域までの移動についての輸送手段の確保、食料の準備及び必要に応じて宿泊場所の確保を行うものとする。

オ 県は、所定の判定用資機材が不足する場合は、当該市町に代わってこれを調達する。

(4) 県と市町間の連絡調整

ア 市町は、宅地判定実施本部を設置したときは、県に速やかに連絡するものとする。

イ 宅地判定実施本部は、宅地判定支援本部に現地の被災状況を随時報告するとともに、支援の内容、支援開始時期等について協議、調整し速やかに報告するものとする。

(5) 国及び都道府県に対する支援の要請並びに他都道府県に対する支援等

知事は、市町長から支援要請を受けた場合で、被災の規模等により必要があると認めるときは、国土交通省又は他の都道府県知事等に対し宅地判定実施のための支援を要請することができる。

第9節 救援物資の調達・供給活動

第1項 食料供給計画

1 趣旨

県及び市町は、災害発生時における被災者に対し、食料の応急確保に努め、災害救助法による食料の供給及び給食を行う。

また、災害に備え、緊急用食料の備蓄に努める。

なお、被災者の健康状態や要援護者、食物アレルギー患者のニーズの把握に努めるとともに、避難の長期化等も踏まえ、栄養管理に配慮して食料供給等を行う。

2 実施責任者及び実施内容

(1) 市町長は、災害時に備えて食料供給計画を作成し、これにより食料の確保及び供給並びに給食を実施する。

(2) 市町長は、必要な食料を確保できない場合は、知事に応援を要請する。

(3) 知事は、市町長の要請があった場合、又は必要があると認めた場合は、食料を調達し供給する。

3 実施方法

(1) 市町

ア 市町長は、災害時における食料（米穀、弁当、パン、缶詰、インスタント食品、調整粉乳等）の供給及び給食に必要な副食調味料の確保と供給に努める。必要な食料の確保及び供給が困難な場合は、知事に対して応援を要請する。

なお、炊き出しは、市町が開設する避難所内又はその近隣において実施する。

イ 市町長は、知事等から食料の供給を受けたとき、それを被災者に円滑に供給することができるよう、あらかじめ体制を整備しておく。

ウ 市町長は、防災関係機関や販売業者等と密接に連携して、それらからの供給可能な数量、その保管場所等をあらかじめ把握しておく。

エ 被災者の健康状態や要援護者、食物アレルギー患者等のニーズの把握に努めるとともに、避難の長期化等も踏まえ、必要に応じ、関係団体と連携し栄養管理に配慮して、食料の供給及び給食、炊き出し等を行う。

(2) 県

知事は、市町長から食料供給の要請があった場合、又はその必要があると認めた場合、食料を円滑に供給できるよう、次の措置を講ずる。

ア 備蓄食料を供給する。

イ 米穀については、販売業者に売却を要請する。それが不可能な場合は、農林水産省に災害救助用米穀の引渡しを要請する。

ウ 弁当、パン、缶詰、インスタント食品等については、「災害救助に必要な物資の調達に関する協定書」を締結している販売業者等から調達する。

エ 防災関係機関や販売業者等と密接に連携して、それらからの供給可能な数量、その保管場所等をあらかじめ把握しておく。

オ 必要に応じ、近隣市町、他府県又は国に食料援助を要請する。

なお、他県等から受けた援助食料は、被災者に適正かつ円滑に供給することに努める。

カ 避難の長期化等を考慮して、必要に応じ関係団体と連携して市町が栄養管理に配慮して食

料の供給及び給食，炊き出し等が実施できるよう支援する。

4 食料供給の適用範囲及び期間

- (1) 避難所に収容された者
- (2) 住家の被害が全壊，半壊，床上浸水等であって炊事のできない者
- (3) 水道，電気，ガス等の供給がなく，炊事のできない者（医療機関や社会福祉施設等へ入院や入所している者も含む。）
- (4) 旅館やホテルの宿泊人及び前記イ，ウの住家への宿泊人，来訪者
- (5) 被災地内に停車，停船した列車，船舶等の旅客で，責任者の能力によって給食を受けることが期待できない者
- (6) 食料供給を行う期間は，災害の発生した日から7日以内とし，特に必要がある場合は期間の延長を行う。

5 用途及び経費

災害救助法が適用された場合は，原則として，災害救助法施行細則に定める用途及び支出限度額の範囲で行う。

第2項 給水計画

1 趣旨

災害により水道、井戸等の給水施設が破壊され、又は飲料水が汚染されたため、飲料水を得ることができない者に対して最小限度必要となる飲料水を確保する。

2 事前対策

(1) 市町長、水道事業者及び水道用水供給事業者

市町長、水道事業者及び水道用水供給事業者は、地震災害時に備えて、浄水場、幹線管路等基幹施設の耐震化、老朽管路の更新、バックアップ機能の強化等水道施設の耐震性向上に努めるとともに、緊急時の給水を確保するための配水池の増強や応急給水拠点の整備等水道システム全体としての安定性の向上に努めるものとする。

また、地震災害が発生したとき、迅速に応急給水、応急復旧が実施できるよう、その手順や方法等を明確にした計画の策定及び訓練の実施、大規模災害に備えた広域的な相互応援対策などの緊急対応体制の確立に努めるものとする。

なお、医療機関等に対する緊急時の給水については、十分配慮しておくものとする。

(2) 知事

知事は、地震災害時に備えて、日常から市町等が実施する施設の耐震化施策等について必要な指導・支援を行う。

3 実施責任者

災害により次の事態が発生した場合、それぞれ次に定める者が供給の責務を有する。

給水を必要とする場合	実施責任者	法令名
災害により現に飲料水を得ることができない場合	知事（知事が実施を委任したときは市町長）	災害救助法第23条、第30条 災害救助法施行令第23条
知事が生活の用に供される水の使用又は給水を制限し、又は禁止すべきことを命じた場合で、その期間の供給を知事が指示したとき	市町長	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）第31条
災害時に緊急に水道用水を補給することが公共の利益を保護するため必要と知事が認め、命令を発した場合	水道事業者又は水道用水供給事業者	水道法（昭和32年法律第177号）第40条

なお、災害救助法等が適用される前においては、水道により水を供給しているときは、その水道事業者が供給の責務を有する。

4 給水の基準

(1) 災害救助法による飲料水の供給

災害のため、飲料に適する水が得られない場合は、7日間以内（必要な場合延長ができる）の期間供給する。

(2) 感染症予防上必要と認め知事が井戸等の施設の使用停止を命じた場合、その停止区域の住民に対して1人1日20ℓ程度を停止期間中供給する。

(3) 水道法による水道用水の供給

災害等により水道施設が被害を受けた場合、緊急に水道用水を補給することが、公共の利益のために必要かつ適切な場合、知事は他の水道事業者又は水道用水供給事業者に対して、期間、水量、方法を指示して供給させる。

5 飲料水等供給方法

(1) 市町

給水活動を迅速かつ円滑に実施するため、次の措置を講ずる。

- ア あらかじめ、他の市町等からの応援を受ける場合も想定した応急給水のための手順や方法を明確にした計画の策定に努める。
- イ 浄水場、配水池、避難所等で拠点給水を実施する。
- ウ 給水車、給水船、トラック等による応急給水を実施する。
- エ 避難場所周辺のビル等の受水槽の活用を図る。
- オ 必要に応じ水質班を組織し、水質検査及び消毒等を実施する。
- カ 給水用資機材の調達を行う。
- キ 関連事業者等の協力を得て、応急仮配管の敷設、共用栓の設置等を行う。
- ク 市町のみでは、飲料水の確保、給水活動（応急復旧を含む。）が困難なときは、隣接市町又は県に応援を要請する。
- ケ 自己努力によって飲料水を確保する住民に対し、衛生上の注意を広報する。
- コ 応急給水場所や通水状況、通水の見通し等を広報し、住民への周知を図る。
- サ 遊休井戸等の緊急時に活用できる水源の確保・管理に努める。

(2) 県

市町の給水活動（応急復旧を含む。）が円滑に実施されるよう次の措置を講ずる。

- ア 被害の程度や給水活動（応急復旧を含む。）の実施状況等の把握に努め、その適切な実施に必要な助言・指導を行うよう努める。
- イ 県営水道施設が被害を受けた場合は、速やかに応急復旧を行い、市町への給水を確保する。
- ウ 必要に応じ水質班を組織し、水質検査及び飲料水の衛生指導を行う。
なお、水質検査の円滑な実施のため、検査体制及び実施方法について定めておく。
- エ 市町の給水能力、被害の程度等から飲料水の確保、給水活動（応急復旧を含む。）が困難と認められる地域については、必要に応じ、他の市町、他府県、国又は自衛隊、第六管区海上保安本部、西日本高速道路株式会社等の防災関係機関に給水応援（応急復旧を含む。）を要請する。

第3項 生活必需品等供給計画

1 趣旨

災害により一時的に生活の途を失った被災者に対し、生活必需品の応急確保に努め、災害救助法による被服、寝具、その他生活必需品の給与又は貸与を行う。

2 実施責任者

知事は災害救助法を適用し、市町長を補助者として給与又は貸与を行う。

なお、同法30条及び同法施行令第23条の規定に基づき、知事が市町長に実施を委任したときは、市町長が実施責任者となり実施する。

3 実施基準

(1) 適用範囲

住家に被害を受け、日常生活に欠くことのできない被服、寝具、その他の衣料品及び生活必需品を喪失又はき損し、しかも物資の販売機構等の混乱により資力の有無にかかわらず、これらの家財を入手することができない状態にある者に対し、一時の急場をしのぐ程度の被服、寝具、その他の衣料品及び生活必需品を給与又は貸与する。

(2) 適用期間

災害発生の日から10日以内とし、特に必要がある場合は、期間の延長を行う。

4 生活必需品等の範囲

(1) 寝具（毛布等）

(2) 外衣（ジャージ等）

(3) 肌着（シャツ、パンツ等の下着、靴下等）

(4) 身の回り品（タオル、サンダル等）

(5) 炊事用具（鍋、包丁、缶切り、カセットコンロ、カセットコンロ用燃料等）

(6) 食器（コップ、皿、箸等）

(7) 日用品（トイレットペーパー、歯ブラシ、歯磨き、ビニールシート、軍手、ポリタンク、生理用品、紙オムツ等）

(8) 光熱材料（LPガス、灯油、マッチ、懐中電灯、電池等）

5 実施方法

(1) 調達方法

知事は、(3)の実施基準と災害救助法施行細則の支出限度額の範囲内で購入計画をたて、取扱い業者の協力を得て調達する。

県内で生活必需品等の必要量の確保が困難な場合、近隣他県への応援を要請する。

(2) 配分

知事は市町長に対し、事前又は物資送達と同時に配分計画を示す。

市町長は、被服等生活必需品等を、被災者に円滑に供給することに努める。

第4項 救援物資の調達及び配送計画

1 方針

県内で大規模な災害が発生し、市町単独での物資の確保が困難な場合に、県は、市町の要請等に基づき、県の備蓄物資を供給するとともに、市町の要請を取りまとめて民間事業者等に対して、物資の調達及び輸送等を要請する。

また、県単独での対応が困難な場合は、国や他の都道府県等へ物資の供給を要請する。

なお、大規模災害により物資等が不足し、災害応急対策を的確かつ迅速に実施することが困難であると認められ、かつ、市町の要請を待ついとまがないと認められるとき、県は、市町からの要請を待たずに必要な物資の供給を行うことができる。

2 物資の調達及び受入体制

(1) 市町

ア 被災者に速やかに物資を供給することができるよう、避難所等での分散備蓄や救援物資輸送拠点の複数箇所の選定に努めるものとする。

イ 物資の調達が困難な場合は、知事に対して応援を要請する。

(2) 県

ア 市町から物資の要請があった場合、又はその必要があると認めた場合、備蓄物資を速やかに市町へ供給する。

イ 「災害救助に必要な物資の調達に関する協定」を締結している小売事業者等に物資を要請するとともに、必要に応じ、県災害対策本部へ連絡員の派遣を要請する。

ウ 県単独での物資の確保が困難な場合、国や中国5県及び中国・四国地方における災害時の相互応援協定等に基づき物資の要請を行う。

3 物資の輸送

(1) 県は、広島県トラック協会及び広島県旅客船協会等へ物資輸送の要請を行う。

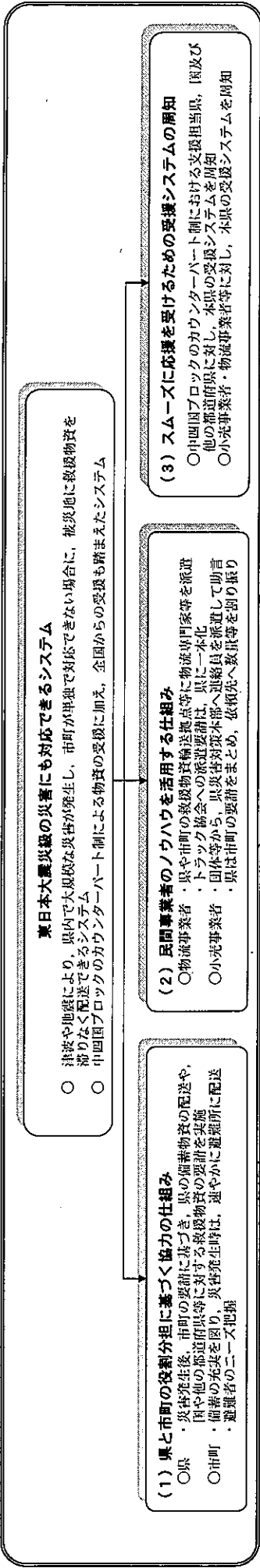
(2) 県は、広島県トラック協会等に対して、県や市町の災害対策本部又は救援物資輸送拠点等への物流専門家の派遣を要請する。

(3) 物資の輸送に協力する広島県トラック協会等は、物資を輸送する際に、必要に応じ、避難所のニーズ等の聞取りを行い、市町等への報告に努めるものとする。

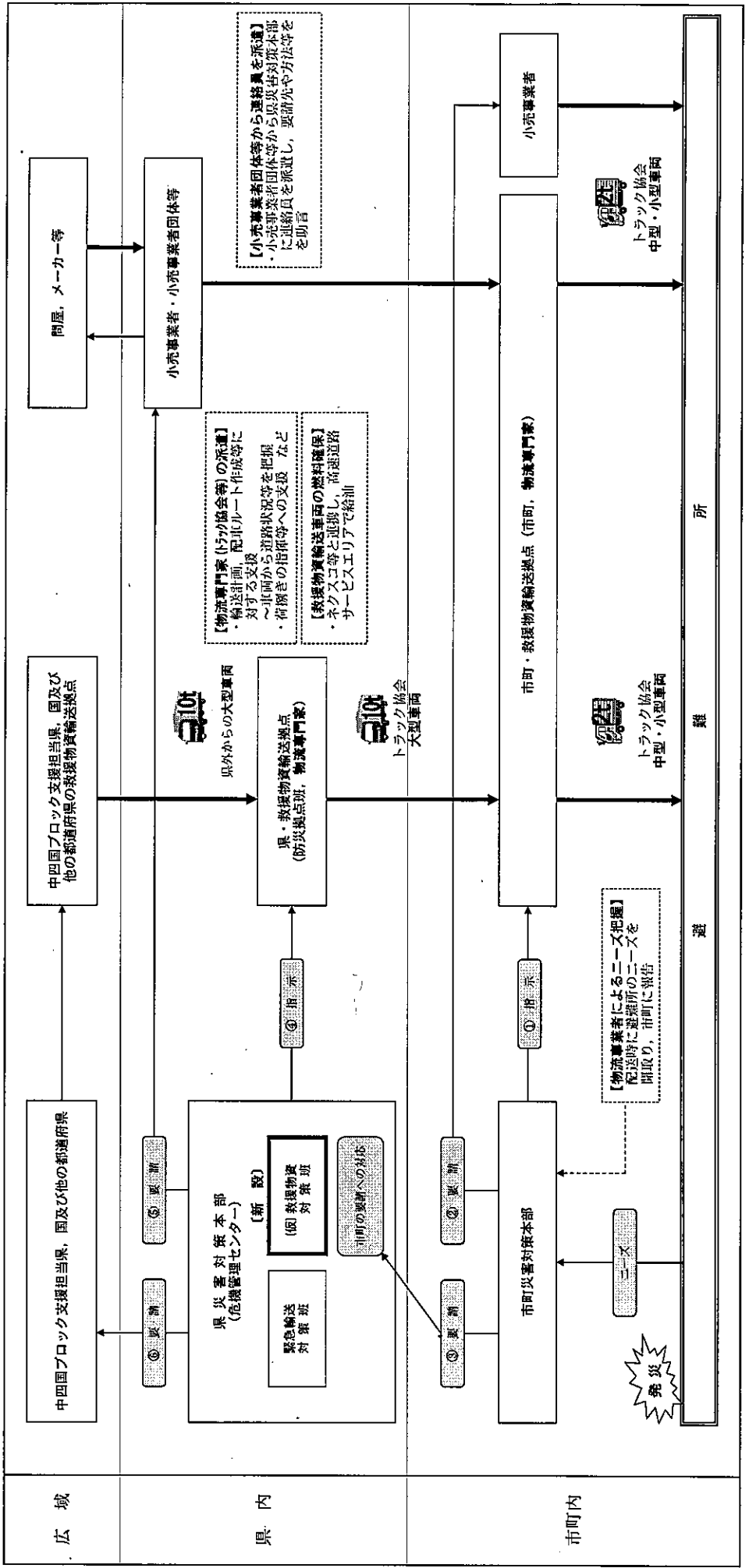
(4) 物資輸送車両等の燃料確保について、県は、国への要請や関係機関との連携により確保に努めるものとする。また、必要に応じ、西日本高速道路株式会社等に対して、高速道路の給油所において物資輸送車両へ給油を行うよう要請する。

広島県における救援物資の配送対策について

I 基本的な考え方



II イメージ図



第10節 保健衛生・防疫，遺体の処理に関する活動

第1項 防疫計画

1 目的

この計画は，災害時において生活環境の悪化，被災者の病原体に対する抵抗力の低下などの悪条件が重なることにより感染症が発生し，又は発生のおそれがある場合に，発生の予防とまん延防止を図るため，防疫及び廃棄物処理の必要な事項について定めることを目的とする。

2 防疫

(1) 感染症の発生予防・まん延防止のための措置

感染症の発生予防及びまん延防止のための措置として，知事は，次の方法を用いることができる。このうち，感染症の病原体に汚染された場所等の消毒，ねずみ族・昆虫等の駆除及び感染症の病原体に汚染された飲食物，衣類，寝具その他の物件の消毒・廃棄等については，知事が感染症患者若しくはその保護者又はその場所を管理する者若しくはその代理をする者に対して命ずることができるが，これらの命令によって感染症の発生予防・まん延防止が困難であると認めるときは，市町に当該措置を実施するよう指示することができる。

また，生活の用に供される水の使用制限等を実施した場合には，市町は生活の用に供される水を供給しなければならない。

実施の内容	条 項	対 象
病原体に汚染された場所等の消毒	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下，「法」という。）第27条	一類感染症 二類感染症 三類感染症 新感染症 指定感染症
ねずみ族・昆虫等の駆除	法第28条	
病原体に汚染された飲食物，衣類，寝具その他の物件の消毒・廃棄等	法第29条	
生活の用に供される水の使用制限等	法第31条	
病原体に汚染された建物等への立入制限等	法第32条	一類感染症 新感染症 指定感染症
病原体に汚染された場所の交通制限等	法第33条	

(2) 防疫活動

災害時については，(1)による通常の防疫措置のほか，次の防疫活動を計画する。

ア 検病検査及び健康診断

(ア) 検病検査の実施

災害時に感染症患者が発生した場合，発生の状況を的確に把握し，患者及び無症状病原体保有者の早期発見に努め，入院，病原体に汚染された物件の消毒その他適切な予防措置を講ずるため県，広島市，呉市及び福山市は検病調査を行う。

(イ) 感染症対策班の設置

病原調査は，医師1名，看護婦1名及びその他の職員2名で編成する。感染症対策班で行う。

1日当たりの検査能力：平均60戸，約300名

(ウ) 健康診断の実施

検病検査の結果，必要な場合は，法第17条第1項に規定する健康診断の勧告を行い，

又は健康診断を実施する。

(エ) 健康診断は、検査技師1名及びその他の職員2名で編成する細菌検査班で行う。

1日当たりの検査能力：平均200名

イ 市町の防疫活動

(ア) 防疫活動

市町は、知事の指示に従い感染症の病原体に汚染された場所等の消毒、ねずみ族・昆虫等の駆除及び感染症の病原体に汚染された飲食物、衣類、寝具その他の物件の消毒・廃棄等及び生活の用に供される水の供給を実施する。

(イ) 被害の状況報告

市町における被害状況は、関係者の協力により速やかに把握し、これを「第3節災害情報計画」により県に報告する。

(ウ) 防疫計画の作成及び報告

市町長は、知事の指示に従い防疫活動を作成し、計画の概要及び防疫活動状況を県に報告する。

第2項 遺体の搜索，取り扱い，埋葬等計画

1 方針

災害により，死亡者が発生した場合，市町，県及びその他防災関係機関は，相互に連絡を密にして，遺体の搜索，処理及び埋葬等を実施する。また，大規模な災害により多数の死者が生じた場合には遺体の取り扱いを遅滞なく進める。

2 遺体の搜索

知事は，災害救助法を適用した場合，市町長を補助者として消防機関その他関係者の協力のもとに，災害救助法施行細則の基準に従い，遺体の搜索を行う。

なお，知事が市町長に実施を委任したときは，市町長が実施責任者となり遺体の搜索を行う。

(1) 陸上における搜索

知事は，県警察の協力を得て遺体の搜索を行い，遺体を発見したときは速やかに収容する。

(2) 海上における搜索

知事は，第六管区海上保安本部及び県警察の協力を得て遺体の搜索を行い，遺体を発見したときは速やかに収容する。

3 遺体の取扱い

遺体を発見したときは，第六管区海上保安本部，県警察及び市町は次の措置を行う。

(1) 第六管区海上保安本部，県警察

ア 遺体の見分及び検視（以下「検視等」という。）を行うとともに，市町と連携をとり所要の措置を行う。

なお，多数の遺体がある場合は，遺族感情への配慮や効率的な検視業務の遂行のため，検視場所の確保，検視に必要な資機材（水，電気，手袋，エプロン等）の準備・保管・提供，検視等が終了した遺体の洗浄処理等について市町と連携して対応するとともに，県警察にあっては，必要に応じて警察災害派遣隊を要請し，体制の確保に努めることとする。

イ 身元不明遺体については，写真の撮影，指紋の採取，遺品の保存等を行い，速やかに身元確認に努める。

(2) 県

市町の行政機能が喪失又は低下した場合，検視場所の確保，身元不明遺体の引き渡し等の措置を円滑に進めるため，当該市町を積極的に支援する。

(3) 市町

ア 遺体について，県警察と協議の下，医師による死因その他医学的検査を実施する。

イ 遺体の身元特定のために必要な資料等について，県警察等に積極的な提供を行う。

ウ 多数の遺体がある場合は，遺族感情への配慮や効率的な検視業務の遂行のため，検視場所の確保に努めるとともに，検視に必要な資機材（水，電気，手袋，エプロン等）の準備・保管・提供について県警察等と連携して対応する。

エ 検視及び医学的検査を終了した遺体については，おおむね次により処理する。

(ア) 感染症の予防等に配慮し，遺体の洗浄，縫合，消毒等の処理を行う。

(イ) 遺体の身元識別のため相当の時間を必要とし，又は死亡者が多数のため短時日に埋葬等ができない場合においては，遺体の腐敗防止措置を行った上で特定の場所（寺院な

どの施設の利用又は神社、仏閣、学校等の施設に仮設)に集め、埋葬等の処置をとるまで一時保存する。

4 遺体の埋葬等

市町は、自ら遺体を埋葬若しくは火葬に付し、又は棺、骨つば等を遺族に支給する等現物支給を行う。

なお、死亡者が多数のため、市町自ら短時日に埋葬等を行うことができない場合や棺、骨つば等埋葬等に必要な物資が十分に確保できない場合は、県に対して応援を要請する。

県は市町から応援要請を受けたときは、火葬場、棺等関連する情報を広域的かつ迅速に収集するとともに県内市町に対して応援要請する。また、状況に応じて災害時の相互応援協定に基づき近隣県に対して応援要請を行う。

なお、埋葬等に当たっては、次の点に留意する。

- (1) 身元不明の遺体については、県警察その他関係機関に連絡した後に、措置する。
- (2) 身元不明でかつ原因不明の遺体については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法（明治32年法律第93号）の規定により措置する。ただし、災害救助法が適用されている場合で、災害により死亡したことが明らかな遺体については、同法に基づき埋葬等を実施する。
- (3) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による遺体の移動制限等
 - ア 知事は、一類感染症、二類感染症又は三類感染症の発生を予防し、又はそのまん延を防止するため必要があると認めるときは、遺体の移動を制限し、又は禁止する場合がある。
 - イ 一類感染症、二類感染症又は三類感染症の病原体に汚染等された遺体は、火葬しなければならない。ただし、十分な消毒を行い、知事の許可を受けたときは埋葬することができる。
 - ウ 一類感染症、二類感染症又は三類感染症の病原体に汚染等された遺体は、24時間以内に火葬し、又は埋葬することができる。

第11節 応急復旧，二次災害防止活動

第1項 電力・ガス・水道・下水道施設災害応急対策計画

1 目的

この計画は，電力，ガス供給施設，水道施設及び下水道施設の公共性にかんがみ，災害時におけるこれらの施設の応急対策について必要な事項を定めることを目的とする。

2 電力施設災害応急対策

(1) 実施責任者

中国電力株式会社及びその他の電気事業者は，防災業務計画の災害対策計画に基づき，県内の電気工作物を災害から防護し需要電力を確保する責任を有する。

(2) 実施方法

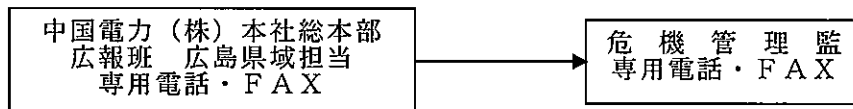
ア 中国電力株式会社

(ア) 中国電力株式会社は，防災業務計画の定めるところにより応急対策及び復旧工事を実施する。

(イ) 中国電力株式会社は，発電用ダムから放流する場合には，河川管理者の承認を受けた「ダム操作規程」に基づいて行う。

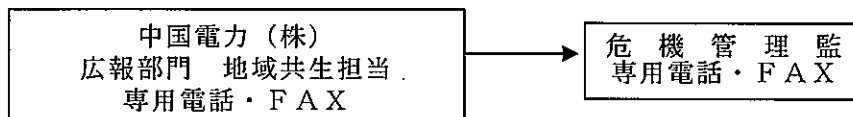
(ウ) 中国電力株式会社は，社内に災害対策（準備）総本部を設置したとき及び大規模な被害又は重大な事故が発生したときは，被害状況，復旧目標，復旧状況等について次の伝達経路によって危機管理監に伝達する。

a 災害対策（準備）総本部を設置したとき

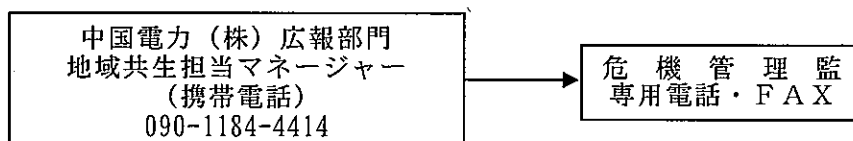


b 災害対策（準備）総本部を設置していないとき

(a) 勤務時間内



(b) 勤務時間外



(エ) 中国電力株式会社は，あらかじめ定める動員計画に基づき，災害復旧に必要な要員を確保するとともに，必要に応じて請負工事業者等へ応援を依頼する。また，状況によっては，広域的な応援・受援計画により他の電力会社へ応援を依頼する。

(オ) 中国電力株式会社は，災害時における混乱及び感電事故等を防止するため，報道機関による報道，広報車による巡回放送及びホームページへの掲載を含むインターネットによる発信等によって，復旧の見通し，被害地区における電気施設，電気機器使用上の注意等について，県民に対する広報活動を行う。

(カ) 中国電力株式会社は、自己の電気工作物の事故等の応急対策の実施に当たって、他の公共施設に与える影響を十分配慮して実施する。

イ その他の電気事業者

中国電力株式会社の場合に準じて災害応急対策計画を作成し、計画性と公共性に配慮の上、応急対策を講ずる。

3 ガス施設災害応急対策

(1) 実施責任者

ガス事業者は、ガス工作物を災害から防護し、ガスの安定供給を確保する責任を有する。

ガス事故による災害が発生し、又は発生するおそれのある場合は、消防機関、県警察等は自己の所掌事務を通じて処置し、協力する。

(2) 実施方法

ア ガス事業者は、ガス保安関係法令及び自己の定める災害対策計画により応急対策を実施する。

イ ガス工作物に関する災害が発生したときは、事故の態様に応じ、直ちに消防機関又は警察署に速報し、応急対策を講ずるとともに、事故の状況、復旧見込み等を最も適切な方法で需要者その他の関係者へ通報する。

ウ ガス事業者は、あらかじめ定める動員計画に基づき、災害復旧に必要な要員を確保するとともに、必要に応じて請負工事業者等へ応援を依頼する。また、状況によっては、広域的な応援・受援計画により他のガス会社へ応援を依頼する。

エ 災害により、ガス供給が不可能となった場合は、ガス供給業者は可能な限りこれに代わる適当な燃料が確保されるよう努める。

オ ガス施設の被害状況、復旧の見通し、ガス使用上の注意等の広報活動を広報車及びホームページへの掲載を含むインターネットによる発信等により行い、必要に応じてテレビ、ラジオ等による放送を報道機関に依頼するものとする。

4 水道施設災害応急対策

(1) 実施責任者

水道事業者及び水道用水供給事業者

(2) 応急復旧対策

ア 迅速に応急復旧等が行えるよう、あらかじめ、関連事業者等からの応援を受ける場合も想定した手順や方法を明確にした計画の策定に努めるとともに、大規模災害に備えた広域的な相互応援対策などの緊急対応体制の確立に努めるものとする。

イ 応急復旧等が実施責任者のみでは困難な場合には、県内の関連事業者、隣接市町又は県に応援を要請し、必要に応じ、広域的な応援・受援計画により、県外の関連事業者等へ応援を依頼する。

ウ 応急復旧等の状況や見通しを広報し、住民へ周知する。

(3) 資機材等の確保

応急復旧等に必要な資機材を備蓄するとともに、関連事業者等との調達体制の確立に努めるものとする。

5 下水道施設災害応急対策

(1) 実施責任者

下水道管理者

(2) 応急復旧計画

あらかじめ定める動員計画に基づき、災害復旧に必要な要員を確保するとともに、被害状況に応じて請負工事業者等へ応援を依頼する。また、状況によっては、広域的な応援・受援計画により県外の関連事業者等へ応援を依頼する。

(3) 広報サービスの実施

下水道施設の被害状況、復旧の見通し等の広報活動を広報車等により行い、必要に応じてテレビ、ラジオ等による放送を報道機関に依頼するものとする。

(4) 要員及び資機材等の確保

ア 復旧要員

災害復旧に必要な要員は、被害状況に応じて確保する。

イ 復旧資機材

応急復旧は、あらかじめ備蓄する復旧資機材等により実施するものとし、不足する場合は下水道管理者間で、その融通に努める。

第2項 廃棄物処理計画

1 実施責任者

- (1) 一般の場合は廃棄物の処理は市町が行う責務を有し、住民はこれに協力する義務がある。
 (2) 特別の事態が発生した場合、法令の定める者が廃棄物の処理を行う責務を有する。

実施責任者	措置の対象となるもの	措置の内容	法令名
市町長	災害により処理が必要となった一般廃棄物	収集、運搬、処分	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条の2
知事（知事が実施を指示した場合は市町長）	災害によって住居又はその周辺に運ばれた土石、竹木等で日常生活に著しい支障を及ぼしているもの	除去	災害救助法施行令第9条

2 適用基準

区分 法令名	対象となるもの	対象区域及び適用範囲
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	災害廃棄物	市町の区域
災害救助法	土石、竹木等の障害物（ごみ等も障害が著しい場合は含む。）	災害救助法適用市町の区域内で次の条件に該当するもの。 ○ 住家が半壊又は床上浸水し、障害物のため日常生活が営めない者で除去のための資力を有しない者。

3 処理方法

区分	処理方法
ごみ	次の事項について処理計画をたて実施する。 ア 処理班の編成（運搬車、人員の配置） イ 小地区焼却場所、集積場所の決定
し尿	次の事項について処理計画をたて実施する。 ア 処理班の編成（運搬車、人員の配置） イ 避難所等への応急仮設トイレの設置 ウ 地域内への臨時貯溜槽の設置 エ 収集したし尿の処分等の実施
障害物	ごみに準じて処理する。

第12節 ボランティアの受入等に関する計画

1 方針

県・市町及び関係団体は、災害時のボランティア活動が円滑に行われるよう相互に協力し、ボランティアに対する被災地のニーズの把握に努めるとともに、ボランティアの受付、調整等その受入れ体制を確保するよう努めるものとする。ボランティアの受入れに際して、老人介護や外国人との会話力等ボランティアの技能等が効果的に活かされるよう配慮するとともに、必要に応じてボランティアの活動拠点を提供する等、ボランティアの活動の円滑な実施が図られるよう支援に努めるものとする。

2 ボランティアの受入れ

(1) ボランティアの受入れ体制

災害時において、県は、災害対策本部を設置した際には、広島県社会福祉協議会が設置する広島県被災者生活サポートボランティアセンターへの支援及び専門ボランティアの派遣（「以下、支援等」）を行う。広島県被災者生活サポートボランティアセンター及び被災地市町社会福祉協議会が設置する市町被災者生活サポートボランティアセンターは、連携を図り、ボランティアなどの受け入れや活動支援、情報収集・発信などを行う。

(2) 県災害対策本部の役割

本部は、ボランティアの受入れ体制の確保について、被災市町、日本赤十字社広島県支部、広島県社会福祉協議会及びその他防災関係機関並びにボランティア団体と緊密に連絡、協議し、支援等を行うものとする。

また、本部は、広島県被災者生活サポートボランティアセンターへ被災地の状況、救援要請や救援活動の状況などの情報提供や情報収集を行う。

(3) 市町災害対策本部の役割

本部は、ボランティアの受入れ体制の確保について、市町被災者生活サポートボランティアセンターと連携し、ボランティアの受入窓口や連絡体制を定め、ボランティア活動の円滑な実施を支援する。

また、本部は、市町被災者生活サポートボランティアセンターに対して、情報提供等の支援を行う。

(4) 広島県被災者生活サポートボランティアセンターの役割

市町被災者生活サポートボランティアセンターや県災害対策本部等と連絡・調整し、市町被災者生活サポートボランティアセンターの後方支援を行うものとする。

ア 市町被災者生活サポートボランティアセンターの運営支援

情報発信、人材の派遣、資機材、資金の調整等の支援を行う。

イ 県内関係機関・団体及び全国への支援要請及び情報発信

県域の災害時の協働ネットワークである「広島県被災者生活サポートボラネット」の構成機関・団体及び全国へ、被災地支援に向けた情報、人材、資機材の確保、資金の呼びかけ等を行う。

(5) 市町被災者生活サポートボランティアセンターの役割

広島県被災者生活サポートボランティアセンターや市町災害対策本部等と連絡・調整し、ボランティアなどの受け入れや活動支援を行うものとする。

ア 被災者の支援ニーズ等の把握

各災害応急対策責任者や被災者、ボランティア、関係機関・団体等から、被災者の生活支援にかかるニーズを把握する。

イ ボランティアの募集

ボランティアのあっせん要請等の需要に対し、ボランティアが不足すると考えられる場合、ボランティア活動の必要な状況を広報し、ボランティアの募集を行う。

ウ ボランティアのあっせん・活動支援

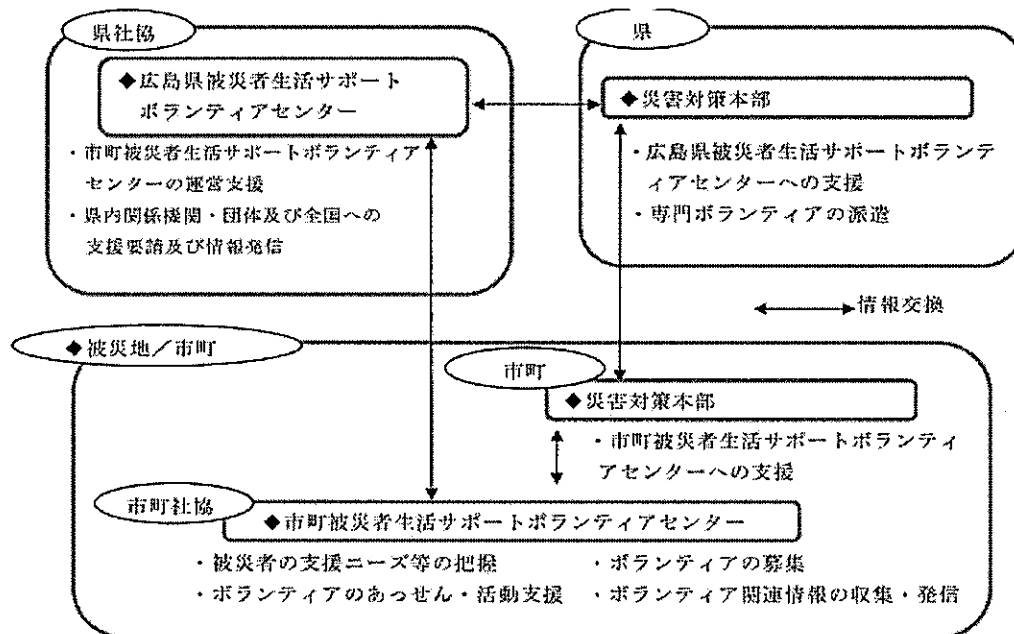
災害発生時におけるボランティア申出者を受け付け、各ボランティアの活動内容、活動可能日数、資格、活動地域等を把握する。

各災害応急対策責任者から市町被災者生活サポートボランティアセンター等に対しボランティアのあっせん要請が出された場合、平常時からのボランティア登録者及び災害後に受け付けたボランティア申出者の中から必要なボランティアをコーディネートする。

また、ボランティアのあっせん要請がない場合でも必要と認められるときは、ボランティアのあっせんを行うことができるものとする。

エ ボランティア関連情報の収集・発信

被災地の状況、救援活動の状況などの情報を、ボランティアに対して的確に提供する。



3 専門ボランティアの派遣等

県は、各災害応急対策責任者から専門ボランティアのあっせん要請があった場合、県に登録されている専門ボランティアや市町被災者生活サポートボランティアセンター等で受け付けた専門ボランティアをあっせんする。

市町は、専門ボランティアの受入れ及びあっせんの調整等を行う。

4 ボランティアの活動拠点及び資機材の提供

県及び市町は、庁舎、公民館、学校などの一部を、ボランティアの活動拠点として積極的に提供する。

また、ボランティア活動に必要な事務用品や各種資機材については、可能な限り貸し出し、ボランティアが効率的に活動できる環境づくりに努めることとする。

5 災害情報等の提供

県は広島県被災者生活サポートボランティアセンターへ、市町は市町被災者生活サポートボランティアセンターへ、ボランティア活動に必要な災害情報等を積極的に提供する。

6 市町被災者生活サポートボランティアセンターの機能喪失時の補完体制

大規模災害の発生により市町被災者生活サポートボランティアセンター機能の一部又は全部が喪失した場合、広島県被災者生活サポートボランティアセンター及び近隣の市町社会福祉協議会（被災者生活サポートボランティアセンター）は、協働して、センター機能の一部又は全部を担える体制を整備する。

7 ボランティア保険制度

県及び市町は、ボランティアの活動中における負傷等に備え、ボランティアが保険へ加入するよう努める。

第13節 文教計画

1 目的

この計画は、災害時において園児、児童、生徒及び学生（以下「生徒等」という。）の安全を確保し、災害後の生徒等の不安感の解消に努め、教育活動が円滑に実施できるよう応急教育の実施その他必要な事項について定めることを目的とする。

また、県及び市町は災害発生時において学校（専修学校及び各種学校を含む。以下同じ。）や公民館等社会教育施設が被災者の避難所として使用されることとなった場合、その使用に支障のないよう適切な運営に努める。

2 避難対策

(1) 学校の管理者

ア 市町立学校（学校組合立学校を含む。以下同じ。）

当該市町教育委員会（学校組合教育委員会を含む。以下同じ。）

イ 県立学校

県立学校長

ウ 私立学校

私立学校長

エ 国公立大学

国公立大学長

(2) 休業等の実施

学校の管理者は、市町長との連絡調整により異常気象の情報収集に努め、必要に応じ休業等の措置をとる。部分休業により生徒等を帰宅させる場合には、気象状況及び通学経路の状況について十分に注意する。

(3) 避難の実施

学校の管理者は、災害が発生した場合又は市町長が避難の勧告若しくは指示を行った場合には、あらかじめ作成された避難計画に基づいて、生徒等及び教職員等を安全な場所に避難させ、その安全の確保に努める。

3 生徒等への相談活動

学校の管理者は、災害による生徒等の被災状況を迅速に把握し、生徒等への相談活動を行いながら精神的な不安感の解消に努める。

4 応急教育対策

(1) 応急教育の実施

ア 応急教育の実施責任者

(ア) 市町立学校（幼稚園を除く。）

当該市町教育委員会

(イ) 県立学校

県立学校長

(ウ) 私立小・中・高等学校（各種学校のうち外国人学校及び専修学校及び専修学校のうち3年制高等課程を含む。以下この項において同じ。）

学校長

イ 応急教育の実施場所

- (ア) 応急教育を実施するため、あらかじめ作成された応急教育計画に基づいて、校内施設の活用又は市町内の他の学校、公共施設の利用等について関係者と協議のうえ、実施場所を選定する。
- (イ) 応急教育実施場所がその市町内で得られない場合は、実施責任者の要請により県教育委員会（私立小・中・高等学校にあっては知事）がその確保のためあつせんに当たる。

ウ 応急教育の実施方法

応急教育は、被害の実情に即した方法により実施する。

- (ア) 児童生徒、保護者、教職員及び学校施設・設備・通学路の状況を把握する。
- (イ) 教職員を動員し、授業再開に努める。なお、被害の状況により、必要があるときは、市町又は地域住民等の協力を求める。
- (ウ) 学校施設及び設備の応急復旧状況を把握し、必要に応じて速やかに応急教育計画の修正を図り、応急教育計画の開始時期及び方法を確実に児童生徒及び保護者に連絡する。
- (エ) 児童生徒を学校へ一度に受け入れることができない場合は、二部授業又は地域の公共施設を利用した分散授業の実施に努める。なお、二部授業を行う時は、県立学校にあっては県教育委員会に、市町立学校にあっては学校教育法施行令（昭和28年政令第340号）第25条の規定により市町教育委員会を経由して県教育委員会に届け出る。
- また、特別支援学校にあってはスクールバス等の利用が困難となった場合は、通学区域を分割し、公共施設を利用した分散授業の実施に努める。
- (オ) 応急教育の実施に当たって、施設の確保ができない場合は、仮校舎等の建築も検討する。
- (カ) 児童生徒の登下校時における安全の確保に努める。

(2) 学用品の調達

ア 教科書等の確保

市町教育委員会、国立及び県立学校並びに私立小・中・高等学校の長は、災害により教科書及び教材を喪失又は損傷した児童、生徒がある場合には、県教育委員会の協力を得て、その確保に努める。

イ 教科書等学用品の支給

知事は、災害救助法を適用した場合は、教科書等学用品を災害救助法施行細則に則り、次により調達し、支給する。また、知事の実施を市町長に委任した場合は、市町長が実施する。なお、教科書及び教材の支給に関しては、県教育委員会の協力を得るものとする。

(ア) 支給対象者

災害により住家に被害（全壊、全焼、流失、半壊、半焼及び床上浸水）を受け、教科書等学用品を喪失又は損傷し、就学上支障のある小学校児童及び中学校生徒（特別支援学校の小学部児童及び中学部生徒並びに中等教育学校の前期課程の生徒を含む。）並びに高等学校等生徒（特別支援学校の高等部生徒、中等教育学校の後期課程の生徒並びに高等専門学校、専修学校等の生徒を含む。）

(イ) 支給範囲

- (a) 教科書及び教材（県又は市町教育委員会に届け出又は承認を受けて使用しているもの）
- (b) 文房具（ノート、鉛筆、消しゴム、クレヨン、絵具、画筆、画用紙、下敷、定規等）
- (c) 通学用品（運動靴、傘、かばん、長靴等）

(ウ) 支給限度額

- (a) 教科書及び教材 給与に要した実費
- (b) 文房具及び通学用品 災害救助法施行細則に定めるところによる。

(エ) 支給申請の期限

- (a) 教科書及び教材 1か月以内
 (b) 文房具及び通学用品 15日以内

ただし、やむを得ない特別な事情がある場合は、厚生労働大臣の承認を得て期間を延長する。

(3) 教職員の確保

被災した教職員が多いため、正常な授業や校務運営の実施が困難な場合は、応急教育の実施責任者は、県教育委員会（私立小・中・高等学校（各種学校のうち外国人学校及び専修学校のうち3年制高等課程を含む。）にあっては知事）にその状況を報告する。

この場合において、県教育委員会（又は知事）は、応急教育の円滑な実施のために必要な教職員の確保に努める。

(4) 給食

ア 給食施設及び給食用物資等に被害を受けた場合、設置者（県立学校にあっては校長）は、その状況を県教育委員会に報告する。

イ 設置者（市町教育委員会又は県教育委員会）は、被害物資量を把握し、県学校給食会に被害物資の処分方法、給食開始に必要な物資の確保・配分等について指示する。

ウ 避難場所として使用される学校において、その給食施設が被災者炊き出し用に利用されることになる場合は、学校給食と被災者炊き出しとの調整に留意する。

エ 被災地においては、感染症発生のおそれが多いので、保健衛生について、特に留意する。

(5) 通学道路等の確保

災害が発生し又は発生のおそれがある場合、通学時において生徒等を災害から保護するために、市町長は関係者と緊密な連携をとり次のような対策を講ずる。

ア 通学バス、通学ポート等により通学を行っている地区においてこれらが運行不能となった場合、臨時の寄宿舎の開設等これに代わり得る措置を講ずる。

イ 災害危険箇所（積雪時のなだれ、水害時における道路橋梁の決壊等）の実態を把握し、危険予防のため市町長は校長と協議し、通学方法についての指示、その他必要な措置を講ずる。

ウ 災害により通学不能又は困難が常時予想される地区については、季節的な寄宿舎の設置等も考慮する。

エ 道路等の交通確保等については第3章第7節において記述する。

(6) 高等学校生徒等の災害応急対策への協力

高等学校において、登校可能な生徒を教職員の指導監督のもとに学校の施設、設備等の応急復旧整備作業や地域における救援活動及び応急復旧等に協力するよう指導する。

大学、専修学校及び各種学校についても、高等学校に準じて、災害応急対策への協力を指導又は要請する。

(7) 授業料等の減免

県教育委員会は、県立高等学校の生徒が被害を受けた場合は、必要に応じ、授業料・受講料の減免措置を講ずる。

また、県は、私立幼稚園、私立小・中・高等学校、私立専修学校（3年制高等課程に限る。）及び私立各種学校（外国人学校に限る。）の園児、児童及び生徒が被災を受けた場合で、学校設置者が授業料・入学時納入金の減免措置を講じた場合、必要に応じて当該学校設置者に対して助成するとともに、県立看護専門学校の学生の保護者（学費負担者）が被害を受けた場合は必要に応じ授業料の減免措置を講ずる。さらに、公立大学法人県立広島大学は、学生の学費負担者が被害を受けた場合、必要に応じて授業料等の減免措置を講ずる。

5 学校が地域の避難所となる場合の対策

(1) 学校の管理者は、避難所に供する施設・設備の安全を確認したうえ、市町長に対し、その利用について必要な情報を提供する。

また、避難所として必要な人員を確保し、施設・設備の保全に努め、有効かつ的確な利用に万全を期する。

さらに、学校が有する情報伝達機能を有効に活用し、的確な情報提供に努める。

(2) 学校の管理者は、避難生活が長期化する場合には、応急教育活動と避難者への支援活動との調整について市町と必要な協議を行う。

6 公民館等社会教育施設が地域の避難所となる場合の対策

(1) 公民館等社会教育施設の管理者は、避難所に供する施設・設備の安全を確認したうえ、市町長に対し、その利用について必要な情報を提供する。

さらに、避難所として必要な人員を確保し、施設・設備の保全に努め、有効かつ的確な利用に万全を期する。

(2) 公民館等社会教育施設の管理者は、避難生活が長期化する場合には、避難者への支援活動について市町と必要な協議を行う。

7 文化財に対する対策

(1) 文化財が被災した場合には、所有者又は管理者は消防機関等に通報するとともに、速やかに市町教育委員会に被災状況を報告する。

(2) 市町教育委員会は、市町指定文化財については所有者又は管理者に対し、必要な応急措置を取るよう指示し、国指定等及び県指定の文化財については、県教育委員会へ被災状況を報告する。

(3) 県教育委員会は、前項の報告を受けたときは、市町教育委員会に対し必要な措置を取るよう指示し、国指定等の文化財については文化庁へ被災状況を報告する。

第14節 災害救助法適用計画

1 目的

この計画は、災害に際して被災者の救難、救助その他応急的保護に関して必要な事項を定めることを目的とする。

応急救助は、関係法令の規定により、実施責任者が定められている場合はその実施責任者が、その他の場合は市町長が、その市町内の住民、団体の協力を得て第一次的に実施すべき責任を有するものであるが、この節においては、主として各法令の適用を受けて実施する応急救助について、その実施責任者、実施の大綱及び相互の総合調整等を定めるものとする。

2 災害救助法適用

(1) 趣旨

知事は、災害により一定規模以上の被害が発生した市町に対し、災害救助法を適用し、同法に基づく次の応急救助を実施し、被災者の保護と社会秩序の保全を図る。

ア 避難所の設置

イ 応急仮設住宅の供与

ウ 炊き出しその他による食品の給与及び飲料水の供給

エ 被服、寝具その他生活必需品の給与又は貸与

オ 医療及び助産

カ 災害にかかった者の救出

キ 災害にかかった住宅の応急修理

ク 学用品の給与

ケ 埋葬

コ 遺体の搜索及び処理

サ 災害によって住居又はその周辺に運ばれた土石、竹木等で、日常生活に著しい支障を及ぼしているもの（以下、「障害物」という。）の除去

(2) 災害救助法の適用基準

災害救助法は、次のいずれかに該当する場合に適用される。

ア 当該市町区域内の住家滅失世帯数が市町災害救助法適用基準の「1号基準世帯数」（附属資料に掲載）以上であること。

イ 県区域内の住家滅失世帯数が2,000世帯以上であって、当該市町の住家の滅失世帯数が市町災害救助法適用基準の「2号基準世帯数」（附属資料に掲載）以上であること。

ウ 県区域内の住家滅失世帯数が9,000世帯以上であって、当該市町の区域内の住家滅失世帯数が多数であること。

エ 災害が隔絶した地域に発生したものであるなど災害にかかった者の救護を著しく困難とする特別の事情がある場合であって、かつ多数の世帯の住家が滅失したこと。

オ 多数の者が生命又は身体に危害を受け、又は受けるおそれが生じたこと。

(注) 住家滅失世帯数の算定

住家滅失世帯数の算定に当たっては、住家が半壊、半焼等著しく損傷した世帯は2世帯をもって、住家が床上浸水、土砂のたい積等により一時的に居住不能となった世帯は3世帯をもって、それぞれ住家が滅失した1の世帯とみなす。

(3) 救助の種類、対象及び期間

災害救助法に基づく救助の種類、対象及び期間は、次のとおりである。

救助の種類	対 象	期 間
避難所の設置	現に被害を受け、又は被害を受けるおそれのある者	災害発生の日から7日以内
応急仮設住宅の供与	住家が全壊、全焼又は流失し、居住する住家がない者であって自らの資力では住宅を得ることができない者	災害発生の日から20日以内に着工 供与期間 完成の日から2年以内
炊き出しその他のによる食品の給与	1 避難所に収容された者 2 住家に被害を受けて炊事のできない者 3 住家に被害を受け、一時緑故地等へ避難する必要がある者	災害発生の日から7日以内
飲料水の供給	現に飲料水を得ることができない者	災害発生の日から7日以内
被服、寝具、その他生活必需品の給与又は貸与	全半壊（焼）、流失、床上浸水等により、生活上必要な被服、寝具、その他生活必需品を喪失又はき損し、直ちに日常生活を営むことが困難な者	災害発生の日から10日以内
医療	医療の途を失った者	災害発生の日から14日以内
助産	災害発生の日以前又は以後7日以内に分べんした者であって災害のため助産の途を失った者（出産のみならず、死産及び流産を含み助産を要する状態にある者）	分べんした日から7日以内
災害にかかった者の救出	1 現に生命、身体が危険な状態にある者 2 生死不明な状態にある者	災害発生の日から3日以内
災害にかかった住宅の応急修理	住宅が半壊（焼）し、自らの資力により応急修理をすることができない者	災害発生の日から1か月以内
学用品の給与	住宅が全壊（焼）、流失、半壊（焼）、又は床上浸水により学用品を喪失又は損傷し、就学上支障のある小学校児童、中学校生徒及び高等学校等生徒	災害発生の日から (教科書) 1か月以内 (文房具及び通学用品) 15日以内
埋葬	災害の際死亡した者 (実際に埋葬を実施する者に支給)	災害発生の日から10日以内
遺体の搜索	行方不明の状態にあり、かつ周囲の事情によりすでに死亡していると推定される者	災害発生の日から10日以内
遺体の処理	災害の際死亡した者	災害発生の日から10日以内
障害物の除去	居室、炊事場等生活に欠くことのできない部分又は玄関等に障害物が運びこまれているため一時的に居住できない状態にあり、かつ、自らの資力では当該障害物を除去することができない者	災害発生の日から10日以内
輸送費及び賃金職員等雇上費	次に掲げる応急救助のための輸送費及び賃金職員等雇上費 1 被災者の避難 2 医療及び助産 3 被災者の救出 4 飲料水の供給 5 遺体の搜索 6 遺体の処理 7 救助用物資の整備配分	各応急救助の実施が認められる期間以内
実費弁償	災害救助法施行令第10条第1号から第4号までに規定する次の者 1 医師、歯科医師又は薬剤師 2 保健師、助産師、看護師、准看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、救急救命士又は歯科衛生士 3 土木技術者又は建築技術者 4 大工、左官又はとび職	各応急救助の実施が認められる期間以内

(4) 市町長への委任

災害救助法が適用された場合、同法に基づく救助は、知事が実施責任者となり、市町長が補助者となって実施されるが、同法第30条第1項及び同法施行令第23条の規定に基づき、災害発生の際、知事が市町長に実施を委任した事務については、市町長が実施責任者となり実施する。

第15節 航空機事故による災害応急対策計画

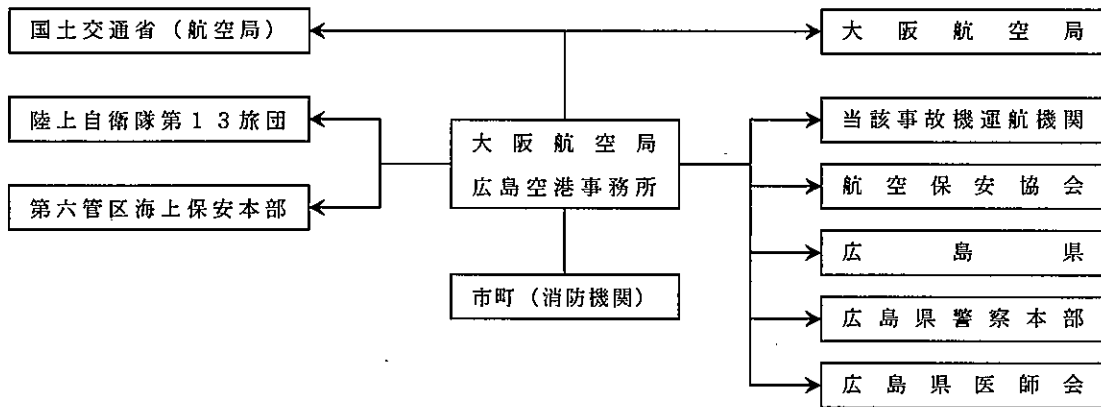
1 目的

航空機事故（墜落炎上等）による災害から、地域住民等を守るため、防災関係機関相互の緊密な協力体制を確立して各種応急対策を実施することにより、被害の拡大を防止し、被害の軽減を図るため必要な事項について定めることを目的とする。

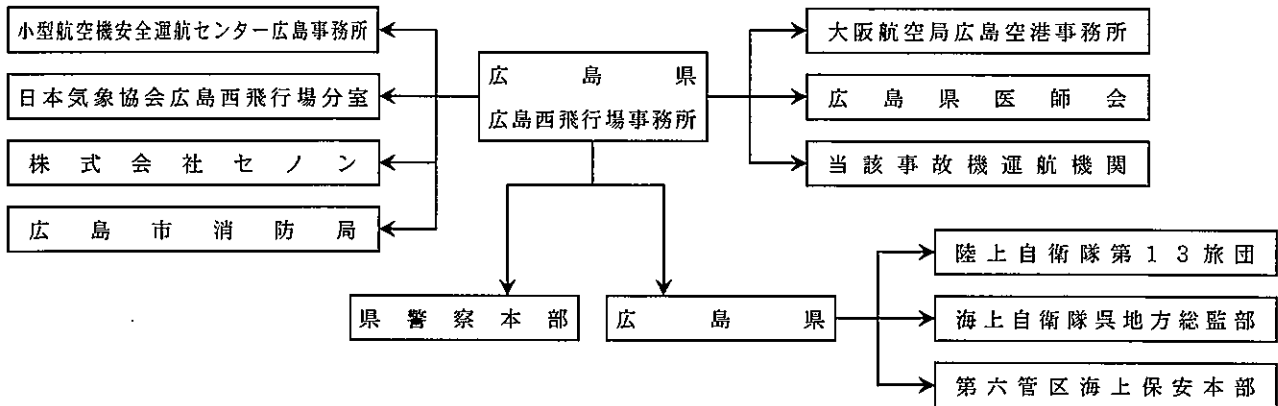
2 情報の伝達

航空機事故により災害が発生し、又はそのおそれがある場合の通報、連絡体制は、原則として次のとおりとする。

(1) 広島空港又はその周辺で災害が発生した場合



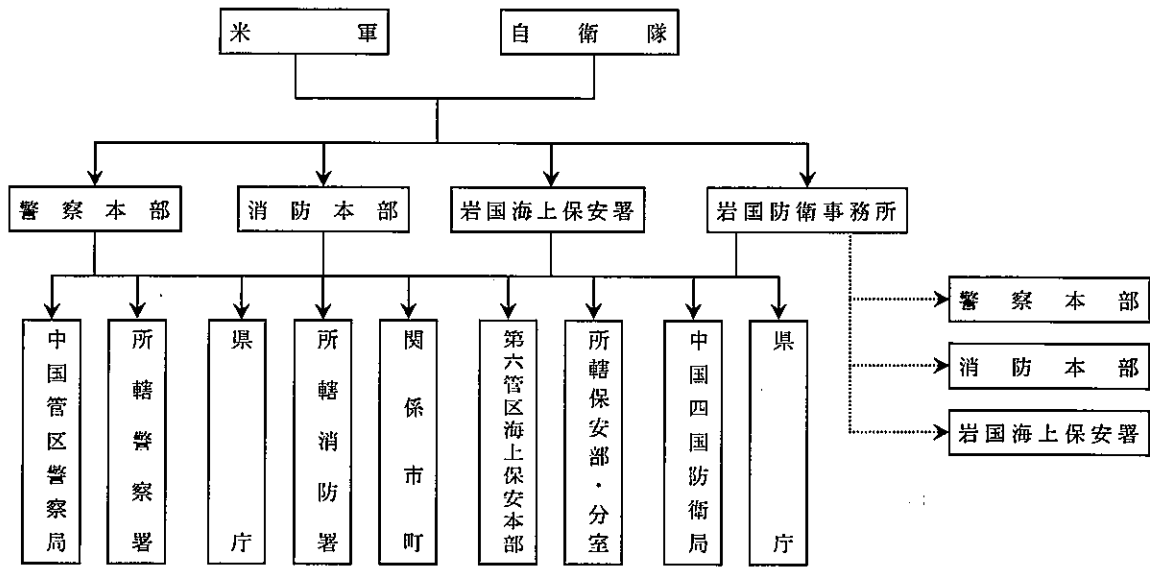
(2) 広島西飛行場又はその周辺で災害が発生した場合



(3) 米海兵隊岩国航空基地周辺地域において航空機事故による災害が発生した場合

ア 米軍又は自衛隊が事故発生を知った場合

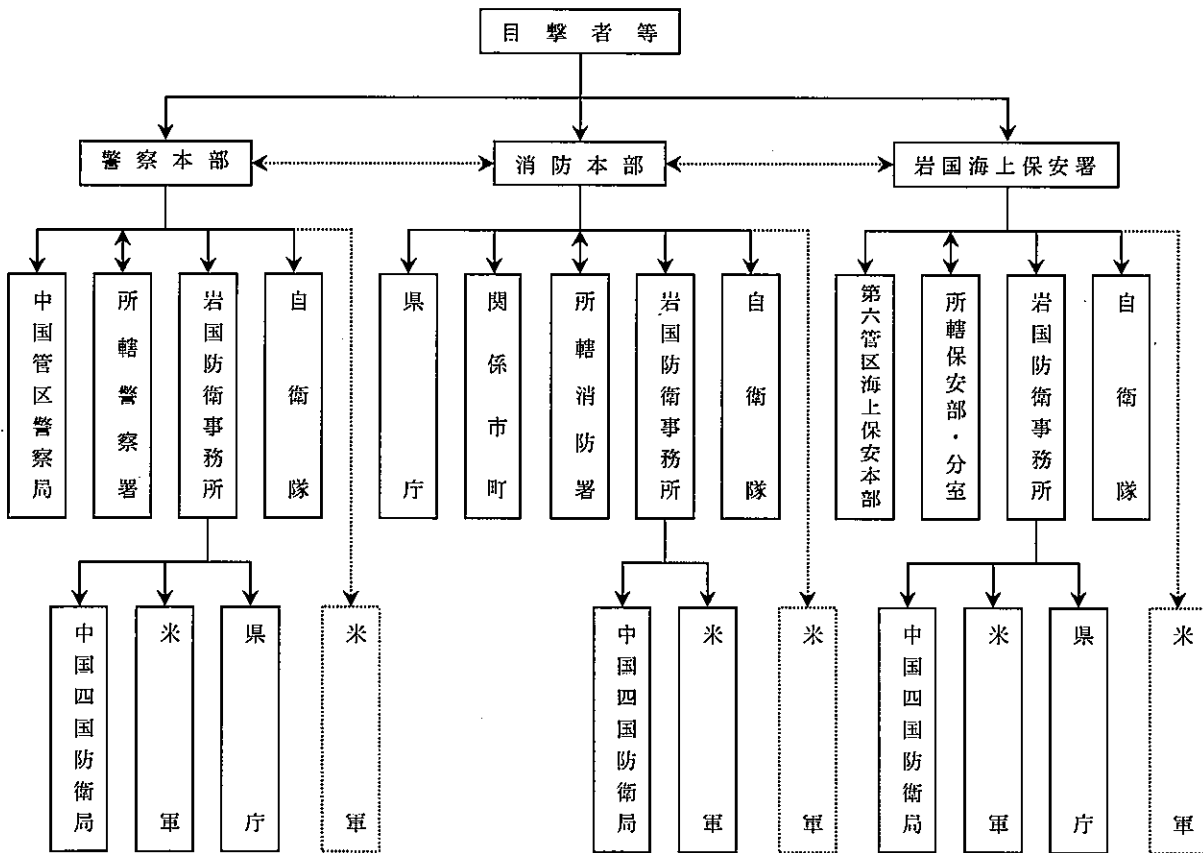
(米海兵隊岩国航空基地周辺地域航空事故に関する緊急措置要綱第4条第1項)



(注) ----- 米軍からの情報伝達を確認するための情報経路

イ 警察本部，消防本部，岩国海上保安署等が事故の発生を知った場合

(米海兵隊岩国航空基地周辺地域航空事故に関する緊急措置要綱第4条第2項)



(注) ----- 必要に応じ通報する経路

3 実施責任者及び実施内容

(1) 大阪航空局広島空港事務所の措置

- ア 航空機災害が発生し、又は発生するおそれのある場合、広島空港事務所は、広島空港緊急計画に基づき、関係機関の協力を得て、非常体制をとるものとする。
- イ 航空機災害が発生した場合、広島空港事務所は関係防災機関と連携協力して応急対策を実施し、被害を最小限にとどめるよう努める。
- ウ 広島空港及びその周辺における消火救難活動については、「広島空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定」の定めるところによる。
- エ 空港事務所長は、災害の状況に応じて必要と認めるときは、自衛隊に災害派遣を要請する。

(2) 広島県広島西飛行場事務所（以下「広島西飛行場事務所」という。）の措置

- ア 航空機災害が発生し、又は発生するおそれのある場合、広島西飛行場事務所は、広島西飛行場消火救難隊業務要領に基づき「消火救難隊本部」を設置し、非常体制をとるものとする。
- イ 航空機災害が発生した場合、広島西飛行場事務所は関係防災機関と連携協力して応急対策を実施し、被害を最小限にとどめるよう努める。
- ウ 広島西飛行場及びその周辺における消火救難活動については、「広島西飛行場及びその周辺における消火救難活動に関する協定」の定めるところによる。

(3) 市町の措置

- ア 必要に応じ関係防災機関、関係公共団体等の協力を得て、救急救助及び消火活動を実施する。
- イ 災害の規模が大きく、地元市町で対処できない場合は、相互応援協定に基づき、他の市町に応援を要請する。
- ウ 被災者の救助及び消防活動等の実施について、必要に応じ県に対して自衛隊の災害派遣を依頼するとともに、化学消火薬剤等資機材の確保について応援を要請する。

(4) 県警察の措置

- ア 情報の収集による被害実態の把握及び被災者の救出救護活動等を行う。
- イ 空港事務所、県等の関係機関と積極的に協力する。

(5) 第六管区海上保安本部の措置

海上における搜索救難並びに事故処理に必要な措置をとる。

(6) 県の措置

- ア 地元市町の実施する消防、救急活動等について、必要に応じて指示等を行うとともに、当該市町からの要請により他の市町に応援を指示する。
更に、特に必要があると認めるときは、国、他県に対して応援を要請する。
- イ 地元市町から自衛隊の災害派遣要請の依頼を受けたとき、又は必要があると認めるときは、自衛隊に対して災害派遣を要請する。
- ウ 必要に応じて、関係機関の行う応急対策活動の調整を行う。

4 応援協力

その他防災関係機関は、地元市町、県、空港事務所長等から応援要請を受けたときには、積極的に協力する。

第16節 海上における大量流出油等災害応急対策計画

1 目的

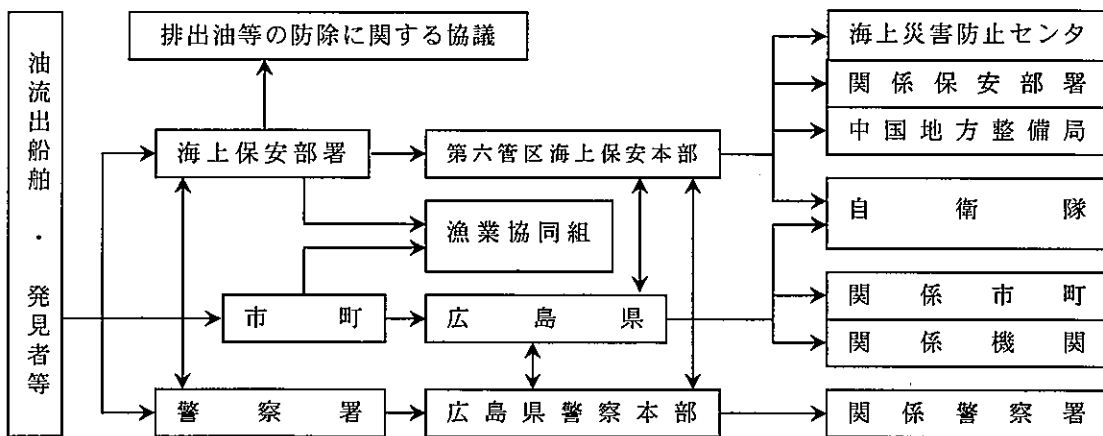
船舶又は海洋施設等から、海上に大量の油等が流出した場合における被害を局限するため、各防災関係機関の実施事項を明確化し、かつ、防災関係機関相互の緊密な協力体制を確立することにより、迅速かつ効率的な各種応急対策を実施することを目的とする。

2 実施責任者

- (1) 広島県
- (2) 市町
- (3) 県警察
- (4) 中国地方整備局
- (5) 第六管区海上保安本部

3 情報の伝達

海上において大量の油等の流出事故が発生し、又はそのおそれがある場合の通報、連絡体制は、原則として次のとおりとする。



4 実施事項

(1) 広島県

- ア 情報の収集及び連絡・通報
- イ 漂着油の除去作業等
- ウ 自衛隊に対する災害派遣要請
- エ 回収油等の処理
- オ その他の応急対策

(2) 市町

- ア 情報の収集及び連絡・通報
- イ 漂着油の除去作業等
- ウ 警戒区域の設定及び立入禁止等の措置
- エ 回収油等の処理
- オ その他の応急対策

(3) 県警察

- ア 情報の収集及び連絡・通報
- イ 避難誘導・広報
- ウ 警戒区域及び周辺区域の交通対策
- エ その他流出油等の防除作業などの応急対策

(4) 中国地方整備局

- ア 情報の収集及び連絡・通報
- イ 流出油等の防除作業
- ウ その他の応急対策

(5) 第六管区海上保安本部

- ア 情報の収集及び連絡・通報
- イ 流出油等の拡散，性状等の調査，評価及び関係機関への情報提供
- ウ 防除措置義務者への指導等
- エ 流出油等の防除作業
 - (ア) 拡散防止措置
 - (イ) 回収措置
 - (ウ) 化学的処理
- オ 防災関係機関への協力要請
- カ 海上交通安全の確保及び危険防止措置
- キ 海上災害防止センターへの指示
- ク その他の応急対策

第17節 主な災害の特質及び対策の計画

1 雪害対策

(1) 災害の特質

ア 極寒期の数次にわたる降雪により長期間交通が途絶し、各種の機能がまひし又は停止する等の間接被害が多い。

イ 積雪による被害、融雪による被害、特になだれによる被害等の直接被害がある。

(2) 応急対策

ア 体制

(ア) 注意報（大雪，風雪，なだれ）発表等により注意体制に入る。

(イ) 指定雪量観測点の2分の1以上のものがほぼ警戒積雪深に達した場合又は警報発表の場合・・・警戒体制

(ウ) 注意報発表後の降雪状況，被害発生状況により災害対策本部を設置する。

イ 対策事項

(ア) 道路，公共施設の除雪

(イ) 通信手段の確保

(ウ) なだれによる被害防除（災害発生のおそれのある場合，災害救助法の適用）

(エ) 救助救難（医療救助，救助物資輸送等）

(オ) 環境衛生（し尿処理等）その他民生安定対策

(カ) 生鮮食料品の確保対策

(キ) 農畜産物などの出荷貯蔵対策

(ク) 天災融資法の適用等被害農林漁業者に対する資金対策

(ケ) 中小企業者の営業活動の停滞による間接被害に対する資金対策

(コ) 家畜飼料対策

2 長雨対策

(1) 災害の特質

ア 被害は長期間にわたり徐々に発生する。

イ 日雨量，連続雨量が大きくない限り，施設被害は比較的少ない。

ウ 農産物被害，伝染病発生等の被害が多い。

(2) 応急対策

ア 体制

被害発生状況によって体制を決める。

イ 対策事項

(ア) 病虫害防除及び指導

(イ) 再生産のための手段の確保及び指導

(ウ) 天災融資法の適用等被害農家に対する資金対策

(エ) 防疫，廃棄物処理その他の保健衛生対策

(オ) 家畜衛生及び家畜飼料対策

3 豪雨，台風による洪水，高潮時の対策

(1) 災害の特質

ア 台風，梅雨前線等による大雨で，河川が増水し，人的，物的被害に至る。

また，雷雨等で局地的に豪雨が集中し，河川の増水による人的，物的被害を起こすことも

あり、いずれの場合も短時間に甚大な被害をもたらす。

(太田川の場合、洪水波到着時間は最も上流からでも10時間であり、短時間内の的確な措置が要求される。)

イ 台風等による気圧の低下や強風により、海面の異常上昇が起こり、沿岸部、島しょ部に高潮被害を起こす。

(2) 応急対策

ア 体制

(ア) 注意報発表等により注意体制(水防準備)

(イ) 警報発表等による警戒体制、水防本部設置(被害発生状況により災害対策本部を設置する。)

(ウ) 災害発生(被害報告)により出動体制

イ 対策事項

(ア) 堤防、護岸の補強及び応急復旧

(イ) 交通、通信手段の確保

(ウ) 避難の指示、勧告

(エ) 障害物の除去

(オ) 救難、救助

(カ) 食料、飲料水、生活必需品の確保等民生安定対策

(キ) 防疫、廃棄物の処理その他の保健衛生対策

(ク) 中小企業者の事業用資産等の被害に対する資金対策

(ケ) 農作物、畜産物の集出荷対策及び農業用施設の応急復旧

(コ) 天災融資法の適用等被害農林漁業者に対する資金対策

(サ) 林産物の集出荷対策及び林業用施設の応急復旧

(シ) 治山・治水対策

(ス) 家畜衛生及び家畜飼料対策

4 長雨、豪雨による土石流・がけ崩れ等対策

(1) 災害の特質

土砂災害は局地的な集中豪雨、台風等により、急な谷川や谷の出口の扇状地、急しゅんな土地などに多く発生し、短時間で人的、物的被害が発生する。

(2) 応急対策

ア 体制

(ア) 注意報(大雨、洪水)の発表等により注意体制に入る。

(イ) 降雨状況、災害の発生状況により、注意体制から必要な体制に入る。

イ 対策事項

(ア) 避難の指示、勧告

(イ) 交通、通信手段の確保

(ウ) 救難、救助

(エ) 障害物の除去及び施設の応急復旧

(オ) 食料、飲料水、生活必需品の確保等民生安定対策

(カ) 防疫、廃棄物の処理その他の保健衛生対策

(キ) 中小企業者の事業用資産等の被害に対する資金対策

(ク) 農作物、畜産物の集出荷対策及び農業用施設の応急復旧

(ケ) 天災融資法の適用等被害農林漁業者に対する資金対策

- (コ) 林産物の集出荷対策及び林業用施設の応急復旧
- (サ) 治山・治水対策
- (シ) 家畜衛生及び家畜飼料対策

5 風害対策

(1) 災害の特質

雨を伴わない台風や竜巻等による強風、波浪、高潮等により火災、海難等の災害、港湾、海岸施設、農水産物、家屋等の被害が発生する。

風が非常に強い場合は、強風により人的被害や家屋、樹木、鉄塔、電柱の倒壊等が広範囲にわたって発生する。

また、強風により、海水が吹き上げられ、沿岸部、島しょ部を中心に農作物等の被害や停電が発生する。

(2) 応急対策

ア 体制

- (ア) 注意報発表等により注意体制に入る。
- (イ) 災害発生により注意体制から必要な体制をとる。

イ 対策事項

- (ア) 避難の指示、勧告
- (イ) 海岸、堤防の補強及び応急復旧
- (ウ) 交通、通信手段の確保
- (エ) 災害広報
- (オ) 障害物の除去
- (カ) 救難、救助
- (キ) 食料、飲料水、生活必需品の確保等民生安定対策
- (ク) 防疫、廃棄物の処理その他の保健衛生対策
- (ケ) 中小企業者の事業用資産等の被害に対する資金対策
- (コ) 農林水産物被害に対する対策
- (サ) 天災融資法の適用等被害農林漁業者に対する資金対策
- (シ) 海上交通規制

6 林野火災対策

(1) 災害の特質

本県は、地形、地質、林相、気象状況等から沿岸部、島しょ部は、林野火災発生危険度が特に高い。

近年地域開発等の進展に伴い人家が山ろくまで建て混んできた。

一度発生した林野火災は防御活動に幾多の困難を伴うとともに、これが拡大すると相当の被害をもたらす。

(2) 応急対策

ア 体制

- (ア) 林野火災の発生通報等によって注意体制に入る。
- (イ) 災害発生状況によって順次必要な体制をとる。(被害発生の規模、その他の状況により現地での応急対策を必要と認めるときは現地災害対策本部を設置する。)

イ 対策事項

- (ア) 広域的、総合的消防体制の確立

- (イ) 火災の予防
 - a 林野火災防止対策協議会の開催
 - b 巡視，監視等の強化
 - c 広報宣伝の充実
 - d 発生原因別対策
- (ウ) 火災の警戒及び防御
 - a 火災の警戒
 - b 情報伝達の徹底
 - c 森林の防火管理
 - d 消防活動の促進
 - (a) 市町の林野火災用消防資機材整備費補助
 - (b) 林野火災特別地域対策事業の推進
 - (c) 自衛隊への林野火災用資機材の貸与
 - (d) 自衛隊の災害派遣要請と受入体制の確立
 - (e) 消防職員，消防団員の教育訓練の充実

7 突発的災害対策

(1) 災害の特質

列車の転覆，船舶の沈没，大規模火災などの事故は，突発的かつ，多くの死傷者が発生するおそれがあり，迅速な被災者の救出及びその支援のための措置をとる必要がある。

(2) 応急対策

ア 体制

多くの死傷者を伴う大規模な事故が発生したときには，警戒体制をとり，災害応急対策責任者との連携のもとに，情報収集，連絡活動及び災害応急措置を実施するとともに，事態の推移に伴い，必要に応じて非常体制に移行し，災害対策本部を設置する。

また，必要に応じて，現地災害対策本部を設置する。

イ 対策事項

- (ア) 救助活動の促進
- (イ) 情報の収集及び災害状況の把握
- (ウ) 避難の指示，勧告
- (エ) 国（消防庁等）への報告
- (オ) 自衛隊への災害派遣要請
- (カ) 日本赤十字社広島県支部，県医師会等への緊急医療活動の要請
- (キ) 防災関係機関への応急措置の要請
- (ク) 二次災害の防止措置の実施
- (ケ) 他県への応援要請

第4章 災害復旧計画

第1節 目的

この計画は、災害に対する応急対策を行った後において、被災者の生活の安定、生業の維持、回復及び被害を受けた施設の復旧及びこれに要する資金等について必要な事項を定め、災害復旧の迅速かつ完全な実施を図ることを目的とする。

第2節 被災者等の生活再建の支援及び生業回復等の資金確保計画

1 方針

県及び市町は、被災者の生活再建及び生業回復のため、県民へ各種支援措置等の広報を行うとともに、国、県、市町及び各種金融機関の協力のもとに、現行の法令及び制度の有機的な運用を行い、所要資金の確保や手続きの迅速化に努める。

また、各種の支援措置等を早期に実施するため、市町においては、り災証明の交付体制を確立させるものとする。

2 り災証明書の交付

市町は、被災者が各種の支援措置を早期に受けられるよう、災害発生後早期にり災証明書の交付体制を確立し、被災者にり災証明書を交付する。

3 各種支援措置等（制度の概要等は附属資料へ掲載）

(1) 支援制度及び救済制度

ア 被災者生活再建支援法による支援金の支給等

イ 国税及び地方税の減免等

(2) 災害弔慰金等の支給

災害弔慰金の支給等に関する法律（昭和48年法律第82号）に基づき、市町は、災害により死亡した住民の遺族に対して災害弔慰金を支給し、精神又は身体に著しい障害が生じた住民に対して災害障害見舞金を支給する。

(3) 災害融資制度

災害援護資金をはじめとする各種資金の貸付、農業協同組合、株式会社日本政策金融公庫その他金融機関の災害融資制度により、被災者の生活安定等を図るための資金の確保に努める。

災害融資制度は、次のとおり（詳細は附属資料に掲載）である。

関係法令等	貸付金の種類
日本政策金融公庫法	農業基盤整備資金 農地、牧野の改良、造成又は復旧に必要な資金 農林漁業施設資金（主務大臣指定） 農林漁業施設資金 農林漁業セーフティネット資金（災害等資金） 林業基盤整備資金（樹苗養成施設資金、造林資金、林道資金） 農林漁業施設資金（主務大臣指定施設、共同利用施設）
広島県農林水産業関係単独事業補助金交付要綱	農業災害等特別対策資金 漁業災害特別対策資金
生活福祉資金貸付制度要綱	生活福祉資金
緊急生活安定資金貸付制度要綱	緊急生活安定資金
災害弔慰金の支給等に関する法律	災害援護資金
母子及び寡婦福祉法	母子・寡婦福祉資金（住宅資金、転宅資金）
母子家庭等緊急援護資金貸付制度要綱	母子家庭等緊急援護資金（生活安定資金）

独立行政法人福祉医療機構法	新築資金 増改築資金（甲種，乙種） 機械購入資金 長期運転資金
商工組合中央金庫法	災害復旧貸付
日本政策金融公庫法	災害復旧貸付
広島県県費預託融資制度要綱	緊急対応融資（セーフティネット資金）
独立行政法人住宅金融支援機構法	災害復興住宅融資
天災による被害農林漁業者等に対する資金の融通に関する暫定措置法	経営資金 事業資金

4 市町内諸団体の資金の充実

市町内の公共的団体と協力して民生金庫の設置等により災害資金制度の充実を図る。

第3節 被災者の生活確保に関する計画

1 方針

災害発生後、被災者がいち早く平常の生活ができるようにするためには、各種の支援策が必要である。ここでは、生活関連物資の安定供給、物価の安定対策及び雇用の確保についての各種支援策を定める。

2 生活関連物資の安定供給及び物価の安定対策

関係行政機関は、生活関連物資の安定供給及び物価の安定対策のために次の措置を実施し、被災者の生活確保に努めるものとする。

(1) 市町

- ア 価格及び需給動向の把握並びに情報の提供
- イ 関連業界への安定供給及び価格の安定に係る協力依頼

(2) 県

- ア 価格及び需給動向の監視及び情報の提供
- イ 関連業界への安定供給及び価格の安定に係る要請
- ウ 著しい物資の不足あるいは価格の上昇等がある場合の必要事項の調査及び不当な事業活動が認められた場合の是正指導

(3) 中国経済産業局及び中国四国農政局

- ア 価格及び需給動向の監視及び情報の提供
- イ 関連業界への安定供給及び価格の安定に係る要請
- ウ 著しい物資の不足あるいは価格の上昇等がある場合の必要事項の調査及び不当な事業活動が認められた場合の是正指導

3 被災者等に対する生活相談

県及び市町は相談窓口を設置し、各種の要望、苦情等を聴取し、その解決を図る。また、必要に応じて関係機関に連絡し、連携して早期解決に努める。

4 雇用の安定支援

(1) 雇用の確保

- ア 災害による失業を防止するため、国等と連携して雇用調整助成金等の制度の啓発に努める。
- イ 雇用を確保するため、事業所の被災による安易な解雇及び新卒者の内定取消し等の防止に努める。

(2) 雇用対策等

- ア 被災者の雇用の安定を図るため、失業者の発生状況に応じて、労働局、市町等と連携して、雇用に関する情報収集、就業に係る相談、職業訓練、労働相談等の対策を実施する。
- イ 県外へ避難した被災者に対して、従前の居住地であった市町、避難先の都道府県・市町村及び都道府県労働局と連携し、県内の求人情報や就職面接会等の就労支援に係る情報の提供に努める。

第4節 施設災害復旧計画

1 基本方針

- (1) 県、市町は、応急対策を実施した後、被害を受けた施設の復旧をできるだけ迅速に着工し短期間で完了するよう努める。
- (2) 災害復旧については、再度災害の原因とならないよう、完全に復旧工事を行うとともに、原形復旧にとどまらず、更に災害に関連した改良事業を行うなど施設の向上に配慮する。

2 復旧計画

- (1) 災害復旧に関しては現行の各種法令の規定により恒久的災害復旧計画を作成し、速やかに応急復旧を実施するとともに早期着工、早期完成を図ることを目途とする。
- (2) 施設の災害復旧に関する主な法律は次のとおりである。

公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法（昭和26年法律第97号）

農林水産業施設災害復旧事業費国庫補助の暫定措置に関する法律

（昭和25年法律第169号）

公立学校施設災害復旧費国庫負担法（昭和28年法律第247号）

道 路 法（昭和27年法律第180号）

河 川 法（昭和39年法律第167号）

砂 防 法（明治30年法律第 29号）

地すべり等防止法（昭和33年法律第 30号）

急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年法律第57号）

森 林 法（昭和26年法律第249号）

海 岸 法（昭和31年法律第101号）

港 湾 法（昭和25年法律第218号）

漁港漁場整備法（昭和25年法律第137号）

公営住宅法（昭和26年法律第193号）

生活保護法（昭和25年法律第144号）

児童福祉法（昭和22年法律第164号）

老人福祉法（昭和38年法律第133号）

身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）

知的障害者福祉法（昭和35年法律第 37号）

売春防止法（昭和31年法律第118号）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）

激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律（昭和37年法律第150号）

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律（昭和45年法律第136号）

海上交通安全法（昭和47年法律第115号）

第5節 激甚災害の指定に関する計画

1 基本方針

災害により甚大な被害があった場合、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」（以下「激甚法」という。）に基づく激甚災害の指定を受けるため、所定の手続きを行う。

2 激甚災害に関する調査

(1) 県

県は、市町の被害状況を検討の上、激甚災害及び局地激甚災害の指定を受ける必要があると思われる場合、激甚法に定める調査の必要な事項について速やかに調査し、早期に指定を受けられるように措置する。

(2) 市町

県が行う激甚災害及び局地激甚災害に関する調査等について協力する。

第6節 救援物資、義援金の受入及び配分に関する計画

1 方針

災害時に必要とされる義援金や救援物資の受入体制を確立し、迅速かつ適切に被災者に配分することを目的とする。

2 義援金の受入れ及び配分

(1) 義援金の受入れ

災害に際し、義援金の受入れを必要とする場合は、次の関係機関は受付窓口を設置し、必要事項を広報する。なお、関係機関は義援金専用の預貯金口座を設け、払出しまでの間、預貯金を保管する。

〔関係機関〕 県、被災市町、日本赤十字広島県支部、広島県共同募金会、日本放送協会広島放送局等

(2) 義援金の配分

義援金の被災者への配分については、関係機関からなる義援金配分委員会を設置し、適当な配分について協議したうえで、迅速に行うものとする。

なお、被災状況を速やかに把握するとともに、被災規模によっては義援金の一部を支給するなど配分方法等を工夫し、被災者への迅速な支給に配慮するものとする。

3 救援物資の受入れ及び配分

(1) 受入れの方針

ア 救援物資は、提供を申し出る企業や団体と事前の調整のうえ、調達する。

イ 個人からの救援物資の受入れは行わず、義援金での協力を依頼する。

(2) 救援物資の受入れ

ア 災害に際し、救援物資の受入れを必要とする場合は、県及び被災市町等は受付窓口を設置する。

イ 被災市町は県と連携し、受入れを希望する救援物資を把握する。

ウ 一時保管場所の確保や避難所への迅速な輸送方法等を検討する。

(3) 受入れ体制の広報

円滑な受入れのため、次の事項をホームページや報道機関を通じて広報する。

ア 必要な物資と必要な数量

イ 救援物資の受付窓口（事前連絡先）

ウ 救援物資の送付先、送付方法

エ 一方的な救援物資の送り出しは行わないこと

オ 個人からの救援物資は受入れないため、義援金での協力依頼

(4) 救援物資の配分

県及び被災市町は、相互の連携のもとに、避難所へ救援物資を配分する。その際には、物資の種類に偏りが生じないように、各避難所のニーズに応じた、適正な配分に努めるものとする。

なお、送付先を避難所に設定する等、状況に応じた対応を行う。

(5) 個人からの救援物資の受入れの例外

必要物資の不足により、個人からの救援物資が必要となる場合においては、まとまった数を提供できる個人に限定するという前提で、(3)ア～エを広報し、物資の確保に努める。

卷 末 資 料

1 広島県防災会議条例

昭和37年10月1日

条例第38号

沿革 平成24年10月10日条例第51号最終改正

広島県防災会議条例をここに公布する。

広島県防災会議条例

(趣 旨)

第1条 この条例は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第15条第8項の規定に基づき広島県防災会議（以下「防災会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員及び専門委員)

第2条 次の各号に掲げる委員の定数は、当該各号に定めるとおりとする。

- | | |
|---|-------|
| (1) 知事の部内の職員のうちから指名される委員 | 13人以内 |
| (2) 市町長及び消防機関のうちから任命される委員 | 4人以内 |
| (3) 指定公共機関又は指定地方公共機関の役員又は職員のうちから任命される委員 | 19人以内 |
| (4) 自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者のうちから任命される委員 | 3人以内 |

2 前項第2号から第4号までに規定する委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 前項の委員は、再任されることができる。

4 専門委員は、当該部門の事項に関する調査が終了したときは、解任されるものとする。

(幹 事)

第3条 防災会議に幹事62人以内を置く。

2 幹事は、委員の属する機関の職員のうちから、知事が任命する。

3 幹事は、防災会議の所掌事務について、委員及び専門委員を補佐する。

(部 会)

第4条 防災会議は、その定めるところにより、部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員及び専門委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き会長の指名する委員がこれに当たる。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

5 部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちから部会長があらかじめ指名するものがその職務を代理する。

(庶 務)

第5条 防災会議の庶務は、知事の定める機関において処理する。

(雑 則)

第6条 この条例に定めるもののほか、防災会議の議事その他防災会議の運営に関し必要な事項は、会長が防災会議にはかって定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

2 防災会議の委員等の任命等に関する訓令

(附属機関の委員等の任命等に関する訓令抜粋)

昭和57年3月31日
広島県訓令第4号
本 地 方 機 関

(広島県防災会議の委員の指名及び幹事の任命)

第1条の2 災害対策基本法(昭和36年法律第223号)第15条第5項第5号の規定により、危機管理監の事務を担当する副知事及び次に掲げる職にある者を広島県防災会議委員として指名する。

- 1 会計管理者
- 2 危機管理監
- 3 総務局長
- 4 地域政策局長
- 5 環境県民局長
- 6 健康福祉局長
- 7 商工労働局長
- 8 農林水産局長
- 9 土木局長
- 10 都市技術審議官
- 11 企業局長
- 12 病院事業管理者

2 広島県防災会議条例(昭和37年広島県条例第38号)第3条第2項の規定により、次に掲げる職にある者を幹事として任命する。

- 1 危機管理監
- 2 会計管理部会計総務課長
- 3 危機管理監危機管理課長
- 4 総務局総務課長
- 5 地域政策局地域政策総務課長
- 6 環境県民局環境県民総務課長
- 7 健康福祉局健康福祉総務課長
- 8 商工労働局商工労働総務課長
- 9 農林水産局農林水産総務課長
- 10 土木局土木総務課長
- 11 土木局道路河川管理課長
- 12 土木局都市計画課長
- 13 企業局企業総務課長
- 14 県立病院課長

3 広島県防災会議運営規程

(昭和38年2月28日制定)

(趣 旨)

第1条 この規程は、広島県防災会議条例（昭和37年広島県条例第38号）第6条の規定に基づき、広島県防災会議（以下「防災会議」という。）の議事その他防災会議の運営に関して必要な事項を定めるものとする。

(会 議)

第2条 防災会議の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じ、随時開くものとする。

2 会議は、会長が招集し、議長となる。

3 会議の招集は、開催日時及び場所並びに付議事項を示して書面により通知するものとする。ただし、急施を要する場合は、この限りではない。

(定 足 数)

第3条 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(表 決)

第4条 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 前項の場合においては、議長は、委員として議決に加わる権利を有しない。

(委員の代理者)

第5条 委員は、やむをえない理由により会議に出席できないときは、その属する機関の職員のうちから代理者を選任し、その者を出席させることができる。

2 前項の代理者は、会議の議事の参与については、委員とみなす。

(専決処分)

第6条 会長において会議を招集する暇がないと認めるとき、その他やむを得ない理由により会議を招集することができないときは、会長は、会議が処理すべき事項について専決することができる。

2 会長は、前項の規定により専決したときは、次の会議に報告し、その承認を求めなければならない。

3 第1項に定める場合のほか、会長は、会議が処理すべき事項のうち軽易な事項について専決することができる。

附 則

この規定は、昭和38年2月28日から施行する。

4 広島県防災会議委員

会 長 広島県知事 湯 崎 英 彦

委員57名(45機関)

法定区分	所属機関名	職名	所属機関の所在地	電話番号	FAX番号
第1号	中国管区警察局	局長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-228-6411	082-228-3920
	中国四国防衛局	局長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-7153	082-223-0336
	中国総合通信局	局長	730-8795 広島市中区東白島町19-36	082-222-3425	082-502-8082
	中国財務局	局長	730-8520 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9221	082-502-3688
	中国四国厚生局	局長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-8181	082-223-8155
	広島労働局	局長	730-8538 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9243	082-221-9252
	中国四国農政局	局長	700-8532 岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎	086-224-4511	086-232-7225
	近畿中国森林管理局	局長	530-0042 大阪市北区天満橋1-8-75	06-6881-3407	06-6881-3415
	中国経済産業局	局長	730-8531 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-224-5615	082-224-5640
	中国四国産業保安監督部	部長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-224-5753	082-224-5650
	中国地方整備局	局長	730-8530 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9231	082-227-2651
	中国運輸局	局長	730-8544 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-228-3434	082-227-9797
	大阪航空局広島空港事務所	広域空港管理官	729-0416 三原市本郷町透入寺平岩64-34	0848-86-8650	0848-86-8656
	広島地方気象台	台長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-3953	082-223-3968
	第六管区海上保安本部	本部長	734-8560 広島市南区宇品海岸3-10-17	082-251-5111	082-251-5185
中国四国地方環境事務所	所長	700-0907 岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎	086-223-1577	086-224-2081	
第2号	陸上自衛隊第13旅団	旅団長	736-0053 安芸郡海田町寿町2-1	082-822-3101	082-822-3101
第3号	広島県教育委員会	教育長	730-8514 広島市中区基町9-42	082-513-4911	082-223-6341
第4号	広島県警察本部	本部長	730-8507 広島市中区基町9-42	082-228-0110	082-228-0009
第5号	広島県	副知事	730-8511 広島市中区基町10-52	082-228-2695	082-228-8684
		会計管理者	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2113	082-228-3302
		危機管理監	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2786	082-227-2122
		総務局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2216	082-502-0652
		地域政策局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2511	082-224-1977
		環境県民局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2711	082-227-2549
		健康福祉局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3030	082-511-6715
		商工労働局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3311	082-223-6314
		農林水産局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3511	082-223-3566
		土木局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3811	082-223-3593
		都市技術審議官	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-4111	082-223-2397
		企業局長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-4311	082-223-6312
病院事業管理者	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3234	082-223-3573		
第6号	広島県市長会	会長(広島市長)	730-0017 広島市中区政庁町4-1 広島県土地改良会館5階	082-223-6545	082-211-1882
	広島県町村会	会長(坂町長)	730-0017 広島市中区政庁町4-1 広島県土地改良会館5階	082-221-3465	082-211-1882
	広島市消防局	局長	730-0051 広島市中区大手町5-20-12	082-546-3441	082-247-1645
	福山市消防団	団長	720-0825 福山市沖野上町5-13-8	084-928-1193	084-928-1220
第7号	日本銀行広島支店	支店長	730-0011 広島市中区基町8-17	082-227-4100	082-502-0165
	日本赤十字社広島県支部	事務局長	730-0052 広島市中区千田町2-5-64	082-545-5111	082-240-2741
	日本放送協会広島放送局	局長	730-0051 広島市中区大手町2-11-10	082-504-5282	082-504-5286
	西日本高速道路㈱中国支社	支社長	731-0103 広島市安佐南区緑井2-26-1	082-831-4453	082-831-4576
	西日本旅客鉄道㈱広島支社	執行役員広島支社長	732-0057 広島市東区二葉の里3-8-21	082-261-2143	082-261-1258
	西日本電信電話㈱広島支店	支店長	730-8502 広島市中区基町6-77	082-505-4757	082-250-7466
	日本郵便株式会社中国支社	支社長	730-8797 広島市中区東白島町19-8	082-224-5023	082-228-1434
	日本通運㈱広島支店	常務執行役員広島支店長	732-0804 広島市南区西蟹屋2-1-10	082-261-1187	082-263-6081
	中国電力㈱	コンプライアンス推進部門総務部長	730-8701 広島市中区小町4-33	082-544-2717	082-544-2747
	㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国支社	サービス運営部長	733-8681 広島市西区高工センター2-6-2	082-501-2127	082-501-2203
	広島ガス㈱	代表取締役社長執行役員	734-8555 広島市南区皆実町2-7-1	082-251-6289	082-253-2066
	広島電鉄㈱	代表取締役社長	730-8610 広島市中区東千田町2-9-29	082-242-3527	082-242-3528
	福山通運㈱	代表取締役	721-0974 福山市東深津町4-20-1	084-924-2000	084-931-4865
	瀬戸内海汽船㈱	代表取締役専務	734-8515 広島市南区宇品海岸1-12-23	082-255-3342	082-505-0134
	㈱中国放送	代表取締役社長	730-0011 広島市中区基町21-3	082-222-1114	082-222-1186
	広島県厚生農業協同組合連合会	代表理事常務	730-0051 広島市中区大手町3-13-18	082-241-0695	082-245-0487
	社団法人広島県医師会	会長	733-0033 広島市西区観音木町1-1-1	082-232-7211	082-293-3363
	独立行政法人国立病院機構本部 中国四国ブロック事務所	統括部長	739-0041 東広島市西条町寺家513	082-493-6606	082-493-6616
	第8号	広島市自主防災会連合会	会長	730-0051 広島市中区大手町5-20-12	082-546-3476
広島県女性防火クラブ連絡協議会		会長	731-0113 広島市中区基町10-52	082-513-2790	082-227-2122
広島県社会福祉協議会		常務理事(兼)事務局長	732-0816 広島市南区比治山本町12-2	082-254-3411	082-252-2133

5 広島県防災会議幹事

幹事60名(46機関)

所属機関名	職名	所属機関の所在地	電話番号	FAX番号
中国管区警察局	災害対策官	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-228-6411	082-228-3920
中国四国防衛局	地方調整課長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-7153	082-223-0336
中国総合通信局	防災対策推進室長	730-8795 広島市中区東白島町19-36	082-222-3425	082-502-8082
中国財務局	総務課長	730-8520 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9221	082-502-3688
中国四国厚生局	総務課長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-8181	082-223-8155
広島労働局	健康安全課長	730-8538 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9243	082-221-9252
中国四国農政局	広島地域センター長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-228-5840	082-228-5817
近畿中国森林管理局	広島森林管理署長	730-0822 広島市中区吉島東3-2-51	082-247-2201	082-247-5822
中国経済産業局	総務課長	730-8531 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-224-5615	082-224-5640
中国四国産業保安監督部	管理課長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-224-5753	082-224-5650
中国地方整備局	防災課長	730-8530 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-221-9231	082-227-2651
	港湾空港防災・危機管理課長	730-0004 広島市中区東白島町14-15 NTビル 白島ビル3F	082-511-3909	082-511-3910
中国運輸局	安全防災・危機管理調整官	730-8544 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-228-3434	082-227-9797
大阪航空局広島空港事務所	総務課長	729-0416 三原市本郷町善入寺字平岩64-34	0848-86-8650	0848-86-8656
広島地方気象台	防災業務課長	730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 合同庁舎	082-223-3953	082-223-3968
第六管区海上保安本部	環境防災課長	734-8560 広島市南区宇品海岸3-10-17	082-251-5111	082-251-5185
中国四国地方環境事務所	総務課長	700-0907 岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎	086-223-1577	086-224-2081
陸上自衛隊第13旅団	司令部第3部長	736-0053 安芸郡海田町寿町2-1	082-822-3101	082-822-3101
広島県教育委員会	総務課長	730-8514 広島市中区基町9-42	082-513-4911	082-223-6341
広島県警察本部	警備課長	730-8507 広島市中区基町9-42	082-228-0110	082-228-0009
広島県	危機管理監	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2786	082-227-2122
	会計管理部会計総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2113	082-228-3302
	危機管理監危機管理課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2786	082-227-2122
	総務局総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2216	082-502-0652
	地域政策局地域政策総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2511	082-224-1977
	環境県民局環境県民総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-2711	082-227-2549
	健康福祉局健康福祉総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3030	082-511-6715
	商工労働局商工労働総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3311	082-223-6314
	農林水産局農林水産総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3522	082-223-3566
	土木局土木総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3811	082-223-3593
	土木局道路河川管理課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3923	082-227-2206
	土木局都市計画課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-4111	082-223-2397
	企業局企業総務課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-4311	082-223-6312
病院事業局県立病院課長	730-8511 広島市中区基町10-52	082-513-3234	082-223-3573	
広島県市長会	事務局長	730-0017 広島市中区鞆町4-1 広島県土地改良会館5階	082-223-6545	082-211-1882
広島県町村会	事務局長	730-0017 広島市中区鞆町4-1 広島県土地改良会館5階	082-221-3465	082-211-1882
広島市消防局	危機管理部防災課長	730-0051 広島市中区大手町5-20-12	082-546-3441	082-247-1645
福山市消防団	副団長	720-0825 福山市沖野上町5-13-8	084-928-1193	084-928-1220
日本銀行広島支店	次長	730-0011 広島市中区基町8-17	082-227-4100	082-502-0165
日本赤十字社広島県支部	事務局次長(兼)総務課長・事業課長	730-0052 広島市中区千田町2-5-64	082-545-5111	082-240-2741
日本放送協会広島放送局	放送部長	730-0051 広島市中区大手町2-11-10	082-504-5210	082-504-5320
西日本高速道路(株)中国支社	保全サービス事業部長	731-0103 広島市安佐南区緑井2-26-1	082-831-4453	082-831-4576
西日本旅客鉄道(株)広島支社	総務課長	732-0057 広島市東区二葉の里3-8-21	082-261-2147	082-261-2649
西日本旅客鉄道(株)岡山支社	岡山土木技術センター所長	700-0024 岡山市北区駅元町1-3	086-223-0180	086-223-2078
西日本電信電話(株)広島支店	設備部長	730-8502 広島市中区基町6-77	082-505-4757	082-250-7466
日本郵便株式会社中国支社	支社長室長	730-8797 広島市中区東白島町19-8	082-224-5023	082-228-1434
日本通運(株)広島支店	業務次長	732-0804 広島市南区西蟹屋2-1-10	082-261-1187	082-263-6081
中国電力(株)	コンプライアンス推進部門マネージャー(総務担当)	730-8701 広島市中区小町4-33	082-544-2717	082-544-2747
㈱エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国支社	サービス運営部災害対策室長	733-8681 広島市西区商工センター2-6-2	082-501-2127	082-501-2203
広島ガス(株)	供給設備部長	734-8555 広島市南区皆実町2-7-1	082-252-3028	082-253-7139
広島電鉄(株)	取締役電車カンパニープレジデント	730-8610 広島市中区東千田町2-9-29	082-242-3527	082-242-3528
福山通運(株)	中国・九州統括部長	721-0974 福山市東添津町4-20-1	084-924-2000	084-931-4865
瀬戸内海汽船(株)	運航管理者	734-8515 広島市南区宇品海岸1-12-23	082-255-3342	082-505-0134
㈱中国放送	執行役員報道制作局長	730-0011 広島市中区基町21-3	082-222-1171	082-228-7699
広島県厚生農業協同組合連合会	総務部総務課長	730-0051 広島市中区大手町3-13-18	082-241-0695	082-245-0487
社団法人広島県医師会	事務局長	733-0033 広島市西区観音本町1-1-1	082-232-7211	082-293-3363
独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック事務所	総務経理課長	739-0041 東広島市西条町寺家513	082-493-6606	082-493-6616
広島市自主防災会連合会	会長	730-0051 広島市中区大手町5-20-12	082-546-3476	082-249-1160
広島県女性防火クラブ連絡協議会	会長	731-0113 広島市中区基町10-52	082-513-2790	082-227-2122
広島県社会福祉協議会	地域福祉課長	732-0816 広島市南区比治山本町12-2	082-254-3414	082-256-2228

6 広島県指定地方公共機関一覧

昭和37年12月11日 県告示第887号
 昭和50年 2月25日 県告示第 58号
 昭和56年 3月17日 県告示第253号
 昭和58年 4月28日 県告示第483号
 昭和63年 1月25日 県告示第 61号
 平成19年 3月 1日 県告示第193号
 平成19年 3月 1日 県告示第194号

番号	機 関 名	郵便番号	機 関 所 在 地	電話番号
1	広島ガス(株)	734-8555	広島市南区皆実町2-7-1	082-251-2151
2	福山瓦斯(株)	721-0963	福山市南手城町2-26-1	084-931-3111
3	広島電鉄(株)	730-8610	広島市中区東千田町2-9-29	082-242-3521
4	備北交通(株)	727-0011	庄原市東本町3-11-16	0824-72-2122
5	(株)中国バス	720-0824	福山市多治米町6-12-31	084-953-5391
6	芸陽バス(株)	739-0043	東広島市西条西本町21-39	082-424-4721
7	西鉄運輸(株)	733-0833	広島市西区商工センター4-7-18	082-276-6025
8	山陽トラック(株)	723-0017	三原市港町849-155	0848-64-7238
9	福山通運(株)	721-0974	福山市東深浦町4-20-1	084-924-2000
10	たをの海運(株)	734-0011	広島市南区宇品海岸2-15-17	082-251-5331
11	瀬戸内海汽船(株)	734-8515	広島市南区宇品海岸1-12-23	082-255-3342
12	マロックス(株)	734-0032	広島市南区楠那町3-19	082-251-3251
13	(株)中国放送	730-0011	広島市中区基町21-3	082-222-1141
14	広島テレビ放送(株)	730-0011	広島市中区中町6-6	082-249-1212
15	広島県厚生農業協同組合連合会	730-0051	広島市中区大手町3-13-18	082-241-0695
16	社会福祉法人恩賜財団 広島県済生会呉病院	737-0821	呉市三条2-1-13	0823-21-1601
17	社団法人広島県医師会	733-0033	広島市西区観音本町1-1-1	082-232-7211
18	(株)広島ホームテレビ	730-8552	広島市中区白島北町19-2	082-221-7111
19	(株)テレビ新広島	734-8585	広島市南区出汐2-3-19	082-256-2200
20	広島エフエム(株)	734-0007	広島市南区皆実町1-8-2	082-251-2200

7 防災関係機関の防災事務担当部署

(1) 広島県防災会議構成機関、指定地方公共機関及び公共金融機関

所属機関名	防災担当部課名等	係名等	電話番号	FAX番号
中国管区警察局	総務監察・広域調整部 災害対策官	災害対策係	082-228-6411	082-228-3920
中国四国防衛局	企画部地方調整課	—	082-223-7153	082-223-0336
中国総合通信局	無線通信部陸上課	—	082-222-3367	082-502-8082
中国財務局	総務部総務課	—	082-221-9221	082-502-3688
中国四国厚生局	総務課	—	082-223-8181	082-223-8155
広島労働局	労働基準部健康安全課	—	082-221-9243	082-221-9252
中国四国農政局 広島地域センター	農政推進グループ	—	082-228-9676	082-228-5834
近畿中国森林管理局				
広島森林管理署	総務課	—	082-247-2201	082-247-5822
広島北部森林管理署	総務課	—	0824-62-2155	0824-62-2156
中国経済産業局	総務企画部総務課	—	082-224-5615	082-224-5640
中国四国産業保安監督部	管理課	—	082-224-5753	082-224-5650
中国地方整備局				
企画部	防災課	—	082-221-9231	082-227-2651
広島港湾・空港整備事務所	総務課	—	082-254-6411	082-505-0107
中国運輸局	総務部総務課	—	082-228-3434	082-227-9797
大阪航空局 広島空港事務所	総務課	—	0848-86-8650	0848-86-8656
広島地方気象台	防災業務課	—	082-223-3953	082-223-3968
第六管区海上保安本部	警備救難部環境防災課	第一災害対策係	082-251-5111 (内線 3315)	082-251-5185
中国四国地方環境事務所	総務課	—	086-223-1577	086-224-2081
陸上自衛隊第13旅団	司令部第3部	防衛班	082-822-3101 (内線 2412)	082-822-3101 (内線 2457)
海上自衛隊呉地方総監部	防衛部第3幕僚室	防災主任	0823-22-5511 (内線 2823)	0823-22-5692

所属機関名	防災担当部課名等	係名等	電話番号	FAX番号
広島県教育委員会	管理部総務課	総務係	082-513-4911	082-223-6341
広島県警察本部	警備部警備課		082-228-0110 (内線 5733)	082-228-0009
広島県	会計管理部 会計総務課	庶務グループ	082-513-2113	082-228-3302
	危機管理監 危機管理課	危機対策グループ	082-513-2786	082-227-2122
	総務局 総務課	管理グループ	082-513-2216	082-502-0652
	地域政策局 地域政策総務課	経営戦略グループ	082-513-2511	082-224-1977
	環境県民局 環境県民総務課	庶務グループ	082-513-2711	082-227-2549
	健康福祉局 健康福祉総務課	厚生推進グループ	082-513-3030	082-511-6715
	商工労働局 商工労働総務課	庶務グループ	082-513-3311	082-223-6314
	農林水産局 農林水産総務課	庶務グループ	082-513-3511	082-223-3566
	土木局 土木総務課	庶務グループ	082-513-3811	082-223-3593
	土木局 道路河川管理課	河川砂防管理グループ	082-513-3923	082-227-2206
	土木局 河川課	河川企画グループ	082-513-3929	082-227-2206
	土木局 砂防課	砂防企画グループ	082-513-3942	082-223-2443
	土木局 都市計画課	都市総務グループ	082-513-4111	082-223-2397
企業局 企業総務課	庶務グループ	082-513-4311	082-223-6312	
病院事業局 県立病院課	管理グループ	082-513-3234	082-223-3573	

所属機関名	防災担当部課名等	係名等	電話番号	FAX番号	
広島県市長会	事務局	—	082-223-6545	082-211-1882	
広島県町村会	事務局	—	082-221-3465	082-211-1882	
日本銀行広島支店	文書課	—	082-227-4100	082-502-0165	
日本赤十字社広島県支部	事業課	—	082-545-5111	082-240-2741	
日本放送協会広島放送局	放送部	—	082-504-5210	082-504-5320	
西日本高速道路(株)中国支社	保全サービス事業部	保全サービス統括課	082-831-4453	082-831-4576	
西日本旅客鉄道(株)	広島支社	総務課	—	082-261-2252	082-264-3548
	岡山支社	岡山土木技術センター	—	086-223-0180	086-223-2078
	米子支社	施設課	土木防災	0859-32-0222	0859-32-5830
	新幹線管理本部	広島新幹線土木技術センター 岡山新幹線土木技術センター	—	082-263-3115 086-225-7012	082-263-3116 086-223-4995
西日本電信電話(株)広島支店	災害対策室	—	082-505-4757	082-250-7466	
日本郵便(株)中国支社	郵便局本部企画部	総務担当	082-224-5023	082-228-1434	
日本通運(株)広島支店	作業管理課	—	082-261-1187	082-263-6081	
中国電力(株)	コンプライアンス推進部門	総務担当	082-544-2717	082-544-2747	
(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ中国支社	災害対策室	—	082-501-2127	082-501-2203	
広島ガス(株)	総務部	—	082-252-3001	082-253-3117	
	供給部	—	082-252-3030	082-253-7139	
福山ガス(株)	供給部	—	084-931-3111	084-923-1171	
広島電鉄(株)	電車輸送企画グループ	—	082-242-3551	082-242-3559	
備北交通(株)	総務課	—	0824-72-2122	0824-72-5607	
(株)中国バス	総務課	—	084-953-5391	084-953-5390	
芸陽バス(株)	総務課	—	082-424-4721	082-424-4724	
西鉄運輸(株)広島支店	総務課	—	082-276-6025	082-501-5041	
山陽トラック(株)	総務課	—	0848-64-7238	0848-64-0408	

所属機関名	防災担当部課名等	係名等	電話番号	FAX番号	
福山通運(株)	総務課	—	084-924-2000	084-931-4865	
たをの海運(株)	総務部	—	082-251-5331	082-252-2500	
瀬戸内海汽船(株)	運航管理	—	082-255-3342	082-505-0134	
マロックス(株)	総務部	—	082-251-3251	082-255-1623	
(株)中国放送	報道制作局	—	082-222-1171	082-228-7699	
広島テレビ放送(株)	管理部	—	082-249-1297	082-247-4472	
広島県厚生農業協同組合連合会	総務部総務課	—	082-241-0695	082-245-0487	
社会福祉法人恩賜財団 広島県済生会呉病院	事務部総務課	総務係 施設管理係	0823-21-1601	0823-24-5274	
社団法人広島県医師会	事務局	—	082-232-7211	082-293-3363	
独立行政法人国立病院機構 本部中国四国ブロック事務所	統括部総務課	総務係	082-493-6606	082-493-6616	
(株)広島ホームテレビ	総務局	—	082-221-7111	082-221-4905	
(株)テレビ新広島	総務局	—	082-256-2200	082-253-1203	
広島エフエム放送(株)	総務部	—	082-251-2200	082-255-6633	
(株)日本政策金融公庫 (一) 国民生活事業	広島支店	総括室	—	082-244-2231	082-242-1546
	呉支店	総務課	—	0823-24-2600	0823-21-5462
	尾道支店	総務課	—	0848-22-6111	0848-22-7004
	福山支店	総務課	—	084-922-6550	084-932-2083
独立行政法人 住宅金融支援機構 中国支店	営業推進グループ	—	082-221-8654	082-227-4196	
	総務課	—	082-221-8694	082-223-1621	
(株)日本政策金融公庫 広島支店 (中小企業事業)	融資総括	—	082-247-9151	082-241-1805	

(2) 市町・消防本部(局)

平成24年4月1日現在

No.	市町名	衛星通信番号	NTT電話番号 (代表電話)	NTTファクシミリ	No.	市町名	衛星通信番号	NTT電話番号 (代表電話)	NTTファクシミリ
1	広島市	7-7-201-812211	082-245-2111	082-504-2069	13	安芸高田市	7-7-381-498	0826-42-5611 0826-42-2111	0826-42-4376
2	呉市	7-7-202-110	0823-25-3564 0823-25-3100	0823-21-8849	14	江田島市	7-7-328-119	0823-40-2218 0823-40-2211	0823-40-2072
3	竹原市	7-7-203-598	0846-22-7719 0846-22-2270	0846-22-8579	15	府中町	7-7-302-391	082-286-3242 082-286-3111	082-286-4022 082-286-3199
4	三原市	7-7-204-2000	0848-67-6066 0848-64-2111	0848-67-6164	16	海田町	7-7-304-158	082-823-9208 082-822-2121	082-823-7927 082-823-9203
5	尾道市	7-7-205-290	0848-25-7216	0848-37-2740	17	熊野町	7-7-307-498	082-820-5606 082-820-5600	082-854-6351
6	福山市	7-7-207-3290	084-928-1007 084-921-2111	084-926-0845	18	坂町	7-7-309-811	082-820-1506 082-820-1500	082-820-1522
7	府中市	7-7-208-110	0847-43-7211 0847-43-7111	0847-46-3450	19	安芸太田町	7-7-363-78	0826-28-2111	0826-28-1622
8	三次市	7-7-209-596	0824-62-6116 0824-62-6111	0824-62-6137 0824-62-2951	20	北広島町	7-7-366-2121	0826-72-2111	0826-72-5242
9	庄原市	7-7-210-2090	0824-73-1123 0824-73-1111	0824-72-3322	21	大崎上島町	7-7-428-100	0846-65-3111	0846-65-3198
10	大竹市	7-7-211-698	0827-59-2120 0827-59-2111	0827-57-7130	22	世羅町	7-7-461-400	0847-22-1111	0847-22-2768
11	東広島市	7-7-212-198	082-420-0907 082-422-2111	082-422-4021	23	神石高原町	7-7-544-790	0847-89-3330	0847-85-3394
12	廿日市市	7-7-213-1088	0829-20-0001	0829-32-1059					
①	広島市消防	7-7-701-92523	082-546-3446 082-246-8211	082-247-1645 082-542-1007	⑨	府中町消防	7-7-606-798	082-286-3119	082-288-6337
②	呉市消防	7-7-623-392	0823-26-0119	0823-26-0309	⑩	北広島町消防	7-7-619-18	0826-72-0119	0826-72-7172 0826-72-5145
③	三原市消防	7-7-610-16	0848-62-2101	0848-62-5119	⑪	備北地区消防	7-7-609-48	0824-63-1191	0824-63-3446
④	大竹市消防	7-7-616-222	0827-54-0119	0827-53-2928	⑫	尾道市消防	7-7-611-600	0848-55-0119	0848-55-9130
⑤	東広島市消防	7-7-621-521	082-422-0119	082-423-8243	⑬	福山地区消防 (警防直通)	7-7-614-1080 084-928-1190 084-928-1193	084-928-1190 084-928-1193	084-921-9357 084-928-1220
⑥	廿日市市消防	7-7-617-81	0829-32-8111	0829-31-2739 0829-32-4119					
⑦	安芸高田市消防	7-7-608-32	0826-42-0931	0826-42-0877					
⑧	江田島市消防	7-7-622-40	0823-40-0119	0823-42-1965					

(注) 1 衛星通信局の内線番号(7-7-〇〇〇-内線番号)は、防災担当(概ね総務課)のみ記載している。

その他の内線番号及びFAX番号については、電話番号簿を参照すること。

2 広島市は、総務課の番号、広島消防は代表番号である。(通信指令課546-3456、危機管理部防災課546-3446)

8 広島県災害対策本部条例

昭和37年10月1日
条例第39号

広島県災害対策本部条例をここに公布する。

広島県災害対策本部条例

(趣 旨)

第1条 この条例は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第23条第8項の規定に基づき同条第1項の規定により設置する広島県災害対策本部（以下「災害対策本部」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(災害対策本部長等の職務)

第2条 災害対策本部長は、災害対策本部の事務を総括し、所部の職員を指揮監督する。

2 災害対策副本部長は、災害対策本部長を補佐し、災害対策本部長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 災害対策本部員は、災害対策本部長の命を受け、災害対策本部の事務に従事する。

(災害対策本部)

第3条 災害対策本部長は、必要があると認めるときは、災害対策本部に部を置くことができる。

2 部に属すべき災害対策本部員は、災害対策本部長が指名する。

3 部に部長を置き、災害対策本部長の指名する災害対策本部員がこれに当たる。

4 部長は、部の事務を掌理する。

(現地災害対策本部)

第4条 現地災害対策本部に現地災害対策本部長及び現地災害対策本部員その他の職員を置き、災害対策副本部長、災害対策本部員その他の職員のうちから災害対策本部長が指名する者をもって充てる。

2 現地災害対策本部長は、現地災害対策本部の事務を掌理する。

(雑 則)

第5条 この条例に定めるもののほか、災害対策本部に関し必要な事項は、災害対策本部長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成8年7月5日条例第14号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年10月10日条例第52号）

この条例は、公布の日から施行する。

9 広島県防災対策基本条例

〔平成21年3月24日〕
 条 例 第 1 号

広島県防災対策基本条例をここに公布する。

広島県防災対策基本条例

前文

災害から生命、身体や財産を守り、安心して安全に暮らすことは、わたしたちの共通の願いである。

しかし、近年、大規模な地震発生の切迫性が高まっており、また、地球温暖化に伴う気候変動による大雨の頻発や台風の大型化などによる災害の激甚化、更に少子高齢化の進行等による地域における防災力の低下が懸念されている。

特に、全国で最多の土砂災害危険箇所を有する本県においては、ひとたび災害が起これば、その被害は甚大なものとなることが想定される。

このような被害を軽減するため、県、市町等が、災害対策基本法及び地域防災計画等に基づき、積極的に防災対策を推進していく中で、より一層被害の軽減を図るためには、県、市町等が県民の生命、身体及び財産を守るために行う「公助」に加え、自らの身は自ら守る「自助」や地域の住民が互いに助け合い地域の安全を確保する「共助」の取組が不可欠である。

ここに、わたしたちは、県民、事業者、自主防災組織、災害ボランティア、県、市町等それぞれが自らの役割を認識し、相互に連携して防災対策を実施することにより、災害を未然に防止し、災害発生時の被害が最小限にとどめられるよう社会全体で減災に取り組む「防災協働社会」を構築し、県民が安心して安全に暮らせる地域社会を実現するため、この条例を制定する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、防災対策に関し、基本理念を定め、災害予防対策、災害応急対策並びに復旧及び復興対策における県民、事業者、自主防災組織、災害ボランティア、県及び市町の役割又は責務を明らかにすることにより、防災協働社会の構築に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 一 災害 暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波その他の異常な自然現象により生ずる被害をいう。
- 二 防災 災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、並びに災害の復旧及び復興を図ることをいう。
- 三 防災対策 防災のために行う対策をいう。
- 四 自主防災組織 地域住民が自主的に連帯し、防災に関する活動を行う組織をいう。
- 五 災害時要援護者 災害時の避難行動等において支援が必要となる高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、外国人等をいう。
- 六 災害ボランティア 災害発生後において、被災者の生活支援等の災害救援活動を行う個人又は団体をいう。

(基本理念)

第3条 防災対策は、県民が自らの身は自ら守る自助、地域の住民が互いに助け合い地域の安全を確保する共助、県、市町等が県民の生命、身体及び財産を守るために行う公助を基本として、県民、事業者、自主防災組織、災害ボランティア、県、市町等が、男女双方の視点、災害時要援護者の支

援等に配慮しながら、それぞれの役割を果たすとともに、相互に連携し、及び協働して行われなければならない。

(県民の役割)

第4条 県民は、基本理念にのっとり、自ら防災対策を行うとともに、地域において相互に連携し、及び協力して防災対策を行うよう努めるものとする。

2 県民は、基本理念にのっとり、県及び市町が実施する防災対策に協力するよう努めるものとする。

(事業者の役割)

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、来所者、従業者及び地域住民の安全を確保するとともに、事業を継続することができる体制を整備するよう努めるものとする。

2 事業者は、基本理念にのっとり、自主防災組織等が行う防災に関する活動並びに県及び市町が実施する防災対策に協力するよう努めるものとする。

(自主防災組織の役割)

第6条 自主防災組織は、基本理念にのっとり、地域における防災に関する活動を実施するよう努めるものとする。

2 自主防災組織は、基本理念にのっとり、県及び市町が実施する防災対策に協力するよう努めるものとする。

(災害ボランティアの役割)

第7条 災害ボランティアは、基本理念にのっとり、災害応急対策並びに復旧及び復興対策が効果的に実施されるよう、災害ボランティアの活動の支援を目的としている団体、自主防災組織、県、市町等と連携し、被災者の求めに応じたきめ細かな支援に努めるものとする。

(市町の役割)

第8条 市町は、基本理念にのっとり、基礎的な地方公共団体として、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、自主防災組織及び国、県その他の関係機関と連携し、防災対策の推進に努めるものとする。

(県の責務)

第9条 県は、基本理念にのっとり、県民の生命、身体及び財産を災害から守るため、国、市町その他の関係機関と連携し、防災対策を総合的かつ計画的に推進するとともに、県民、事業者、自主防災組織、災害ボランティア及び市町が実施する防災対策への支援に努めるものとする。

2 県は、災害に関する調査及び研究を行い、その成果を公表するとともに、防災対策に反映させるものとする。

(ひろしま防災の日及びひろしま防災月間)

第10条 県民の防災意識の高揚及び防災対策の一層の推進を図るため、ひろしま防災の日及びひろしま防災月間を設ける。

2 ひろしま防災の日は6月29日とし、ひろしま防災月間は、6月とする。

第2章 災害予防対策

第1節 県民の役割

(防災知識の習得等)

第11条 県民は、防災に関する訓練及び研修への積極的な参加に努めるとともに、災害の発生原因となる自然現象（以下この章において「災害発生現象」という。）の特徴、予測される被害及び必要な備え並びに災害発生時にとるべき行動に関する知識の習得に努めるものとする。

2 県民は、自らが生活する地域について、地形、地質、過去の災害記録、予測される被害等災害に関する情報（以下この章において「地域災害関連情報」という。）を収集するよう努めるものとする。

3 県民は、あらかじめ災害発生現象の態様及び地域災害関連情報に応じた適切な避難時期、避難場

所、避難路及び避難方法並びに家族との連絡方法を確認しておくよう努めるものとする。

(自主防災組織への参加等)

第12条 県民は、地域における防災に関する活動を円滑に行うため、自主防災組織を結成するとともに、その活動に積極的に参加するよう努めるものとする。

(災害時要援護者からの情報の提供)

第13条 災害時要援護者は、自主防災組織、市町等に対し、あらかじめ避難等の支援を受ける際に必要な自らの情報を提供するよう努めるものとする。

(生活物資の備蓄等)

第14条 県民は、食料、飲料水、医薬品その他の災害発生時等において必要となる生活物資の備蓄及び点検並びにラジオ等の情報収集の手段の確保に努めるとともに、避難の際に必要な物資を直ちに持ち出すことができるように準備しておくよう努めるものとする。

2 県民は、災害の未然に防止し、及び災害発生時の被害の拡大を防止するために必要な消火器その他の資機材を整備するよう努めるものとする。

(建築物の安全性の確保等)

第15条 建築物の所有者は、当該建築物について、耐震診断及びその結果に基づく耐震改修等の適切な措置を実施するよう努めるものとする。

2 県民は、家具、窓ガラス等について、災害発生時の転倒、飛散等を防ぐための措置を実施するよう努めるものとする。

3 ブロック塀、広告板その他の工作物及び自動販売機（以下この項において「工作物等」という。）の設置者は、当該工作物等の適切な安全点検及び維持管理の実施に努めるとともに、耐震性を確保するために必要な措置の実施に努めるものとする。

第2節 事業者の役割

第16条 事業者は、災害発生時における来所者、従業者及び周辺地域住民等の安全の確保並びに事業を継続するための計画の策定及び計画を実施するための体制の整備に努めるものとする。

2 事業者は、防災に関する訓練及び研修を積極的に実施するよう努めるとともに、自主防災組織、県及び市町が実施する訓練及び研修に参加し、又は従業者を参加させるよう努めるものとする。

第3節 自主防災組織の役割

(防災意識の啓発等)

第17条 自主防災組織は、地域における防災意識の啓発及び高揚を図るための防災に関する訓練及び研修の実施に努めるとともに、県、市町等が行う防災に関する研修等への積極的な参加に努めるものとする。

(地域災害関連情報の確認等)

第18条 自主防災組織は、県、市町等が提供する災害及び防災に関する情報を活用し、及び地域災害関連情報を確認し、あらかじめ災害発生現象の態様及び当該地域災害関連情報に応じた適切な避難時期、避難場所、避難路、避難方法等を把握するよう努めるものとする。

2 自主防災組織は、前項の規定により把握した情報その他の防災に関する情報を掲載した地図の作成及びその周知に努めるものとする。

(災害時要援護者の支援等)

第19条 自主防災組織は、災害時要援護者の避難等の支援を円滑に行うため、市町、民生委員児童委員（民生委員法（昭和23年法律第198号）に定める民生委員及び児童福祉法（昭和22年法律第164号）に定める児童委員をいう。第43条において同じ。）等と連携し、あらかじめ地域における災害時要援護者に関する情報を把握するよう努めるものとする。

2 自主防災組織は、前項の規定により把握した災害時要援護者に関する情報の漏えい及び目的外利用を防止し、当該情報を適正に管理するものとする。

3 自主防災組織は、災害時要援護者が行う災害予防対策の支援に努めるものとする。

(避難勧告等への対応の準備)

第20条 自主防災組織は、避難勧告等が発令された場合に避難が円滑に行われるよう、あらかじめ市町と役割分担について協議し、及び構成員の役割分担を設定しておくよう努めるものとする。

(物資の備蓄等)

第21条 自主防災組織は、初期消火、負傷者等の救出救護その他の災害発生時の応急的な措置に必要な物資及び資機材の備蓄、整備及び点検の実施に努めるものとする。

第4節 県及び市町等の役割

(防災意識の啓発等)

第22条 県及び市町は、自主防災組織及び関係機関と連携し、県民等に対する防災意識の啓発及び高揚並びに災害及び防災に関する知識の普及に努めるものとする。

(学校等における防災に関する教育の実施)

第23条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校(第38条第1項及び第47条において「学校」という。)及び児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条に規定する保育所(第47条において「保育所」という。)の設置者又は管理者は、幼児、児童、生徒及び学生に対する防災に関する教育の実施に努めるものとする。

(防災訓練等の実施)

第24条 県及び市町は、県民、事業者、自主防災組織及び国その他の関係機関と連携し、防災に関する訓練及び研修を実施するよう努めるものとする。

(災害に関する情報の提供等)

第25条 市町は、地域災害関連情報及び適切な避難時期の判断に必要な情報を住民に提供するよう努めるとともに、災害想定区域、避難場所、避難路等災害に関する総合的な資料を図面に表示した地図(第39条第1項において「ハザードマップ」という。)の作成及び住民への周知に努めるものとする。

2 県は、前項の規定による施策の実施を支援するものとする。

3 県及び市町は、災害状況を記録し、公表するものとする。

(自主防災組織への支援)

第26条 市町は、自主防災組織の結成及び活動の支援に努めるものとする。この場合において、自主防災組織の結成を目指す者及び自主防災組織の中心となって活動する者の育成について特に配慮するものとする。

2 県は、前項の規定による施策の実施を支援するものとする。

(災害時要援護者の支援体制の整備)

第27条 市町は、災害時要援護者の把握に努めるとともに、自主防災組織及び民生委員児童委員協議会(民生委員法第20条第1項に規定する民生委員協議会をいう。)その他の関係機関と連携し、災害時要援護者の支援を行うための体制の整備に努めるものとする。

2 市町は、関係機関と連携し、福祉避難所(災害時要援護者のうち避難場所での生活において特別な配慮が必要な者を受け入れるための条件を満たす避難所をいう。)を確保するよう努めるものとする。

3 県は、前2項の規定による施策の実施を支援するものとする。

(災害ボランティアの活動環境の整備等)

第28条 県及び市町は、災害発生時に災害ボランティアの活動が円滑に実施されるよう、災害ボランティアの活動及びその支援を目的としている団体と、平常時から連携に努めるとともに、災害ボランティアの活動への参加に関する啓発及びボランティア活動を行うために必要な知識の普及に努めるものとする。

(避難計画の作成等)

第29条 市町は、自主防災組織と連携し、災害発生現象の態様及び地域の特性を考慮した避難計画を作成するよう努めるものとする。この場合において、早期に避難行動を開始することを求める避難準備情報等の発表等の基準、避難場所その他の避難のために必要な事項を明示するよう努めるものとする。

2 市町は、避難場所の運営について、あらかじめその所有者又は管理者及び自主防災組織と連携し、衛生、プライバシー保護その他の生活環境に配慮した行動基準を作成しておくよう努めるものとする。

3 市町は、自主防災組織及び関係機関と連携し、第1項の避難計画を住民に周知するよう努めるものとする。

(医療救護体制の整備)

第30条 市町は、関係医師会と連携し、医療救護活動に関する計画の作成に努めるとともに、災害が発生した場合における医療救護体制の整備に努めるものとする。

2 県は、前項の医療救護体制を支援するため、災害拠点病院及び災害協力病院の指定、医薬品等医療資機材を確保するための体制の整備等広域医療救護体制の整備に努めるものとする。

(公衆衛生の確保のための体制整備)

第31条 県及び市町は、関係機関と連携し、感染症の発生の予防、まん延の防止その他の公衆衛生を確保するための体制の整備に努めるものとする。

(輸送体制の整備)

第32条 県は、緊急輸送路の指定、関係事業者等との協定の締結等災害発生時における備蓄物資等の輸送体制の整備に努めるものとする。

(他の地方公共団体等との連携体制の整備)

第33条 市町は、他の市町村等との間で応援協定等を締結するなど、連携して活動するための体制の整備に努めるものとする。

2 県は、他の都道府県等との間で広域的な連携に関する協定を締結するなど、迅速に被災地又は被災するおそれがある地域への支援を行うための体制の整備に努めるものとする。

(消防団及び水防団の充実等)

第34条 市町は、地域の防災対策において重要な役割を担う消防団及び水防団の組織の充実及び機能の強化に努めるものとする。

2 県は、前項の規定による施策の実施を支援するものとする。

(情報収集伝達体制の整備)

第35条 市町は、住民への災害及び避難に関する情報の提供並びに住民からの災害状況、住民の安否その他の情報の入手手段の整備及び確保に努めるものとする。

2 市町は、災害により、帰宅することが困難となった者及び移動の途中で目的地に到達することが困難となった者（第42条及び第45条においてこれらの者を「帰宅困難者」という。）に対する必要な情報の提供体制の整備に努めるものとする。

3 県は、気象情報、被害その他の災害に関する情報（以下この項及び次項において「災害情報等」という。）の入手手段並びに災害情報等を市町及び関係機関へ提供するための手段を整備し、又は確保しておくものとする。

4 県及び市町は、あらかじめ報道機関との間で協定を締結するなど、災害情報等の提供体制の整備に努めるものとする。

(防災及び危機管理体制の整備)

第36条 県及び市町は、災害に迅速かつ的確に対応するための防災及び危機管理体制の整備に努めるものとする。

2 県及び市町は、職員に対する災害及び防災に関する知識並びに災害発生時等にとるべき行動の習得並びに防災意識の高揚を図るための訓練、研修等を実施するものとする。

(物資等の備蓄等)

第37条 県及び市町は、災害の発生に備え、応急対策に必要な物資及び資機材の備蓄に努めるとともに、関係事業者との間で協定を締結するなど、物資等の調達体制の整備に努めるものとする。

(公共施設の整備)

第38条 県及び市町は、防災対策の拠点となる庁舎、消防署、警察署等の施設及び避難場所として使用される学校等の施設について、計画的な耐震化の推進に努めるものとする。

2 県及び市町は、道路、公園、河川、港湾、砂防施設等について、防災上の観点から、定期的な点検及び計画的な整備に努めるものとする。

第3章 災害応急対策

第1節 県民の役割

(避難の実施)

第39条 県民は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、災害に関する情報に留意し、ハザードマップ及び第18条第2項の地図の活用等により自ら必要と判断したとき又は避難勧告等の発令があったときは、速やかに、かつ、互いに助け合い、避難するよう努めるものとする。

2 避難場所を利用する者は、第29条第2項の行動基準に従い、互いに協力して共同生活を営むとともに、避難勧告等が解除されるまでの間、避難を継続するよう努めるものとする。

(車両使用の自粛等)

第40条 県民は、災害発生時において、公安委員会又は警察官が行う車両の通行の規制その他の交通の規制を遵守するとともに、迅速な災害応急対策の実施の妨げとならないように車両の使用を自粛するよう努めるものとする。

第2節 事業者の役割

(来所者等の安全の確保)

第41条 事業者は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、来所者及び従業員の安全を確保するとともに、自主防災組織等と連携し、周辺地域住民等の避難誘導、初期消火、負傷者の救出救護、災害に関する情報の収集及び提供等を行い、周辺地域住民等の安全を確保するよう努めるものとする。

(帰宅困難者対策への協力)

第42条 事業者は、災害発生後の交通状況等を勘案し、必要に応じ、従業員への帰宅の一時見合わせの呼びかけ等帰宅困難者の発生抑制に努めるものとする。

2 事業者は、事業所の周辺地域において帰宅困難者が発生しているときは、事業所の規模及び業態に応じ、一時的な避難場所の提供その他の支援に努めるものとする。

第3節 自主防災組織の役割

第43条 自主防災組織は、市町、民生委員児童委員等と連携し、地域住民の安否等に関する情報の収集及び伝達、避難誘導、初期消火、負傷者等の救出救護、給水及び給食等地域における災害応急に関する活動を実施するよう努めるものとする。

第4節 災害ボランティアの役割

第44条 災害ボランティアは、県、市町、自主防災組織等と連携し、被災者の生活支援等被災地において求められる災害応急に関する活動を実施するよう努めるものとする。

第5節 県及び市町等の役割

(情報の収集及び提供)

第45条 県及び市町は、速やかに、災害及び防災に関する情報を収集し、住民、自主防災組織、帰宅困難者等に対し、迅速かつ的確に提供するものとする。

(自主防災組織等の活動支援)

第46条 市町は、自主防災組織及び災害ボランティアによる防災に関する活動に必要な場所、情報等を提供するよう努めるものとする。

(学校等における児童等の安全の確保)

第47条 学校及び保育所の設置者又は管理者は、災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、乳幼児、児童、生徒及び学生の安全の確保に努めるものとする。

(災害応急対策のための体制の確立等)

第48条 県及び市町は、避難、救助、医療等の災害応急対策を実施するための体制の迅速な確立及び当該対策の的確な実施に努めるものとする。

(市町への応援)

第49条 県は、市町からの応援及び応急措置の実施要請に対し、速やかに、対応するものとする。

第4章 復旧及び復興対策

第1節 県民の役割

第50条 県民は、事業者、自主防災組織、災害ボランティア、県及び市町と協働して、自らの生活を再建し、地域社会を再生するよう努めるものとする。

2 県民は、循環型社会を形成する観点から、廃棄物の発生を抑制するよう努めるものとする。

第2節 事業者の役割

(雇用の場の確保等)

第51条 事業者は、事業の継続又は中断した事業の速やかな再開により雇用の場の確保に努めるとともに、国、県、市町等と連携し、地域経済の復興に貢献するよう努めるものとする。

(生活に不可欠な施設の復旧)

第52条 水道、下水道、電気供給施設、ガス供給施設、電気通信事業の用に供する施設等の設置者又は管理者は、相互に情報の共有を図りながら、速やかに、復旧対策を実施するよう努めるものとする。

第3節 自主防災組織の役割

第53条 自主防災組織は、地域における復旧及び復興対策の実施に協力するよう努めるものとする。

第4節 災害ボランティアの役割

第54条 災害ボランティアは、被災者の生活再建が円滑に行われるよう、災害ボランティアの活動の支援を目的としている団体、県、市町等と連携し、被災者の意向に配慮した支援を実施するよう努めるものとする。

第5節 県及び市町の役割

第55条 県及び市町は、大規模な災害後の復旧及び復興に当たっては、住民の参画を図りながら、公共施設の計画的な復旧を行うとともに、被災者の生活再建、地域経済の復興等に関する計画を策定するよう努めるものとする。

2 県及び市町は、被災者の意向も踏まえながら、国その他の関係機関と連携し、前項の計画に定めた復旧及び復興対策を円滑に実施するよう努めるものとする。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

10 過去の主な災害の概況

発生日月	種別	気象値(広島)			人的被害			家屋被害			
		最大風速 (m/s)	最低気圧 (hPa)	雨量 (mm)	死者 (人)	負傷者 (人)	行方不明 (人)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	流失 (戸)	一部損壊 (戸)
明治 17. 8. 25	台風		970.6	74.6	181	60		1,201	1,554		8
17. 9. 7	"		991.0	102.7				47	33		282
24. 9. 14	"	23.6	980.3	55.2				117			
26. 10. 14	"	23.5	990.5	146.0	128			20,281			
28. 7. 24	"	27.1	990.6	43.1	5	2	12	98		228	
29. 8. 18	"	14	969.1	36.9	1	8	1	312	161		2,584
33. 8. 19	"	32.8	976.2	108.1	3	16	1	84	65	103	1,406
35. 8. 10~11	"	12.4	985.3	63.6	90	43	4	189	222	134	917
35. 9. 7~8	"	14.5	983.0	14.1							
37. 4. 24~26	低気圧	8.7	1,007.9	183.9							
38. 6. 2	地震				11	160		56	187		
38. 8. 9	台風	15.8	996.7	140.2	不明						
39. 10. 24	"	8.7	994.9	51.1	"						
41. 6. 22~23	"	3.7	997.4	72.0	"						
43. 9. 6	"	18.1	999.7	252.3	"						
大正 3. 6. 3	"	25.3	988.3	68.3	6	4		34			44
3. 8. 25~26	"	19.4	990.2	45.3	3	1		9		1	10
3. 9. 14	"	11.7	990.7	44.0		2	3	70			17
4. 9. 8~9	"	16	973.0	33.8	2	3		62	197	31	
4. 10. 7~8	"	11.3	985.5	35.1				1			
6. 9. 14~15	"	5	1,006.0	47.0	不明						
7. 7. 12	"	14.9	963.4	183.2	3	3		30			66
8. 7. 1~4	梅雨	2.1	1,008.2	278.1	3	7		15	14		
9. 8. 14~17	台風	5.1	1,001.6	94.7	26	15		60	69		
9. 8. 21	"	6.1	991.1	56.7	1	3		12	2		
10. 6. 14~18	低気圧	4.8	1,000.7	203.2	8	7		15	14		
10. 7. 13	台風	6.9	1,001.0	31.2	2	7		24	5	2	273
12. 6. 20~22	"	4.6	988.3	439.2							
15. 7. 5~7	前線	2.7	1,002.0	167.6	10						
15. 9. 10~11	"	2.5	1,012.4	355.7	49	32	52			242	
昭和 3. 6. 23~11	低気圧	7.4	1,000.7	156.7	8	3		19	60	61	
3. 8. 30	台風	7.6	986.2	56.1	8	2	2	49	33	7	
5. 8. 12	"	7.8	994.9	228.4	2		1	9			
8. 10. 20	"	5.8	985.8	98.5		1		10	4	1	
9. 9. 21	台風	12.6	983.7	91.6	12	12	2	425	265	14	
10. 6. 27~30	梅雨	16.4	1,000.0	294.9	7	4	1	26	74	12	
10. 8. 28	台風	12.3	984.4	25.9		5		13	4		
11. 7. 23	"	27.5	997.6	46.8	2		4	1	1		
12. 9. 11	"	19.1	997.4	43.2				4			
12. 6. 25~29	梅雨	15.8	1,003.5	411.0	11	6	1	39	46		
16. 7. 8~10	"	8	1,003.3	138.2	1		1	6		1	
16. 7. 25~26	台風	16.7	996.1	73.7							
16. 8. 5	"	18	979.6	2.9	1			3			
16. 8. 22	"	12.7	999.6	21.8		2				1	
16. 10. 1	"	17.2	980.4	85.9						16	2
17. 8. 27	"	28.2	984.7	39.6	24	91	155	2,159	218		
17. 9. 21	"	15.3	991.6	155.5	2	1		57	3		
18. 7. 24	"	8.3	997.7	477.8	46	52		157	175	15	
18. 9. 20	"	25.8	986.2	280.0	39	22	8	471	574	459	
19. 9. 17	"	29.5	978.8	74.4	2	23		58	163		
20. 9. 17	"	30.2	961.7	218.7	1,229	1,054	783	2,127	3,375	1,330	
20. 10. 10	"	15	989.5	258.6	11	6	1	32	34	4	
21. 7. 29	"	13.3	984.1	54.8	1	3		30	378		
23. 8. 26~27	"	17.5	1,005.2	124.3			10	2	10	7	
24. 6. 21	"	18.1	987.4	35.0	4	7	2	27	11		
25. 9. 14	"	28.1	990.3	144.4	1	1		66	403	3	
26. 7. 1~2	"	14.2	995.6	16.0				5	1		
26. 7. 7~15	梅雨	14.5	998.7	482.6	10	10	8	17	48	3	23
26. 10. 15	台風	33.9	996.0	189.8	132	361	34	716	1,267	350	1,679
27. 7. 1~2	梅雨	13	994.1	148.9	1	1		4	13	1	1
27. 7. 8~11	"	5	1,004.4	167.3	13	16			35	6	18
27. 7. 29~30	前線	7.6	1,006.2	17.5	11	20		4	6	5	53
28. 6. 4~7	台風	13.2	996.4	239.7	2			13	13	1	13
28. 6. 25~28	低気圧	7.4	1,000.1	234.0	1	2	3	4	7		14
28. 7. 16~22	梅雨	9.4	1,003.3	181.8		1		3	3	1	2
28. 9. 22~25	台風	18.4	990.5	99.4					1		
29. 9. 13~14	"	26.2	970.5	33.1	2	5		46	214	8	447
29. 9. 26	"	15.5	970.0	100.1	7	28		139	140	10	2,203
30. 7. 5~7	梅雨	7.1	1,004.9	114.1	1			1			
30. 9. 29~30	台風	29.2	985.4	41.0	1	9		7	33	3	51
30. 10. 3~4	"	14.2	1,003.1	84.2							2

家屋被害			土木被害				農地被害				その他の被害		備考
床上 浸 (戸)	床下 浸 (戸)	非住家 (戸)	橋梁流失 (ヶ所)	道路損壊 (ヶ所)	堤防決壊 (ヶ所)	がけ崩れ (ヶ所)	流失		冠水		鉄道 (ヶ所)	船 (隻)	
							田 (町)	畑 (町)	田 (町)	畑 (町)			
			286		1,716							412	被害詳細不明
					86								"
			5										"
			(破損) 1,808		(破損) 8,783								
			2		43							112	
			42		56								
123			40	400	105								
2,042	3,927		399	2,309	615								
													被害不明
													"
													安芸灘 M 7.6
23				15	7	2			212			13	
110				63	133				64		2	33	
10			7	3	8	5						4	
1	5			149	62	1						198	
	7	2	3	9	6	4						4	
	111		8	22	14				245	81			
559		71	34		3				2,061	650	2	19	
	270		7		(25) 258				871				
531	2,789		57	280	98	188	42		192				
	82		1	7	6		1		210				
	270		7	74	258		2		871				
273	755		85	225	64		11		134				
													被害不明
1,000					35				1,500				
													被害詳細不明
	4,401		280	1,004		41	295		3,088			1	
101	1,975		2	154	54	2				38		18	
	3,630		24	52	26			589				65	
53	1,651			61	16							3	屋島丸台風
378			50	108	29							234	室戸台風
148	3,703		95	154	157	61							
11	44			1	3							2	
	1	3		7	7	8							29
			2	1	28								
173	1,962		25	181	71	132			5,731		13	3	
44	908		31	36	7	7	2,511				5		
23	357			22	5								
					1								
400	1,660		3	1	1				353				
23	698		11	34	14	7			126			27	
43,020			16	380	259	5	40		2,286			473	
3	78				1								
1,846			126	577	286		185		619				
16,128			267	347	397				32,811				
25			7	88	51				180				
24,168	23,359		1,096	1,135	1,251		3,857		10,651				枕崎台風
2,270	2,840		21	273	36		7,363		22,255				阿久根台風
	418			16									
245	2,052		52	10	12		306		253				
	13			52		3			73			55	デラ台風
1,592	23,505	15	29	141	174		17	17	3,595	1		23	キジャ台風
	10				6	1			1	46		19	ケイト台風
209	4,511	23	31	366	97	317	20	8	4,183	299	4	3	
5,726	17,863	2,291	554	3,039	697	487	3,470		1,568		15	1,371	ルース台風
272	2,220	10	74	428	114	210	5,439	49	5,626	278		2	
231	2,805	8	65	341	43	361	144	62	3,344	31	2	1	
138	198	12	114	163	40	37	26	5	513	16			
58	909	10	42	171	117	134	27	1	1,662	145		9	
503	1,563	8	28	39	39	149	441	397	33,547	4,755	6		
70	410	44	119	253	253	972	208	249	1,572	3,462	14		
77	3,172		1	6	6	4			46	132		1	台風13号
8,359	27,487	205	6	139	139	5	52	761	1,712	3,150		33	ジェーン台風
1,248	8,473	283	25			7	4	152	231			118	洞爺丸台風
2	123	2	7	6	6	14	6		731				
1,648	9,128	58	1	87	46	3			139	126	3	8	ルイス台風
407	1,209			3	1				55	27			

発生年月日	種別	気象値(広島)			人的被害			家屋被害			
		最大風速 (m/s)	最低気圧 (hPa)	雨量 (mm)	死者 (人)	負傷者 (人)	行方不明 (人)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	流失 (戸)	一部損壊 (戸)
31. 6. 29~7. 4	梅雨	8. 2	1, 005. 7	282. 2		1		1			2
31. 8. 17	台風	28. 6	989. 4	36. 2	1	7		14	13		13
31. 9. 10	"	30. 2	990. 1	1. 6		1			1		13
32. 6. 24~27	前線	8. 4	997. 5	164. 0	4	2		1	6		
32. 7. 1~ 5	梅雨	9. 4	1, 001. 7	251. 7	1	3		6	7		
33. 7. 1~ 3	"	8. 4		91. 3	6	6		6	9		1
33. 8. 1~13	前線	8. 7		94. 9		2		1		1	4
34. 7. 13~14	大雨	16. 9	995. 2	101. 6	2					1	7
34. 9. 26	台風	26. 1	985. 2	44. 5	2	2		7	4		9
35. 6. 21~24	梅雨	19. 6	995. 2	169. 4	1	1					2
35. 7. 7~ 8	"	8. 9	999. 2	144. 2	18	27		39	48	3	88
36. 9. 16	台風	21. 8	975. 3	43. 0	1	5		2			1
37. 6. 9	"	4. 8		37. 2	1	5		2	1		
37. 7. 1~ 6	梅雨	9. 5	1, 003. 5	377. 9	13	6		10	16		45
38. 1. 1~ 3	大雪	-		-	7	22		64	73		
38. 5. 8~11	前線	7. 3		191. 1		1		1	3		1
38. 7. 10~11	梅雨	8. 1		106. 5	2	3		4	7		5
38. 7. 27~28	前線	-		-				2	2		
38. 8. 9~11	台風	17. 9	990. 2	292. 2		3		8	3		5
39. 6. 24~27	梅雨	9. 7		254. 4	7	20		5	13		
39. 9. 24~25	台風	20. 3	982. 6	38. 4	2			1			
40. 5. 26~27	前線	7	992. 8	141. 0		1					3
40. 6. 18~21	梅雨	5. 7	1, 002. 1	290. 3	17	28		33	82		53
40. 7. 22~23	梅雨	6. 7	998. 8	118. 2	14	12		35	74		35
40. 9. 15~17	台風	15	992. 4	151. 6	1	1		1	1		3
42. 7. 7~ 9	梅雨	6	1, 001. 9	198. 5	159	231		532	701		643
44. 6. 28~7. 8	"		999. 6	491. 0	7	21		23	37		133
45. 8. 15	台風	28. 3	986. 0	50. 0	3	9		11	31		186
45. 8. 18	前線	9. 3		18. 5	6	3		5	8		3
45. 8. 21	台風	21. 3	976. 2	43. 5	4	54		173	823		14, 001
46. 4. 27~28	大火	6. 5			18						
46. 7. 1	梅雨		1, 000. 4	8. 5	1			1	3		1
46. 7. 16~26	大雨		1, 001. 0	177. 0	5	11		12	22		18
47. 7. 9~14	梅雨	6. 5	1, 002. 0	244. 5	35	105	4	349	2, 170		486
47. 8. 20~21	低気圧	9. 5	1, 005. 7	206. 0	2	9		16	19		60
47. 9. 8~ 9	熱低	8. 5	1, 006. 4	75. 0	2	12		40	46		69
48. 7. 2	不安定	9		36. 5		1		11	14		
48. 7. 7~ 8	干ばつ										
49. 9. 1~ 2	台風	15	980. 8	36. 0					3		15
49. 9. 7~ 9	"	9. 8	1, 006. 1	175. 5					1		
50. 8. 16~18	"	12. 5	991. 0	97. 5					5		8
51. 9. 8~13	台風・前線	21. 5	998. 8	224. 5	16	29		29	35		123
53. 6. 1~ 3	大規模林野 火災										
53. 9. 15	台風	19. 4	991. 4	10. 5	4				25		115
54. 6. 26~7. 2	梅雨			379. 0	1	5		5	7		93
55. 7. 7~ 9	異常低温・ 日照不足										
56. 1. 1~ 3	豪雪				1	1			1		
56. 6. 25~7. 4	梅雨			505. 0	4	11		2	5		55
57. 7. 13~17	"			300. 0	6	1		5	3		14
57. 8. 23	雷雨			252. 0	2	2		2	4		2
58. 7. 20~23	梅雨			38. 0		2		5	3		14
58. 9. 26~28	台風・前線	10. 6	993. 6	272. 0		1		1			16
59. 3. 11~14	林野大火										
60. 6. 21~7. 6	梅雨			767. 0	2	3		6	20		56
61. 5. 7	落雷				1	1					
61. 6. 15~7. 20	梅雨			605. 0							1
61. 6. 24	竜巻	50~70 :推定				1		1	5		5
62. 6. 8~7. 26	梅雨			619. 0							3
62. 8. 30~31	台風	SSE 22. 3	991. 9	0. 0		7					26
62. 10. 16~17	台風	N 16. 1	986. 9	59. 0							3
63. 7. 20~21	梅雨				14	11		38	20		15

家屋被害			土木被害				農地被害				その他の被害		備 考	
床 浸 (戸)	上 水 (戸)	床 下 水 (戸)	非住家 (戸)	橋梁流失 (ヶ所)	道路損壊 (ヶ所)	堤防決壊 (ヶ所)	がけ崩れ (ヶ所)	流失		冠水		鉄道 (ヶ所)		船 (隻)
								田 (町)	畑 (町)	田 (町)	畑 (町)			
15		77			8	3	37			266	20			
53				1	16	1	1			8	17	1	5	ハブス台風
			8		8		14						2	
16	1,073			7	11	9	32	1		223	41			
51	2,396							3		1,035				
96	2,473		7	317	87	57	78	112		983	507	1		
	23		1		5		4	9						
13	216		5	4	33	8	26	26		336	108	1		
2	45		11	3	23	6	1			3				伊勢湾台風
	3			1	15		30			102		1		
763	8,081		25	164	645	267	495	729		9,428	1,734	16		
			3		8	2	7				3			第2室戸台風
	2				3		25			21		1		
62	4,888		20	23	157	36	356			4,389	291	9		
			66		150	14								38.1 豪雪
	23		2	1	71	14		69						
164	922		6	37	426	410		599						
73	548			25	142	191		177						安佐郡に局地豪雨あり
13	188		8	6	209	105								
47	4,264		7	230		328		332						
	38		4	28		8		10						
					14	16								
4,353	34,741			85	397	1,077		154				39		気象値は19~20日のものである
144	2,160			81	710	1,080		58				27		
					38	38						1		
4,898	32,910		157	112	2,383			74	19			110	25	昭和42年7月豪雨(呉市,沿岸部)
595	10,037		18	14	2,100	1,459	317	44				8		梅雨前線豪雨
882	562		93											台風9号
4	52		2	39	1,512	527	39	3,908 ha				6	438	東城町集中豪雨
629	10,075		108											台風10号
														呉市林野火災
11	512			17	606		12					5		梅雨前線豪雨
385	4,534			12	855		87	796ha	361ha			6		庄原 334ミリ
5,169	11,031							6,242カ所	1,073カ所			189	1	47.7豪雨 東北部三次 564ミリ
512	4,950			332	5,696	8,703	1,220	260 "	354 "			18		低気圧による大雨 竹原 330ミリ
324	8,278							68 "	71 "			12		熱低による大雨 因島 164ミリ
25	1,675			9	172	117		38 "	65 "					豪雨による大雨福山 108ミリ
								農作物被害面積 21,875ha ため池7カ所 農地農業用施設7カ所						沿岸部4町 給水支援
80	2,478				503			田 45.30 ha				9		台風16号
6	295				582			畑 0.15 ha				3		台風18号 吉和488"
82	2,156				877			田40.82ha 畑 0.14 ha				27	2	台風5号
321	6,353				3,201			田68.72ha 畑12.84 ha				40		台風17号と前線による大雨
														江田島町焼失面積 1,004.59ha
303	3,730				564			田 11.2 ha 畑 0.02 ha				1		台風第18号
152	3,201			18	1,591		494					31		
								農作物被害 54,003ha 林産物被害 4,360ha 農作物被害 7,913ha						5.6 豪雪
22	902			4	1,597		62					50		江田島町,呉市で山,がけ崩れ
166	1,580			3	197	348	78					15		
175	1,816			4	87	141	162							広島西部における雷雨
73	538			19	1,290		66	農作物被害 1,989ha				8		昭和58年7月豪雨
12	438			1	262		72	"	755ha			4		台風第10号
														宮島町厳島浦焼失面積 252ha
441	3,119			12	2,731		1,830	農作物被害 4,273ha				75		梅雨前線による大雨
														福山市
10	226			2	566			農作物被害 139ha				9		
								農作物被害 0.67ha						双三郡三和町
16	153			2	195			農作物被害 3,152ha				2		落雷による停電78,000戸
								" 3,407.6ha						台風第12号
								" 29.39ha						台風第19号
72	459				219			" 29.39ha				21	33	加計町,戸河内町,高賀村

発生年月日	種別	気象値(広島)			人の被害			家屋被害			
		最大風速 (m/s)	最低気圧 (hPa)	雨量 (mm)	死者 (人)	負傷者 (人)	行方不明 (人)	全壊 (戸)	半壊 (戸)	流失 (戸)	一部損壊 (戸)
平成 1. 7. 12~ 7. 13	"			97.5							
1. 8. 26~ 8. 27	台風	NNE 16.1	990.5	49.5	1						
2. 8. 22	"	SSW 20.3	980.7	90.5	1	6			1		29
2. 9. 12~10. 24	長雨										
3. 7. 4~ 7. 5	梅雨			179.0		4		1			25
3. 9. 27~ 9. 28	台風	S 36.0	970.2	7.0	6	49	50	442			22,661
4. 8. 8	"	24.7		110.0		1					
5. 4. 17~ 21	大規模 林野火災										
5. 6. 28~ 7. 5	梅雨			142.0	4	1	1	1			14
5. 7. 26~ 7. 27	台風		990.0	276.0		3	11	8			33
6. 8. 11~ 20	大規模 林野火災										
7. 7. 2~ 7. 5	梅雨			310.0	1						6
10. 10. 17~ 18	台風	20.4	981.0	192.0	3	2	3				16
11. 6. 23~ 7. 3	梅雨			446.0	31	59	1	101	68		300
11. 9. 23~ 24	台風	SSE 32.1	960.0	145.0	5	60		2	7		1,296
12. 10. 6	地震					3					17
13. 3. 24	地震				1	193		65	688		36,545
14. 8. 10~ 8. 11	大雨			102.0	3	1		1			3
16. 2. 14~2. 23	大規模 林野火災										
16. 8. 30~31	台風	15.7m/s	970.0	164.0		9	1	4			88
16. 9. 7	台風	33.3m/s	965.0	154.0	5	147	27	204			16,582
16. 9. 29	台風	21.3m/s	980.0	91.0		6					224
16. 10. 19~21	台風	25.1m/s	955.0	221.0		30		7			408
17. 7. 1~ 4	大雨			189.0		2					3
17. 9. 5~11	台風	32.1m/s	970.0	358.0		13	7	75			135
17. 12. 16~31	大雪				3	24	1				236
18. 1. 1~ 5. 10	大雪				1	15	2	1			818
18. 6. 12	地震					4					2
18. 9. 16~20	台風	34.9m/s	965.0	313.0	1	7	1	4	8		37
19. 7. 14	台風	14.8	965.0	144.0		1					
19. 8. 2~ 3	台風	16.0	975.0	158.0		1					
20. 8. 29~30	大雨			135.0							1
21. 7. 19~27	大雨			349.0	1	4	3				17
22. 7. 11~15	大雨			430.0	4	5	7	23			65
22. 7. 16	大雨			174.0	1	1	12	12			7

